

学習の手引き

テキスト履修科目編

2026



ともに学び ともに成長する

神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部

『学習の手引き 2026』の 「テキスト履修科目編」と 「スクーリング履修科目編」の 分冊について

『学習の手引き』は、「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」に分冊しています。分冊にあたり、下記内容について注意してください。

1. テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞〔例：教育学科・児童教育学科専門教育科目群「子どもと人間関係」「教科教育法・外国語（英語）」など〕については、テキスト履修科目分とスクーリング履修科目分をそれぞれ冊子を分けて掲載しています。レポート作成・提出、科目修了試験受験、スクーリング受講の際には、該当の『学習の手引き』を必ず確認してください。
2. 実習科目については、「テキスト履修科目編」に掲載しています。ただし、スクーリング履修科目である「教育実習事前・事後指導（初等）」「特別支援学校教育実習事前事後指導」「保育実習指導ⅠA（保育所）」「保育実習指導Ⅱ（保育所）」「保育実習指導ⅠB（施設）」は、「スクーリング履修科目編」に掲載していますので注意してください。

＜10月入学生への「学習の手引き」配付について＞

10月入学生には、『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』（レポート課題有効期限：2026年10月～2027年10月レポート提出受付期間。詳しくは、『親和通信』にて連絡。）を2026年9月（予定）に配付します。2026年4月～2027年2月開講のスクーリング履修科目については、『学習の手引き2026 スクーリング履修科目編』掲載の内容となります。なお、2027年4月～2028年2月開講分の『学習の手引き2027 スクーリング履修科目編』は2027年3月（予定）に配付します。

テキスト購入の際は、「テキスト購入について」（はじめにⅫ）を確認してください。

目 次

はじめに.....	2
Ⅰ 『学習の手引き テキスト履修科目編』について	
Ⅱ レポート作成について	
Ⅲ レポート作成時・提出時の注意	
Ⅳ 不合格となった場合のレポート再提出	
Ⅴ 科目修了試験の受験資格・単位修得について	
Ⅵ レポートの提出受付期間と科目修了試験受験申請について	
Ⅶ 2026年度科目修了試験について	
Ⅷ 気象警報等発表時などの科目修了試験の取り扱いについて	
Ⅸ 科目修了試験解答について	
Ⅹ レポート課題の有効期限について<正科生・課程正科生が継続履修する場合>	
Ⅺ カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて	
Ⅻ テキスト購入について	
Ⅼ 参考文献について	
Ⅽ 単位数と必要な学習時間について	
Ⅾ 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について	
Ⅿ テキスト履修科目 学習の流れ	
ⅰ カリキュラムマップ	
科目別索引（五十音順）.....	21
共通教育科目群.....	23
教育学科・児童教育学科専門教育科目群.....	71
幼稚園教諭・保育士特例制度科目.....	253
・ 様式	
「音楽」用五線紙	
テキスト購入FAX（郵送）申込書	

はじめに

I 『学習の手引き テキスト履修科目編』について

『学習の手引き テキスト履修科目編』には、テキスト履修科目を共通教育科目群、教育学科・児童教育学科専門教育科目群、特例制度（幼稚園教諭免許状取得・保育士資格取得）に分け、科目コード順に掲載しています。

テキスト履修科目は、科目ごとに設定されたすべて（単位数分）のレポート課題についてレポートを作成・提出・合格し、その科目の科目修了試験に合格することにより単位を修得することができます。なお、当該科目の最終評価は、科目修了試験の結果（成績）での評価となります。（※レポート評価は、最終評価には影響しません。）科目修了試験を受験するには、申請が必要です。申請方法等については、『学生要覧』、『親和通信』で確認してください。

本冊子には、テキスト、科目の目的、到達目標、学習テーマ、ワープロソフト使用の可否、レポート課題、課題の留意点、生成AIの利用について、レポートの評価基準、科目修了試験「答案」作成の留意点、科目修了試験の評価基準、参考文献等を記載しています。科目の目的、到達目標、学習テーマをもとにテキストを熟読し、内容を十分理解するとともに、レポート課題の趣旨をよく理解したうえで、課題の留意点やレポートの評価基準等を参考に、レポート作成に取り組むようにしてください。

II レポート作成について（1単位につき1課題・1課題につき2,000字程度＜ワープロソフト使用または自筆＞）

課題レポートの作成・提出は、通信教育の根幹となる学習方法です。テキストや参考文献等を熟読しながら、課題に対してレポートを作成します。作成したレポートは、本学通信教育部事務室宛に本学所定のレポート提出用封筒で送付し、担当教員による添削指導および評価を受けます。

テキストによる学習の状況を課題レポートの提出により担当教員に報告し、担当教員からその内容を評価・添削され、その後の学習の進め方などをアドバイスされることにより、科目修了試験に向けて学習を深めていくことになります。

テキストの学習を進めてレポートを作成していくうえで、学習内容について理解できない時は、『質問票』（『親和通信』巻末様式）に必要事項を記入して通信教育部事務室にFAX送信または郵送してください。1週間程度で担当教員が回答します。質問は学習内容に関する事柄で、科目名、テキスト等掲載ページや内容を記入して、質問の意図が明確になるようにしてください。

以下、本学通信教育部のレポートに要求されていることを説明します。

1. レポート作成の基本

レポートは、テキストや参考文献等を読んで学んだことを課題について作成し、担当教員に報告するものです。まずは当該科目の内容（科目の目的、到達目標、学習テーマ、レポート課題、課題の留意点、評価基準等）を理解したうえで、テキストの内容を自分のことばで要約して、課題の趣旨に沿って自分で考え（考察し）て論理的にまとめることが必要になります。自分が理解したことを第三者にも不足なく伝わるようにまとめることが、何よりも大切になります。

テキストを丸写ししたり、書き直したり、十分にテキストを読まずに、ただ自分の実体験や感想をまとめただけのレポートでは、合格評価を得ることはできません。レポートは、自分の主観を述べるものでも、感想文でもなく、課題に対して体系立てて論述しなければなりません。このことは、学習の成果をまとめるレポートとしては、必要最低限のことになります。大切なことは、テキストの内容を理解したうえで、自分なりに考察などを加えることです。

テキストや参考文献等を読むことによって得た知識や考え方などを通して、自分の考えをまとめ、第三者に伝わるように論理的で説得力のある文章で表現することが、レポート作成の基本となります。

本学では、1単位につき1課題・1課題につき2,000字程度＜ワープロソフト使用または自筆（ペン書き）[自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度]＞で作成します。（※ワープロソフト使用の可否については、本冊子で担当教員が指定。）

なお、通信教育部事務室に届いたレポートが下記に該当する場合は、受付せずに返送します。

- ・ 極端な文字数不足のレポート
- ・ レポート課題に関して白紙に等しいとみなされる（課題に対して記述していないなど）レポート
- ・ [ワープロソフト使用の場合] 指定された様式で作成されていないレポート
- ・ [ワープロソフト使用不可] の課題をワープロソフトでの作成によるプリントアウト分で提出されたレポート

2. 作成の手順

①下書きをする

レポートを作成する際には、テキストを読んだ際に大切だと感じた箇所に下線を引いたり、ノートやカードにポイントになる箇所を書き写したりして、それらを基にどのようなことをどういう順序でレポートにするのかを考えてみてください。そして、考えがまとまってきたら、下書きをするようにしてください。下書きをする方が、最終的には効率良くレポートが作成できることとなります。

②レポートの構成

レポートでは、「序論 - 本論 - 結論」の構成が一般的となります。

「序論」では、これからレポートで述べようとすることを書きます。

「本論」は、課題に対する解答やその理由を述べていくレポートの中心部分となります。

「結論」では、全体をまとめたり、このレポート課題を通じてわかったことや今後の課題などをまとめます。

また、レポート作成の際に引用（他人の文章、他人の説や事例などを自分の文章の中に引いて説明に用いること。）する場合は、必ず引用であることが分かるように該当箇所を「 」でくくり、出典（著者名・書名・出版社名、出版年、引用ページ等）を明示してください。（Webサイトから引用する場合も同様。）引用について明示されていない場合は、剽窃・盗用となります。

レポートの書き方の注意事項

(1) 文体

すべて「である」調とする。（「です」「ます」調は用いない。）

(2) 段落

行頭 1 マス空けて記入する。5 ～ 6 行に 1 回段落をとる。（1 ページにつき 4 つぐらいの段落をとる。）

(3) 疑問符、感嘆符、句点、読点

文末に疑問符（?）や感嘆符（!）をつける場合、その後は、1 マス空けて文章を続ける。

また、句点（.）、読点（,）は、1 文字扱いとする。

(4) 引用

レポート作成の際に持論の根拠として、他人の文章、他人の説や事例などを自分の文章の中に引いて説明に用いることを「引用」という。

引用文は必ず「 」でくくり、自身の文章と区別できるようにする。筆者の考えと他者の考えとを読み手が区別できるようにするためである。引用文のあとに注番号を打ち、引用文出典を明示する（Webサイトから引用する場合も同様。）。引用は長くならないように心がけること。10 行以上もの長い引用は、筆者（レポートの書き手）の意図が読み手に伝わりにくくなり、ページ数稼ぎをしている印象を与えてしまう。また長文の引用は著作権の侵害になるおそれもある。

（脚注例）

○本文中

今日の社会福祉の動向について山田（2009）は、「少子・高齢社会、緊縮財政のもとで利用者の負担が年々増加している」と指摘している（1）。

○出典明示［ワープロソフト使用の場合は、文末（最終ページ）に明示。自筆の場合は、レポート用紙下欄に明示。複数の引用文がある場合は、列記する。］

注（1）山田太郎『〇〇〇入門』△△社 2009年 p.60

（2）山田太郎『〇〇〇入門』△△社 2009年 p.95

（3）親和花子（2025）『レポート作成における〇〇〇の効果』〇〇大学研究紀要 第51号 pp.43-49

【Web サイトから引用した場合の記載項目】

著者名（更新日）・「ページ名」・サイト名・入手先 URL、（閲覧日）。

【例】

中央教育審議会（2019）。「新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問）」・文部科学省・https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm、（参照 2022-05-29）。

なお、要約の場合は「 」でくくらない。文末に引用文と同様に注番号を打ち、要約であることを明示する。

○要約文献明示［ワープロソフト使用の場合は、文末（最終ページ）に明示。自筆の場合は、レポート用紙下欄に明示。※要約の場合は 参照 と入れるところが引用と異なる。］

（2）参照 親和鈴子、『△△学』〇〇社 2010年 p.20

(5) 参考文献

文末（最終ページ）に参考文献をまとめて挙げる。

＜注意：剽窃・盗用について＞

次のような場合が、剽窃・盗用になり、懲戒処分の対象となります。

- 第三者が作成した文章や資料・データ等について、出典を明示せずにそのまま用いたり、前後の関係や語句を一部変えただけで自分が作成したレポートとして提出すること。
- 第三者が作成したレポート等を入手（友人・知人から借りる、インターネットで公開されているものを写すなど）し、自分が作成したレポートとして提出すること。または、第三者が作成したレポートの前後関係や語句を一部変えただけで自分が作成したレポートとして提出すること。

＜注意：レポート作成について＞

レポート作成の際には、課題の趣旨に関係のない個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。また、レポートに手紙を添えるなど、レポート以外のものを同封することもしないでください。

Ⅲ レポート作成時・提出時の注意

1. レポートの課題と文字数について

各科目のレポート課題は、本冊子の「レポート課題」欄に掲載していますので、「課題の留意点」、「レポートの評価基準」などをよく読んでからレポート作成に取り掛かってください。レポートは、1課題（1単位分）2,000字程度でまとめてください。（科目によっては、作成にあたっての指示があります。『課題の留意点』等で確認してください。）

レポート課題は、科目の単位数に応じて課題数が決められています。例えば、2単位の科目は2つの課題レポートを作成、提出しなければなりません。

また、レポートの提出要領を定めていますので、後述の要領に従って提出してください。

2. レポート作成について

自筆でのレポート作成

自筆に限る

ワープロソフト使用不可



本冊子で担当教員が『ワープロソフト使用不可』と指定した場合は、本人自筆による作成のみとなります。
自筆でのレポート作成の場合は、次の要領で作成してください。

①筆記具について

レポート記述は、黒インクペンまたは黒ボールペンを使用のうえ、本人自筆に限ります。

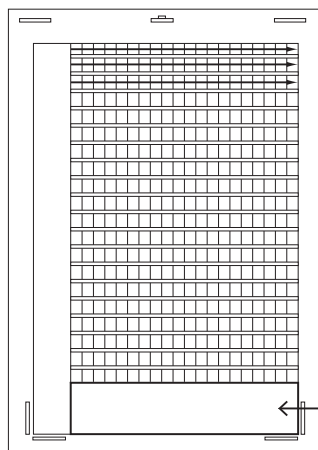
＜※消せるボールペン・鉛筆使用不可＞

②レポート用紙について

レポート用紙は、本学所定用紙（400字詰／タテ型横書き）を使用してください。本学所定のレポート用紙は、コピー使用不可です。

③レポート本体の様式

本学所定レポート用紙
（400字詰／タテ型横書き）



← 脚注（引用文出典）等記入欄

ワープロソフト使用が認められた場合のレポート作成

ワープロソフト
使用可

本冊子で担当教員の指示のある科目については、ワープロソフト（Word等）での作成によるプリントアウト分の提出を認めます。担当教員がワープロソフト（Word等）での作成によるプリントアウト分の提出を認める場合は、『ワープロソフト使用可』と記載があります。（※『ワープロソフト使用可』の場合は、ワープロソフト（Word等）での作成、本人自筆での作成のどちらも可能となります。『ワープロソフト使用不可』の場合は、本人自筆による作成（本学所定レポート用紙使用・ペン書き）のみとなります。）

なお、ワープロソフト（Word等）での作成の場合のレポート様式については、【次表】のとおり指定します。必ず指定された様式で作成してください。

指定された様式で作成されていない場合、または『ワープロソフト使用不可』の課題をワープロソフトでの作成によるプリントアウト分で提出した場合は、レポート受付をせずに返送しますので注意してください。

用紙・用紙サイズ		A4（市販のコピー用紙・縦型・片面のみ使用） （※両面印刷不可・裏紙の使用不可）	
書字方向		横書き	
フォント		明朝体	
文字色		黒	
文字サイズ		10.5ポイント	
文字数		2,000字程度 ※図表を中心とする課題の場合は、A4用紙5枚程度とする。	
1 行の文字数		40文字	レポート様式の設定方法 （パソコンの「Word」を 使用）については、『学生 要覧』（第1章 IV）を参 照してください。
1 ページの行数		30行	
余 白	上	25mm	
	下	25mm	
	左	30mm	
	右	30mm	
ヘッダー		10mm	
フッター		10mm ※ページ番号を付ける。	
引用文献、参考文献 記載箇所		文末（最終ページ）に記載（文末脚注）	

※「報告課題評価票」と「レポート表紙」については、本人自筆による作成及びホッチキス留めが必要です。

また、レポート提出時には本学所定の「レポート提出用封筒」を使用してください。

◎本学所定のレポート用紙、報告課題評価票、レポート表紙、レポート提出用封筒を購入する場合は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。（金額については、下表参照。）

種 類		金額（円）	申込方法	備 考
3種セット	レポート用紙(30枚)	250	所定申込書に必要な分 の手数料（切手、郵便 小為替または現金 ＜現金を郵送する 場合は現金書留を利用＞） を添えて申込 (返信用封筒不要) ※郵送の場合は、いずれも お釣りをお返しできません。 また、通信教育部事務室で の授受の場合でも現金以外 はお釣りをお返しできません。 お釣りがないように注意し てください。	通信教育部事務室窓口 でも購入可能
	報告課題評価票(6枚)			
	レポート表紙(6枚)			
2種セット	報告課題評価票(6枚)	150		
	レポート表紙(6枚)			
レポート用紙(30枚/1セット)		150		
レポート提出用封筒(6枚/1セット)		150		
報告課題評価票(6枚/1セット)		150		
レポート表紙(6枚/ 1セット)		50		

3. レポート表紙について

完成したレポートには、課題ごとに本学所定の「レポート表紙」を作成して付けてください。「レポート表紙」の記述は、**黒インクペンまたは黒ボールペン**を使用のうえ、**本人自筆**に限ります。＜※消せるボールペン・鉛筆使用不可＞

右図の項目「提出年度」（課題を掲載している『学習の手引き テキスト履修科目編』の年度、本冊子掲載課題については“2026”と記入）、「入学時期（4月又は10月）」、「科目名」、「第○課題」、「単位数」、「課題（提出する課題の全文）」、及び「学籍番号（科目等履修番号）」、「氏名」、**再提出の場合は前回より改善した点など**を記入し、後述する「報告課題評価票」とあわせてレポート本文にホッチキスで留めてください。（※レポート再提出についての要領は、p.9参照。）

「レポート表紙」は、本学所定用紙を使用してください。本学所定の「レポート表紙」を購入する場合は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。また、「親和deネット」からダウンロード（プリントアウト）可、コピー可です。下記の＜「レポート表紙」について＞も参照してください。

＜「レポート表紙」について＞

「レポート表紙」は、1セット（6枚）50円で購入できます。また、「報告課題評価票」や「レポート用紙」とセットで購入（2種または3種セット）することもできます。

※再提出の場合は、「☒再提出」とし、「作成にあたって前回より注意した点」を必ず記入。また、不合格になったレポートを必ず添付。なお、添付する際は、**新規提出分の後に返却された状態の不合格レポートをホッチキスやクリップ等でまとめてください。**

4. 報告課題評価票（コンピュータ用紙）について

課題ごとに作成したレポート本文と「レポート表紙」の上には、さらに「報告課題評価票」に必要事項を正確に記入し、付けてください。

「報告課題評価票」は、「報告課題評価票」「報告課題採点票」「報告課題受付票」「報告課題受付票（学生控）」が連票になっています。「報告課題評価票」については、**本人自筆でHB以上の黒鉛筆**を使用し、正しく丁寧に記入してください。科目コードは本冊子を参照（科目名の前の5桁の数字）のうえ、正しく記入してください。

「報告課題評価票」の記入例 (①報告課題評価票 ②レポート表紙(本学所定用紙))
ホッチキス位置 (③レポート本文の順でホッチキスで留める)

＜「報告課題評価票」について＞

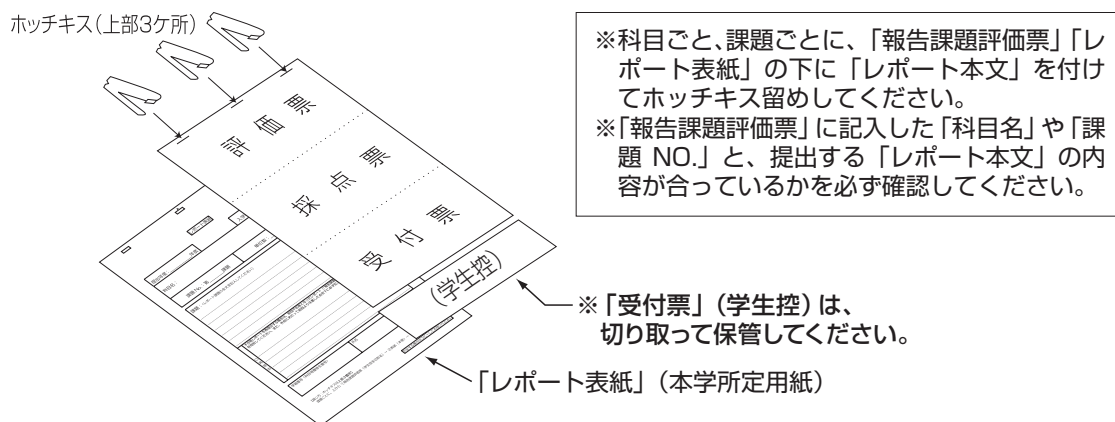
「報告課題評価票」は、コピー使用不可です。直接機械にかけるため、折り曲げたり、汚したりしないよう注意してください。

「報告課題評価票」は、1セット（6枚）150円で購入できます。また、「レポート表紙」や「レポート用紙」とセットで購入（2種セットまたは3種セット）することもできます。購入の際は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。

5. レポートの郵送（提出）方法について

レポートを郵送（提出）する際には、下図のとおり「報告課題評価票」→「レポート表紙」（本学所定用紙）→「レポート本文」の順に科目ごと、課題ごとにホッチキス留め（上部3ヶ所）し、本学所定の「レポート提出用封筒」を使用して郵送（提出）してください。

①「報告課題評価票」の向き



<提出上の注意事項>

レポートは、次の要領で提出してください。

- 1) 科目ごと、課題ごとに「報告課題評価票」に必要な事項を正確に記入し、付けてください。
- 2) 科目ごと、課題ごとに「レポート表紙」（本学所定用紙）に必要な事項を記入し、付けてください。
- 3) 科目ごと、課題ごとに、上から①「報告課題評価票」→②「レポート表紙」（本学所定用紙）→③「レポート本文」の順にホッチキスで留めてください。
- 4) 「報告課題受付票」（学生控）は、郵送した日付やメモ書きなどを記入し、必ず切り取って本人の控えとしてレポートが返却されるまで保管してください。

以上の提出条件を満たしていない場合は、**受付せずに返送しますので提出したことにはなりません。**返送されたレポートは、翌月以降のレポート提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて提出しなければなりません。

②提出の基本様式（下図は複数課題をまとめて提出する場合です。封入する課題数に制限はありませんが、前述の<提出上の注意事項>を順守して提出してください。）

●「レポート提出用封筒」の様式（表面記入欄）について

第1課題

あわせてホッチキスで留める(上部3ヶ所)

第2課題

あわせてホッチキスで留める(上部3ヶ所)

神戸親和大学
通信教育部事務室 御中

神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13番1号

文部科学省通信教育部
第1科郵便 八レポート在申

6511111

<裏面時の注意>①提出する課題に目をつけること ②再提出の場合は不台格レポートも同時すること
必ず表内の提出要領を記入すること

課題番号	科目名	課題名	提出日	提出場所	提出者
1					
2					
3					
4					
5					

学籍番号: _____ 氏名: _____ 住所: _____

次の<郵送（提出）する際の注意点>を確認のうえ、必要事項をみれなく記入してください。学籍番号（科目等履修番号）・氏名・住所なども必ず記入してください。

＜郵送（提出）する際の注意点＞

- 1) レポート以外の手紙や文書を同封しないでください。
- 2) レポート提出用封筒（表面記入欄）には、提出するレポートのすべての「科目名」とその課題に☑を記入してください。
- 3) レポート提出時には、スクーリング申請票や科目修了試験受験申請票などは、同封しないでください。（同封についての指示がある場合を除く。）
- 4) ホッチキス（上部3ヶ所）は科目ごと、課題ごとに留めてください。
- 5) 返信用封筒は必要ありません。
- 6) 郵便料金については、次の第4種郵便料金表を参照してください。

【第4種郵便物の料金表（2025年12月末現在）】

100gまで15円。100gを超えるものは100g超過ごとに10円を加算してください。

重 量	料 金
100gまで	15円
200gまで	25円
300gまで	35円

重 量	料 金
400gまで	45円
⋮	⋮
1kgまで	105円

6. レポートの返却・評価について

レポートの添削・採点および返却には、日数を要します。返却日の目安は、**提出期限締切後、約1ヵ月半（提出月の翌月末頃）**になります。2月および8月に提出（本学受付済）したレポートについては、翌々月の上旬の返却となります。（詳しくは、『親和通信』でお知らせします。）学習計画に無理のないよう順次レポートを提出してください。ただし、担当教員の添削等の関係（提出レポート数が多いなどの理由）で返却が遅れる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

レポートは、課題ごとに評価されます。

レポートの評価は、次のとおりです。レポート作成の際には、各課題の留意点とあわせて評価基準を充分理解する必要があります。

合 格：A(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)

不合格：D(59点以下)

評価が「D」（不合格）の場合は、その課題について再提出し、合格する必要があります。

7. 下書き（コピー）の保管について

添削・評価済レポートが返却されるまで、提出したレポートの下書きまたはコピーを必ず保管しておいてください。

8. 資料・図表など添付する場合について

資料や図表は本文の文字数には算入できませんが、本冊子で担当教員から指示がある場合は、その指示に従ってください。

9. 「質問票」の利用について

テキスト学習を進めてレポートを作成していくうえで、学習内容について理解できない時は、「質問票」（『親和通信』巻末様式）に必要な事項を記入して通信教育部事務室にFAX送信または郵送してください。1週間程度で担当教員が回答します。質問は学習内容に関する事柄で、科目名、テキスト等掲載ページや内容を記入して、質問の意図が明確になるようにしてください。

＜注意：「質問票」の記入について＞

「質問票」には、個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。

Ⅳ 不合格となった場合のレポート再提出

返却されたレポート（添削・評価済分）の評価が「D」（不合格）の場合、担当教員の所見、添削内容に従って、再度レポートを作成・提出し、合格しなければなりません。

1. 再提出時の注意事項

再提出する場合は、不合格になったレポート（「報告課題評価票」が付いた状態）を添付（クリップ等でまとめる）し、再提出分「レポート表紙」の再提出欄に「✓」を記入し、「作成にあたって前回より注意した点（担当教員からの添削指導内容に従って、どのような点に注意して今回再提出分を作成したか）」を簡潔に記入してください。また、「報告課題評価票」の「再」欄に「✓」を記入し、その他は前述のレポート提出の要領に従ってください。（※不合格レポート（報告課題評価票が付いた状態）が添付（クリップ等でまとめる）されていない場合は、受付せずに返送します。返送されたレポートは、翌月以降のレポート提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて再提出しなければなりません。）

レポート再提出時の
「報告課題評価票・採点票・受付票」記入例

再提出の場合は、
「再」（4ヶ所）に✓を記入してください。

文部科学省認可通信教育 神戸親和大学 通信教育部

〒999-9999
〇〇市〇〇町〇丁目〇番地
〇〇マンション201

住所・氏名 親和 鈴子 様

学籍番号 5260000 組コード 10000 課題No. 1

科目名 通信教育入門

ID R03

報告課題採点票

学籍番号 5260000000

フリガナ シン ワ スズ コ

氏名 親和 鈴子

組コード 1000000 課題No. 1

科目名 通信教育入門

ID R02

報告課題受付票

学籍番号 5260000000

フリガナ シン ワ スズ コ

氏名 親和 鈴子

組コード 1000000 課題No. 1

科目名 通信教育入門

記入例 01123456789

※印は大学記入欄

報告課題受付票（学生控）

組コード 10000

課題No. 1

科目名 通信教育入門

日付 0000.0.00

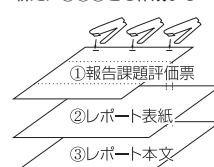
提出時には、切り取ってください。（※本人保管分です。）

（記入にあたっての注意）
①この帳票はコンピュータで処理をするため、折ったり、汚したりしないこと。
②報告課題評価票・採点票・受付票・学生控の4片とも※印欄を除き、すべて集め（HB以上）で記入のこと。
③学籍番号・課題Noは記入例を参照すること。
④科目コードは、「学習の手引き」の科目表を参照し、正確に記入のこと。
⑤再提出の報告課題の場合は「再」欄に4片とも✓を記入すること。
⑥1課題のみの科目は、課題No欄に「1」と記入すること。

【再提出についての要領】

再提出レポート

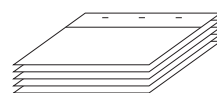
■再提出レポートとして
新たに①②③とも作成する



あわせてホッチキスで留める（上部3ヶ所）

新たに作成した
再提出レポートと
不合格となった
レポート（返
却された状態の
まま）をホッチ
キスやクリップ
等でひとまとめ
にして提出して
ください。

不合格レポート



■返却された状態のまま
＜報告課題評価票、レポート表紙、
レポート本文のすべて＞

2. 再提出レポート課題の有効期限

不合格により再提出が必要になったレポート課題の有効期限（「X.レポート課題の有効期限について」参照）が切れた場合、再提出の際は、新年度の「学習の手引き」記載のレポート課題での作成・提出となります。なお、課題が変わった場合でも、不合格になったレポート（「報告課題評価票」が付いた状態）は必ず添付（クリップ等でまとめる）してください。（新規提出分の後に返却された状態の不合格レポートをホッチキスやクリップ等でまとめてください。）

V 科目修了試験の受験資格・単位修得について

科目修了試験は、テキスト履修科目の単位修得のために必要な試験であり、テキスト全体の学習を通して、必要とされる知識が修得できたかどうかを判断するための試験です。

科目修了試験を受験する際は、テキスト等を読み深めることが何よりも重要です。テキストは、レポート作成のために部分的に読むのではなく、本冊子記載の「科目の目的」「到達目標」「学習テーマ」をもとに全体を読み込み、参考文献やその他の関係資料も利用して理解を深めてください。テキスト全体の内容を十分理解することにより、科目修了試験の解答が、自身の意見や感想ではない、論述としてまとまったものになります。また、本冊子記載の「科目修了試験『答案』作成の留意点」、「科目修了試験の評価基準」を参考に試験対策を練って受験に臨んでください。

テキスト履修科目の最終評価は、科目修了試験の結果での評価となります。レポートの評価は、最終評価には影響しません。レポート作成・提出は、テキスト学習の状況（途中経過）を担当教員に報告するためのものです。

テキスト履修科目の単位修得のためには、その科目のすべて（単位数分）の課題レポートと科目修了試験の両方が合格しなければなりません。科目修了試験を受験するには、受験希望試験日の受験申請期間以前のレポート提出受付期間までに、受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出（本学受付済）している必要があります。

レポートが不合格になった場合は、科目修了試験が合格でも単位修得はできません。当該科目のすべて（単位数分）のレポートが合格するまで単位修得はできません。

なお、レポートの合格実績は、在学（在籍）期間中のみ有効です。

※卒業判定・実習受講資格判定や単位認定処理を受けるためには、当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートと科目修了試験について、本学が定める最終期限までに、いずれも合格しなければなりません。最終期限については、『親和通信』でお知らせします。

VI レポートの提出受付期間と科目修了試験受験申請について

レポート提出については、提出受付期間を指定【毎月1日～5日<最終日消印有効>ただし、5日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効】しています。必ず、提出受付期間内に提出してください。

郵便局の消印が提出受付期間外の場合、または提出受付期間外に「通信教育部生専用ポスト」（本学正門守衛室前）に投函された場合は、受付せずに返送します（提出したことにはなりません）。返送されたレポートは、翌月以降の提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて提出しなければなりません。

なお、科目修了試験を受験するには、受験希望試験日の受験申請期間までに、受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートをレポート提出受付期間内に提出（本学受付済）して受験資格を得た後、指定申請期間内に受験申請する必要があります。

レポート提出と科目修了試験受験（申請）は、密接に関係していますので、充分注意して学習計画を立てるようにしてください。[科目修了試験実施月の前月までのレポート提出受付期間に当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出してから、科目修了試験受験申請期間内に受験申請をする必要があります。（場合によっては、前々月までにレポート提出および受験申請をする必要があります。）]

科目修了試験受験申請方法については、『学生要覧』（第1章）を参照してください。

科目修了試験日程、当該試験日の受験資格を得るためのレポート提出受付最終期間、受験申請期間等については、『親和通信』でお知らせします。

※本学正門守衛室前の「通信教育部生専用ポスト」に投函する場合の注意事項

- ・ 郵送提出と同様にレポート提出用封筒に入れ、封をのりづけして、投函してください。（切手貼付不要）
- ・ 9時から17時までに投函されたものを当日（含む提出受付期間最終日）の提出分とします。
- ・ 22時以降は、学内への立ち入りができませんので、「通信教育部生専用ポスト」への投函も22時までとします。（守衛室での提出物預かりは一切いたしません。）
- ・ 本学一斉休業期間や学内への立ち入りができない期間等があります。詳しくは、『親和通信』等でお知らせします。

VII 2026年度科目修了試験について

本冊子の掲載内容から出題される科目修了試験は次のとおりです（2027年4月・5月は未定）。ただし、日程・試験会場に変更が生じることもありますので、あらかじめご了承ください。変更が生じた場合は、『親和通信』でお知らせします。学習年間計画を立てて、レポート提出・科目修了試験に臨んでください。（※下表の「試験日」が本学規定（気象警報等発表時など）により延期となった場合の予備日については『親和通信』でお知らせします。）

	試験日	左欄「試験日」の 受験資格を得るための レポート提出受付最終期間	会 場	<4月入学生> 出題について	<10月入学生> 出題について
4月	4月 5日	2/1 ~ 2/5	本学 ー	『学習の手引き2025』 の掲載内容からの出題	『学習の手引き2025』 の掲載内容からの出題
5月	5月 3日	3/1 ~ 3/5	本学 ー		
	5月17日	4/1 ~ 4/6	本学 ー		
6月	6月14日	5/1 ~ 5/7	本学 ー		
7月	7月 5日	6/1 ~ 6/5	本学 ー		
8月	8月 2日	7/1 ~ 7/6	本学 千葉		
9月	ー			『学習の手引き2026』 の掲載内容からの出題	『学習の手引き2026』 の掲載内容からの出題
10月	10月 4日	8/1 ~ 8/5	本学 大阪		
	10月25日	9/1 ~ 9/7	本学 ー		
11月	11月29日	10/1 ~ 10/5	本学 千葉		
12月	12月13日	11/1 ~ 11/5	本学 千葉		
1月	1月10日	12/1 ~ 12/7	本学 大阪		
2月	2月 7日	1/1 ~ 1/5	本学 千葉		
3月	ー				

◎レポート提出受付期間は、毎月1日～5日（最終日消印有効※ただし、5日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効）

VIII 気象警報等発表時などの科目修了試験の取り扱いについて

「気象警報等発表時」または「災害等による交通機関途絶の場合」の科目修了試験の取り扱いについては、別に定めます。詳しくは、『学生要覧』（第7章）を参照してください。

IX 科目修了試験解答について

試験中は、テキスト、参考書、辞書等の参照は認められません。

科目修了試験解答用紙は、B4サイズで両面使用可です。表面には約800字、裏面には約1,000字記入することができます。文字数等の指定（例：「800字程度」等）が問題や本冊子にある科目は指示に従って解答し、文字数等の指定がない科目については、適切な文字サイズ、文字間で解答用紙表面が埋まる程度（1行30字×27行[810字程度]）記入するよう努めてください。

科目修了試験解答の際には、設題の趣旨に関係のない個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。

X レポート課題の有効期限について<正科生・課程正科生が継続履修する場合>

本冊子掲載分のレポート課題には、有効期限があります。次のとおり4月入学生・10月入学生で異なりますので注意してください。有効期限を過ぎた課題で提出されたレポートは無効になります。

なお、レポート課題の有効期限と、卒業・修了・各実習判定を受けるためのレポート提出最終期限は異なります。各最終期限については、『親和通信』で確認してください。

【4月入学生の場合】

①本冊子掲載分のレポート課題の有効期限は、2027年4月レポート提出受付期間までです。

②不合格になったレポートを2027年5月以降のレポート提出受付期間に再提出する場合は、『学習の手引き2027 テキスト履修科目編』（4月入学生には2027年3月配付予定）掲載のレポート課題によって提出することになります。

③すべて（単位数分）の課題をレポート課題の有効期限内に提出・合格できなかった場合の取り扱いは、次のとおりとなります。

（例）4課題の内3課題までは提出・合格、あと1課題が未提出または不合格で2027年4月のレポート提出受付期間までに提出できない場合

→未提出または不合格レポートは、『学習の手引き2027 テキスト履修科目編』掲載分のレポート課題によって2027年5月以降のレポート提出受付期間に提出。

なお、本冊子によりレポートを提出した科目の科目修了試験を2027年4月以降に受験する場合の本冊子掲載内容から出題される科目修了試験日程については、『親和通信』でお知らせしますのであらためて確認してください。

【10月入学生の場合】

- ①『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』（10月入学生には2026年9月配付予定）掲載分のレポート課題の有効期限は、2027年10月のレポート提出受付期間までです。
- ②不合格になったレポートを2027年11月以降のレポート提出受付期間に再提出する場合は、『学習の手引き2027 テキスト履修科目編』（10月入学生には2027年9月配付予定）掲載のレポート課題によって提出することになります。
- ③すべて（単位数分）の課題をレポート課題の有効期限内に提出・合格できなかった場合の取り扱いは、次のとおりとなります。
(例)4課題の内3課題までは提出・合格、あと1課題が未提出または不合格で2027年10月のレポート提出期間までに提出できない場合
→未提出または不合格レポートは、『学習の手引き2027 テキスト履修科目編』掲載分のレポート課題によって2027年11月以降のレポート提出期間に提出。

なお、本冊子によりレポートを提出した科目の科目修了試験を2027年10月以降に受験する場合の本冊子掲載内容から出題される科目修了試験については、『親和通信』であらためて確認してください。

テキスト履修科目は、課題だけでなくテキストも変わる場合があります。本冊子記載のテキストを購入した場合は、レポート課題の有効期限内に当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出・合格、科目修了試験受験・合格して、単位を修得するようにしてください。

XI カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

カリキュラム改正が行われた場合、指定年度から新しい科目名での開講となります。科目の読み替え、レポート提出時・科目修了試験受験時の留意事項については、次のとおりです。これから履修する場合や継続履修科目の場合は、注意してください。対象科目については、科目別索引（p.21）の＜注意：カリキュラム改正について＞、『学生要覧』を参照してください。

①テキスト履修科目

カリキュラム改正後の新しい科目名でのレポート提出・合格と科目修了試験受験・合格によりカリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。（科目修了試験については、受験申請時は自身の入学時（旧科目）の科目名・科目コードによる申請となります。）

〔合格していないレポート課題〕については、カリキュラム改正後の新科目名分の課題で作成・提出してください。

なお、すでに合格したカリキュラム改正前の旧科目のレポートは、有効です。あらためて新科目のレポートを提出する必要はありません。

（例）カリキュラム改正前（旧科目）の第1課題が合格していない場合

→カリキュラム改正後の新科目の第1課題

カリキュラム改正前（旧科目）の第2課題が合格していない場合

→カリキュラム改正後の新科目の第2課題

②スクーリング履修科目

カリキュラム改正後の新科目名で開講するスクーリングを受講・合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。

③テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞

上記の①と②の両方が合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。（単位を分割して修得することはできません。）

XII テキスト購入について

テキストは、各自で必要分を実費購入することになります。テキストを購入する際は、それぞれの科目について本冊子のテキスト欄記載分を購入してください。テキストについては、2026年1月現在のものになっており、期中に新版が発行される場合がありますので、購入の際には新版を購入するようにしてください。

本学大学生協への注文の際は、本冊子巻末の「テキスト購入FAX(郵送)申込書」を使用のうえ、直接本学大学生協に注文してください。※用紙が不足する場合は、各自でコピーを取って使用してください。また、「親和deネット」の「お知らせ」からダウンロード（プリントアウト）することもできます。

一般書店・ネット通販での購入など購入方法は他にもありますが、本学大学生協のみでの取り扱いとなるテキストもありますので注意してください。

※ほとんどが専門書のため、本学大学生協や一般書店等に在庫がなく、取り寄せとなります。取り寄せには日数（2週間程度）がかかることがありますので、購入に際しては、日程に余裕をもってください。

●テキスト購入に関する問い合わせ先●

〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13番1号 学生会館地下1階
神戸親和大学生協 書籍部（担当：木村） URL: <https://shinwa.u-coop.net>
TEL.078-595-0303 FAX.078-595-0565

<テキストの購入は計画的に>

まず、自身で卒業・修了までの学習計画を立て、その中で本学年の学習計画をさらに練り、本学年にレポート提出、科目修了試験受験する科目のテキストだけを購入されることをお勧めします。こうした方が、無理なく学習を進めることができると考えられます。なお、次学年以降、テキストが変更になることもありますので、注意してください。

（例）

科目コード	10000	科目名 [単位数/学習時間]	通信教育入門〔2単位／90時間〕			
テキスト	●『 <u>自立学習の手引き</u> 』私立大学通信教育協会					
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円) (2026年1月現在)	510	生協 テキストNo.	26001	生協へお申し込みください

一般書店等で購入する際は、
確認のために必要となります。

本学大学生協で購入の際は、
必ず記入してください。

本学大学生協のみでの
販売となります。

XIII 参考文献について

本学図書館に蔵書がありますが、科目修了試験前などは貸出中のことが多く、予約待ちになることをあらかじめご了承ください。本学図書館利用については、『学生要覧』を参照してください。

XIV 単位数と必要な学習時間について

文部科学省が定める大学通信教育設置基準により、本学通信教育部では単位制としています。「単位」とは、科目を修了するために必要な学習量（時間数）となります。

本学通信教育部では、すべての授業科目に対して、学習時間数に応じて単位数を設定し、45時間の学習時間をもって1単位と定めています。

テキスト履修科目では、当該科目を修了するためには、①『学習の手引き テキスト履修科目編』の掲載内容を充分理解する、②テキストや参考文献等を精読する、図書館等で調べものをする、③レポートを下書きする、推敲（加筆修正）する、仕上げる、④返却されたレポートの添削内容やコメントを読み込んで復習する、⑤科目修了試験に向けて学習を深める、⑥その他『学習の手引き テキスト履修科目編』で担当教員から指示のある事項など、自主的な学習時間が必要となります。

学習時間については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて積極的に確保するよう努めてください。

なお、テキスト履修科目の単位数と学習時間数については、下表のとおりとなります。

単位数	必要な学習時間	単位数	必要な学習時間
1単位	45 時間	3単位	135 時間
2単位	90 時間	4単位	180 時間

XV 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

本学通信教育部学生及び科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における次の不正な行為、不適切な学習態度には、本学では、**懲戒処分、厳重注意や履修登録の取り消し**といった厳しい態度で臨みます。
真摯な態度で学習に取り組んでください。

<注意：レポート作成時の不正な行為、不適切な学習態度について>

レポート作成時の次のような行為などは、不正な行為、不適切な学習態度になり、懲戒処分等の対象となります。

なお、レポート作成にあたって生成 AI を利用する場合は、「神戸親和大学における生成 AI 活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。

- ・第三者が作成したレポート本文等を流用して作成したと推定されるレポートを提出する行為。
- ・自身のレポートを第三者に貸す行為、SNS やインターネット等でレポートの内容を公開・提供する行為。
- ・第三者の文章、表現等の出典を明記せず用いる行為。
- ・レポートに生成 AI が出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりする行為。
- ・本人が作成していないレポート本文、又は報告課題評価票、又はレポート表紙を提出する行為。
など

<注意：科目修了試験受験時の不正な行為、不適切な学習態度について>

科目修了試験受験時の次のような行為などは、不正な行為、不適切な学習態度になり、懲戒処分等の対象となります。

- ・他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、もしくは答案用紙を交換する行為。
- ・カンニングペーパーの所持、受験許可証・学生証等や机上・手掌等への書き込み、又はこれに類する行為。
- ・スマートフォン、スマートウォッチ等のウェアラブル端末、タブレット端末、イヤホン等の電子機器等を身に付けていたり、指示された以外の場所や状態で保管している行為。
- ・試験問題を受験許可証・学生証等や机上・手掌等へ書き込む行為。
- ・本学教職員からの指示、注意に従わない行為。
- ・SNS やインターネットなどを利用して試験問題を書き込む行為。
- ・他の受験者への迷惑になる言動。
など

学生懲戒規程<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（懲戒の対象となる行為）

第4条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。

- （4）通信教育部におけるレポート、科目修了試験、スクーリング試験における不正行為
- （9）その他学生の本分に反する行為

2 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

（懲戒の種類）

第5条 学則及び通信教育部規程に定める懲戒の種類は、次のとおりとする。

- （1）退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
- （2）停学は、一定期間、学生の教育課程の履修及び課外活動等を停止するものとする。
- （3）譴責は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

通信教育部学生および科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における不正行為に対する取扱要項＜抜粋（『学生要覧』に全文掲載）＞

（処分の対象となる不正行為）

第4条 不正行為の種類は、次の各号のとおりとする。

- （1） 科目修了試験時及びスクーリング試験時にカンニングペーパー、机上・手掌等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成する行為。
- （2） 科目修了試験時及びスクーリング試験時に他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、若しくは答案用紙を交換する行為。インターネット等を利用した同様の行為(含む公開・提供する行為)。
- （3） 第三者が作成したレポート本文等を流用して作成したと推定されるレポートを提出する行為、及びインターネット等でレポートを公開・提供する行為。
- （4） 第三者の文章、表現等の出典を明記せず用いる行為。
- （5） 本人が作成していないレポート本文、又は報告課題評価票、又はレポート表紙を提出する行為。
ただし、「学習の手引き」で自筆でのレポート作成が指定されているが、事故、病気等で自筆が困難な状態にある場合は、レポートを提出する以前に、医師の診断書を添えて通信教育部長に文書で願い出ることにより、代理の者による清書を認めることがある。
- （7） 科目修了試験における代理受験、スクーリングにおける代理受講。
- （8） その他、前各号の一つに類すると認められる行為。

（履修の取扱い）

第5条 不正行為を為した学生及び不正行為に関与した学生の履修の取り扱いについては、次の各号とする。

- （1） レポートで不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月、前月、翌月の3か月に提出があったすべての科目の履修を無効とする。無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。
- （2） 科目修了試験で不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月、前月の2か月に受験したすべての科目の履修を無効とする。無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。

神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針

生成AI活用に関する基本方針

近年の生成AI技術の急速な発展は、社会に大きな変化をもたらそうとしている。あらゆる場面で広く活用され、教育・研究・事務処理等においても、様々な活用できる。一方、誤情報の生成、プライバシー侵害、著作権問題、不正行為といったリスクも伴っている。これらの状況を踏まえ、学生・教職員が生成AIリテラシーを身に付け、適切（かつ積極的）に活用することを本学の方針とする。その際の留意点は以下のとおりである。

- (1) 生成AIは、教育・研究・業務を効率化するツールとして、適切な利用を推奨する。ただし、生成AIはあくまで補助ツールであり、人間の思考力、創造性、学びの主体性を代替するものではないという基本認識が重要である。
- (2) 生成AIの利用にあたっては、潜在的なリスクを踏まえ、対策を講じる。特に、個人情報や機密情報の入力による情報漏洩、生成されたコンテンツの正確性やバイアス、著作権侵害の可能性には細心の注意を払う。不正確な情報の鵜呑みは避け、必ずファクトチェックを行う。
- (3) 学術的なインテグリティの観点から、生成AIの回答をそのまま提出することは認めない。利用した場合は、文献引用と同様に、利用箇所、ツール名、プロンプト等の情報を明確に記載する。
- (4) 学生および教職員の生成AIリテラシーの向上に努める。生成AIの仕組み、能力、限界、リスク、適切な利用方法に関して理解し、適切に活用する力を向上させることが重要である。

なお、本方針については、今後社会や技術の発展状況に応じて適切に見直しを行うこととする。

【学修などでの生成AI活用ガイドライン】

1. 大学における生成AIの利活用について

大学での学修は、単に知識を記憶することだけではありません。自ら問題を発見し、深く思考し、判断し、多様な方法で表現するといった、主体的な活動が重要です。これらの能力は、今後の社会で活躍するために不可欠な力と言えます。

生成AIは、情報収集や文章作成の「補助」をしてくれる便利なツールですが、これに依存しすぎることで、思考力や創造力を養う貴重な機会を失わせてしまう可能性があります。学びの過程で生じる「分からないこと」に自ら向き合い、解決策を探索することこそが、成長につながります。生成AIは、この主体的な学びのプロセスをサポートするためにこそ使用すべきです。

2. 生成AIを使用するメリットとデメリット

【メリット】

- ・学習効率の向上……情報収集や文章作成のサポート等により、学習が効率的になります。
- ・創造の広がり……自分では思いつかなかった、様々な視点やアイデアを生成AIから得ることによって、自身の思考を深めたり広げたりできる可能性があります。

【デメリット】

- ・誤情報・偏見のリスク……生成AIは常に正確な情報を返すとは限らず、誤った情報や特定の意見に偏った情報を生成する可能性があります。
 - ・思考力・意欲の低下……生成AIに頼りすぎると、自ら考えるプロセスが失われます。また、学ぼうとする意欲も失われる可能性があります。
 - ・情報漏洩のリスク……個人情報や機密情報（研究データなど）を入力すると、意図せず情報が外部に流出する可能性があります。
 - ・著作権侵害のリスク……生成されたコンテンツが既存の著作物に類似している場合、著作権侵害となる可能性があります。
- これらのメリットとデメリットを理解した上で、生成AIを使用することが重要です。

3. 生成AI利活用における留意点

生成AIを安全かつ適切に利活用するために、以下の点に留意してください。

- ・学修・研究に取り組み、研鑽に励むことが大学生活の基本です。生成AIを利用することによって、より理解を深める、新たな考え方を身につける意識を持つことが重要です。
- ・生成AIが生成したものが既存の著作物と類似している可能性を検討し、他者の著作権を侵害しないよう十分注意してください。
- ・情報漏洩のリスクが高いため、生成AIサービスへの個人情報や大学

の機密情報（研究データなど）の入力は、絶対に避けてください。

- ・生成AIの出力は不正確な場合があるため、得られた情報が正しいかどうかを必ず複数の信頼できる情報源で確認（ファクトチェック）してください。
- ・生成AIを利用した結果生じた問題や損害については、原則として利用した皆さん自身が責任を負うことになります。

レポートや論文での利用

課題の作成に生成AIを利用した場合は、どの部分でどのように利用したが、どのように質問したのかを「明記」することが求められます。具体的な記載の内容や方法は、担当教員の指示に従ってください。

授業（スクーリング）での利用

科目によっては、生成AIの利用について個別のルール（利用の可否、利用範囲など）が指示される場合があります。その場合、授業中の説明等をよく確認し、担当教員の指示に必ず従ってください。場合によっては不正行為となり、単位認定できなくなる可能性もあります。

4. 生成AI利活用の適切な例

●テーマ設定のアイデアを得る

- レポートや論文のテーマ探し、構成検討、議論の視点整理など、行き詰まったときにアイデアを広げることができます。

●文献調査・資料収集する

- 複数の資料やWebサイトの情報を効率的に収集し、要約する手助けになります。

●文章作成・推敲をする

- 表現の言い換え、誤字脱字のチェックなど、文章を作成する際に効率化が図れます。

●理解を深める・考え方を広げる

- 授業で分からなかったことを質問したり、教科書の内容について詳しい説明を求めたりすることができます。

【Point】

生成AIを使用する際は、ファクトチェックが必要です。ファクトチェックとは、生成された内容をそのまま鵜呑みにせず、必ず自身の頭で考え、他の情報源と照らし合わせ、内容を検証することです。

5. 生成AI利活用の不適切な例

●レポートや論文、課題の回答として、生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりする。

- 何も思考しておらず、学修とは言えません。また、盗作や剽窃といった不正行為にもあたります。

●生成AIが生成した情報を検証せずに正しいと判断し、学修や研究にそのまま使用する。

- 誤った知識を広げることや不正確な結論を導き出すことにつながります。また、生成AIが既存の著作物に類似したコンテンツを生成した場合、その利用方法によっては著作権侵害となる可能性があります。

●氏名、学籍番号、住所、成績情報、未公開の研究データなど、個人が特定できる情報や機密性の高い情報を生成AIに入力する。

- 情報漏洩のリスクを伴います。

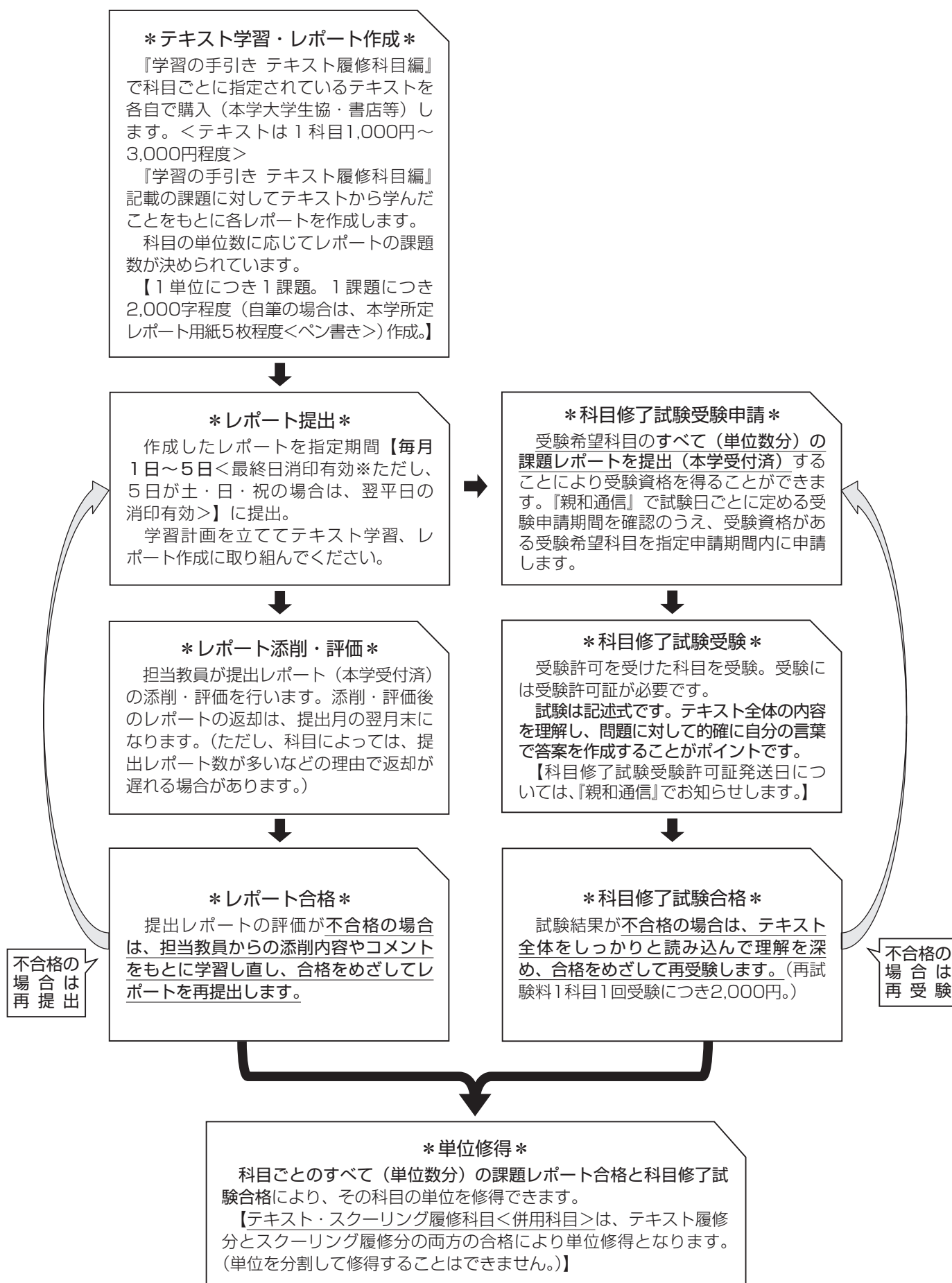
【Point】

課題を解決するための思考や調査、実験といった主体的なプロセスを生成AIに代替させ、結果だけを得ようとすることは、自身の成長の機会を放棄することになります。

【ガイドラインの見直し（学生・教職員）】

技術の発展や社会の対応状況に応じて、本ガイドラインの見直しを行い、必要に応じ改訂することとします。

XVI テキスト履修科目 学習の流れ



X カリキュラムマップ

「カリキュラムマップ」とは、科目区分の下に科目を構成し、科目区分間、科目間の関係性や配当年次等を記し、科目と修得できる知識・能力との対応関係等を示したもので、科目に係る体系性・有機的連携を確保するためのものです。学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、各科目の学習によって『修得できる力』を表記していますので、確認のうえ学習を進めてください。

教育学科・児童教育学科 カリキュラムマップ

					学習によって『修得できる力』																	
					実践力			専門性				共生力										
												関係性			社会貢献							
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から 科目名を変更して開講。）					単位数 テキスト履修	スクーリング履修	配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力			
共通教育科目群	ベシク・スキル	通信教育入門	2		1	○			○	○	○	○										
		日本語表現	2		1				○	○	○	○	○	○	○							
		総合英語＜2025年度以降入学生対象科目＞		2	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		英語コミュニケーションⅠ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		英語コミュニケーションⅡ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		英語	2		1				○	○	○									○		
		スポーツ実技		2	1				○	○	○			○	○	○						
		基礎体育学		1	1				○	○	○			○	○	○						
		健康行動学	2 or 2		1	○			○	○	○											
		情報基礎	2		1				○		○											
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1				○		○										○	
		文学	4		1	○	○		○		○			○	○	○				○		
		心理学	4		1	○	○		○		○			○	○	○				○		
		哲学	4		1	○	○		○		○			○	○					○		
		経済学	4		1				○		○										○	
		法学	4		1				○		○										○	
		社会学	4		1				○		○										○	
		地理学	4		1	○			○	○	○									○	○	
		文化人類学	4		1	○	○		○		○			○	○	○				○	○	
		数学	4		1				○	○	○											
		生物学	4		1				○	○	○									○		
		栄養学	4		1				○	○	○				○							
		総合学習	多文化社会	2 or 2	2	2	○	○		○		○			○	○	○				○	○
			情報と社会	2 or 2	2	2				○	○	○										
			国際理解教育論	2 or 2	2	2		○	○	○	○	○			○			○			○	
			環境教育論	2 or 2	2	2	○	○	○	○	○	○			○	○	○				○	○
			基本科目	2 or 2	1	○	○			○		○			○	○	○				○	○
		専門教育科目群	基本科目	教育原理	2		3	○	○		○		○			○					○	
教育心理学	2				1				○		○											
教育哲学	2				3	○	○		○		○			○					○			
人権教育	2				3	○		○	○	○			○	○						○		
演習科目	児童教育学演習Ⅰ【2025年度以降：教育学演習Ⅰ】			2	3			○	○	○	○	○		○	○	○						
	児童教育学演習Ⅱ【2025年度以降：教育学演習Ⅱ】			2	4			○	○	○	○	○		○	○	○						
	教育学演習Ⅰ＜2025年度以降入学生対象科目＞			2	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	教育学演習Ⅱ＜2025年度以降入学生対象科目＞			2	3			○	○	○	○	○	○	○	○	○						
基幹科目・発展科目	国語		2		2		○			○		○	○			○						
	算数		2		2				○	○	○							○				
	生活		2		2	○			○	○		○			○	○					○	
	社会		2		2				○	○		○			○					○	○	
	理科			2	2					○	○	○								○		
	家庭		2		2					○	○	○						○				
	外国語（英語）		2		2	○			○	○	○	○	○			○			○			
	体育		1	1	1	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	音楽		1	1	1				○	○	○	○	○						○			
	美術		1	1	1		○		○	○	○	○	○									
	児童体育＜2025年度以降入学生対象科目＞			2	1	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	児童音楽＜2025年度以降入学生対象科目＞		2	1				○	○	○	○	○	○					○				
	図画工作＜2025年度以降入学生対象科目＞		2	1		○		○	○	○	○	○										
	子どもと健康	1	1	1				○	○					○								
	子どもと人間関係	1	1	1				○	○						○							
子どもと環境	1	1	1				○	○						○								
子どもと言葉	1	1	1				○	○							○							
子どもと音楽表現	1	1	2				○	○									○					
子どもと造形表現	1	1	2				○	○									○					
子どもと身体表現	1	1	2				○	○									○					

				学習によって『修得できる力』													
				実践力			専門性				共生力						
											関係性			社会貢献			
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）				単位数	配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力
テキスト履修	スクーリング履修																
基幹科目・発展科目 専門教育科目群	児童心理学	2		2			○	○	○				○	○			
	幼児心理学	2		2			○	○	○	○							
	学習心理学	2		3				○		○							
	健康心理学	2		3				○		○							
	教育臨床心理学	4		3	○		○			○			○	○			
	発達心理学	2		2			○	○		○							
	子ども家庭支援の心理学	2		1	○	○	○	○	○	○				○		○	
	子どもの理解と援助		1	1			○	○		○		○	○				
	社会心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		○	
	青年心理学	2		2		○		○	○	○			○	○			
	家族心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		○	
	教職論	2		1	○	○	○	○	○	○				○	○	○	
	幼児教育原理	2		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○	
	初等教育原理	2		2	○	○		○		○		○	○	○	○	○	
	教育社会学	2		3					○		○					○	○
	教育方法論	2		3				○	○	○	○						
	特別支援教育入門（初等）		1	2	○		○	○									
	教育課程論（初等）	2		3	○	○		○		○		○				○	
	幼児教育課程論	2		2	○		○	○	○								○
	道徳教育の指導法（初等）	2		3	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
	総合的な学習の時間の指導法（初等）	2		2	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○
	特別活動の指導法（初等）	2		3	○		○		○	○	○		○	○	○		○
	子ども家庭福祉Ⅰ	2		3	○	○	○	○	○	○					○		○
	子ども家庭福祉Ⅱ	2		3	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育者論	2		1	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○
	保育原理	2		1	○	○		○		○		○				○	○
	子どもの保健	2		3			○	○	○	○							○
	子どもの健康と安全		1	3			○	○	○	○							○
	子どもの食と栄養	1	1	3			○	○	○	○							○
	教職実践演習（幼・小）		2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育・教職実践演習（幼）		2	4	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	教科教育法・国語	2		2	○		○	○	○	○	○	○		○			
	教科教育法・社会	2		2	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○
	教科教育法・算数	2		2	○		○	○	○	○	○	○					
	教科教育法・理科		2	3			○	○	○	○	○						
	教科教育法・生活	2		2	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○
	教科教育法・音楽		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	教科教育法・図画工作		2	3	○		○	○	○	○	○	○					
	教科教育法・家庭	2		2			○	○	○	○					○		
	教科教育法・体育		2	3	○		○	○	○	○					○		
	教科教育法・外国語（英語）	1	1	2	○		○	○	○	○	○	○		○		○	
	保育内容（健康）	1	1	2	○		○	○	○				○			○	
	保育内容（人間関係）	1	1	2		○	○	○		○			○	○	○		
	保育内容（環境）	1	1	2		○	○	○	○	○							
	保育内容（言葉）	2		2	○	○		○	○		○	○					○
	保育内容（表現）		2	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	保育内容（総論）	2		4	○	○	○	○	○								
	教育方法・ICT活用論（初等）	2		2			○	○	○	○					○		
	生徒・進路指導論（初等）	2		3	○	○		○		○			○				○
	教育相談（初等）	2		3			○			○	○			○	○		
	幼児理解	2		3		○	○	○		○				○			
	社会福祉論	2		3	○	○	○	○	○	○	○				○		○
	子育て支援		1	3	○	○	○	○	○	○	○			○			○
	子ども家庭支援論	2		3		○	○	○	○	○	○				○		○
	乳児保育演習		1	2	○			○	○								
	乳児保育論	2		1	○			○	○	○					○		○
	障害児保育論Ⅰ	1	1	3			○	○	○	○	○				○		○
	障害児保育論Ⅱ	2		3			○	○	○	○	○				○		○
	社会的養護Ⅱ	1	1	2	○	○	○	○	○	○	○		○	○			○
	子どもと人権	2		2	○		○	○		○			○	○	○		○
	現代保育論	2		4			○	○		○			○				○
	西洋教育史	2		3					○		○		○				○

					学習によって『修得できる力』													
					実践力			専門性				共生力						
												関係性			社会貢献			
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）				単位数	配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力	
テキスト履修	スクーリング履修																	
専門教育科目 基幹科目・発展科目	子育て相談・支援の理論と実際	2		4	○	○	○	○	○	○				○			○	
	児童教育学特殊講義Ⅰ		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	児童教育学特殊講義Ⅱ		2	4			○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	教育実習事前・事後指導（初等）		1	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	教育実習（初等）	実習4		4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	保育実習ⅠA（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導ⅠA（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習ⅠB（施設）	実習2		4	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導ⅠB（施設）		1	4	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	特別支援教育基礎理論	1	1	1	○				○									
	知的障害児の心理A	1		1				○	○	○							○	
	知的障害児の心理B		1	2				○	○	○							○	
	知的障害児の生理・病理	2		1				○	○	○							○	
	肢体不自由児の心理・生理・病理A	1		1				○	○	○							○	
	肢体不自由児の心理・生理・病理B		1	2				○	○	○							○	
	病弱児の心理・生理・病理A	1		1				○	○	○							○	
	病弱児の心理・生理・病理B		1	2				○	○	○							○	
	知的障害児教育論ⅠA	1		1	○	○	○	○	○	○							○	
	知的障害児教育論ⅠB		1	2	○	○	○	○	○	○							○	
	知的障害児教育論Ⅱ	2		1	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	肢体不自由児教育論A	1		1	○			○										
	肢体不自由児教育論B		1	2	○			○										
	病弱児教育論	2		1	○			○									○	
	視覚障害児の心理・生理・病理		1	1				○	○	○							○	
	聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1				○	○	○							○	
	視覚障害児教育指導法		1	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	聴覚障害児教育指導法	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	発達障害児教育論A	1		1	○	○	○	○	○	○							○	
	発達障害児教育論B		1	2	○			○	○	○	○	○					○	
	特別支援学校教育実習事前事後指導		1	4	○			○	○	○	○		○				○	
	特別支援学校教育実習	実習2		4	○			○	○	○	○		○	○			○	

科目別索引

五 十 音 順

<注意：カリキュラム改正について>

本学ではカリキュラム改正を行いました。このため、入学年度・入学学年により、カリキュラムが異なります。『学生要覧』の入学年度・入学学年・コース別の科目表を必ず確認してください。

なお、④欄のカリキュラム改正前科目については、⑥欄の2026年度開講科目として開講しますので、本冊子では⑥欄の科目コード・科目名で掲載しています。

④ カリキュラム改正前科目		⑥ 2026年度開講科目	
科目コード	科目名	科目コード	科目名
20133	教育方法・技術論（初等）	20181	教育方法・ICT活用論（初等）

<2026年度不開講科目について>

下記の科目については、2026年度は不開講となります。

科目コード	科目名	科目コード	科目名
20078	日本教育史	20137	保育実習ⅠA〔保育所〕
20079	社会福祉援助総論	20144	保育実習ⅠB〔施設〕
20087	保育実習Ⅱ（保育所）		

【エ】

英語	28
栄養学	59

【オ】

音楽【◆1】	179
--------	-----

【カ】

外国語（英語）	229
学習心理学	96
家族心理学	109
家庭	87
環境教育論	68

【キ】

教育課程論（初等）	122
教育原理	72
教育実習（初等）〔小学校〕	196
教育実習（初等）〔幼稚園〕	196
教育社会学	118
教育社会学【特例制度】	256
教育心理学	74
教育相談（初等）	138
教育哲学	76
教育方法・ICT活用論（初等）	249
教育方法・技術特論（初等）【特例制度】	262
教育方法論	120
教育臨床心理学	101
教科教育法・外国語（英語）	231
教科教育法・家庭	136
教科教育法・国語	127

教科教育法・算数	132
教科教育法・社会	130
教科教育法・生活	134
教職論	111
教職論【特例制度】	254

【ケ】

経済学	42
健康行動学	30
健康心理学	98
現代保育論	150

【コ】

国語	78
国際理解教育論	66
子育て相談・支援の理論と実際	154
子ども家庭支援の心理学	213
子ども家庭支援論	223
子ども家庭支援論【特例制度】	268
子ども家庭福祉Ⅰ	221
子ども家庭福祉Ⅱ	227
子どもと音楽表現	243
子どもと環境	239
子どもと健康	235
子どもと言葉	241
子どもと人権	148
子どもと身体表現	247
子どもと造形表現	245
子どもと人間関係	237
子どもの食と栄養	192
子どもの保健	225

【サ】	
算数	81
【シ】	
肢体不自由児教育論A【特支】	168
肢体不自由児の心理・生理・病理A【特支】	162
児童心理学	92
社会	85
社会学	46
社会心理学	105
社会的養護Ⅰ	217
社会的養護Ⅱ	219
社会福祉論	142
障害児保育論Ⅰ	144
障害児保育論Ⅱ	146
情報基礎	32
情報と社会	64
初等教育原理	115
人権教育	205
心理学	38
【ス】	
数学	53
【セ】	
生活	83
生徒・進路指導論（初等）	194
青年心理学	107
生物学	57
西洋教育史	152
【ソ】	
総合的な学習の時間の指導法（初等）	233
【タ】	
体育【◆1】	90
多文化社会	62
【チ】	
知的障害児教育論ⅠA【特支】	164
知的障害児教育論Ⅱ【特支】	166
知的障害児の心理A【特支】	158
知的障害児の生理・病理【特支】	160
聴覚障害児教育指導法【特支】	174
聴覚障害児の心理・生理・病理【特支】	172
地理学	49
【ツ】	
通信教育入門	24

【テ】	
哲学	40
【ト】	
道德教育の指導法（初等）	207
特別活動の指導法（初等）	209
特別支援学校教育実習【特支】	178
特別支援教育基礎理論【特支】	156
【ニ】	
日本国憲法	34
日本語表現	26
乳児保育論	215
乳児保育【特例制度】	274
【ハ】	
発達障害児教育論A【特支】	176
発達心理学	103
【ヒ】	
美術【◆1】	185
病弱児教育論【特支】	170
病弱児の心理・生理・病理A【特支】	163
【フ】	
福祉と養護【特例制度】	266
文学	36
文化人類学	51
【ホ】	
保育原理	189
保育者論	187
保育内容（環境）	201
保育内容（健康）	197
保育内容（言葉）	203
保育内容（総論）	211
保育内容（人間関係）	199
保育内容の研究・特別総論【特例制度】	260
法学	44
保健と食と栄養【特例制度】	270
【ヨ】	
幼児教育課程論	124
幼児教育課程特論【特例制度】	258
幼児教育原理	113
幼児心理学	94
幼児理解	140
幼児理解特論【特例制度】	264

【◆1】教育学科・児童教育学科2024年度以前入学生対象科目

【特支】「特別支援学校教諭1種免許状取得課程」履修者対象科目＜1年次入学時履修許可者のみ＞

【特例制度】認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生対象科目

共 通 教 育 科 目 群

科目コード	10000	科目名	通信教育入門 [2 単位／90時間]			
[単位数 / 学習時間]						
テキスト	●『自立学習の手引き』 私立大学通信教育協会					
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円) (2026年1月現在)	510	生協 テキストNo.	26001	生協へお申し込みください
科目担当		小川内 哲生				

第1課題の留意点

テキスト『自立学習の手引き』を参照すること。特に第2章「書く」の第1節、第2節、第3節を参考にしてまとめると良い。自分がレポートを作成するときに留意すべき点については、テキストの丸写しではなく、必ず自分の言葉でまとめること。

第2課題の留意点

レポートの作成にあたっては、次の構成にすること。(レポートの書き方も習熟する。)

1. 序論 このレポートで何を明らかにするか、つまり、「問い」を明らかにする。
2. 本論 「問い」にそって内容を展開する。問いを解明していく。
3. 結論 本論によって解明された「問い」の「答え」を簡潔に明らかに示す。感想や展望といったことは、この「答え」の後にこれも簡潔に示す。

＜引用について＞

文献等の引用はとても大切である。適切に引用の仕方を学ぶこと。(本冊子の「はじめに」を参照。)

本課題では、レポートの形式にそって「立論すること」を経験し、慣れることが一番の目的である。そのため、1冊の本のまとめや切り抜きといった文献の丸写しではいけない。自身で、テーマ、論点をつくり、資料を読み込み調べ、「問い」をきちんと「答える」ために、引用を的確に使い、また、それらの知見を「どこから引用したか」正確に記すこと。また、本レポートでは、「参考文献」として文献名を挙げるだけで、どこにどう生かされているのかわからない場合(引用箇所の頁などを示していない場合)は、「文献を用いた考察」とは認めない。

テーマ、論点としては、問題点が明らかで、意見が分かれているようなものを取り組みやすいであろう。1冊の書物のような大きな論議や、教科書のような解説の類は不適當。タイトルで小さく絞り込むこと。結論の如何よりも、テキストの「読む」「書く」「問う」が十分に実践されているかどうかを、評価のポイントとする。ここでは、あなたの意見をただ述べるのではなく、複数の資料を組み合わせて述べる練習として、引用を的確に、その書き方の習得を心がけること。

ぜひ、この課題で「レポート」の書き方の基本(ここでは、主張と、その理由。さらに理由を確かなモノにする根拠、といった論の立て方、また、序論・本論・結論・引用文献というレポートの形式など)を身につけてほしい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

テキストを正確に読み取り、その実践がきちんとあらわれていること。たとえば、原稿用紙の使い方、改行・段落、引用の仕方などは、レポート作成の基本である。自分の意見だけで引用が活用されていないものも、引用のみ多く自分の意見が乏しいものも、いずれもよくない(何かの資料～ネットの「まとめ」など～を丸写ししてもあなたのレポートとして成立しない)。

第2課題は、よく調べ、深く考察し、自分の意見・主張が客観的に記されていることが必要である。

合格(A～C)と不合格(D)の基準は次のとおりとする。

- A: それぞれの基本的な概念(内容)・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
- B: それぞれの基本的な概念(内容)・特徴を自分の言葉で記述する。
- C: テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
- D: レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、「質問票」で担当者に質問すること。答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

※添削・評価済みレポートは提出期限の締切約1ヵ月半後(提出月の翌月末頃)に返却。ただし、2月と8月に提出したレポートについては、翌々月の月上旬に返却。

科目修了試験の評価基準

合格(A～C)と不合格(D)の基準は次のとおりとする。

- A: 設題に適切に解答している。
- B: 設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
- C: 設題に内容の一部が適切に解答されている。
- D: 設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

・内田樹 『下流志向 学ばない子どもたち働かない若者たち』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10001	科目名 [単位数/学習時間]	日本語表現 [2単位/90時間]			
テキスト	● 松尾芭蕉 『覚えておきたい芭蕉の名句200』 角川書店					
ISBN	9784044004705	本体価格(円) (2026年1月現在)	680	生協 テキストNo.	26002	
科目担当		大村 誠一郎				

科目の目的

日本語による表現の粋といえ、五七五のわずか十七音で森羅万象を表現できる俳句が先ず挙げられよう。無論俳句の表現に通じたところで、直ちにレポートを書く上での参考にはならないが、日本語でこれだけ豊かな表現が出来るということを感じてもらいたい。この科目では「句調はすんば舌頭に干転せよ」と表現を追求した芭蕉の名句を鑑賞し、その表現の巧みさを自ら発見してもらいたい。また上手下手は問わないが、自分でも作句试着みることで、表現の工夫を体感してもらう。

到達目標

テキストに取り上げられている句を順に読み、それぞれの句について自分が「表現が巧みだ」と感じたところをノートに取っていく。200句なので、15回に分けると、1回平均13、4句になる。テキストには簡単な句意と説明だけで、いわゆる評釈になっていないので、受講者自身の鑑賞力を発揮しやすいと思う。どこが巧みなのかわからないときは「わからない」で良い。ただし100句につき任意の3句についてレポートを書いてもらうので、自分の力だけでは難しいと感じたときは「凡例」にあるようなものを始め、参考文献を見て良いが、レポートでは必ず何に書かれていた考えかを明記すること。また1つのものを鵜呑みにせず、自分の考えを重視するように。

また俳句の表現という、切れ字や体言止めなどに目が行きがちかも知れないが、芭蕉も「発句は取り合はせ物と知るべし」と述べているように、言葉と言葉の出会いが重要である点に留意すること。

学習テーマ

1	テキスト8ページの最初の句から13、4句につき、「到達目標」に書いた作業をする。参考文献にあった意見は、何に書かれていたかもメモしておく（Webページの場合も同様）。
2	「1」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。なお、テキストは作句の年代順に並んでいるので、年代による変化などにも気付いたらメモすると良い（レポートや科目修了試験では問わない）。
3	「2」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
4	「3」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
5	「4」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
6	「5」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
7	「6」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
8	「7」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
9	「8」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
10	「9」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
11	「10」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
12	「11」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
13	「12」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
14	「13」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
15	「14」の次の句から最後の句につき、前回と同様の作業をする。

レポートについて

ワープロソフト

使用可

第1課題

テキストの前半100句（pp.8-110）の中から自分が表現の面で特に優れていると思った句を3句選び、その優れている点について論じる。更に提出日の季節に合った自作の句1句を添え、簡単に解説すること。

第2課題

テキストの後半100句（pp.111-213）の中から自分が表現の面で特に優れていると思った句を3句選び、その優れている点について論じる。更に提出日の季節に合った自作の句1句を添え、簡単に解説すること。

各課題共通の留意点

「表現が優れている」といってもそれを言葉で説明するのは難しいが、江戸時代の句は言葉の背後に古典のイメージがある場合も多いので、解説を参考に言葉の持つイメージを辞書で探してみる、他の語に置き換えて感動が同じように伝わるか考えてみるといった点に留意すると良いだろう。なお、「科目修了試験について」を参照し、科目修了試験に出す予定の句についてはレポートで取り上げないこと。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

なるべく受講者の感性を尊重したいが、あまりに時代性を無視した、現代的に過ぎる解釈は書き直しを命じる。また科目の性質上、誤字・脱字・誤変換や、慣用表現の誤用、ねじれ表現などがあまりに多い場合にも書き直しを命じることがある。

自作の句については、担当者は俳人ではないので巧拙は問わないが、有季定型に限定する。季節は、立春から立夏の前日までを春とする伝統的な季感に従うこと。季語は歳時記に縛られなくても良いが、うっかり他季の語を勘違いして用いたり、同じ句の中に他季の語が混じったりしないよう、インターネットでも良いので歳時記を参照することを勧める。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキスト16ページ「芭蕉野分して」、50ページ「古池や」、80ページ「草臥れて」、90ページ「吹き飛ばす」、102ページ「夏草や」、105ページ「涼しさを」、113ページ「荒海や」、117ページ「あかあかと」、134ページ「薦を着て」、152ページ「梅若菜」、189ページ「春雨や」、210ページ「此の秋は」。

以上12句の中から2句出題し、表現の巧みさを中心とした鑑賞文を書いてもらう。

科目修了試験の評価基準

概ねは非常に有名な句なので、探せば評釈は山のようにあると思う。科目修了試験受験の前にそれらを参照しておくことはもちろん結構であるが、最終的に自分の鑑賞文となっていること。いろんな批評が混在して何が言いたいのかわからないような答案はもちろん不合格となる。試験時には何も持ち込めないの、他人の考えを書くと、誰の文章だったかわからなくなることもあると思うが、「誰の文章だったか忘れたが」というような形にして、他人の説であること自体は明記するように。

参考文献

テキストの「凡例」参照。『おくのほそ道』の注釈なども無数に存在する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10004	科目名 [単位数 / 学習時間]	英語 [2 単位 / 90時間]			
テキスト	● 阿野幸一 上田倫史 『Journeys Communication for the Global Age グローバル社会へのコミュニケーション英語』 朝日出版社					
ISBN	9784255157047	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26005	
科目担当		平松 さやか				

科目の目的

健康、ファッション、ボランティア活動、カルチャーショックなどの身近な話題を取り上げ、対話文と短めの読み物で構成されたテキストである。英語を知識として終わらせるだけでなく、リスニング部分（無料でダウンロード可）、さらに各自の意見を書くことで、活用出来るスキルとしての英語の四技能を強化することを目的としている。扱う英文のレベルは英語検定準2級－2級程度、TOEIC TESTスコア300～450程度。

到達目標

テキストの英文読解、リスニング問題を通して社会事情に関心を寄せるだけでなく、critical thinking（批判的論理思考）を養うことも目標とする。テキストの各章の補助問題を解きつつ、受講生が自身の意見や考察を表明できるようになる。英文アカデミックライティング形式（結論先行方式）を段階的に習得していくことを目標としている。（第2課題参照）

学習テーマ

1	Lesson 1 : Communication 現在形【現在に関わることを述べる表現】
2	Lesson 2 : Friendship 過去形・過去進行形【過去のことを述べる表現】
3	Lesson 3 : Health and Environment 現在完了形【すでに終わっていることや、経験を伝える表現】
4	Lesson 4 : Gender Equality 未来形【未来のことを伝える表現】
5	Lesson 5 : Fashion 助動詞 ① can, may【可能性や推量】
6	Lesson 6 : Food 助動詞② should, must【相手に助言したり、すべきことを伝えたりする表現】
7	Lesson 7 : History of YouTube 比較【比較をする表現①】
8	Lesson 8 : Study Abroad 比較【比較をする表現②】
9	Lesson 9 : College Life in the U.S. 受け身,使役【視点を変えて説明したり、～させると伝える表現】
10	Lesson 10 : Olafur Eliasson 関係詞①【情報を加えて説明する表現】
11	Lesson 11 : Volunteer Work 関係詞②【時・場所・理由などの情報を加える表現】
12	Lesson 12 : Career 形容詞用法【言葉に情報を加える表現】
13	Lesson 13 : Travel 仮定法【自分の願いを伝える表現】
14	Lesson 14 : Culture 話法【人の言葉を伝える表現】
15	Lesson 15 : An International World ディスコース標識【論理的に伝える表現】

レポートについて	ワープロソフト 使用可
----------	----------------

第1課題

Lesson 1 - 7 より任意で1つ、Lesson 8 -15（作文ではなく履歴書作成をする12は選択しないこと）より任意で1つ、合計2つの Lesson を選ぶこと。

- （1）Warm-Up Question（短い英文で解答すること）
 - （2）Keywords（各単語の訳出をおこなう）
 - （3）Conversation（話の内容を日本語で要約。一語一句訳出ししないこと。）
 - （4）Useful Expressions（各表現を個別に使い、各自で考えた短い対話文を作成）
 - （5）Reading（段落ごとの日本語要約文を作成すること。翻訳アプリ、生成AIは安易に使用しないこと。使用が判明するような、全文訳のみの提出は行わないようにする。）
 - （6）Comprehension（表全体は写さず、表の中の空欄の表現をそれぞれ解答。）
 - （7）Answer the Questions, Let's Try（指示に従って短い英作文をおこなう）を解答する。
- Grammar for Communication/ Retelling / Speaking Task 口頭練習は各自で振返るのみで、提出は不要。

第2課題

第1課題で選んだ2つのLessonより、Lessonページ最後部の [Writing Task] を1つ選び、英語で100words程度で、自らの意見や考察をアカデミックライティング形式で述べる。

各課題の留意点

第1課題の留意点

選んだLessonごとに解答を作成するとよい。英単語を本学所定のレポート用紙のマス目に合わせる必要は無く、文書作成を行うこと（Word文書可）。ページ数と問題名、番号を記載してから解答する。

第2課題の留意点

英語で論旨を述べる時は、academic writing (paragraph writing) の方式をとる。paragraph とは「段落」のことで、1つの段落に1 topic (主張したいテーマ) のみ扱うのがルール。topicを冒頭で提示した上で、その後にtopicを説明する具体的な理由を述べるという、日本語作文の「起承転結」とは正反対の展開法である。理由や説明を入れるときは、First, Second, Next, 等つなぎ語を文頭に置いて文章を展開すると論理的で説得力ある文章が完成する。以下は明快なparagraphの見本として参考にしてみたい。

Why Convenience Stores Succeed

The main reason for the success of convenience stores in recent years is that they are indeed convenient for every person in each generation. There are several factors that make them useful. One is their location. Unlike large supermarkets, convenience store chains focus on having a large number of small stores. So one city can have hundreds of them and most of the stores are in walking distance. The second reason is the selection of goods that are sold in these convenience stores. You are able to buy not only groceries but also vegetables, liquor, magazines and underwear. The third reason is the hours they keep. Most of the convenience stores open all through the year and are open late at night or all night. So you may go there without any worries about closed days nor the hour you shop. In conclusion, convenience stores location, business hours and their variety of items fit for today's people and they have made a great success in Japan.

(170 words)

○書式フォーマット【Wordソフト使用の場合】

Word文書で提出の場合、正式な字体Times / Times New Romanを使用する。文字サイズは12-14ポイントの半角に設定。上下左右に2-3 cm程度の余白を取り、用紙 (A4用紙) の中央にタイトル (題目) をつける。1行分下がって、冒頭部のみ、5スペース分右の場所から1行目を書き始める。

1行ごとの改行はせずに、文章は余白分を残して端から端まで書くが、右側がきちんと揃わなくてもよい。ピリオドの後には2スペース空けて次の文を書くこと。また、英語の字数の数え方は1単語を1 wordとし、例えば I have a dream. であれば4 wordsとなる。日本語の作文のように空白のスペースや、ピリオド、コンマ、クォーテーションマーク、クエスションマークなどはカウントしない。上記のパラグラフはタイトルを含めて170語である (字数は文章の終わり、右下に記載しておく)。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- 第1課題について：各自選んだ2つの章の問題を写し間違いや不備もなく、正しく解答していること。和訳した部分のミスの数や、英単語や英文のつづり間違いが多すぎる場合はマイナス評価の対象となる。もちろん、未解答部分がある場合は再提出の対象となる。
- 第2課題について：academic writing の正式なフォーマットで文章を作成し、書式と構成を守って作成していることが前提となる。英語の語彙の高度さ、文法の複雑さなどでプラス評価にはせず、いかに各自の今持てる力で意見を述べているかを評価する。文章が100 words の8割以下では内容不十分として不合格 (再提出) の対象となる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

試験範囲はLesson 1-15の広範囲に渡るが、出題はランダムに選んだ2章分となる。つまり、「Reading」部分の文章内容理解、文法や語彙力を問う大問が2つとなる。その章に関連するComprehension, Answer the Questions部分からも出題される。ランダムにGrammar for Communicationからも文法問題が出題される。テキストで扱った文法事項はよく復習しておくこと。

さらに、第2課題と類似した、自らの意見や考察を100 wordsで書くacademic writingの問題もある (与えられるトピックは選択方式)。例年この部分の白紙解答の結果、点数が合格ラインに届かない場合もある。平易な語彙でもミスを恐れず、何か具体的な事例や自分の意見をできる限り書いて提出すること。

科目修了試験の評価基準

英語の読解力、文法、語法、英作文などを出題した部分が約85点 (小問の配点は異なるが、1問3～4点が大半)。例えば試験内での動詞の活用ミス、前置詞選択が不適切な場合は減点につながる。また、意見を述べるacademic writingの大問は約15点配点 (英語のつづりや誤字脱字だけでは大きな減点にはならない)。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ) を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10007	科目名 [単位数/学習時間]	健康行動学 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 安部孝 瑠子友男 『これからの健康とスポーツの科学 第5 版』 講談社					
ISBN	9784065180952	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26006	
科目担当		久永 将太				
実務経験のある教員による科目		スポーツ関連企業にて全世代の健康づくり（健康増進・競技力向上）サポート業務に従事				

科目の目的

わが国の平均寿命はここ数十年で飛躍的に伸び、世界でも有数の健康水準を誇る国となっている。しかし、豊かさがもたらす食も過ぎや運動不足が引き起こす生活習慣病の増加や、それに伴う国民医療費の高騰など現代社会において多くの問題を抱えている。こうした現状で健康を維持・増進するには然るべき理論を理解し、実践方法を身につけることが必要となる。そこで本科目では、健康の問題を自分自身の生活を振り返ることから始め、今後の生活の中で健康を増進するための考え方を身につけるべく基本的な知識を学ぶことを目的とする。

到達目標

今日の情報化社会では健康に関する情報が溢れている。おもにデジタルメディアから届けられるたくさんの健康情報を、キャッチーなコピーに惑わされることなく正否の判断を下すために必要な知識を身につけること。商業ベースのまことしやかな情報に流されない知的体力をつけることが、一つ目の到達目標である。

二つ目は、運動実践への意欲と積極的な態度を身につけること。デジタルメディアの出現など様々な分野での「便利化」は、今も着実に進行中である。身体をそれほど使わなくても暮らす現代社会では、健康を維持するためには運動実践が必要不可欠である。そのためには、多くの人が抱えている「スポーツや体育への苦手意識」を払拭することも必要で、競技力を高めるための運動と、健康を維持・増進するためのそれとは根本的に異なる。この違いを理解することにより、運動実践への一歩を踏み出せるようになる。以上が本科目の到達目標である。

学習テーマ

1	健康を推進するための生活スタイルとは①【日本人は健康といえるのか？食生活・飲酒と喫煙<テキストpp.1-9>】
2	健康を推進するための生活スタイルとは②【休養の取り方・健康を脅かすものから身を守る・環境と健康・日本人のライフスタイル<テキストpp.7-18>】
3	運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？①【運動不足が生活習慣病を招く・三大死因とライフスタイル<テキストpp.19-20、pp.28-31>】
4	運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？②【運動習慣と死亡率の関連性・健康づくりのための身体活動基準および運動指針<テキストpp.32-37>】
5	肥満を改善するための方法【安静時エネルギー代謝を高める・運動と肥満の関係・食事と運動と肥満の関係<テキストpp.54-62>】
6	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは①【猛暑での運動（暑熱環境）<テキストpp.144-149>】
7	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは②【寒い環境での運動（寒冷環境）<テキストpp.152-155>】
8	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは③【山地などでの運動（高所環境）<テキストpp.156-159>】
9	ストレスと運動①【運動はストレス解消に役立つのか？なぜ運動はストレスに対して効果的なのか？<テキストpp.172-182>】
10	ストレスと運動②【運動の負の側面・どのような生活をすればストレスに強くなれるのか？<テキストpp.183-188>】
11	栄養とスポーツ①【五大栄養素の役割<テキストpp.189-192>】
12	栄養とスポーツ②【エネルギーや栄養素の摂取量・バランスのよい食事<テキストpp.193-198>】
13	高い持久力は何によって決まるのか？①【有酸素的なエネルギー供給機構・糖や脂肪の代謝<テキストpp.87-91>】
14	高い持久力は何によって決まるのか？②【酸素摂取からみた持久力・エネルギー代謝からみた持久力<テキストpp.92-98>】
15	加齢による筋萎縮に対する運動と栄養摂取の役割【加齢による筋萎縮と身体障害・高齢者における運動処方<テキストpp.127-128、pp.131-133>】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

健康的な生活習慣を阻害する要因をいくつか挙げ、それを乗り越える手立てを提案しなさい。

第2課題

適切な運動の仕方と効率的な休養の取り方について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

なぜ健康的な生活習慣が身につけにくいのか。この問いから出発し、それを阻害する要因をエピソードを交えるなどしていくつか挙げる。そこから、どうすればそれを克服することができるのかについて、私論で構わないので自らの言葉でレポートする。

第2課題の留意点

一口に運動といっても様々である。行い方によっては効果も変わる。心身のリフレッシュを目的にした場合の適切な運動の仕方について、休養の取り方にも触れながら述べる。それから、多忙な日常生活においていかにして運動を行い、休養を取るための時間を捻出すればよいのかについてレポートする。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストを精読の上で、参考文献などの情報を加味して課題について論述しているかどうか。
- ・論理的に述べられているかどうか。
- ・引用、注釈の仕方が正しいかどうか。
- ・適切に段落をつけているかどうか。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないかどうか。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストで扱われているテーマから出題する。テキストをよく読んで理解を深めておくことが大切である。とくにレポート課題で提示した、生活習慣病や、運動の様々な効果についてよく理解しておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握した上で、理論と実践を結びつけるべく経験的に学んだ内容を整理することも重要である。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説のみを展開しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・福岡伸一 『動的平衡 生命はなぜそこに宿るのか』 木楽舎
- ・岩田健太郎 『食べ物のことはからだに訊け！ 健康情報にだまされるな』 筑摩書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10008	科目名 [単位数/学習時間]	情報基礎 [2単位/90時間]			
テキスト	● 情報処理学会一般情報教育委員会 『IT Text一般教養シリーズ 一般情報教育』 オーム社					
ISBN	9784274225956	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26007	
科目担当		中尾 尊洋				
実務経験のある教員による科目		中学校教諭（情報担当）				

第2課題の留意点

- ・第1次の「探索と推論」、第2次の「知識表現（エキスパートシステム）」、第3次の「機械学習・深層学習」の特徴を整理すること。
- ・従来の機械学習と現在の機械学習の違いを明確に説明すること。
- ・オズボーンらによる「仕事の自動化」の予測や、2045年に起こるとされる「シンギュラリティ（技術的特異点）」、およびAIが苦手とする「新しいアイデアの考案」や「ルールの決まっていないことへの対応」における人間の優位性について考察すること。
- ・テキストを含め、引用・参考にした文献を参考文献として、バンクーバー方式で記述すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

留意点が意図されているか、誤字脱字がないか、段落が適切に分けられているかを踏まえた上で、以下の各課題の基準を観点として評価する。

【第1課題の評価基準】

- ・格差要因について正確に把握しているか。
- ・是正策の具体的な内容が提示されているか。
- ・アクセシビリティの概念を理解しているか。
- ・情報格差がもたらす不利益（災害時の情報不足や経済的特典の欠如）を理解した上で、なぜ是正が必要なのかという自身の考察が論理的に述べられているか。

【第2課題の評価基準】

- ・AIの歴史的変遷について理解しているか。
- ・深層学習の革新性について適切に説明されているか。
- ・深層学習における技術的制約について説明されているか。
- ・オズボーンらによる仕事の自動化予測や2045年の「シンギュラリティ」を踏まえ、AIが得意なことと人間が優位なことを対比して論じているか。
- ・AIの普及が将来の仕事や社会にどのような影響を与えるかについて、自身の考えを述べているか。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキストの第1章をよく読み、「データ」が「情報」や「知識」へと変化するプロセス、情報格差の個人への影響と是正策について説明できるようにしておくこと。
- ・テキストの第2章をよく読み、インターネットの情報がプライバシーや肖像権にもたらすリスクについて説明できるようにしておくこと。
- ・テキストの第4章をよく読み、カプセル化の仕組みやメリットについて説明できるようにしておくこと。
- ・テキストの第5章をよく読み、セキュリティインシデントによる損害や防止方法について説明できるようにしておくこと。
- ・テキストの第8章をよく読んだ上で、コラム「なぜプログラミングを学ぶのか」を読んで自分なりに解釈し説明できるようにしておくこと。
- ・テキストの第11章をよく読んだ上で、これまでのAIブームと技術的変遷について理解し、現在のAI技術が今後の社会等にどのような影響を及ぼすのかを説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・キーワードの説明4題×10点、論述問題1題×60点の配点で採点する。
- ・キーワードについては、それぞれテキストに記載された内容で正しく理解されていること。満点でない場合は、内容によって部分点を加算する。
- ・論述については、理解したキーワードを用い、自分の考え方を取り入れて作成されたものであること。その際、テキスト等の根拠にもとづいて主張を展開することとし、自説のみを記入しても評価しない。また、設題内容を正しく理解し、求めに応じた解答であるかも評価対象である。

参考文献

- ・文部科学省HP 『教育の情報化に関する手引（追補版）』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10010	科目名 [単位数/学習時間]	日本国憲法 [2単位/90時間]			
テキスト	● 君塚正臣 大江一平 松井直之 『大学生のための憲法 第2版』 法律文化社					
ISBN	9784589043344	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26008	
科目担当		小野 晃正				

科目の目的

憲法は、専断的になりがちな公権力（立法・行政・司法）を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由から憲法の条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。

日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。

これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。

到達目標

テキストを読み込み、日本国憲法の諸規定をめぐる紛争はどのようなものなのかについて、具体的事例をイメージできるようになる。その上で、具体的事例から憲法上の争点を抽出し、この争点を解決するための理論（判例や学説）を理解する。さらに、これらを論理的にまとめ、自分なりの結論を提示する能力を身につける。

本科目はレポート課題および科目修了試験を通じて、こうした諸点の能力を向上させることを最終的な到達目標とする。

学習テーマ

1	憲法と立憲主義【学習のポイント：テキスト第1章を参照し、憲法の基本概念と立憲主義の意義を理解する。】
2	日本憲法史と平和主義【学習のポイント：テキスト第2章、第3章および第4章を参照し、憲法の成り立ちや日本における憲法の制定過程解釈、平和主義の内容を理解する。】
3	人権総論について【学習のポイント：テキスト第5章を参照し、人権の沿革、自由権と社会権の沿革、人権の享有主体、人権の制約を理解する。】
4	幸福追求権と法の下での平等について【学習のポイント：テキスト第6章を参照し、新しい人権と平等を理解する。】
5	精神的自由権と思想良心の自由について【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、精神的自由権の概要や思想良心の自由を理解する。】
6	学問の自由について【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、学問の自由の理解を深める。】
7	信教の自由と政教分離について【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、憲法20条の解釈を理解する。】
8	表現の自由について①【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、表現の自由の意義と限界、規制方法を理解する。】
9	表現の自由について②【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、集会・結社の自由、通信の秘密を理解する。】
10	経済的自由権について【学習のポイント：テキスト第8章を参照し、経済的自由権の重要性とその限界を理解する。】
11	人身の自由と適正手続の保障について【学習のポイント：テキスト第6章を参照し、人身の自由と適正手続の保障を理解する。】
12	社会権について【学習のポイント：テキスト第9章を参照し、社会権の展開を理解する。】
13	国務請求権と参政権について【学習のポイント：テキスト第10章および第11章を参照し、外国人の人権享有主体性を理解する。】
14	統治機構について【学習のポイント：テキスト第12章、第13章および第14章を参照し、わが国の統治機構の概要を理解する。】
15	裁判所と地方自治について【学習のポイント：テキスト第15章および第16章を参照し、裁判所と地方自治の概要を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

基本的人権である「自由権」と「社会権」の内容をそれぞれ説明したうえで、「社会権」が「自由権」よりも遅れて登場した歴史的背景を説明しなさい。

第2課題

表現の自由は最も重要な人権の一つであるとされる理由を複数挙げたうえで、表現の自由の規制の是非について具体例を示しつつ説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・「自由権」と「社会権」の内容については分けて論じること。
- ・テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第2 課題の留意点

- ・集会の自由や結社の自由には触れなくてよい。
- ・テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストを精読したうえで、情報を整理し、課題について正面から論述しているか。
- ・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
- ・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。
- ・レポートを作成する際に参考にした文献は、必ず明示すること。インターネット上の記事は引用文献として認めない。参考文献のないレポートは、評価が低くなることに留意すること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- 以下の2点に留意すること。
- ・問いに無関係な内容や個人的な体験談で字数を稼いでいないか。
 - ・テキストの内容を理解しているか。

科目修了試験の評価基準

- 以下2点を成績評価の基準とする。
- ・設題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか）。 20%
 - ・テキストの内容を理解しているか。 80%

参考文献

- ・芦部信喜 『憲法 第8版』 岩波書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10011	科目名 [単位数/学習時間]	文学 [4単位／180時間]			
テキスト	● 菅原孝標女 原岡文子 『更級日記』 角川学芸出版					
ISBN	9784043734016	本体価格(円) (2026年1月現在)	760	生協 テキストNo.	26009	
科目担当		大村 誠一郎				

科目の目的

『更級日記』は平安時代のある一女性が自分の生涯を振り返って書いたもの。人生上の大きな出来事のリアルな記録になっている上、その時思ったこと、考えたことが率直な言葉で綴られ、深い思いは和歌となった。文芸としての評価は高い。その『更級日記』を原文で読んで、現代に通じる点、現代と異なる点などについて考えてほしい。当時の女性に自分で選ぶ人生とか自由な生き方などという概念は存在しないのだが、彼女はこうありたいと思う生き方を繰り返し考えていた。親しい人との別れがあればさびしさや悲しみを印象深い文章に綴り、和歌を残す。つらい時には友と歌の贈答で語り合う。千年もの時を隔てていながら、現代の私たちにとっても身近に感じられる存在だ。原文で味わうことでいっそうそう思えることだろう。

到達目標

『更級日記』は平安時代のかた文学の文章としては比較的読みやすいが、作品全部を読もうとすると、高校で一通り古典を学んだ程度では難しく感じられる部分もあると思う。テキストには注釈も現代語訳もついているので、それらを参照しながら、内容を理解できるようになってほしい。更に原文を味読できるようになれば完璧である。

また、平安時代は今とはまったく違う社会環境にあり、実像を知るのは案外難しい。注釈や現代語訳だけではわかりにくいところは、自ら積極的に調べる習慣を身につけてもらうことも目的とする。

学習テーマ

1	1～4までを注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
2	5～7について、前回と同様の作業をする。
3	8～13について、前回と同様の作業をする。
4	14～23について、前回と同様の作業をする。
5	23までの内容で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
6	24～33までを注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
7	34～45について、前回と同様の作業をする。
8	46～52について、前回と同様の作業をする。
9	53～62について、前回と同様の作業をする。
10	62までの内容で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
11	63～67までを注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
12	68～73について、前回と同様の作業をする。
13	74～82（最終章）について、前回と同様の作業をする。
14	上記1～13で区切った単位の内容を梗概としてまとめ、研究文献等を参考にしながら、作品全体の振り返りをする。
15	科目修了試験に備えて十分な学習をする。

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

1～23を範囲とし、内容に即して感想を述べる。1～23からさらにテーマを一つ設定し、それについて調べ、調べたことを本文内容に関連させてまとめる。

第2課題

24～62を範囲とし、内容に即して感想を述べる。24～62からさらにテーマを一つ設定し、それについて調べ、調べたことを本文内容に関連させてまとめる。

第3課題

63～82を範囲とし、内容に即して感想を述べる。63～82からさらにテーマを一つ設定し、それについて調べ、調べたことを本文内容に関連させてまとめる。

第4課題

『更級日記』全編について内容に即して感想を述べる。複数の観点で論じることを条件とするが、列挙ではなく、一つの作品を論じることを意識してまとまりのある内容にすること。調べたことも反映させる。

各課題共通の留意点

感想はもちろんどんなものでもかまわないが、必ず原文を引用し、「……」とある部分についてどう感じたというように具体的に書くこと。またテーマとは、作品中の重要な話題（たとえば、「源氏物語」「受領階級家の女性の生き方」「信仰」「法華経」「阿弥陀仏」「仕事（宮仕え）」「夢」「夫」「家族」「乳母」…）や作品の背景となる事柄（作者の父の階層、極楽往生…）などの中から、自分が興味を持ったものを取り上げて、それについて調べ、わかったことを作品に関連させて書く。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

感想は自由だが、原文を理解できているかどうかを問う意味がある。原文の引用がないものや、あまりにも内容とかけ離れたものは不合格とし、書き直してもらう。テーマレポートは、必ず複数の文献を見て、書籍の場合は著者・出版社・刊行年を、ウェブの場合はURLと参照日時を参考文献として明示すること。一つの文献だけを丸写ししているような場合は不合格（再提出）となる。

なお、テーマ設定も自由であるが、作品の読みにかかわる視点を持つことを条件とする。例えば作者の父について調べるのもテーマになるが、作品内容と関わることを必ず書くこと。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

『更級日記』は作者が晩年に自分の人生を振り返って書いたもの。科目修了試験では、筆者が自分の人生をどのように評価しているかを論述することとする。出題は、作品を考える際にキーとなる「源氏物語」「信仰」「仕事（宮仕え）」「夢」「家族」といったことがらにかかわっている特定の一つの章をベースとして視点を示すので、それに応じて作品全体を視野に入れて論述する。

科目修了試験の評価基準

作中のエピソードにふれる場合、確実に読んだことがわかる程度のもので構わない。夢や信仰についても事前に調べて記憶しておける範囲で書けばよいが、作品中のどの部分に関わっているかまで指摘してあれば、より高く評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10012	科目名 [単位数/学習時間]	心理学 [4 単位/180時間]			
テキスト	● 鹿取廣人 杉本敏夫 鳥居修晃 『心理学 第5版 補訂版』 東京大学出版会					
ISBN	9784130121170	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26010	
科目担当		吉田 絵美				
実務経験のある教員による科目		公立学校スクールカウンセラー、心理判定員				
科目の目的						
心理学の研究領域は、人間の性格や知的能力、知覚、感情、発達等、広範囲にわたっているが、人間のこころの仕組みや働きについて研究しているところが共通点として挙げられる。スクールカウンセリングや教育等に携わるにあたり、その基礎となる人間の心とその仕組みに広く触れ理解しておくことは言うまでもない。実務にあたり駆使した人をより理解するために必要な心理学全般についての基本的な知識を教え、受講生に理解してもらうことを本科目の目的とする。						
到達目標						
心理学が「こころの科学」であることを正しく理解し、学術的な視点で心理学を修める。行動や発達、学習、記憶、感覚、知覚、思考、言語、動機づけ、情動、個人差、社会行動など、多岐にわたる領域での心の仕組みに関する諸理論を理解し、今を生きる人間の「何故」に興味関心を抱くことができるようになること。						
学習テーマ						
1	心理学の視点【学習のポイント：こころの科学としての心理学の成立を、研究例を通して学ぶ。】					
2	行動の基本様式【学習のポイント：反射や本能行動からはじまり意識の成立過程についても探る。】					
3	発達－遺伝と環境【学習のポイント：遺伝と環境による心と行動の発達の变化的仕組みを考える。】					
4	学習・記憶①－条件づけ【学習のポイント：（無）意識の学習による行動の変化について学ぶ。】					
5	学習・記憶②－記憶と脳【学習のポイント：記憶の仕組みと神経学的基礎について理解を深める。】					
6	感覚・知覚①－分化と統合【学習のポイント：8系統の感覚とその測定方法について簡潔に学ぶ。】					
7	感覚・知覚②－視・聴・触覚【学習のポイント：3領域を通して感覚知覚の機能とその本性を探る。】					
8	思考・言語①－思考【学習のポイント：言語を用いた思考とその可能性を考える。】					
9	思考・言語②－言語【学習のポイント：思考による言語の広がりと言語の脳機能障害を学ぶ。】					
10	動機づけ・情動【学習のポイント：食や性をはじめとした動機づけと基本的な情動の働きを探る。】					
11	個人差①－知能の発達【学習のポイント：知能の発達とその測定について理解を深める。】					
12	個人差②－性格の発達【学習のポイント：類型・特性論に基づく測定、性格の発達と変容方法論を学ぶ。】					
13	社会行動①－個人内【学習のポイント：基礎となる自己と帰属等の認知過程について理解を深める。】					
14	社会行動②－対人・集団【学習のポイント：他者との交流に内在する要因とその影響を諸理論に学ぶ。】					
15	心理学の歴史【学習のポイント：紀元前から現代に至るこころの探求の流れを把握する。】					
レポートについて						
ワープロソフト 使用可						
第1課題						
発達における遺伝と環境の要因とその影響について詳述せよ。						
第2課題						
行動の変化を引き起こす「学習」について詳述せよ。						
第3課題						
動機づけについて詳述せよ。						
第4課題						
性格について詳述せよ。						
各課題の留意点						
第1課題の留意点						
テキスト3章を中心によく学習し、人の発達の变化とそれを規定する2つの要因についてまとめること。						
第2課題の留意点						
テキスト4章を中心によく学習し、条件づけや技能学習、社会的学習の仕組みを理解しながらまとめること。条件づけに関し独自の具体例を交えながら説明出来るとなお良い。						
第3課題の留意点						
テキスト7章を中心によく学習し、食と性の動機づけから達成と自己実現の動機づけまで幅広く言及しまとめること。						

第4課題の留意点

テキスト8章を中心によく学習し、性格に関する特徴的な理論や性格形成機序と不適応状態の対処方法まで幅広く言及してまとめること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の4点を評価基準とする。

- ・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
- ・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
- ・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
- ・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストを中心に学習を進め、心理学に関する理解を深める。特に、4章pp.80-92、5章pp.101-110、pp.125-130、6章pp.200-208、8章pp.235-244、9章pp.270-275の知識は確実に獲得しておくこと。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
- ・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10013	科目名 [単位数/学習時間]	哲学 [4 単位/180時間]				
テキスト	● ジェームズ・レイチェルズ スチュアート・レイチェルズ『新版 現実をみつめる道徳哲学 安楽死・中絶・フェミニズム・ケア』 晃洋書房						
ISBN	9784771027619	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26011		
科目担当		隈元 泰弘					

科目の目的

科学技術が著しく発達し、高度な交通手段・通信手段によってグローバル化が進む現代、私たちは、脳死やクローンなどの新しい問題から、宗教や差別などの古い問題に至るまで、これまでにないほど複雑な倫理的思考・判断を迫られている。こうした現実的な問題に対して、道徳哲学はどのように答えるのだろうか。道徳哲学上の様々な立場とそれぞれの長所・短所について、テキストの熟読を通じて学習する。

到達目標

テキストでは、道徳哲学の諸問題について、様々な立場や考え方が紹介・吟味される。それぞれの立場の特徴や長所・短所について、現代的な視点から理解を深め、自分自身の人生を生きるための指針へと昇華させることが目標である。

学習テーマ

1	テキスト第1章「道徳とは何か、何のためにあるのか」を学ぶ。【学習のポイント：道徳の定義・意味と道徳にかかわる現実問題を理解する。】
2	テキスト第2章「文化相対主義の挑戦」を学ぶ。【学習のポイント：文化相対主義の意義と教訓を理解する。】
3	テキスト第3章「倫理における主観主義」を学ぶ。【学習のポイント：倫理的主観主義の基本思想と倫理の否定について理解する。】
4	テキスト第4章「道徳は宗教に基づくか」を学ぶ。【学習のポイント：道徳と宗教との関係並びに神の命令理論について理解する。】
5	テキスト第5章「倫理的利己主義」を学ぶ。【学習のポイント：倫理的利己主義の擁護論と倫理的利己主義への批判について理解する。】
6	テキスト第6章「社会契約説」を学ぶ。【学習のポイント：社会契約説の長所と問題点を理解する。】
7	テキスト第7章「功利主義者のアプローチ」を学ぶ。【学習のポイント：倫理学の革命としての功利主義の意義を理解する。】
8	テキスト第8章「功利主義をめぐる論争」を学ぶ。【学習のポイント：古典的功利主義と新たな功利主義との意義と問題点を理解する。】
9	テキスト第9章「絶対的道德規則はあるか」を学ぶ。【学習のポイント：定言命法の意義と規則同士の衝突の問題について理解する。】
10	テキスト第10章「カントと人格の尊重」を学ぶ。【学習のポイント：カントの中心思想と人格の尊重ということの本質を理解する。】
11	テキスト第11章「フェミニズムとケアの倫理」第1節「男女間での倫理観の相違」を学ぶ。【学習のポイント：男女間の倫理観の相違の現状と本質、並びにその克服への道について理解する。】
12	テキスト第11章「フェミニズムとケアの倫理」第2節「道徳的判断にとっての意味」、第3節「倫理説にとっての意味」を学ぶ。【学習のポイント：ケアの倫理の本質と現代的意義を理解する。】
13	テキスト第12章「徳倫理」を学ぶ。【学習のポイント：様々な徳の様相と徳倫理の長所と短所を理解する。】
14	テキスト第13章「満足のゆく道徳説はどんなものか」を学ぶ。【学習のポイント：傲慢なき道徳と道徳的共同体の可能性について理解する。】
15	解説「レイチェルズの倫理説の統一」を学ぶ。【学習のポイント：レイチェルズの倫理説のねらいと長所並びに問題点を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

「文化相対主義」とはどのような考え方が、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第2課題

「功利主義」とはどのような考え方が、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第3課題

「フェミニズムとケアの倫理」とはどのような考え方が、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第4課題

レイチェルズの主張する「満足のゆく道徳説」とはどのような考え方が、テキストに即して説明せよ。また、あなた自身はこの考え方をどう思うか、論述せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章を参考にして論述すること。

第2課題の留意点

テキスト第8章を参考にして論述すること。

第3課題の留意点

テキスト第11章を参考にして論述すること。

第4課題の留意点

テキスト第13章を参考にして論述すること。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。レポートは必ずテキストに即して作成すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストから学んだ内容を踏まえて、自ら考え、自らの言葉で、いかに適切に記述できているかについて評価する。
- ・評価基準は次の3点である。
 - ①テキストを精読して、キーワード・キーセンテンスを押さえつつ課題について論理的に記述している。
 - ②十分な内容的理解に基づき、一文一文において主語－述語の関連に留意しつつ、かつ全体の整合性にも配慮してまとめている。
 - ③文字の書き順やとめる・はらう・はねるといった基本を押さえつつ、人に読ませることを意識して丁寧に清書している。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験では、テキストの中で言及される基本概念を2つ、それぞれ400～500字程度でテキストに即して説明することが求められる。出題範囲はテキストの全体で、出題されるのは下記概念のいずれかである。どの概念が出題されても対応できるように、テキストを十分に学習しておくこと。

出題される概念：「文化相対主義」、「倫理的主観主義」、「倫理的利己主義」、「社会契約説」、「功利主義」、「フェミニズムとケアの倫理」、「徳倫理」、「満足のゆく道徳説」

科目修了試験の評価基準

テキストの記述内容と説明のために用いられる実例とを適切に把握して、テキストに即して論述できているかどうかを中心に評価する。テキストの内容を踏まえずに、自らの主観的な経験や考えを記入しても評価しない。指定された文字数の記述があることを前提とする。なお、テキストから離れて、哲学事典等の内容を丸暗記した記述では、合格しない。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10014	科目名 [単位数/学習時間]	経済学 [4単位/180時間]			
テキスト	● N・グレゴリー・マンキュー 『マンキュー入門経済学 第4版』 センゲージラーニング					
ISBN	9784807918119	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,600	生協 テキストNo.	26012	
科目担当		河村 朗				
科目の目的						
経済学には2つのアプローチがある。ミクロ経済学とマクロ経済学である。ミクロ経済学では、個々の企業や家計が合理的な経済行動をしていく時に、市場経済がいかに重要な役割を果たしていくかを明らかにしていく。一方、マクロ経済学では、全体としての経済の動きを、GDP（国内総生産）、失業率、インフレ率、利子率などの経済変数を用いて明らかにしていく。						
到達目標						
・まず、経済学の基礎となる原理、経済学の論理的な考え方などについて学習した後、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの領域に関する理論、さらに国際経済学に関する理論を学ぶ。 ・ミクロ経済学の理論として、まず、需要・供給曲線を用いて消費や生産の基本について学習した後、市場経済のしくみについて学ぶ。また、市場の効率性、市場の失敗などについても学習する。 ・マクロ経済学の理論として、まず、GDPなど基本的な用語を学んだ上で、生計費、経済成長、金融システム、総需要曲線と総供給曲線、開放マクロ経済学などを学習する。 ・国際経済学の理論として、比較優位の原理、開放マクロ経済学を学習する。						
学習テーマ						
1	経済学入門①【学習のポイント：経済学の基本的な原理について理解する。＜テキスト第1章＞】					
2	経済学入門②【学習のポイント：経済学的な考え方を理解する。＜テキスト第2章＞】					
3	ミクロ経済学①【学習のポイント：ある財の需要量・供給量とその価格との関係について理解する。＜テキスト第4章pp.69-82＞】					
4	ミクロ経済学②【学習のポイント：市場の均衡と弾力性について理解する。＜テキスト第4章pp.82-119＞】					
5	ミクロ経済学③【学習のポイント：政府による政策について理解する。＜テキスト第5章＞】					
6	ミクロ経済学④【学習のポイント：消費者余剰・生産者余剰と市場の効率性について理解する。＜テキスト第6章＞】					
7	ミクロ経済学⑤【学習のポイント：生産コストと消費者理論について理解する。＜テキスト第7章＞】					
8	マクロ経済学①【学習のポイント：国内総生産（GDP）について理解する。＜テキスト第8章＞】					
9	マクロ経済学②【学習のポイント：物価指数について理解する。＜テキスト第9章＞】					
10	マクロ経済学③【学習のポイント：経済成長と生産性について理解する。＜テキスト第10章＞】					
11	マクロ経済学④【学習のポイント：金融的なシステムと貨幣の機能について理解する。＜テキスト第11章pp.301-353＞】					
12	マクロ経済学⑤【学習のポイント：インフレーションについて理解する。＜テキスト第11章付論pp.355-381＞】					
13	マクロ経済学⑥【学習のポイント：総需要曲線と総供給曲線について理解する。＜テキスト第12章＞】					
14	国際経済学①【学習のポイント：比較優位と交易・貿易について理解する。＜テキスト第3章＞】					
15	国際経済学②【学習のポイント：開放マクロ経済学の基礎理論について理解する。＜テキスト第13章＞】					
レポートについて						
ワープロソフト 使用可						
第1課題						
生産可能性フロンティアについて説明しなさい。						
第2課題						
市場の均衡について説明しなさい。						
第3課題						
GDP（国内総生産）とは何か。また、GDPを構成している要素について説明しなさい。						
第4課題						
比較優位と国際貿易について論じなさい。						
各課題の留意点						
第1課題の留意点						
テキスト第2章を参照して、生産可能性フロンティアについて、トレードオフ、機会費用などのキーワードを用いて論理的に説明することが重要である。						
第2課題の留意点						
テキスト第4章を参照して、均衡について説明した後、市場において均衡が実現される方法を需要曲線と供給曲線を用いて説明し、さらに超過需要や超過供給が存在する時にどのように調整が行われるか、について説明することが重要である。						

第3課題の留意点

テキスト第8章を参照して、GDPの定義について説明したうえで、GDPを構成している4つの要素について説明することが重要である。

第4課題の留意点

テキスト第3章をふまえて、まず比較優位と絶対優位の違いについて説明した後、比較優位を国際貿易に応用して論じることが重要である。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

それぞれの課題に対してテキストで学習した内容をもとに、キーワードを用いて、いかに論理的な説明ができているかどうかに関して評価を行う。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキスト第1章～第2章の経済学の基礎的な内容について学習をしたうえで、ミクロ経済学の理論については、テキスト第4章～第7章を全て論理的に理解することが必要である。一方、マクロ経済学の理論については、テキスト第8章～第12章を全て論理的に理解することが必要である。また、国際経済学の理論については、テキスト第3章、第13章を全て論理的に理解することが必要である。

科目修了試験は、テキスト全般からの出題となる。そのため、レポート課題に関連する一部の章や箇所だけでなく、テキストの全章（第1章～第13章）を読んで論理的に理解したうえで受験すること。テキストの内容をベースにして、論理的に説明できているかどうか重要なポイントである。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容に沿って、適切なキーワードを使用し論理的に記述されているかどうかについて主に評価する。本科目はテキストの全てのページが科目修了試験の範囲である。その内容を理解したうえで、受験すること。テキストの内容をふまえないで、自説を記載しても評価しないので注意すること。

参考文献

- ・ポール・クルーグマン ロビン・ウェルス 『クルーグマン ミクロ経済学 第2版』 東洋経済新報社
- ・中谷巖 『入門マクロ経済学 第6版』 日本評論社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10015	科目名 [単位数/学習時間]	法学 [4単位/180時間]																																	
テキスト	●大谷寛 『エッセンシャル法学 第8版』 成文堂																																			
ISBN	9784792307400	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,900	生協 テキストNo.	26013																															
科目担当		小野 晃正																																		
科目の目的 法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための規則である。このような法の特色と目的を踏まえつつ、現実社会の中で生じている争いごとに、法がどのような役割を果たし、かつ、こうした紛争をいかに解決しているか、について理解することを主たる目的とする。																																				
到達目標 レポート課題を通じて、様々な法領域に関する知識の修得に加えて、各法分野の根本にある共通の基本的な考え方や、各法分野固有の基本的原理の理解につとめることを到達目標とする。																																				
学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>法の意義、法とは何か（法学概論）について【学習のポイント：テキストChapter 1を参照し、他のルールと法の違いを理解したうえで、法の意義を理解する。】</td></tr><tr><td>2</td><td>法の仕組みについて【学習のポイント：テキストChapter 3を参照し、法源や成文法・不文法について理解する。】</td></tr><tr><td>3</td><td>財産と法の関係（民法－財産法）について【学習のポイント：テキストChapter11を参照し、民法の財産ルールについて理解する。】</td></tr><tr><td>4</td><td>家族と法の関係（民法－家族法）について【学習のポイント：テキストChapter13を参照し、婚約、婚姻および離婚や相続の制度とその法的効果を理解する。】</td></tr><tr><td>5</td><td>経済取引と法について【学習のポイント：テキストChapter12を参照し、会社や企業間の経済的取引ルールの仕組みや消費者保護を理解する。】</td></tr><tr><td>6</td><td>犯罪と法①（刑法）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、犯罪と刑罰の関係や刑法の機能・罪刑法定主義について理解する。】</td></tr><tr><td>7</td><td>犯罪と法②（刑法）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、犯罪の成立要件について理解する。】</td></tr><tr><td>8</td><td>刑事手続と法（刑事訴訟法）について【学習のポイント：テキストChapter 8を参照し、憲法上に定められている刑事手続きの概要を理解する。】</td></tr><tr><td>9</td><td>労働と法（労働法）について【学習のポイント：テキストChapter15を参照し、労働者保護の概要について理解する。】</td></tr><tr><td>10</td><td>事故と法（民法－不法行為法）について【学習のポイント：テキストChapter16を参照し、不法行為法の仕組みについて理解する。】</td></tr><tr><td>11</td><td>社会保障と社会福祉（社会保障法）について【学習のポイント：テキストChapter17を参照し、社会保障法制の概要について理解する。】</td></tr><tr><td>12</td><td>医療と法（医事法）について【学習のポイント：テキストChapter18を参照し、医療訴訟、精神医学と法、安楽死と法について理解する。】</td></tr><tr><td>13</td><td>情報化社会と法（情報法）について【学習のポイント：テキストChapter19を参照し、情報に関する法制度について理解する。】</td></tr><tr><td>14</td><td>国際社会と法（国際法）について【学習のポイント：テキストChapter20を参照し、国際社会と法制度について理解する。】</td></tr><tr><td>15</td><td>総まとめ【学習のポイント：テキスト全体を復習し、法学の全容を理解する。】</td></tr></table>							1	法の意義、法とは何か（法学概論）について【学習のポイント：テキストChapter 1を参照し、他のルールと法の違いを理解したうえで、法の意義を理解する。】	2	法の仕組みについて【学習のポイント：テキストChapter 3を参照し、法源や成文法・不文法について理解する。】	3	財産と法の関係（民法－財産法）について【学習のポイント：テキストChapter11を参照し、民法の財産ルールについて理解する。】	4	家族と法の関係（民法－家族法）について【学習のポイント：テキストChapter13を参照し、婚約、婚姻および離婚や相続の制度とその法的効果を理解する。】	5	経済取引と法について【学習のポイント：テキストChapter12を参照し、会社や企業間の経済的取引ルールの仕組みや消費者保護を理解する。】	6	犯罪と法①（刑法）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、犯罪と刑罰の関係や刑法の機能・罪刑法定主義について理解する。】	7	犯罪と法②（刑法）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、犯罪の成立要件について理解する。】	8	刑事手続と法（刑事訴訟法）について【学習のポイント：テキストChapter 8を参照し、憲法上に定められている刑事手続きの概要を理解する。】	9	労働と法（労働法）について【学習のポイント：テキストChapter15を参照し、労働者保護の概要について理解する。】	10	事故と法（民法－不法行為法）について【学習のポイント：テキストChapter16を参照し、不法行為法の仕組みについて理解する。】	11	社会保障と社会福祉（社会保障法）について【学習のポイント：テキストChapter17を参照し、社会保障法制の概要について理解する。】	12	医療と法（医事法）について【学習のポイント：テキストChapter18を参照し、医療訴訟、精神医学と法、安楽死と法について理解する。】	13	情報化社会と法（情報法）について【学習のポイント：テキストChapter19を参照し、情報に関する法制度について理解する。】	14	国際社会と法（国際法）について【学習のポイント：テキストChapter20を参照し、国際社会と法制度について理解する。】	15	総まとめ【学習のポイント：テキスト全体を復習し、法学の全容を理解する。】
1	法の意義、法とは何か（法学概論）について【学習のポイント：テキストChapter 1を参照し、他のルールと法の違いを理解したうえで、法の意義を理解する。】																																			
2	法の仕組みについて【学習のポイント：テキストChapter 3を参照し、法源や成文法・不文法について理解する。】																																			
3	財産と法の関係（民法－財産法）について【学習のポイント：テキストChapter11を参照し、民法の財産ルールについて理解する。】																																			
4	家族と法の関係（民法－家族法）について【学習のポイント：テキストChapter13を参照し、婚約、婚姻および離婚や相続の制度とその法的効果を理解する。】																																			
5	経済取引と法について【学習のポイント：テキストChapter12を参照し、会社や企業間の経済的取引ルールの仕組みや消費者保護を理解する。】																																			
6	犯罪と法①（刑法）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、犯罪と刑罰の関係や刑法の機能・罪刑法定主義について理解する。】																																			
7	犯罪と法②（刑法）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、犯罪の成立要件について理解する。】																																			
8	刑事手続と法（刑事訴訟法）について【学習のポイント：テキストChapter 8を参照し、憲法上に定められている刑事手続きの概要を理解する。】																																			
9	労働と法（労働法）について【学習のポイント：テキストChapter15を参照し、労働者保護の概要について理解する。】																																			
10	事故と法（民法－不法行為法）について【学習のポイント：テキストChapter16を参照し、不法行為法の仕組みについて理解する。】																																			
11	社会保障と社会福祉（社会保障法）について【学習のポイント：テキストChapter17を参照し、社会保障法制の概要について理解する。】																																			
12	医療と法（医事法）について【学習のポイント：テキストChapter18を参照し、医療訴訟、精神医学と法、安楽死と法について理解する。】																																			
13	情報化社会と法（情報法）について【学習のポイント：テキストChapter19を参照し、情報に関する法制度について理解する。】																																			
14	国際社会と法（国際法）について【学習のポイント：テキストChapter20を参照し、国際社会と法制度について理解する。】																																			
15	総まとめ【学習のポイント：テキスト全体を復習し、法学の全容を理解する。】																																			
レポートについて		ワープロソフト 使用可																																		
第1課題 民法（家族法）における「離婚事由」について説明しなさい。																																				
第2課題 刑法における「責任阻却事由」について説明しなさい。																																				
第3課題 民法における事故の被害者に対する救済方法を、民法709条、同715条の制度を参照して、わかりやすく説明しなさい。																																				
第4課題 労働者を保護する法の仕組みについて具体例を示しつつわかりやすく説明しなさい。																																				
各課題の留意点 第1課題の留意点 テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。 第2課題の留意点 テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。																																				

第3課題の留意点

テキストや参考文献、あるいはネット記事をも参照したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第4課題の留意点

テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

以下の4点を評価基準とする。

- ・テキストを精読したうえで、参考文献などの情報を整理して課題について正面から論述しているか。
- ・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
- ・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。
- ・ネット記事の丸写しは0点とする。なお、参考文献を必ず明示すること。参考文献を明示していないものは評価が低くなることに留意すること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験の設題の多くは、レポート課題の内容をふまえて出題する予定である。

科目修了試験の評価基準

以下2点を成績評価の基準とする。

- ・設題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか）。 20%
- ・テキストの内容を理解しているか。 80%

参考文献

- ・伊藤正己 『現代法学入門 第4版』 有斐閣
- ・末川博 『法学入門 第6版補訂版』 有斐閣

※各法学の基本原則を基本判例と結びつけて、わかりやすく具体的に解説している。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10016	科目名 [単位数／学習時間]	社会学〔4単位／180時間〕			
テキスト	● 筒井淳也 『未婚と少子化 この国で子どもを産みにくい理由』 PHP研究所					
ISBN	9784569856162	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,020	生協 テキストNo.	26014	
科目担当		湊 邦生				

科目の目的

社会学は、われわれが暮らす社会におけるさまざまな現象を適切に理解し、社会の未来について考えるための学術的な営みである。今年度は日本社会で長らく問題とされる「少子化」が焦点となる。指定テキストを基に、少子化と呼ばれる現象が何か、そしてなぜ問題となるのかについて、データを基に検討していく。少子化を例として、社会現象について統計データや数値を基に適切に検討するプロセスとともに、社会の実態やその背景の解明、あるべき変化や将来とそれらを実現する方策を考える社会学の営みを経験することが、本科目の目的である。

到達目標

本科目の到達目標は下記の（１）から（４）の通りである。

（１）日本における少子化について、関連する基本的な概念を整理し、現状について説明できる。

（２）第２次世界大戦後の日本における出生数や出生率の低下とその背景についてデータを基に理解するとともに、その理解に基づいて少子化対策の問題点について説明できる。

（３）日本における少子化について、日本と世界の関わりという視点から捉え、理解できる。

（４）日本の少子化対策の問題点、また少子化対策の根拠となる数値データの限界について、適切な根拠を基に合理的に説明できる。

これら４つの目標は、それぞれの番号のレポート課題と関わりが深くなっている（目標（１）＝第１課題等）。かつ、いずれの目標も、科目修了試験に向けて重要なポイントとなる。レポート課題作成や復習の際には留意しておくこと。

学習テーマ

1	少子化をとらえなおす①【学習のポイント：人口規模・人口構成・経済から少子化を整理する<テキスト第１章>】
2	少子化をとらえなおす②【学習のポイント：少子化に関するデータやエビデンスを見る際の注意点を学ぶ<テキスト第１章>】
3	少子化をとらえなおす③【学習のポイント：過疎や人口の地域間不均衡とその影響について学ぶ<テキスト第１章>】
4	少子化をとらえなおす④【学習のポイント：少子化の現状と見通しを踏まえ、少子化対策によって何を目指すべきなのかを考える<テキスト第１章>】
5	戦後日本の「出生」低下をめぐる①【学習のポイント：第２次世界大戦後の日本の出生数・出生率の推移をデータから読み取る<テキスト第２章>】
6	戦後日本の「出生」低下をめぐる②【学習のポイント：晩婚化・非婚化の進行についてデータを基に理解する<テキスト第２章>】
7	戦後日本の「出生」低下をめぐる③【学習のポイント：出生率・出生数低下に対する政策の問題点を理解する<テキスト第２章>】
8	戦後日本の「出生」低下をめぐる④【学習のポイント：晩婚化・非婚化の要因と対策について、データを基に検討する<テキスト第２章>】
9	世界における日本の少子化①【学習のポイント：経済先進国における少子化の要因と対策の違いを整理して理解する<テキスト第４章>】
10	世界における日本の少子化②【学習のポイント：日本と諸外国における移民受け入れの相違について学ぶ<テキスト第４章>】
11	世界における日本の少子化③【学習のポイント：移民受け入れと出生率の関係について、データを基に検討する<テキスト第４章>】
12	少子化対策への見方①【学習のポイント：少子化に関する一般の議論の問題点について理解する<テキスト第５章>】
13	少子化対策への見方②【学習のポイント：少子化に関する論点を整理し、望ましい政策について考える<テキスト第５章>】
14	「出生率」というデータの限界①【学習のポイント：出生率の算出方法を理解する<テキスト第５章>】
15	「出生率」というデータの限界②【学習のポイント：出生率の算出をめぐる問題や限界について理解する<テキスト第５章>】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第１課題

テキスト第１章（pp.16-43）を要約しなさい。

第２課題

テキスト第２章（pp.46-82）を要約しなさい。

第３課題

テキスト第４章（pp.122-150）を要約しなさい。

第4課題

テキスト第5章 (pp.152-174) を要約しなさい。

各課題の留意点**第1課題の留意点**

第1課題では第1章「少子化の何が問題か」の要約を求める。ここでは少子化について社会の複雑な実態に即した学術的な議論を行うために、必要となる概念が整理されているとともに、データを用いる際の注意点、さらに、出生数と人口の減少が確定的という現実を直視した上で、少子化対策の目的や現在の議論の問題点が述べられている。これらについて、著者の主張を過不足なくまとめられているかどうか、課題への評価を左右する。また課題には指定していないが、「はじめに」では著者がテキストで何をを目指しているか述べられているため、読んでおくと第2課題以降も含め理解が深まるであろう。

なお、課題作成の際は「レポートの評価基準」を必ず確認し、題意に即した回答を心掛けること。回答とは無関係のイントロダクションや読後の感想、自身の意見の展開は、いずれも課題の趣旨に反しており、減点の対象となる。くれぐれも注意すること。

第2課題の留意点

第2課題の範囲であるテキスト第2章は「何が出生率の低下をもたらしたのか」と題されている。ただし、テキストの議論を理解するためには、出生率の低下の要因を読み取ろうとするだけでは不十分である。まず、第2次世界大戦後の日本における出生率の低下のみならず、出生数の減少についても、テキストで示されているデータと著者の解説を押さえておく必要がある。そして、そのような変化を踏まえた上で、政府の対応のどこに問題があるのかについて、著者の議論を適切に理解しなければならない。さらに、出生率・出生数低下の背景となる非婚化・晩婚化については、単なる状況の記述にとどまらず、これらの現象を捉える難しさや、背景となる要因についても述べている。とくに後者は少子化に関する学術的な理解を深める上で重要な論点である。読み過ぎたり、要約から漏れたりすることがないように注意しよう。

第3課題の留意点

第3課題の対象である第4章では視野を世界に広げる。少子化は日本のみならず、諸外国、とくに経済先進国にも見られる現象であり、それらの国々と日本との比較検討がなされてきた。ただ、諸外国と日本との前提条件の違いを見落とすと、的外れな結論に陥ってしまう。テキストではこの点について、婚外子をめぐる議論に対し著者が警鐘を鳴らしている。また、近年では少子化対策として移民の受け入れが議論的となっているが、これらについても早くから移民を受け入れた諸外国と日本との相違点を認識する必要がある。さらに、移民受け入れが出生率上昇をもたらすかどうかとも検討を要する。これらについて、著者の論旨を的確に述べられるようにしよう。

なお、移民や外国人労働者といった国際的な人の移動に関心がある受講生には、国際社会学を学ぶことを推奨する。また国内の移動 (U・J・Iターン等) については第3章で述べられているので、参照されたい。

第4課題の留意点

第4課題では第5章を取り上げる。本章では少子化に関する政策論の問題点、さらに議論の基となる出生率の指標としての限界という2点について、解説がなされている。したがって、課題作成においてどちらかが欠けた場合、あるいは著しく記述が短い場合は不合格となるので、バランスに注意しよう。そしてこれら2点のうち、前者については少子化に関する論点整理を行った上で、望ましい政策について提言しているので、それらにも目を配ろう。後者については、具体的にどのような限界があるのかを整理しておこう。ただし、著者が出生率というデータを否定していない点には注意を要する。むしろ、著者は文脈や目的に適した数値を組み合わせて利用することを説いている。このような姿勢は少子化に限らず、社会現象についてデータを基に議論する上で不可欠である。本科目の受講を機に、限界のあるデータと適切に向き合う姿勢をぜひ身につけてほしい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

評価は以下の4つの基準によって行う。

- ①課題に対応した内容になっているか。特に、課題とは無関係の記述が入り込んでいないか。
- ②テキストの内容に基づいた記述になっているか。特に、テキストから導き出せない議論、テキストと矛盾する内容がないか。
- ③論理構成は適切か。特に、論旨が一貫しているか、矛盾や主題・項(「～は」「～が」)と述語(「～である」「～する」)のズレ、意味の通らない記述がないか。
- ④原稿用紙の使い方に則して作成しているか。特に、誤字脱字・カッコ書きの扱いの誤り、話し言葉の混入、「です・ます」調の文章、文字数の極端な過不足(±10%超を目安とする)はないか。

なお、4つの課題は全てテキストの理解度を問うものである。テキストとは関係のない自説の展開や感想の吐露等は、無条件で減点対象となる。著しい場合は不合格になり、改められない限り合格することはない。改善する姿勢が見られず不合格を繰り返した受講生は実際に存在する。くれぐれも注意すること。

また、文体はテキストに関わらず「だ・である」調でまとめること。レポート作成の際には事前に下書きを作り、下書き完成後に一読してから修正し、仕上げることを推奨する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストのうち4つのレポート課題で指定した章から、ランダムに1問出題する。いずれの問題もレポート課題と直接関連するものであるため、レポート作成のための学習と、レポート返却後の復習を計画的に行っていくことが重要である。

レポートを返却する際には、所見欄に試験問題に関わるポイントを示すので、必ず確認すること。レポート課題終了後は、課題への指定箇所を中心に、テキストを必ず読み直すこと。その際、テキストでの論理の展開を理解することと、レポート課題に関連する用語・概念の意味を調べ、説明できるようにすることが重要である。

なお、これまでの試験では、的外れな記述や意味のない文言の羅列、さらには棄権（白紙）等の答案が提出され、不合格になる例が相次いでいる。いずれもテキストを十分に読まず、内容を理解する努力を欠いたことが原因と考えられる。そうならないためにも、レポート提出後も決して気を抜かず、復習に努めること。

科目修了試験の評価基準

評価は「レポートの評価基準」と同様、以下4点に基づいて行う。

- ①設題に対応した内容になっているか（設題とは無関係の記述が入り込んでいないか）。
- ②テキストの内容に基づいた記述になっているか。テキストから導き出せない議論、矛盾する内容がないか。
- ③論理構成は適切か。論旨が一貫しているか、意味の通らない内容になっていないか。
- ④解答用紙の使い方は適切か。誤字脱字・カッコ書き等の扱いの誤り、話し言葉の混入、「です・ます」調の文章はないか。

以上4つの基準のうち、評価の中心となるのが①、②、③である。④については、特に目立つ場合に減点対象とする。また、答案の文字数は評価基準としない。長文の解答でも①～④に照らして不十分と判断すれば不合格となる一方、短くとも十分な解答であれば、合格点を得ることが可能である。

参考文献

- ・筒井淳也 『数字のセンスを磨く』 光文社
- ・山田昌弘 『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか』 光文社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10017	科目名 [単位数/学習時間]	地理学 [4単位／180時間]				
テキスト	● 今井良一 『環境教育学と地理学の接点 増補改訂版』 ブイツーソリューション						
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,250	生協 テキストNo.	26015	生協へお申し込みください	
科目担当		今井 良一					

科目の目的

環境問題は、私たちが早急に解決しなければならない問題である。地理学は自然と人文両方にまたがるほとんど唯一の学問分野であり、環境問題を理解するのに最も適している。したがって、地理学こそ環境問題の解決にむけて積極的に貢献しなければならない。本科目では、地理学の基礎を踏まえながら、地球温暖化や人口問題、輸入食品の氾濫、水質汚染、放射能汚染などの諸問題が、私たちにいかなる影響をおよぼしているかを知るとともに、「環境問題の本質」を理解して、環境問題を解決する行動力を身につけることを目的とする。

到達目標

必ず次の点を念頭に考察すること。

①環境問題に限らず、多くの問題が社会的弱者や生理的弱者、特に子どもに深刻な被害をもたらすということに常に思いをはせる。②できるだけ多角的な視野からものととらえる能力を養う（たとえば、地球温暖化の原因やその解決の方法を車のみに求めるという狭い視野ではなく、水の使い方や農業のあり方、私たちの食生活のあり方など、様々な視点から考えてみてほしい）。私たちの大量生産・大量消費・大量廃棄社会のあり方がいかに環境を悪化させているかをしっかりと認識する。③環境問題の理解と解決に対して、従来の地理学がいかに役立つかを知るとともに、その限界を知り、さらに今後の地理学のあり方について考える。

学習テーマ

1	ケッペンの気候区分について【世界にはどのような気候があるかを理解する。】
2	地球温暖化について【地球温暖化による被害としてどのようなものがあるか、また地球温暖化の原因となる様々な温室効果ガスの性質について理解する。】
3	地球温暖化対策について【家庭からの温室効果ガスの主要な発生源である車について理解するとともに、地球温暖化対策の難しさについて理解する。】
4	世界における穀物生産について【世界で、なぜ多数の飢餓人口が存在するのかを理解する。】
5	日本の食料事情について【なぜ日本では食料自給率が低いのかを理解する。】
6	日本による食料輸入の実態について【日本が食料を大量に輸入していることが、どのような被害をもたらしているかについて理解する。】
7	日本農業の実態について【農業の縮小によって何が失われるのかを理解する（農業の多面的機能について理解する）。】
8	国土保全の方法について【農（生産）と食（消費）の視点から、国土保全の方法について理解する。】
9	砂漠化について【砂漠化進行の深刻さとその理由について理解する。】
10	日本における水質の悪化について【水質汚染の深刻さとその理由について理解する。】
11	水質改善対策について【水質を改善するための生活のあり方について理解する。】
12	放射線について【放射線の種類や性質について理解する。】
13	放射線による人体への影響【人間はどれだけ放射線を浴びても大丈夫なのかについて理解する。】
14	原子力発電所誘致による影響について【日本における原子力発電所の立地条件とともに、原発を誘致することで、その地域の農漁業にどのような影響をおよぼすのかを理解する。】
15	内部被曝について【内部被曝の脅威とともに、放射線が子どもになぜ深刻な被害をもたらすのかを理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

様々な温室効果ガスの性質について詳しく説明せよ。

第2課題

日本で、原子力発電所が立地する自治体ではほぼ例外なく過疎化が進む理由について詳しく説明せよ。

第3課題

水を汚さないために、私たちが心がけるべきことについて詳しく説明せよ。

第4課題

安全・安心な食を手に入れるためになされるべきことについて詳しく説明せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・温室効果ガスの性質については、テキストpp.26-28を参照のこと。
- ・温室効果ガスの排出源についても、自動車（テキストpp.33-34）、食生活のあり方（pp.70-71）、水利用のあり方（p.98）を念頭に記述すること（多角的に物事を見るということを念頭に）。

第2課題の留意点

- ・テキストpp.115-119を参照のこと。
- ・原発を再稼働させるべきか否かについて、必ず自分の意見を述べること。

第3課題の留意点

- ・なぜ水が汚れているのか（テキストpp.89-96を参照）
- ・その結果、どのような対策が必要なのか（pp.98-100）の順に記述するとわかりやすい。

第4課題の留意点

- ・テキストpp.76-82を参照のこと。
- ・「環境保全型農業」や「地産地消」、「農業の多面的機能」について必ず触れること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

主に、次の点を基準に評価する。

- ・課題に対して、できるだけ具体的に、そして論理的に記述していること。
- ・文字数は1,800字以上2,000字以下とすること。
- ・「各課題の留意点」を踏まえて記述していること。
- ・引用文献を必ず明示すること。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」および「到達目標」をしっかりと認識した上で、テキストをよく読む（特に、テキストのpp.18-28、pp.30-38、pp.47-82、pp.83-86、pp.89-100、pp.104-127を熟読のこと）とともに、特にレポート課題の内容について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明できているか否かを中心に評価する。テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。もちろん、それらの事項を踏まえた上であれば、自説等を展開しても差し支えない。（むしろ望ましい。）
- ・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることと、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・試験は論述問題2題（60点+40点）の配点で採点する。前述のとおり、テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案ほど高得点となる。

参考文献

- ・今井清一 今井良一 『環境教育学 気候変動～食の安全・安心』 鳥影社
- ・江守正多 『地球温暖化はどれくらい「怖い」か？ 温暖化リスクの全体像を探る』 技術評論社
- ・杉浦俊彦 『温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？』 技術評論社
- ・鈴木宣弘 木下順子 『食料を読む』 日本経済新聞出版社
- ・池本廣希 『地産地消の経済学 生命系の世界からみた環境と経済』 新泉社
- ・生源寺真一 『日本農業の真実』 筑摩書房
- ・中島紀一 『食べものと農業はおカネだけでは測れない』 コモンズ
- ・田代洋一 『反TPPの農業再建論』 筑波書房
- ・斎藤勝裕 『知っておきたい放射能の基礎知識』 ソフトバンククリエイティブ
- ・小出裕章 黒部信一 『原発・放射能 子どもが危ない』 文藝春秋
- ・河野直践 『食・農・環境の経済学』 七つ森書館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10018	科目名	文化人類学〔4単位／180時間〕				
		[単位数／学習時間]					
テキスト	●綾部恒雄 桑山敬己 『よくわかる文化人類学 第3版』 ミネルヴァ書房						
ISBN	9784623097234	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26016		
科目担当		ラミレス 亜望					

科目の目的

文化人類学は、世界各地の人間の生活様式に関する学問である。本科目では、文化人類学で扱われてきた文化、家族、親族、儀礼、宗教などのテーマを取り扱い、日本の内外の様々な社会文化的な状況への理解を深めていく。それと同時に、自らの「当たり前」を見つめ直し、文化人類学的なものの見方を獲得することを目指す。

到達目標

- ・文化人類学の基本的な概念について説明することができる。
- ・異文化の事例について、事象の背景と文脈を踏まえて論理的な考察ができる。
- ・自らが持つ周囲の世界に対する「当たり前」に疑問を投げかけ、これまでとは異なる視点で他者に対する想像力を働かせることができる。

学習テーマ

1	「文化」とは何か？【学習のポイント：文化人類学で対象となる「文化」とは何かを、日常使われる「文化」との違いに留意しながら理解する。＜テキスト：「Ⅰ 文化人類学とは」「Ⅱ 言語と文化／社会」＞】
2	文化人類学の方法論【学習のポイント：文化人類学のフィールドワークの方法を理解する。＜テキスト：「Ⅸ フィールドワーク」＞】
3	生業【学習のポイント：諸社会の人々が生きるためにどのような仕事をしているのかを理解する。＜テキスト：「Ⅲ 生業」＞】
4	経済と文化【学習のポイント：お金だけでなく贈り物が社会にとって重要であることを理解する。＜テキスト：「Ⅳ 経済と文化」＞】
5	生殖と家族【学習のポイント：生殖と親子の概念の多様性を知る。＜テキスト：「Ⅴ 性と婚姻」＞】
6	家族と親族【学習のポイント：親族のたどり方を理解する。＜テキスト：「Ⅵ 家族と親族」＞】
7	ジェンダーとは何か【学習のポイント：性が社会的・文化的に構築されることを理解する。＜テキスト：「Ⅶ ジェンダーとセクシュアリティ」＞】
8	人種とは何か【学習のポイント：人種主義の問題について理解し、我々の周りにおける人種差別について理解する。＜テキスト：「Ⅷ 人種とは何か」＞】
9	民族とエスニシティ【学習のポイント：民族やエスニシティという言葉の意味を理解する。＜テキスト：「Ⅸ 民族とエスニシティ」＞】
10	法と秩序【学習のポイント：法やルールが社会や文化とどのように関わり、社会の秩序を保っているかを学ぶ。＜テキスト：「Ⅹ 法律・秩序・社会統制」＞】
11	政治と権力【学習のポイント：さまざまな社会における政治の仕組みや権力のあり方を学ぶことで、現代の紛争や人権問題を考える。＜テキスト：「Ⅺ 政治と権力」＞】
12	人とモノの移動【学習のポイント：グローバルな人とモノの移動の現象を理解する。＜テキスト：「ⅩⅤ 人とモノの移動」＞】
13	観光と文化【学習のポイント：観光によって文化がいかに作りだされるのかを理解する。＜テキスト：「ⅩⅥ 観光と文化」＞】
14	先住民【学習のポイント：先住民とは何かを理解し、日本の先住民について説明できる。＜テキスト：「ⅩⅦ 先住民」＞】
15	文化の表象【学習のポイント：民族誌とは何かを理解し、書くことと書かれることの問題について理解する。＜テキスト：「ⅩⅧ 民族誌と文化の表象／展示」＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

「学習テーマ」の1、2、3、4の該当範囲のテキストを読み、気づいた点をまとめよ。

第2課題

「学習テーマ」の5、6、7の該当範囲のテキストを読み、気づいた点をまとめよ。

第3課題

「学習テーマ」の8、9、10、11の該当範囲のテキストを読み、気づいた点をまとめよ。

第4課題

「学習テーマ」の12、13、14、15の該当範囲のテキストを読み、気づいた点をまとめよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

「学習テーマ」1～4の範囲のテキストや必要に応じて関連するページを熟読し、気づいた点をまとめる。気づいた点とは、わからなかった点や疑問に思ったことなどを含む。こうした点についてそのような気づきにいたった理由（どこまでがわかってどこからがわからないのか、疑問の詳しい説明）も含めて記入すること。

文化人類学は、異文化を理解するための学問である。例えば、文化人類学であつかう「文化」がどのようなものであり、「文化」をどのように調査研究するのか、人間社会の基盤の一つである生業とは何か、贈り物や貨幣をめぐる経済活動についてどのようなものがあるのかなどに気をつけながらテキストを読み進める。

第2課題の留意点

「学習テーマ」5～7の範囲のテキストや必要に応じて関連するページを熟読し、気づいた点をまとめる。気づいた点とは、わからなかった点や疑問に思ったことなどを含む。こうした点についてそのような気づきにいたった理由も含めて記入すること。

世界各地には、親子や家族とみなされる条件はそれぞれ異なっているがそれはなぜか、自分の考える親子、夫婦関係との相違点や共通点、など気づいたことをまとめる。

第3課題の留意点

「学習テーマ」8～11の範囲のテキストや必要に応じて関連するページを熟読し、気づいた点をまとめる。気づいた点とは、わからなかった点や疑問に思ったことなどを含む。こうした点についてそのような気づきにいたった理由も含めて記入すること。

例えば、「人種」とはどのような意味か、人種差別や偏見、民族をめぐる紛争にはどういったものがあるか、グローバル化による文化の衝突や均質化、移民・難民問題やアイデンティティの多様性に関連する問いなどについて、どのようなことが書かれているかに注意しながら読み進める。

第4課題の留意点

「学習テーマ」12～15の範囲のテキストや必要に応じて関連するページを熟読し、気づいた点をまとめる。気づいた点とは、わからなかった点や疑問に思ったことなどを含む。こうした点についてそのような気づきにいたった理由も含めて記入すること。

文化観光や博物館での展示が、誰の視点で作られ、何を意図しているのか、地元の住民や少数民族、観光客、博物館の運営者などでは意見は同じか、文化を展示することは果たして問題なのか、などが考えられる。また、自分が経験した文化観光や博物館での展示を思い出しそれとテキストの内容を比較するなどの内容でも良い。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポート作成にあたり、生成AIを使用した場合は、使用したアプリケーション、プロンプト、使用した箇所を明記すること。

レポートの評価基準

- ・課題の意図を理解し、キーワードや事項を正確にとらえて説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストをただ丸写しするのではなく、自らの言葉で記入されていること。
- ・他者に伝わる文章になっていること（提出前に必ず全体を読み直すこと）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの「Ⅰ 文化人類学とは」、「Ⅲ 生業」、「Ⅴ 性と婚姻」、「Ⅵ 家族と親族」、「Ⅶ ジェンダーとセクシュアリティ」、「Ⅷ 人種とは何か」、「Ⅸ 民族とエスニシティ」、「ⅩⅤ 人とモノの移動」、「ⅩⅦ 先住民」から出題する。テキストで学習した内容を理解できているかと、それらを具体的な例（テキストの例や最近のニュース、身近にある例）を用いて説明できているかを科目修了試験では評価する。テキストの内容をしっかりと理解し、さらにはテキストで出されている異文化の具体的な事例をその背景も含めて理解をしておくこと。また、関連する日常の出来事にも関心をもっておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題内容を正しく理解し、キーワードや事項を正確にとらえて、論理的に記述できているかどうかを評価する。
- ・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提とする。これよりも文章が多くなる場合には特に制限はない。加点式で評価し、独創的、批判的、思考のあとが見えるような答案の点数が高くなるので間違いを恐れずなるべく詳しく説明することが望ましい。
- ・テキスト学習により得た知識とともに、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。テキストの内容だけでは得点は半分程度、自分の考えを根拠も含めて説明ができていることで満点に近づく。

参考文献

- ・梅屋潔 シンジルト 『新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発』 学陽書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10019	科目名 [単位数 / 学習時間]	数学 [4 単位 / 180時間]			
テキスト	● 岡本和夫 『新版 基礎数学 改訂版』 実教出版					
ISBN	9784407348873	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26017	
科目担当			「親和通信」で連絡			
実務経験のある教員による科目			公立高校および国立中高校教諭 (数学)			

科目の目的

本科目は、大学文系の学生が最低でも身につけておくべき教養としての基礎数学を学習する。高校数学の学習が不十分な学生やずっと以前に数学を学習して再学習をしたい学生にも十分理解できる内容である。具体的には高校 1, 2 年程度の数学で、「数と式」、「2 次関数とグラフ」「方程式・不等式」「高次方程式・式と証明」「関数とグラフ」「指数関数・対数関数」「三角関数」「図形と方程式」「集合・場合の数・命題」である。中学校、高等学校における数学指導の経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行う。

到達目標

- 1 章 計算の規則を理解し、式の特徴をつかみ公式を利用して計算することを学ぶ。
- 2 章 2 次関数のグラフ、方程式や不等式について学ぶ。
- 3 章 剰余の定理、因数定理について学ぶ。
- 4 章 べき関数、分数関数、無理関数を理解し、簡単なグラフが描けるようにすること。
- 5 章 指数関数、対数関数の基礎を学び簡単なグラフが描けるようにすること。
- 6 章 三角関数の基礎を学習し、加法定理についても学ぶ。
- 7 章 円や楕円の図形を方程式で表すことを学ぶ。
- 8 章 場合の数、順列・組合せ・命題について理解する。

学習テーマ

- | | |
|----|--|
| 1 | 整式の加法・減法・因数分解の手順を習得する。＜テキスト pp.8-19＞ |
| 2 | 整式の除法、分数式の計算、平方根の計算方法を習得する。＜テキスト pp.20-31＞ |
| 3 | 2 次関数のグラフを描いて最大値、最小値を求めることを学習する。＜テキスト pp.34-46＞ |
| 4 | 2 次方程式、2 次不等式の解き方を学習する。＜テキスト pp.48-72＞ |
| 5 | 剰余の定理と因数定理について理解すること。＜テキスト pp.76-89＞ |
| 6 | べき関数・分数関数について理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.92-96＞ |
| 7 | 無理関数・逆関数について理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.97-103＞ |
| 8 | 指数関数とは何かを理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.106-115＞ |
| 9 | 対数関数とは何かを理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.117-127＞ |
| 10 | $\sin, \cos, \tan$ の三角関数の基本を理解すること。＜テキスト pp.132-147＞ |
| 11 | 三角関数のグラフが描けるようになること、また加法定理について理解する。＜テキスト pp.150-171＞ |
| 12 | 座標平面上の点と直線について学習する。＜テキスト pp.178-184＞ |
| 13 | 円、放物線、楕円の方程式の基礎を学習する。＜テキスト pp.190-205＞ |
| 14 | 集合と要素について学習する。ド・モルガンの法則を覚えること。＜テキスト pp.216-222＞ |
| 15 | 順列・組合せの基礎を学習する。命題の逆・裏・対偶についても学習する。＜テキスト pp.223-245＞ |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

自筆でレポートを作成する場合も、A4用紙の白紙を用いること。なお、計算、表、図（グラフなど）については鉛筆書きを認める。ワープロソフト使用、自筆のいずれの場合も答えのみの解答は認めない。解答のプロセス（途中の計算過程など）を詳しく述べること。（電卓は用いないこと、Excel などの表計算ソフトを用いることは認めない。）ページ番号をつけること。

第1課題 (数と式)

- (1) 次の式を展開せよ。
- ① $(2x+y)^2$ ② $(3x-y)(3x+y)$ ③ $(2x+y)^3$ ④ $(2x-1)^3$
- (2) 次の式を因数分解せよ。
- ① x^2+6x+9 ② $4x^2-36$ ③ x^3+8 ④ $x^2+5x-24$
- (3) 次の値を求めよ。
- ① $|4-9|$ ② $\sqrt{(2-\sqrt{5})^2}$
- (4) 次の計算をせよ。
- ① $(1-\sqrt{2})(3+2\sqrt{2})$ ② $(\sqrt{3}-2)^3$

(5) 分母を有理化して式を計算せよ。

① $\frac{\sqrt{2}}{1+\sqrt{2}}$ ② $\frac{1}{1+\sqrt{2}+\sqrt{3}}$

(6) $X = \frac{1+\sqrt{2}}{1-\sqrt{3}}$ $Y = \frac{1-\sqrt{2}}{1+\sqrt{3}}$ のとき、次の値を求めよ。

① $X+Y$ ② XY

第2課題 (2次関数とグラフ、方程式と不等式)

(1) 次の二次関数の頂点の座標を求め、そのグラフを描け。

$y = -x^2 + 2$

(2) 次の二次関数のグラフを描いて最大値と最小値を求めよ。

$y = x^2 - 2x + 2$ ($-1 \leq x \leq 4$)

(3) 頂点が点 $(-1, 1)$ で点 $(0, -1)$ を通る二次関数を求めよ。

(4) グラフが3点 $(1, 2)$ $(-2, 5)$ $(3, 10)$ を通るとき、その二次関数を求めよ。

(5) 解の公式を用いて次の二次方程式を解け。

① $x^2 - 3x + 1 = 0$ ② $3x^2 - 5x - 1 = 0$

(6) 二次方程式 $x^2 - 5x + 3 = 0$ の二つの解を a, β とするとき、次の式の値を求めよ。

① $\frac{1}{a} + \frac{1}{\beta}$ ② $(a - \beta)^2$

第3課題 (指数関数、対数関数、三角関数)

(1) 次の計算をせよ。

① 2^{-4} ② 7^0

(2) 次の計算をせよ。

① $x^4 \div x^2 \times x^{-1}$ ② $(x^2 y^3)^3 \div y^2$

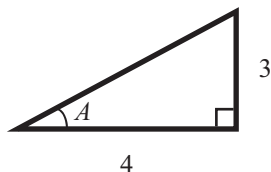
(3) 次の値を求めよ。

① $\sqrt[5]{32}$ ② $\sqrt[4]{2} \sqrt[4]{8}$ ③ $\log_3 81$

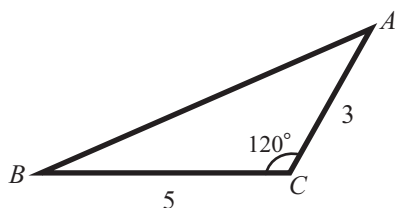
(4) 弧度法であらわされた次の角を度数法で表せ。

① π ② $\frac{\pi}{2}$

(5) 次の直角三角形において $\sin A$, $\cos A$, $\tan A$ の値を求めよ。



(6) 三角形 ABC において $a = 5$, $b = 3$, $\angle C = 120^\circ$ のとき、 c の長さを求めよ。



(7) 加法定理を用いて次の値を求めよ。

① $\sin 15^\circ$ ② $\cos 75^\circ$

第4課題 (図形と方程式、集合、場合の数、命題)

- (1) 次の二点間の距離を求めよ。
 $(3, 1), (5, 4)$
- (2) 次の直線の方程式を求めよ。
 点 $(-1, -2)$ を通り、傾きが -2 の直線
- (3) 次の円の方程式を求めよ。
 中心が点 $(3, 2)$ 、半径が 4 の円
- (4) 全体集合 $U = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10\}$ の部分集合 A, B について
 $\bar{A} \cup B = \{1, 2, 4, 5, 8, 10\}$
 $\overline{A \cup B} = \{2, 5, 10\}$
 のとき次の集合を求めよ。
 ① $\bar{A} \cap \bar{B}$ ② B
- (5) 順列の問題
 ① 12人の中から代表、副代表、会計の3人を選ぶとき、選び方の総数を求めよ。
 ② 13から17までの5個の数字のすべての順列の総数を求めよ。
- (6) 組合せの問題
 ① 10種類のお菓子から3種類を選ぶ組合せの数はいくらか。
 ② ${}_8C_6$ の値を求めよ。
- (7) 次の命題の逆、裏、対偶を示せ。
 $x \leq 3 \implies y > 0$

各課題の留意点**第1課題の留意点**

- (1) テキストpp.8-13参照 式の展開
- (2) テキストpp.14-19参照 因数分解
- (3) テキストpp.28-30参照 絶対値と平方根
- (4) テキストpp.29-30参照 平方根の計算
- (5) テキストp.31参照 分母の有理化
- (6) テキストp.31参照 例題1

第2課題の留意点

- (1) テキストpp.37-40参照 2次関数のグラフ作成
- (2) テキストpp.45-46参照 2次関数の最大・最小
- (3) テキストpp.43-44参照
- (4) テキストpp.43-44参照
- (5) テキストpp.48-49参照 解の公式
- (6) テキストpp.56-57参照 2次方程式の解と係数の関係

第3課題の留意点

- (1) テキストpp.106-107参照
- (2) テキストpp.106-107参照
- (3) テキストpp.108-110参照
- (4) テキストpp.150-151参照 弧度法と度数法
- (5) テキストpp.132-133参照 三角関数
- (6) テキストpp.144-145参照 余弦定理
- (7) テキストpp.168-170参照 加法定理

第4課題の留意点

- (1) テキストpp.182-183参照 2点間の距離
- (2) テキストpp.184-185参照
- (3) テキストpp.190-191参照 円の方程式
- (4) テキストpp.216-222参照 集合
- (5) テキストpp.225-227参照 順列
- (6) テキストpp.230-232参照 組合せ
- (7) テキストpp.244-245参照 命題

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・答えだけでなく途中のプロセスも書いておくこと。
- ・可能な限り丁寧なレポート作成を求める。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・答えだけでなく解法のプロセスも書くこと。
- ・レポート課題を復習しておくこと。

科目修了試験の評価基準

各設題にきちんと解答できていること。答えだけでなくプロセスも含めて解答できているかがポイントとなる。

参考文献

高等学校数学教科書、参考書など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10020	科目名	生物学〔4単位／180時間〕				
		[単位数／学習時間]					
テキスト	● 桑村哲生 『生命の意味 進化生態からみた教養の生物学』 裳華房						
ISBN	9784785350482	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26018		
科目担当		掛澤 明弘					

科目の目的

本科目のテーマは「生物の進化と適応」である。生物がさまざまな興味深い姿形になり、また振る舞いをする理由についての理解をめざす。地球上のあらゆる生物は、それぞれの生息環境や生活様式にうまく適応しながら生きている。この生物の適応現象は長い進化の歴史を経て生まれてきたものであり、その背景には何らかの合理的な理由が存在するはずである。このような進化生物学的な視点を習得することで、人間の行動や社会、文化などの適応的な意義についても考えられるようになってほしい。

到達目標

本科目では、以下の4項目について重点的に学習する。

- ①なぜ地球に生物がいるのか。
生命の定義と起源、異なる生物どうしの種間関係、大絶滅と地球環境の変化などについて理解する。
- ②なぜ生物は進化するのか。
遺伝子の構造と働き、自然淘汰による進化のしくみ、適応戦略論、種分化などについて理解する。
- ③なぜ性が必要になったのか。
無性生殖と有性生殖、性の起源、性決定様式、性比の理論、性差の進化などについて理解する。
- ④なぜ生物は利他的にふるまえるのか。
子の保護の進化、利他行動の進化、類人猿と人類の社会、遺伝子と文化などについて理解する。

学習テーマ

1	生物の定義とは【学習のポイント：生物と無生物の違いを理解する。＜テキストpp.1-4＞】
2	生物の起源とは①【学習のポイント：原始地球と初期の生命について理解する。＜テキストpp.5-10＞】
3	生物の起源とは②【学習のポイント：遺伝子の構造と起源について理解する。＜テキストpp.35-44＞】
4	生物の歴史とは【学習のポイント：光合成生物の誕生や絶滅について理解する。＜テキストpp.11-34＞】
5	生物の進化とは①【学習のポイント：遺伝のしくみについて理解する。＜テキストpp.35-50＞】
6	生物の進化とは②【学習のポイント：突然変異と自然選択について理解する。＜テキストpp.51-58＞】
7	生物の進化とは③【学習のポイント：適応度について理解する。＜テキストpp.59-66＞】
8	生物の進化とは④【学習のポイント：最適戦略と種分化について理解する。＜テキストpp.67-83＞】
9	生物の性とは①【学習のポイント：性と生殖について理解する。＜テキストpp.85-95＞】
10	生物の性とは②【学習のポイント：性の起源について理解する。＜テキストpp.96-102＞】
11	生物の性とは③【学習のポイント：性決定と性比について理解する。＜テキストpp.103-113＞】
12	生物の性とは④【学習のポイント：性差の進化について理解する。＜テキストpp.114-121＞】
13	生物の社会とは①【学習のポイント：子の保護の進化について理解する。＜テキストpp.123-131＞】
14	生物の社会とは②【学習のポイント：利他行動の進化について理解する。＜テキストpp.132-145＞】
15	生物の社会とは③【学習のポイント：人類の社会について理解する。＜テキストpp.146-164＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

生態系を構成する生物どうしの種間関係について、具体例をあげて説明せよ。

第2課題

自然選択（自然淘汰）による生物の進化のしくみについて、具体例をあげて説明せよ。

第3課題

生物の性（雄と雌）の起源とメリットについて説明せよ。また、性決定様式にはどのようなタイプがあるのか、具体例をあげて説明せよ。

第4課題

ダーウィンの自然選択理論は、より多く子供を残すような性質が進化すると予測しているが、社会性昆虫であるミツバチでは、働きバチは自分では繁殖せずに女王の繁殖を手助けしている。このような利他行動が進化するしくみについて、血縁選択説に基づいて説明せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

種間関係の主なタイプを3つあげ、それぞれの種間関係について個別に記述すること。具体例はテキストで紹介されているものにこだわらず、自分でも積極的に探してみることに。

課題内容について身近な人に問われたときに、「どのように説明したら伝わるのか」を考えながら学習すると、より理解が深まりレポートとしてもまとめやすくなるはずである（第2課題～第4課題についても同様）。

第2課題の留意点

まず、進化の定義について簡潔に述べ、次に、自然選択により進化が起こるプロセスについて「遺伝子の突然変異」と「適応度」の観点から記述すること。テキストで紹介されているオオシモフリエダシャクの体色変化を具体例として用いてもよいが、その際、テキストの抜粋にならないようにできるだけ自分の言葉に直して説明すること。

第3課題の留意点

前半は、「無性生殖のデメリット」「有性生殖のメリット」「同形配偶子から異形配偶子への進化」について考えること。後半は、「遺伝的に性が決まる場合」と「環境条件で性が決まる場合」について記述すること。具体例はテキストで紹介されているものにこだわらず、自分でも積極的に探してみることに。

第4課題の留意点

まず、ミツバチの社会について簡潔に述べよ。次に、働きバチが母親の繁殖の手助けに専念するメリットについて、「血縁度」と「包括適応度」の観点から記述すること。その際、できるだけテキストの抜粋にならないように自分の言葉に直した説明を心がけること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。文献調査や情報収集の補助として生成AIを利用することは大いに推奨するが、生成AIによって提示された情報源は必ず自分自身が読み込んで内容を理解し、ほかの情報源と照らし合わせるなどして正確性を検討したうえで引用すること。

レポートの評価基準

評価基準は以下の通りである。

- ・「各課題の留意点」の内容を含み、課題に対して情報の過不足なく的確に論述していること。
- ・単にテキストを抜粋するのではなく、自分の考えや表現にもとづいて記述していること。
- ・参考文献やインターネット等から引用をする際には、脚注などで出典を明示していること。
- ・語句や漢字が適切に使用されており、誤字や脱字がないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全般が出題範囲である。レポート課題の復習をまずは怠らず、テキスト巻末の「各章の復習問題」についてもよく学習しておくこと。特に、個体の利益や適応度を中心にした考え（自然選択、性選択、血縁選択）は正しく理解しておくこと。

答案の作成に際しては、具体的な例をあげながら、論理的な説明を心がけること。

科目修了試験の評価基準

設題内容を正しく理解した上で論理的に記述できているかどうかを中心に評価する。文字数は特に定めませんが、解答内容に過不足がないように注意すること。

参考文献

- ・長谷川真理子 『進化とはなんだろうか』 岩波書店
 - ・カール・ジンマー ダグラス・J・エムレン 『カラー図解 進化の教科書 第1～3巻』 講談社
- その他、テキストの巻末にも多数紹介されている。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10021	科目名 [単位数/学習時間]	栄養学 [4 単位/180時間]			
テキスト	● 小林修平 『健康づくりの栄養学 第4 版』 建帛社					
ISBN	9784767907680	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26019	
科目担当		廣田 有加里				
実務経験のある教員による科目		管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・健康づくりの時代に、一人ひとりが自分の健康を自身で守るためのツールとしての知識を身につけることにより、積極的に取り組む努力をすることができる。
- ・各栄養素の構造と機能、消化と吸収のメカニズム、エネルギー代謝、栄養状態の評価、人体の構造と生理機能などの概要を説明できる。
- ・ライフステージの特定の時期に重要となる栄養素について考え、自らの生活習慣に生かすことができる。
- ・健康栄養情報を正しく認識し、健康に役立てることができる。

学習テーマ

- | | |
|----|---|
| 1 | 生体リズムについて【学習のポイント：朝食の欠食の生体への影響について理解する。】 |
| 2 | 健康三原則について【学習のポイント：日本における健康増進施策（健康日本21〔第三次〕）について参考資料を確認する。）の内容を理解し、方向性と現状について理解を深める。】 |
| 3 | エネルギー産生栄養素の成分と機能について【学習のポイント：三大栄養素の機能と主な供給源について理解する。】 |
| 4 | ビタミン、ミネラル、体内の水分の機能について【学習のポイント：栄養素の機能と主な供給源について理解する。】 |
| 5 | からだの仕組みと消化器の機能について【学習のポイント：消化器の機能と栄養素の働きとの関連性について理解する。】 |
| 6 | 主要な栄養素の消化と吸収のしくみについて【学習のポイント：口から摂取した栄養素が消化管内でどのように消化され、吸収されるかを理解する。】 |
| 7 | エネルギー代謝について【学習のポイント：食物から摂取したエネルギーが体内でどのように利用されるかを理解する。】 |
| 8 | 栄養状態の評価の意義と方法について【学習のポイント：栄養状態を適切に評価する必要性とライフステージ別評価の方法について理解する。】 |
| 9 | 『日本人の食事摂取基準』について【学習のポイント：食事摂取基準の策定の目的とその活用方法について理解する。『日本人の食事摂取基準（2025年版）』については参考資料を確認する。】 |
| 10 | 『食事バランスガイド』と『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』について【学習のポイント：食事バランスガイドの目的と活用方法ならびに健康づくりのための身体活動の意義について理解する。『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』については参考資料を確認する。】 |
| 11 | ライフステージ・ライフスタイルと栄養について【学習のポイント：ライフステージの特徴と栄養摂取について理解する。】 |
| 12 | 運動、ストレス、免疫と栄養の関連性について【学習のポイント：運動時の栄養管理、ストレスによる心身の影響と食欲のメカニズムおよび免疫機能について理解する。】 |
| 13 | 生活習慣病の発症と栄養の関連性について【学習のポイント：生活習慣病の病態や発症原因および予防するための食生活について理解する。】 |
| 14 | 現代社会の食と栄養【学習のポイント：多様化する食品の機能を活かした食生活および栄養摂取の現状と課題について理解する。】 |
| 15 | 食生活と健康増進【学習のポイント：食品の安全性と健康増進をするための食事のバランスについて理解する。】 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

健康寿命を延ばすためのわが国の健康づくり対策について具体的に述べよ。

第2課題

食欲のしくみと消化器の機能についてについて述べよ。

第3課題

乳児期の生理的特徴と栄養管理について述べよ。

第4課題

日本人の食事摂取基準（2025年版）の策定目的と具体的な活用方法について述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

わが国において少子高齢化や疾病構造の変化、医療費・社会保障費の増大により、国民主体の健康づくりを支援する政策が求められるようになったことから、生涯にわたる健康づくりを総合的に推進する具体的な取り組みと必要性について述べる。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。(テキストpp.15-20、pp.115-118)

第2課題の留意点

食物の摂取における食欲中枢に影響を与えている因子および栄養感覚による食べ物の摂取量の調整について理解を深め論理的に記述する。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。(テキストpp.43-47)

第3課題の留意点

乳児期は、母乳栄養または人工栄養を中心とした乳汁栄養が基本であり、乳児期に起こりやすい栄養管理の問題点を理解した上で、離乳の意義と進め方について述べる。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。(テキストpp.80-85)

第4課題の留意点

日本人の食事摂取基準の策定方針および基本的事項を策定した背景をテキストだけでなく、参考文献にも目を通し理解を深めた上で、有効な活用方法について述べる。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。(テキストpp.63-70)

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・指定テキストだけでなく、多数の最新の参考文献に目を通し、理解を深めた上で、レポートの基本的な構成である「序論」「本論」「結論（まとめ）」の形式で記述している。「序論」は「本論」への導入部分であるため、必ず記述し、「結論」として、図表の解釈や欄外の用語なども取り入れて考察をしている。
- ・レポートの課題の趣旨を理解し、焦点を絞って論理的にわかりやすく展開されている。
- ・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
- ・調べて理解したことや、自分の意見を表現して締めくくることが。
- ・レポートの文中で引用した参考文献を記載していること。
- ・引用・出典が明示され、引用した部分については、「」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
- ・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
- ・論文については、著者名、「論文のタイトル」、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
- ・読み手を意識して丁寧に作成し、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
- ・文字数は、1,800字以上2,000字以下とすること。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピーペースト」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。
- ・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、主旨に沿った適確な記述を心掛ける。
- ・生体リズムを整えることによる心身への影響について理解を深めておく。(テキストpp.13-15)
- ・微量栄養素の主な働きと体内での影響について理解を深めておく。(テキストpp.70-76)
- ・食物を摂取した後、口から肛門に至る消化管で、どのように消化され、栄養素として吸収されるのか、栄養素に関する基礎知識の理解を深めておく。(テキストpp.44-47)
- ・健康で豊かな食生活の実現を目的に策定された「食生活指針」を具体的に行動に結びつけるものとして、策定された食事バランスガイドについて理解を深めておく。(テキストpp.70-76)
- ・ライフステージ別（妊娠期～高齢期）に生理的特徴と栄養管理の留意点などの理解を深めておく。(テキストpp.77-96)

キーワード：健康づくり、生体リズム、微量栄養素、成人期、食事バランスガイド

科目修了試験の評価基準

- ・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
 - ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
 - ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
 - ・指定文字数の9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
 - ・その他問題に関連する記載があれば内容により考慮する。
 - ・漢字を適切に使用し、字は読みやすく、丁寧に書き、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
 - ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。
- 以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

- ・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
 - ・厚生労働省 『健康日本21（第三次）の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001158810.pdf>
 - ・厚生労働省 『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』
<https://www.mhlw.go.jp/content/001194020.pdf>
 - ・厚生労働省 『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針 リーフレット』
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s02_nin_lea001.pdf
 - ・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
<https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf>
 - ・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>
 - ・厚生労働省 『令和6年国民健康・栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001603146.pdf>
 - ・農林水産省 『栄養素と食事バランスガイドとの関係』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
 - ・農林水産省 『乳幼児の発達段階に応じた栄養指導の充実』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part2/chap1/b2_c1_2_02.html
 - ・子ども家庭庁 『乳幼児期の栄養について』
<https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/eiyou>
 - ・消費者庁 『栄養や保健機能に関する表示制度とは』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/health_and_nutrition_labelling
 - ・消費者庁 『食品表示について』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/
 - ・日本ユニセフ協会 『SDGs17の目標』
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/>
- ※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10023	科目名 [単位数/学習時間]	多文化社会 [2 単位/90時間]			
テキスト	● 高谷幸 『移民政策とは何か 日本の現実から考える』 人文書院					
ISBN	9784409241240	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26020	
科目担当		日比野 純一				
実務経験のある教員による科目		特定非営利活動法人理事、社会福祉法人評議員（在日外国人への多言語での情報提供事業、多文化共生のコミュニティづくり事業、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援事業など）				

科目の目的

多文化社会とは、多数者とは生活条件の異なる少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指し、本科目では、社会の周縁に位置づけられがちな人達（外国人、先住民族、女性、LGBTQ、貧困層、障害者など）の中で、特に外国人及び外国にルーツのある人達に焦点を当て、政治的・社会的・文化的な権利擁護、共存と相互理解について学ぶ。世界の多くの文化について学ぶ科目ではない。多文化共生のコミュニティづくり、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援、在日外国人等の生活相談、多文化共生のアドボカシーといった実務経験を活かして教授する。

到達目標

同質性の居心地の良さとその裏側にある異質な者を外国人、障害者、LGBTQ、ホームレス、被差別部落出身者、先住民族、イスラム教徒などとレッテルを貼り排除してしまう現実が社会には依然として存在する。そこには“異質な者”も自分と同じ一人の人間であり、地域社会における生活者である視点が抜けており、無知とメディアからのステレオ的な情報がそれを後押しする。多文化社会の根幹をなす人権について深く理解し、異文化間対話を促進する力を身につけることが到達目標である。

学習テーマ

1	外国人の定住化について【学習のポイント：日本における外国人の定住化と、それを社会が阻止してきた結果、もたらされている問題点について理解する。＜テキスト序章＞】
2	外国人労働者について【学習のポイント：日本の外国人労働者の受け入れの問題点について理解する。＜テキスト第1章＞】
3	外国人とジェンダーについて【学習のポイント：日本の外国人女性が移民であることに加えて、女性であることによって二重の不利益を被っていることについて理解を深める。＜テキスト第2章＞】
4	出入国在留管理について【学習のポイント：外国人に対する日本の出入国在留管理行政について理解を深める。＜テキスト第3章＞】
5	外国人への社会保障について【学習のポイント：日本の社会保障制度についての外国人への適用について理解を深める。＜テキスト第4章＞】
6	非正規外国人の人権について【学習のポイント：非正規外国人は同じ人間でありながらなぜ人権が保障されにくい状況に置かれるのかについて理解を深める。＜テキスト第3章と第4章＞】
7	学校教育と外国人児童・生徒について【学習のポイント：学校現場での外国人児童・生徒の受け入れについての現状と課題について理解する。＜テキスト第5章＞】
8	多文化教育について【学習のポイント：日本で草の根で実践されている多文化教育について理解する。＜テキスト第5章＞】
9	政府と地方自治体の多文化共生施策について【学習のポイント：政府、自治体の多文化共生施策の違いについて理解する。＜テキスト第6章＞】
10	強靱な多文化共生の確立について【学習のポイント：日本の多文化共生施策に抜け落ちがちな在日コリアンの歴史と人権擁護について理解する。＜テキスト第6章＞】
11	外国人排斥について【学習のポイント：日本における外国人排斥が起こる要因について理解する。＜テキスト第7章＞】
12	移民差別への対応【学習のポイント：欧州における移民差別とそれに対する反差別アクションについて理解する。＜テキスト第8章＞】
13	国民と外国人の境界について【学習のポイント：国籍や市民権と、国民と外国人の境界を管理する「装置」について理解する。＜テキスト第9章＞】
14	技能実習制度について【学習のポイント：外国人技能実習制度の問題点について理解する。＜テキスト第1章、第10章、終章＞】
15	多文化共生社会の強みについて【学習のポイント：多様性のある社会がなぜ強いのか、その社会を実現するにはどんな取り組みが必要になるか、理解を深める。＜テキスト終章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける権利と卒業後の進路など、実態および課題解決に向けた政策や現場での取り組みについて、日本社会への影響も含めて記述しなさい。

第2課題

日本の社会保障制度の多くにおいては、（外国人を除外する）国籍条項は撤廃されている。それにもかかわらず、社会保障制度を外国人に適用することに対して否定的な声が社会には一定程度あり、政府は社会保障制度の外国人への適用については近年、管理を厳しくしている。外国人が社会保障を受けることができる根拠はどこにあるのか、また政府がなぜ近年、適用を厳しくしているのか記述しなさい。

各課題の留意点**第1課題の留意点**

テキストの序章、第5、6章をよく読んで理解を深めておくこと。とくに第5章の子どもの教育を受ける権利と、そのさきの進路も含めて、文部科学省の政策や学校現場での取り組みについて、具体的な事例をインターネットなどで調べて、より深く考察すること。

第2課題の留意点

テキストの序章、第4、6、7章、終章をよく読んで理解を深めておくこと。とくに第4章の日本の社会保障制度の基本的な枠組みについて理解した上で、国籍条項撤廃の歴史について考察すること。さらに、第7章の移民排斥に関する社会統計分析結果についても、理解を深めておくこと。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・文字数は2,000字程度とすること。
- ・指定文字数の9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
- ・テキストから学んだ内容の理解が十分にできているかについて評価する。
- ・課題に対して自分の考えを的確に記入できているかについて評価する。
- ・文献の引用が全体文字数の15%以上を超えるレポートは不合格とする。なお、文献の引用箇所は「 」でくくり、引用文献名等を必ず明示すること。
- ・漢字を適切に使い、誤字、脱字が無いこと。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・政府や自治体の多文化共生の取り組みについての理解を深めておくこと。
- ・外国にルーツがある子ども達の状況についてテキストから考察しておくこと。
- ・外国人労働者の状況についてテキスト（特に第1章）を読み込み、理解を深めておくこと。
- ・テキスト第4章の社会保障について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・出題内容を正しく理解し、テキスト学習により得た知識を基本に、論理的に記述できていること。
- ・設題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
- ・指定文字数の90%に達しない場合は評価しない。

参考文献

- ・吉富志津代 『同級生は外国人！？多文化共生を考えよう①②③』 汐文社
- ・吉富志津代 『多文化共生社会と外国人コミュニティの力 ゲッター化しない自助組織は存在するか？』 現代人文社
- ・吉富志津代 『複数言語で育つ子どもたちの可能性ーボリビアの日系人からの学び』 現代人文社
- ・落合知子 『外国人市民がもたらす異文化間リテラシー NPOと学校、子どもたちの育ちゆく現場から』 現代人文社
- ・吉富志津代 日比野純一 『兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』 PHD協会
- ・萱野茂 『アイヌの碑』 朝日新聞出版
- ・田中宏 『在日外国人 法の壁、心の溝』 岩波書店
- ・毛受敏浩 鈴木江理子 『「多文化パワー」社会 多文化共生を超えて』 明石書店
- ・駒井洋 鈴木江理子 『東日本大震災と外国人移住者たち』 明石書店
- ・加藤直樹 『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』 ころから
- ・宗田勝也 『誰もが難民になりうる時代にー福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』 現代企画室
- ・安田浩一 『ネットと愛国』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10025	科目名	情報と社会〔2単位／90時間〕			
		[単位数／学習時間]				
テキスト	● 駒谷昇一 山川修 『IT Text 一般教育シリーズ 情報とネットワーク社会』 オーム社					
ISBN	9784274211218	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26021	
科目担当		河原 優子				
科目の目的						
情報技術やインターネットの発展に伴い、社会生活は大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術とコミュニケーションの方法、社会の変化について理解するとともに、社会を支え、企業活動に利用されている情報システムの役割と性質について学ぶ。						
到達目標						
・ コンピュータやインターネットなどの情報技術がどのように発展したのかを説明することができる。 ・ 情報技術の進展によって、日常生活と社会にどのような変化が起きたのか、具体例を用いて述べるすることができる。 ・ 情報社会の利点と問題点について、さまざまな視点から記述することができる。						
学習テーマ						
1	身近な情報機器の変化【学習のポイント：通信機器の発展とメディアの変化を理解する。＜テキストpp. 2 - 8＞】					
2	情報の取り扱いの変化【学習のポイント：情報プロシユーマ、情報に関する考え方の変化を理解する。＜テキストpp. 8 -15＞】					
3	情報社会の課題【学習のポイント：情報格差、個人情報の流出と保護について理解する。＜テキストpp.15-19＞】					
4	情報社会とは何か【学習のポイント：情報技術の発展と社会の変化を理解する。＜テキストpp.19-25＞】					
5	知的財産【学習のポイント：著作権の内容を理解する。＜テキストpp.28-32＞】					
6	著作権の新しい流れ【学習のポイント：クリエイティブ・コモンズなど、著作物の共有のあり方を理解する。＜テキストpp.32-38＞】					
7	インターネット上のトラブル【学習のポイント：ネット被害と対策について理解する。＜テキストpp.38-47＞】					
8	インターネットの利用マナー【学習のポイント：ネット上のマナーと情報セキュリティについて理解する。＜テキストpp.47-55＞】					
9	情報コミュニケーション【学習のポイント：コミュニケーションの性質とメディアの違いを理解する。＜テキストpp.62-69＞】					
10	インターフェース【学習のポイント：入力・出力装置とアクセシビリティについて理解する。＜テキストpp.82-95＞】					
11	インターネットの歴史【学習のポイント：インターネットの歴史を理解する。＜テキストpp.101-106＞】					
12	インターネットサービス【学習のポイント：メールなどのインターネットアプリケーションとwebサービスについて理解する。＜テキストpp.106-117＞】					
13	データベース【学習のポイント：データベースの概要を理解する。＜テキストpp.120-132＞】					
14	情報システム①【学習のポイント：生活や社会インフラに利用されている情報システムを理解する。＜テキストpp.150-161＞】					
15	情報システム②【学習のポイント：企業や学校の情報システムを理解する。＜テキストpp.161-170＞】					
レポートについて		ワープロソフト 使用可				
第1 課題		インターネットの普及によって、「知のあり方」はどのように変化しただろうか。「検索」と「共有」という言葉を用いて説明しなさい。				
第2 課題		情報社会が抱えている課題について、「情報格差（デジタルデバインド）」という言葉を用いて説明しなさい。				
各課題の留意点						
第1 課題の留意点		日本におけるインターネットの普及は2000年頃からといわれている。それまでのインターネットの発展の経緯と、そのあとの社会の変化について記述すること。				
第2 課題の留意点		情報社会はさまざまな問題を抱えている。「情報格差（デジタルデバインド）」に関する問題を、テキストを参考にしながら、具体的な事例を入れて説明すること。				
生成AIの利用について		本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。				
レポートの評価基準		課題についてテキストから学んだ内容をふまえ、情報社会に関する知識を自分の言葉で説明できているかを評価する。				

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

現代の社会では生活の様々な場面でインターネットや情報システムの技術を利用したサービスに接している。テキストの内容を自分の生活に結びつけて考え、理解を深めること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードを用いて正確に説明ができているかどうかを評価する。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10027	科目名	国際理解教育論〔2単位／90時間〕			
		[単位数／学習時間]				
テキスト	● 田中治彦 三宅隆史 湯本浩之 『SDGsと開発教育—持続可能な開発目標のための学び』 学文社					
ISBN	9784762026492	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,000	生協 テキストNo.	26022	
科目担当		江原 等子				
科目の目的						
本科目では、現在私たちが生きている時代の特徴と置かれている状況を知り、人類共通の課題をグローバルな視点から考察する。開発教育は、国際理解や開発援助、多文化共生についての学習にとってきわめて重要である。開発教育に関するテキストを読むことを通じて、一人の地球市民として他者と共に生きていくあり方を探究する。貧富の格差や環境問題、戦争と平和、男女格差、移民や難民といった地球規模の問題を、自らの生活を振り返りながらグローバルな視点をもって考える機会とする。						
到達目標						
人類共通の課題を知り、これから未来を共にどう生きていけばよいのかを、自分自身の考え方や感じ方、生活の仕方を振り返りながら考えること。地球規模の諸問題を考えるときに不可欠なグローバルな視点や、問題を克服するあり方を模索するために必要な基礎的な知識を、テキストを読み課題にまとめることで身につける。						
学習テーマ						
1	開発教育とは何か【学習のポイント：開発教育の定義や5つの教育目標を理解する（テキスト第1章pp.2-8）。】					
2	ローカルとグローバルの関係性【学習のポイント：テキスト第3章「1 地球的（グローバル）と地域（ローカル）の関係」（pp.38-41）を読んで、ローカルな諸問題はグローバルな構造を持つということ、すなわち地球規模の諸問題は私たちの暮らしに結びついているということを知る。】					
3	"Think globally, act locally"という言葉を理解する【学習のポイント：テキスト第3章「2 地域の捉え方の変遷」（pp.41-44）を読んで、「構造的に理解すること」が「対岸の火事的に理解すること」とどのように異なるのかを把握する。英和辞書を用いて "Think globally, act locally" という言葉の意味を理解する。】					
4	グローバル化が地域にもたらす影響【学習のポイント：テキストで取り上げている、タイにおけるエビとマングローブの事例（pp.30-32）や宮城県農村部への大型店の進出の事例（pp.47-48）を読み、それぞれの事例においてグローバリゼーションが私たちの生活にどのように結びついているのかを考える。】					
5	自分の食で考える【学習のポイント：あなたが今日食べた食べ物の産地と、それがどこで作られたものなのかを書き出す。】					
6	3つの教育アプローチ【学習のポイント：テキスト第2章（pp.18-29）を読んで、開発教育の方法や教材について知る。とくに、「5 開発教育の学びの文脈づくりと地域と世界がつながるカリキュラム」を読み、「相互依存アプローチ」と「参加型学習」、「PRAとアクションリサーチ」という三つの教育アプローチを知る。】					
7	SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）とは何か【学習のポイント：SDGsの17の目標と5つの特徴を熟読する。とくに第一の特徴である「貧困の解消」と「環境の保全」をしっかりと把握し、SDGsが先進国にも関係するものであることを理解する（テキスト第4章pp.63-70）。】					
8	環境の保全と経済的利益の追求の対立【学習のポイント：テキスト第6章の「2 開発教育の内容としての環境問題」（p.98）と「3 MDGsからSDGsの環境問題」（pp.98-101）を読み、経済的利益の追求が人や環境・社会を押しつぶすという状況を理解する。また、テキストの図6-2（p.100）から、環境問題に向けられた、SDGsの10の目標を確認する。】					
9	倫理的消費【学習のポイント：テキスト第6章の「5 「エコ」から「エシカル」へ」（pp.103-105）を読み、人や環境・社会に配慮した消費行動（倫理的消費）および環境倫理の評価基準である「エシスコア」の5つのカテゴリーを知る。エシスコアに照らし合わせて、どのような消費行動をとるのが望ましいかを書き出してみる。】					
10	貧困と格差について【学習のポイント：テキスト第8章の「1 貧困と格差の現実」（pp.136-142）と「2 貧困の多元性」（pp.143-146）を読み、貧困は単に「お金がない」という状態なのではなく、疎外や社会制度をめぐる問題でもあることを理解する。】					
11	SDGsを通じた貧困と格差拡大の克服【学習のポイント：第8章の「4 貧困と格差拡大の克服に向けて」（pp.151-155）を読み、SDGsの目標10「格差是正」の重要性を理解する。貧困と格差拡大は、私たち自身の社会の問題であるとともに、発展途上国などの他の国々と構造的につながっていることを知る。】					
12	紛争と平和について【学習のポイント：テキスト第10章の「2 「平和」の意味」（pp.183-185）と「3 平和構築へのアプローチ」（pp.185-190）を熟読し、「構造的暴力」と「積極的平和」という概念を理解する。】					
13	移民・難民【学習のポイント：テキスト第14章の「1 難民問題は国際問題か国内問題か」（pp.255-256）と「4 日本にみる国際的な移動」（pp.260-270）を読み、移民や難民の人々が直面する問題が私たちの社会といかに結びついているのかを理解する。】					
14	多文化共生社会の実現【学習のポイント：テキスト第14章の「5 日本における多文化共生社会の実現に向けて」（pp.270-271）を読み、難民問題や外国人労働者の背景にある問題が私たちの社会の「構造的暴力」（テキストpp.183-185）であることを知る。それとともに、様々な「外国人」に対する自分の価値観を見つめ直す。】					
15	これからの世界と私たち【学習のポイント：テキスト終章「2 グローバル化社会と私たち」（pp.277-280）と「3 「居場所の必要性」（pp.280-283）を読んで、誰にとっても「居場所」のある社会を作るために私たちに何ができるのかを考える。】					

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

開発教育（国際理解教育）の定義と5つの教育目標について説明しなさい（1,000字）。

また、SDGs（持続可能な開発目標）の主要な特徴である「貧困の解消」と「環境の保全」について、幾つかの具体的な目標を挙げながら説明しなさい（1,000字）。

第2課題

テキスト第2章で取り上げられている「エビとマングローブタイを事例に」（pp.30-32）を具体例として用いて、以下の項目を説明しなさい（2,000字）。

- ・グローバル化とは何か。（タイのエビ養殖業が私たちの生活にどのように結びついているか。）
- ・グローバル化が生み出す問題はどのようなものか。（エビの大量消費は、日本の生活やタイの人々の暮らしをどのように変化させたか。）
- ・問題の克服に向けて、どのような方法がとられたか。（エビ養殖のためのマングローブの伐採と森林の減少に対して、タイと日本の双方でどのような見直しがおこなわれたか。）
- ・その問題はSDGsとどのように関わっているか。（マングローブ林の伐採と森林の減少という問題は、SDGsのどの目標に関係しているか。）

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章と第4章を熟読して、要点をまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第3章をよく読んで、グローバルとローカルの関係性を適切に理解すること。グローバルとローカルの関係性に留意しながら、テキスト第2章の「エビとマングローブタイを事例に」を読解すること。テキスト第4章のSDGsの内容と照らし合わせること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストをしっかりと読みこんで、正確に理解しているか。
- ・グローバルな視点から地球規模の問題や人類共通の課題について考えられているか。
- ・SDGsの目標内容が地球規模の問題の克服に向けられていることを把握しているか。
- ・他者の言葉ではなく、自分自身の言葉を使って記述しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・問われている内容を正確に把握し、項目ごとに具体的に論述すること。
- ・重要ポイントは次の通りである。①開発教育（国際理解教育）の内容、②SDGsの特徴、③SDGsの各目標、④世界各地の課題や問題を「構造的に理解すること」の重要性、⑤人類共通の課題や地球規模の問題の持つ特徴や構造、⑥SDGsと、人類共通の課題や地球規模の問題の克服・解決との関係性。

科目修了試験の評価基準

- ・設問の趣旨を理解し、要点を整理して論述しているか。
- ・開発教育（国際理解教育）の視点や方法を理解しているか。
- ・SDGs（持続可能な開発目標）を理解しているか。
- ・人類共通の課題や地球規模の問題の特徴や構造を理解しているか。
- ・自分自身の暮らしを振り返りながら、自分の言葉で論じているか。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10029	科目名 [単位数/学習時間]	環境教育論 [2単位／90時間]			
テキスト	● 今井清一 今井良一 『環境教育論 現代社会と生活環境 増補改訂版』 鳥影社					
ISBN	9784862658104	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26023	
科目担当		天野 雅夫				

科目の目的

日本における環境問題は、はじめは地域的な公害として顕在化した。近年では新たな問題として地球規模の環境問題が現われてきた。それらは、大気・土壌・海洋汚染、森林破壊、ダイオキシンの脅威、オゾン層の破壊、地球温暖化の問題など、多様化し深刻化しつつある。こうした環境問題を解決するためには、各人が人間と環境とのかかわりについて理解し、行動力を身につけることが必要である。そこで本科目では、実際の環境教育活動を紹介し、感じ、考え、行動し、持続可能な社会をつくるために必要な環境教育について考究する。

到達目標

環境教育とは、環境全体とそれに関連する問題に対する「①気づき」と感性を身につけ、自らが責任ある存在であり役割を負うことを「②知識」として理解し、環境に対する社会的価値基準と環境を気づかう気持ち、および環境の保護と改善に積極的に参加する「③態度」を養い、環境問題を解決する「④技能」を身につけ、環境対策や教育プログラムを生態学的、政治的、経済的、社会的、美的、教育的観点から「⑤評価」し、そして最後にこれらの活動に「⑥参加」し、適切な行動をとれるようにすることがその目標である（バオグラード憲章）。従って、本科目では様々な環境問題を理解し、これらを解決するためには何が重要かを考える力を養い、これらの問題を身近な生活と関連づけて考え、それを行動に移すためにはどうすればよいかを、感じ、考え、自ら行動できるようになることが到達目標である。

学習テーマ

1	地球温暖化・気候変動について【学習のポイント：地球温暖化の原因とその対策について理解する。＜テキストpp.11-25＞】
2	自動車公害について【学習のポイント：自動車の問題を社会問題として理解し、その原因について知る。＜テキストpp.47-72＞】
3	PM2.5について【学習のポイント：PM2.5の原因とその対策について理解する。＜テキストpp.73-78＞】
4	異常気象について【学習のポイント：異常気象とはどのような現象かを知り、その原因について理解する。＜テキストpp.27-44＞】
5	水の消費について【学習のポイント：水の消費について学び、水をどのように保全し水不足を防ぐかを理解する。＜テキストpp.253-266＞】
6	水の汚染について【学習のポイント：水の汚染の問題について知り、水の適切な使い方について理解する。＜テキストpp.267-288＞】
7	放射線について【学習のポイント：放射線、放射能、半減期などの言葉を理解し、環境や人間にどのような影響を与えるかを知る。＜テキストpp.83-112＞】
8	日本の食生活の変化について【学習のポイント：戦後、日本の食生活がどのように変化したかを知り、それが私たちの生活にどのように影響したかを理解する。＜テキストpp.117-127＞】
9	フードマイレージ・食品ロスについて【学習のポイント：フードマイレージとは何かを理解し、消費者としてどのように食品ロスを防ぐかを知る。＜テキストpp.127-137＞】
10	残留農薬、ポストハーベストについて【学習のポイント：農薬がどのように使用されているか、その効果と問題点について理解する。＜テキストpp.138-145＞】
11	輸入食品について【学習のポイント：輸入食品による環境問題や国内問題について理解する。＜テキストpp.145-149＞】
12	食品の汚染について【学習のポイント：食品汚染の問題点について理解する。＜テキストpp.149-156、pp.234-243＞】
13	食品表示について【学習のポイント：食品表示について理解し、消費者として食品をどのように選択するかを知る。＜テキストpp.161-192＞】
14	遺伝子組み換え食品について【学習のポイント：遺伝子組み換え食品とは何か、その問題点と環境や健康への影響を理解する。＜テキストpp.192-209＞】
15	食品添加物について【学習のポイント：食品添加物の種類と現状を理解し、その問題点を知る。＜テキストpp.211-249＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

異常気象とは何か、これらが私たちの生活にどのような影響を与えるかを記せ。

第2課題

食品表示の実態について記述し、その問題点について記せ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章「異常気象－災害の安全学－」（pp.27-46）を参照のうえ、異常気象とは何か、それはどのような原因でおこるのか、そして私たちの生活にどのような影響を与えるかを記述すること。理解を深めるためには、「ゲリラ豪雨」、「爆弾低気圧」、「線状降水帯」などの現象を理解する必要がある。また、これらの異常気象から身を守るためには、どのような工夫をすればよいかを知ること。さらに、課題作成にあたっては、具体的で分かりやすい文章にすること。

第2課題の留意点

テキスト第6章「食品表示と消費者」(pp.161-210)を参照のうえ、日本の食品表示がどのような状態であるか、その実態を把握すること。「食品衛生法」と「JAS法」の関係、生鮮食品と加工食品との違い、表示の抜け穴や偽装とは何かを知ることが重要である。また、遺伝子組み換え食品について、日本ではどのように扱われているか、その表示の現状を知ることにも必要である。さらに、レポートがより高く評価されるためには、自分たちの食生活を安全にするにはどのような工夫が必要かを記述すること。そのとき、具体的に分かりやすい文章にすること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・誤字脱字には十分注意し、自分の考えを具体的に説明していること。
- ・テキストの内容を理解したうえで、テキストの註を参考にしてテキスト以外の情報を広く収集し、それを自らの知識として活かすことができているか。
- ・自ら集めた情報を整理し、それをどのようにして自らの実践につなげるかを具体的に論述できているか。また、こうしたことをどのように次世代に伝えていくかについても考えているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを読み、特にコラム欄（四角で囲まれていて数字のついている部分）を熟読すること。また、テキストの章末にある註を参考にして、テキスト以外の文献・情報について調べてみることも重要である。これらの内容を理解したうえで、その他、現実には起こっている環境問題を解決するためにはどのようにすべきか、自らの考えを理論的、具体的に論述すること。これらを踏まえたうえで、①環境問題を自らの生活と関連づけて理解できているか、②それらを理論的・科学的な知識として理解しているか、③これらについてどのような態度をとるべきかを考えているか、④それらを解決するための技能を身につけているか、⑤それらを評価する能力を身につけているか、⑥環境問題を解決するための行動に参加しているか、を留意する必要がある。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストの内容を正確に理解できているか。
- ・自ら集めた情報を整理し、それをどのようにして自らの実践につなげるかを具体的に論述できているか。また、こうしたことをどのように次世代に伝えていくかについても考えているか。

参考文献

- ・日本環境教育学会 『環境教育』 教育出版
- ・水山光春 『よくわかる環境教育 やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

教育学科・児童教育学科専門教育科目群

科目コード	20001	科目名 [単位数/学習時間]	教育原理 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 広岡義之 『ボルノー教育学研究 増補版 上巻』 風間書房					
ISBN	9784759922172	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,700	生協 テキストNo.	26024	
科目担当		廣岡 義之				

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・それぞれ課題、その中の設問に着目して、テキストの精読を深めることを勧める。
- ・15回の「学習テーマ」に即して、内容を理解し、まとめておくことが大切である。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20002	科目名 [単位数/学習時間]	教育心理学 [2 単位／90時間]				
テキスト	●多鹿秀継 上淵寿 堀田千絵 津田恭充 『ライブラリ読んでわかる心理学5 読んでわかる教育心理学』 サイエンス社						
ISBN	9784781914244	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26025		
科目担当		小川内 哲生					

科目の目的

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を学ぶとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を熟読する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を学ぶとともに、子どもの発達を踏まえた学習支援の基礎概念に関係する章をしっかりと理解する。さらに保育現場、教育現場でそれを活かすという実践的な視点から教育を捉えていくことを目的とする。

到達目標

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

学習テーマ

1	心理学における発達と学習の概念の理解【学習のポイント：テキスト第1章を理解する。】
2	発達の遺伝と環境の理解【学習のポイント：テキスト第2章の前半を理解する。】
3	発達段階の理解【学習のポイント：テキスト第2章の後半を理解する。】
4	学習の基礎の理解【学習のポイント：テキスト第3章の前半を理解する。】
5	学習を支える指導法の理解【学習のポイント：テキスト第3章の後半を理解する。】
6	言語の発達と教育の理解【学習のポイント：テキスト第4章を理解する。】
7	知性の発達と教育の理解【学習のポイント：テキスト第5章を理解する。】
8	パーソナリティの発達と適応の理解【学習のポイント：テキスト第6章を理解する。】
9	知識の獲得と活用理解【学習のポイント：テキスト第7章の前半を理解する。】
10	長期記憶とメタ認知を理解する【学習のポイント：テキスト第7章の後半を理解する。】
11	認知の個人差と教育の理解【学習のポイント：テキスト第8章を理解する。】
12	学習の動機づけの理解【学習のポイント：テキスト第9章を理解する。】
13	自己調整学習の理解【学習のポイント：テキスト第10章を理解する。】
14	発達と学習の障害の理解【学習のポイント：テキスト第11章を理解する。】
15	測定と評価の理解【学習のポイント：テキスト第12章を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

ピアジェ (Piaget, J.) の認知発達段階における前操作期と具体的操作期の思考の特徴をそれぞれ簡潔にまとめなさい。また、それぞれの時期の子どもに関わる保育者や教師は、どのような点に留意して関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

第2課題

児童の学習に対する動機づけを高めるための学習支援の在り方について、学習の動機づけの観点から簡潔にまとめなさい。また、学習への動機づけを育むために教師はどのように児童生徒と関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

ピアジェの認知発達段階における前操作期と具体的操作期は、幼児期から児童期にかけての時期にあたる。幼児期と児童期の思考の基本的な特徴をテキスト第2章「発達の考え方を理解する」や他の文献も参考にして、具体的な研究例を引用、あるいは日常の具体例をあげて説明すること。ピアジェに関する文献は多数あるので、必ず参考にしてほしい。保育者や教師の立場で、それぞれの時期の子どもに関わる場合に留意すべきことについては、テキストの丸写しではなく、必ず自分の言葉でまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第9章「学習の動機づけを理解する」並びに章末の参考文献などを参考にして、学習の動機づけを高める観点から、教師ができる学習支援をまとめること。それを基にして教師の立場から児童生徒の学習への動機づけを育むにはどうすれば良いかについて、テキスト等の丸写しではなく、必ず自分の言葉でまとめること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

- A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
- B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
- C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
- D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。特に第1章、第2章、第5章、第6章、第8章、第11章、第12章を重点的に学習しておくこと。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

- A：設題に適切に解答している。
- B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
- C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
- D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

第1課題、第2課題どちらの課題の参考文献も、テキスト各章末に詳しく掲載している。それらを参考にしてほしい。
その他、『幼稚園教育要領』（幼保連携型認定こども園教育・保育要領を含む）、『小学校学習指導要領』も参考にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20003	科目名 [単位数/学習時間]	教育哲学 [2単位/90時間]			
テキスト	● 広岡義之 『ボルノー教育学研究 増補版 下巻』 風間書房					
ISBN	9784759922745	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,700	生協 テキストNo.	26026	
科目担当		廣岡 義之				

科目の目的

「教育哲学」は、教育現実から出発し、教育や人間の生き方に関する理論に基づいて教育諸問題の解決の仕方や方法を教示し、教育活動や人間の本質的なあり方を究明することを課題としている。現代社会の激しい変化のなかで、人間や子どもを理解して受け止めることはきわめて重要な教師の資質能力でもある。こうした社会の激変のなかで起きている教育や人生の諸問題について、教育哲学的に根源的に問いながらその本質を解明し、解決の糸口を見出すことをねらいとする。

到達目標

- ・教育の現実に対する関心だけでなく、その理念に目を向け、普遍を追究する努力が大切である。
- ・テキストを熟読し、何が書かれているか具体例が思い浮かぶぐらいに深めることが重要である。
- ・テキストを読み込み、自分の生き方と重ね合わせて、テキストの著者が述べていることを熟考することが求められる。

学習テーマ

1	ボルノー教育哲学の徳論 【テキスト第5章第1節を熟読すること。】
2	ボルノー教育哲学における生の哲学と道徳の関わり 【テキスト第5章第2節を熟読すること。】
3	ボルノー教育哲学における実存主義克服の課題 【テキスト第5章第3節を熟読すること。】
4	ボルノー教育哲学の宗教的特質 【テキスト第5章第4節を熟読すること。】
5	現代における「信頼」の教育哲学的課題 【テキスト第5章第5節を熟読すること。】
6	ボルノー教育哲学における「希望」の意味 【テキスト第5章第6節を熟読すること。】
7	教育人間学が問う「死」の意味 【テキスト第5章第7節を熟読すること。】
8	家庭教育の人間学的考察 【テキスト第6章第1節を熟読すること。】
9	ボルノー教育哲学における平和教育論 【テキスト第6章第3節を熟読すること。】
10	ボルノー教育哲学における高齢者教育論 【テキスト第6章第4節を熟読すること。】
11	ボルノー教育哲学における環境教育論 【テキスト第6章第5節を熟読すること。】
12	ボルノーにおけるフレーベル幼児教育思想：理論編 【テキスト補論第1章を熟読すること。】
13	ボルノーにおけるフレーベル幼児教育思想：実践編 【テキスト補論第2章を熟読すること。】
14	西洋教育思想と教育の歴史（1）＜ソクラテス・プラトン・アリストテレス・コメニウス＞ 【テキスト補論第3章第1節から第4節を熟読すること。】
15	西洋教育思想と教育の歴史（2）＜ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト＞ 【テキスト補論第3章第5節～第8節を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

ボルノー教育哲学における実存主義克服の課題について、テキスト第5章第3節に即しつつ論じなさい。

第2課題

ボルノー教育哲学の宗教的特質について、テキスト第5章第4節に即しつつ論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第5章第3節全体をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、引用を用いつつ適切にまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第5章第4節全体をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、引用を用いつつ適切にまとめること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストを精読の上で、複数箇所（最低でも 5 個）の引用を用い、課題について論述している。レポートではテキストの内容以外の叙述は不要である。『学習の手引き テキスト履修科目編』冊子の「はじめに」または『科目等履修生要覧』冊子の「テキスト履修科目＜レポート作成・提出＞」の「レポートの書き方の注意事項」を参考に、テキストのページを付記して引用箇所をすべて明示すること。
- ・自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
- ・他人に読ませることを意識して、自分の言葉で丁寧に作成している。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキストをよく読んで理解を深めておくこと。
- ・「学習テーマ」ごとに、内容をしっかりと把握し、まとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・広岡義之 『ボルノー教育学入門』 風間書房
- ・広岡義之 『教育の本質とは何か』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20008	科目名 [単位数/学習時間]	国語 [2 単位／90時間]				
テキスト	● 柴田義松 阿部昇 鶴田清司 『あたらしい国語科指導法 七訂版』 学文社						
ISBN	9784762032097	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26027		
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍						
ISBN	9784487287031	本体価格(円) (2026年1月現在)	238	生協 テキストNo.	26028	文部科学省HPよりダウンロード可能	
科目担当		齋藤 隆彦					
実務経験のある教員による科目		中学校教諭（国語科）					

科目の目的

「国語力」は、自ら考える活動を支える中核となる力であり、全ての教科に生き、すべての学びを支える基礎となる力であると言われる。平成29年に新しい学習指導要領が公示された。そこでは、変化する社会に対応する力を子どもたちに育成することが掲げられ、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直し、より「思考力」という汎用性の高い能力の育成を目指す。国語科でどのような力をどう付けていくのか、テキストや学習指導要領などを用いてその基礎的な理解をすることを本科目では目指す。実務経験（教材や教育方法の開発）を活かして教授する。

到達目標

本科目で取り上げる学習内容の主なもの次は次の通りである。これらについて自らの経験や授業の具体的なプランなどと結びつけて理解することを到達目標とする。

- ・国語科教育の目的と学習指導論
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容と技術（書写を含む）
- ・話すこと・聞くことの内容と技術
- ・書くことの内容と技術
- ・読むことの内容と技術
- ・メディアリテラシー、読書指導（アニメーション）など新しい国語科の授業実践

学習テーマ

1	国語科教育の目的について【学習のポイント：二つのテキストやその他を参考に、ことばの働きと国語科教育の目的を考察し理解する。】
2	国語科教育の内容の変遷と基礎・基本について【学習のポイント：「学習指導要領」の変遷から「目標」を相対化し、「基礎・基本」と「言語技術」の関係を考察し理解する。】
3	音声言語について【学習のポイント：話すこと・聞くことの教育の内容と留意点を考察し理解する。】
4	文学の授業について【学習のポイント：「教材内容」「教科内容」「教育内容」という概念を元に、文学の学習の目標と内容を考察し理解する。】
5	説明的文章の授業について【学習のポイント：説明的文章の学習の目標と内容を考察し理解する。】
6	「書くこと」（文章表現）の授業について【学習のポイント：作文の学習の目標と内容を考察し理解する。】
7	「言葉の特徴や使い方・情報の扱い方」について【学習のポイント：「学習指導要領」における「知識及び技能」の内容について、語彙や漢字、言葉の由来、さらには「情報の扱い方」などの学習の内容と方法を考察し理解する。】
8	書写について【学習のポイント：テキスト『学習指導要領解説』を中心に、書写の指導の内容と方法を考察し理解する。】
9	読書指導、古典について【学習のポイント：読書指導、古典の学習の意義と方法について考察し理解する。】
10	教材づくりと教材研究について【学習のポイント：「教材」と「教科内容」の区別、また、「教材解釈」と「教材分析」の区別を中心に、何をどう教えるのか、その構造を考察し理解する。】
11	学習指導論について【学習のポイント：「授業」の構造と方法・技術について、教師の「指導言」やふるまい、学習指導案も含めて考察し理解する。】
12	「言語活動」「主体的・対話的で深い学び」について【学習のポイント：国語科において「言語活動」はどのような目的でどのようになされるのか。国語科において「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びであるか、二つのテキストやその他を参考に考察し理解する。】
13	新しい国語科の授業実践について【学習のポイント：アニメーション、メディアリテラシー、ディベート、スピーチ、パブリックコミュニケーションゲームについて目的、方法、国語科との関連について考察し理解する。】
14	PISA「読解力」と「言語活動」について【学習のポイント：PISA「読解力」の内容と国語科教育との関係、「言語活動」の内容と「思考力・判断力・表現力」と国語科との関係を考察し理解する。】
15	国語科教育の力量形成【学習のポイント：国語科教師としての力量をどう作っていくか、考察し理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

テキスト『あたらしい国語科指導法』では、「教材研究の方法」として「教材解釈」と「教材分析」を「区別することが有効」とある。それらの違いを明らかにして「どのように有効なのか・なぜ有効なのか」について説明しなさい。その考察において、『あたらしい国語科指導法』の引用を用いるとともに、その他の資料も必要に応じて引用して考察し、それぞれの内容を明らかにしなさい（文献引用の情報も、要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」にしたがって整えること）。その考察の際に「文学教材」を具体例にして説明しなさい。ただし、『あたらしい国語科指導法』の説明で使われている教材以外で説明すること。

第2課題

「説明的文章」の学習の目的と、それに合った授業方法について、テキスト『学習指導要領解説』や『あたらしい国語科指導法』を引用しながら考察し、明確に述べなさい。必要に応じ他の文献の引用も用いること。その際、教科書教材や自分で用意した短い文章を「教材」として例示し、説明に使いなさい（文献引用の情報も、要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」にしたがって整えること）。

各課題の留意点**各課題共通の留意点**

学習の積み重ねを確認することが課題の主目的である。本科目のレポート作成の際は文献からの知見を必ず引用として用い、テキストのどの部分をどう読み取り、自分の考えや体験などどうつないだかが分かるようにする（引用情報が全くない、あるいは不明瞭な場合は不合格とする）。また、テキストとして挙げたもの以外にも自分で調べ、論を充実されることを強く勧める（学びの対象が広がる）。

第1課題の留意点

テキスト、さらにはその他の文献・資料による学習の積み重ねを確認することが主目的である。本テーマに則って、文献の記述を理解し、知識や自分の経験などつなぎ合わせ、整理し、この問いに答えること。「教材解釈」「教材分析」は文献にどう書かれているか。さらに別の文献等も調べることも勧める。また、説明に用いる「文学教材」の具体例はテキスト『あたらしい国語科指導法』で具体例として挙げられているもの以外にすること。そうすることで理解が深まることを期待する。

※「文学教材」は、自身が使いやすいと思うものを選ぶこと。詩でも小説・随筆でもよい。長い作品の場合は、説明に必要な箇所の要約が抜き出しでよい。内容がレポートの読者にわかるようにすればよい。

※考察で用いた資料および教材の引用情報を明記すること。

第2課題の留意点

テキスト『学習指導要領解説』と『あたらしい国語科指導法』の両方を読み込み、引用することはもちろん、できれば他の文献にもあたること。それらの知見を整理し、つなぎ直し、考察することで、現場で使える知識になっていくことを期待する。授業の構想では、どのような教材で、どのような活動を通して、どのような力をつけていくのかを明らかにすること。

※「説明的な文章」の教材は、あなた自身が使いやすいと思うものを選ぶこと。その内容は全部書き写す必要はない。要約等で、内容がレポートの読者にわかるようにすればよい。

※考察で用いた資料および教材の引用情報を明記すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

なお、生成AIを利用した場合は、レポートの末尾にその方法と程度を簡潔に記しておくこと。（例：「全部を書き終えた後チャットGPTを用いて文章を整えた」「課題にそった資料収集において生成AIを用いたが、文章作成は自身で行った」など。）

レポートの評価基準**<構成について>**

レポートの作成にあたっては、次の構成にすること。（レポートの書き方も習熟する。）

1. 序論 このレポートで何を明らかにするか、つまり、「問い」を明らかにする。
2. 本論 「問い」にそって内容を展開する。問いを解明していく。
3. 結論 本論によって解明された「問い」の「答え」を簡潔に明らかに示す。感想や展望といったことは、この「答え」の後にこれも簡潔に示す。
4. 引用文献 テキストもここに挙げる。

<引用について>

文献等の引用はとても大切である。適切に引用の仕方を学ぶこと。（要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」を参照。）

本課題では、「理解しているか」「理解するためにいろいろと見渡しているか」の確認に比重をおいている。よって、「あなたのオリジナルの知見」といったことは求めている。ただし、どこかの文献の丸写しでは、「あなたが理解しているか」「理解しようとしていると見渡したか」の確認ができない。自身で、読み込み調べ、「問い」をきちんと「答える」ために、引用を的確に使い、また、それらの知見を「どこから引用したか」正確に記すこと。また、本レポートでは、「参考文献」としてテキスト名を挙げるだけで、どこにどう生かされているのかわからない場合は、「文献を用いた考察」とは認めない。あくまで、「テキスト履修」の成果を見たいのであるから、考察に用いた箇所は「引用」として明示すること。

<字数について>

1,800字から2,000字とする。

<文章について>

他人に読ませることを意識して、「読みやすい」文章にすること。そのためには、下書きが大事である。論が通っているか、的確に「問い」に答えているかを確認し、また、文が長すぎないか、段落が内容によって区切られているか、なども意識すること。

<【自筆の場合】文字について>

他人に読ませることを意識して丁寧に清書していること。漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。特に、将来国語を教えるための科目でもあるので、くせ字などにも注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・設題の意図を正しくとらえて、論を展開しているか。具体的に、明確に伝えようとしているか。
- ・二つのテキスト及び参考文献をよく読んで理解を深めておくこと。特に「到達目標」としてあげた内容について、理解につとめること。「学習テーマ」1～15について、当然ではあるが、学習し内容を理解しまとめておくこと。また、自分が授業を構想して展開することを想定し、各学年の三領域一事項について、それぞれの指導事項、言語活動例を熟読し理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の意図を正しくとらえて、論を展開しているか。(的確に「問い」に答えている。)
- ・具体的に、明確に伝えようとしているか。(的確に読者・採点者に分かりやすく伝えようとしている。)
- ・テキストやその他の文献の知見をもとにした考えが書かれている。(独りよがりや、その場の思いつきで書かれていない。)

教育現場に立ち、「国語」の授業ができる、その基礎の力を付けるのが本科目の目的である。その力が付いたかを科目修了試験では見たい。そのため、「学習テーマ」にそって、まずはテキストをもとに、さらには他の文献の内容をもとに、自分なりに理解したことを求める。テキスト及び参考文献等をよく読んで理解を深めておくことが何より大事である。

「自分が授業をするとしたらどうか」という視点を持ち、「学習テーマ」の理解に努めているかも見る。

参考文献

- ・田近洵一 大熊徹 塚田泰彦『小学校 国語科授業研究』教育出版
 - ・鶴田清司 河野順子『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 小学校編』明治図書出版
 - ・浜本純逸『国語科教育総論』溪水社
- (これらの書籍をレポートの考察に使う場合も、「引用文献」として、引用ページ等含め、明示すること)

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20009	科目名 [単位数/学習時間]	算数 [2 単位/90時間]																																	
テキスト	● 黒田恭史 『初等算数科教育法序論』 共立出版																																			
ISBN	9784320114968	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26029																															
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編＜平成29年 7 月＞』 日本文教出版																																			
ISBN	9784536590105	本体価格(円) (2026年1月現在)	224	生協 テキストNo.	26030	文部科学省HPよりダウンロード可能																														
科目担当		「親和通信」で連絡																																		
実務経験のある教員による科目		公立中学校教諭（数学科）																																		
科目の目的 算数教育を行うにあたって必要となる基礎的知識と基本的技能を学習する。内容は、算数科の学習指導要領の概要、算数科の5 領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の教育内容と子どもの認識特性、ICTの活用、算数教育の歴史についてである。実務経験を活かして教授する。 到達目標 - 算数科の各学年で取り上げる教育内容と系統性を述べることができる。 - 各領域における児童の誤答傾向とその打開方法について説明することができる。 - 指導目標と評価が連動した算数科の学習指導案を作成することができる。 学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>算数教育の意義と算数科の目標を知る。【テキスト『学習指導要領解説 算数編』第 1 章、第 2 章およびテキスト『初等算数科教育法序論』第 1 章 1-1、1-2、1-3】</td></tr><tr><td>2</td><td>「算数科における評価」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説 算数編』第 1 章、第 2 章およびテキスト『初等算数科教育法序論』第 3 章 3-3】</td></tr><tr><td>3</td><td>「算数教育の研究動向と学力調査（全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS）」について知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 3 章 3-1、3-2 およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】</td></tr><tr><td>4</td><td>小学校算数科の教育内容の系統性（数と計算、図形）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 6 章、第 7 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】</td></tr><tr><td>5</td><td>小学校算数科の教育内容の系統性（測定、変化と関係、データの活用）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章、第 9 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】</td></tr><tr><td>6</td><td>「数と計算」の内容と方法論（各種の数の特徴、加減乗除の計算）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 6 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>7</td><td>「図形」の内容と方法論（立方体の描画特性と空間認識）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 7 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>8</td><td>「測定」の内容と方法論（長さ、かさ、時刻と時間、重さ、量感）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>9</td><td>「変化と関係」の内容と方法論（折れ線グラフ、割合、比例、比、速さ）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>10</td><td>「データの活用」の内容と方法論（表やグラフ、代表値）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 9 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>11</td><td>算数科におけるICT活用教育を知る（プログラミング教育を含む）。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 4 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>12</td><td>算数教育の歴史を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 2 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>13</td><td>算数科における授業形態、授業設計を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>14</td><td>算数科学習指導案を作成する。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr><tr><td>15</td><td>算数科授業の構築と振り返りを行う。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】</td></tr></table>							1	算数教育の意義と算数科の目標を知る。【テキスト『学習指導要領解説 算数編』第 1 章、第 2 章およびテキスト『初等算数科教育法序論』第 1 章 1-1、1-2、1-3】	2	「算数科における評価」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説 算数編』第 1 章、第 2 章およびテキスト『初等算数科教育法序論』第 3 章 3-3】	3	「算数教育の研究動向と学力調査（全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS）」について知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 3 章 3-1、3-2 およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】	4	小学校算数科の教育内容の系統性（数と計算、図形）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 6 章、第 7 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】	5	小学校算数科の教育内容の系統性（測定、変化と関係、データの活用）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章、第 9 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】	6	「数と計算」の内容と方法論（各種の数の特徴、加減乗除の計算）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 6 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	7	「図形」の内容と方法論（立方体の描画特性と空間認識）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 7 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	8	「測定」の内容と方法論（長さ、かさ、時刻と時間、重さ、量感）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	9	「変化と関係」の内容と方法論（折れ線グラフ、割合、比例、比、速さ）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	10	「データの活用」の内容と方法論（表やグラフ、代表値）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 9 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	11	算数科におけるICT活用教育を知る（プログラミング教育を含む）。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 4 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	12	算数教育の歴史を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 2 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	13	算数科における授業形態、授業設計を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	14	算数科学習指導案を作成する。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】	15	算数科授業の構築と振り返りを行う。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】
1	算数教育の意義と算数科の目標を知る。【テキスト『学習指導要領解説 算数編』第 1 章、第 2 章およびテキスト『初等算数科教育法序論』第 1 章 1-1、1-2、1-3】																																			
2	「算数科における評価」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説 算数編』第 1 章、第 2 章およびテキスト『初等算数科教育法序論』第 3 章 3-3】																																			
3	「算数教育の研究動向と学力調査（全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS）」について知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 3 章 3-1、3-2 およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】																																			
4	小学校算数科の教育内容の系統性（数と計算、図形）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 6 章、第 7 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】																																			
5	小学校算数科の教育内容の系統性（測定、変化と関係、データの活用）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章、第 9 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』関連部分】																																			
6	「数と計算」の内容と方法論（各種の数の特徴、加減乗除の計算）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 6 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
7	「図形」の内容と方法論（立方体の描画特性と空間認識）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 7 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
8	「測定」の内容と方法論（長さ、かさ、時刻と時間、重さ、量感）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
9	「変化と関係」の内容と方法論（折れ線グラフ、割合、比例、比、速さ）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 8 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
10	「データの活用」の内容と方法論（表やグラフ、代表値）を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 9 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
11	算数科におけるICT活用教育を知る（プログラミング教育を含む）。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 4 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
12	算数教育の歴史を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第 2 章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
13	算数科における授業形態、授業設計を知る。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
14	算数科学習指導案を作成する。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
15	算数科授業の構築と振り返りを行う。【テキスト『初等算数科教育法序論』第10章およびテキスト『学習指導要領解説 算数編』の関連部分】																																			
レポートについて		ワープロソフト 使用可																																		
第 1 課題 小学校算数における教育目標をその評価の方法とともに具体的に述べよ。 第 2 課題 テキスト『初等算数科教育法序論』第10章10-2 を参考に、距離と速さと時間の関係を指導する 1 時間分の学習指導案を作成せよ。児童の実態はある程度想定し、学年単元を明記しテキスト『初等算数科教育法序論』pp.237-242の形で作成する。テキスト『初等算数科教育法序論』p.243以降の指示をよく読み作成すること。																																				

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト『初等算数科教育法序論』第1章および第3章やテキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』の該当箇所をよく読み作成する。

第2課題の留意点

テキスト『初等算数科教育法序論』pp.237-242の形で作成する。テキスト『初等算数科教育法序論』p.243以降の指示をよく読み作成すること。単元設定などは自由。文部科学省検定教科書があれば参考にしてよい。学習指導要領の範囲を逸脱しないようテキストをよく読むこと。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

テキストからの引用だけでまとめるのではなく、テキストの内容を自分なりに解釈し、具体例を入れて分かりやすい表現で的確に記述できているかについて評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

2冊のテキストを熟読し、語句や基本概念とともに、各領域や各学年の指導内容におけるポイントを明らかにしておくこと。用語の意味を理解し説明できることや、指導内容についても、その内容の理解と、どのように指導し、理解させていくか、といったことを具体的に説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・試験は論述問題4問。
- ・設題の趣旨を理解し、テキスト内容に沿った説明が正しく記述できているかどうかを中心に評価する。テキストで説明されているものから逸脱していたり、自説のみで述べられていたりする内容については、減点の対象となる。

参考文献

- ・赤井利行 『わかる算数科指導法 改訂版』 東洋館出版社
- ・鈴木将史 『小学校算数科教育法』 建帛社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の^Ⅷ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20010	科目名 [単位数/学習時間]	生活 [2 単位/90時間]			
テキスト	● 岡野聡子 『子どもの生活理解と環境づくり 改訂版 就学前教育領域「環境」と小学校教育「生活科」から考える』 ふくろう出版					
ISBN	9784861867484	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26031	
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍					
ISBN	9784487287055	本体価格(円) (2026年1月現在)	183	生協 テキストNo.	26032	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当		山田 希代子				
実務経験のある教員による科目		公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				

科目の目的

子どもと「生活」全般を理解していく。実務経験を活かして教授する。

- ・豊かな内容と意義をもつ「生活」という概念全体について理解し、現代の子どもの生活環境の課題等について把握し、その改善策について考察する。
- ・子どもの成長や生活の充実をもたらす「遊び」の意義等について理解し、幼児期・児童期にふさわしい保育環境・教育環境のあり方を実践的に深め、小学校 1・2 年生「生活科」の基本理解を深める。
- ・就学前教育・小学校教育（前期）のそれぞれの学びを理解し、子どもにとって「生活科」の学びやカリキュラムの工夫が保幼小のつながりを滑らかにするために大きな役割を果たすことを学ぶことにより実践上の力をつける。

到達目標

「生活」は、多様な意味を含む概念である。人間の日常的な活動や営みの具体的な姿から生命・生存といった生物としての人間の状態や活動に至るまで、広範な意味をもっている。現代の子どもの実態を把握しながら、幼児期・児童期にふさわしい生活を様々な視点から探究し、子どもの豊かな生活や学びをいかに実現していくかについて考える。

学習テーマ

- | | |
|----|--|
| 1 | 就学前教育と小学校教育とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』巻頭言・第 1 章第 1 節】 |
| 2 | 幼稚園・保育所と小学校の違い【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 1 章第 2 節 1・2・3】 |
| 3 | 幼稚園・保育所と小学校の連携【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 1 章第 2 節 4】 |
| 4 | 子ども理解のあり方と子どもの発達【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 2 章第 1 節・第 2 節】 |
| 5 | 教師と子どもの関係と教師の役割【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 2 章第 2 節 4-2）・第 3 節】 |
| 6 | 自然環境とのかかわり、自然体験の意義と必要性【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 3 章第 1 節・第 2 節】 |
| 7 | 就学前教育と小学校教育、「生活科」における自然観察とは【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 3 章第 3 節】 |
| 8 | 物的環境、身近な素材とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 4 章第 1 節・第 2 節・第 3 節】 |
| 9 | 社会環境とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 5 章第 1 節・第 2 節・第 3 節】 |
| 10 | 保育・幼稚園教育と生活科との関連【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第 5 章第 2 節 4 幼児期の教育や中学年以降の学習と関わりを見通すこと関連部分 付録 6「幼稚園教育要領」第 1 章総則第 1・第 2・第 3-5】 |
| 11 | 生活科の果たす役割と育てたい力【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第 2 章第 1 節教科目標・第 2 節学年の目標 第 4 章（4）低学年教育の充実と生活科の位置付け・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連・小学校入学当初に大切にしたいこと・スタートカリキュラムの編成】 |
| 12 | 生活科の環境づくり【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第 5 章第 2 節 2 児童の生活圏である地域の環境を生かすこと 5 学校内外の教育資源の活用を図ること】 |
| 13 | 生活科と自然環境とのかかわり【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第 3 章第 2 節生活科の内容（5）（6）（7）】 |
| 14 | 生活科と社会環境とのかかわり【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第 3 章第 2 節生活科の内容（1）（2）（3）（4）】 |
| 15 | 幼児教育と小学校教育の連携のあり方のまとめと確認【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 1 章第 2 節 4・全般及びテキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』関連部分振り返り】 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第 1 課題

就学前教育と小学校教育の接続において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の提示が果たす役割について述べなさい。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は小学校でどのように発展するのかについて具体的な例をあげ、説明しなさい。

第 2 課題

子どもにとって身近な小動物や昆虫を飼育したり、繁殖させたりする意義について述べなさい。また、その際に保育士・教師として配慮する点を説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第1章第1節・第2節（pp.1-32）を熟読し、就学前教育と小学校教育の接続について理解すること。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示すことは、就学前教育と小学校教育に携わる保育士や教師にとってどのような意義があり、接続においてどのような役割を果たすのかについて考察することが課題の意図である。子どもにとっての視点も忘れないようにすることが重要である。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校教育でどのように発展するのかについて考えるとよい。さらに、『小学校学習指導要領解説 生活編』第4章（4）（pp.57-58、61-64）の関連部分を熟読すると理解が深まる。

第2課題の留意点

テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』の第3章第1節（pp.63-75）第2節（pp.84-95）に書かれていることを十分に読み込み、子どもと自然環境とのかかわりについて理解する。その上で、課題関連部に着目し、自然とのかかわりが少なくなった現代において、子どもたちが身近な小動物や昆虫を飼育したり、繁殖させたりする意義を考察することが課題の意図である。また、保育士・教師としてどのような配慮が必要かについてテキストに書かれていることをもとに述べるとよい。さらに、『小学校学習指導要領解説 生活編』第3章第2節 内容（7）（pp.43-46）を読むと理解が深まる。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。

レポートの評価基準

- ・課題の意図を把握し、子どもを取り巻く社会の変化に関心をもち、テキスト学習により得た基本的なことやキーワードをとらえて説明した上で、自分の考えを取り入れ、いかに的確に論述できているのかで評価する。自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
- ・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
- ・課題の前半部分で説明したことを受け、後半部分を発展的に論述していること。
- ・テキストの内容、「学習の手引き」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・テキスト・参考文献・インターネット等から引用した場合は「 」でくくり、書名・著者名・出版年・出版社名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。参考文献についても書名等明記すること。
- ・「はじめに」「本論」「おわりに」など適切に章立てや段落を設定し、主語述語のねじれや誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。段落の書き始めは、一字下げて書き始めること。
- ・本学所定レポート用紙を使用する場合は、5枚は必ず記述すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』全体が出題範囲であるため、熟読すること。
- ・子ども理解のポイント【第1章第2節（pp.42-52）】、子どもと「自然環境」とのかかわり【第3章（pp.63-102）】、子どもにとっての「身近なもの」とのかかわり【第4章第2節・第3節（pp.108-140）】や「身近な地域のもの・こと・人」とのかかわり【第5章第2節（pp.152-160）】についても深く理解しておくこと。
- ・常に子どもを取り巻く環境の急激な変化に注視し、それらが子どもの生活にどのような影響を与えるのかについて考えるようにすること。
- ・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育士・教師としてののかかわりを考えながら読み込み、指導上の留意点についても確認しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題内容を正しく理解し、テキストに書かれていたキーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの体験や自説を記入しても評価しない。
- ・筋道を立てて論理的に展開できていること。その際の段落の設定や表記の仕方についても評価する。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
- ・漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20011	科目名 [単位数/学習時間]	社会 [2 単位/90時間]			
テキスト	●宮崎猛 吉田和義 『社会科教育の創造 基礎・理論・実践 新訂版』 教育出版					
ISBN	9784316804682	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26033	
科目担当		小林 昌人				
実務経験のある教員による科目		公立小学校長				

科目の目的

この科目は、社会科の授業を担当する際に、直接かつ具体的に役立つことを第一としている。先ず、小学校における社会科教育の成立過程、目標構造や内容構成の特色、学習指導法、評価の視点と方法等について原則的なことを概観する。次に、児童の発達段階に応じた適切な学習指導方法、カリキュラム編成、単元構成、評価の工夫などを習得する。それらを基盤に、時代の要請や社会科の本質を踏まえ、変化する眼前の子ども達に柔軟に対応することができる指導力の育成を目指している。小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

先ず、社会科が戦後新設されるまでの経緯を含め、その時代の政治的・社会的状況を敏感に反映しながら変遷してきたことを理解しなければならない。次に、日本における社会科の成立、その後の学習指導要領の改訂に伴う社会科の変遷、民間教育研究団体の主張等を学ぶ。さらに、小学校社会科の内容構成、学習形態、教材・教具の工夫のあり方等について考察し説明出来るようにする。最後に、具体的な授業作りの理論と方法、指導案の作成、評価の方法等の学習を通して社会科授業のあり方を考察し実践力を身につけなければならない。

学習テーマ

1	社会科教育の歴史①【学習ポイント：日本における社会科の成立を理解する。＜テキストpp. 4 - 5＞】
2	社会科教育の歴史②【学習ポイント：日本における社会科教育の展開（第1次改訂～第8次改訂の内容）を理解する。＜テキストpp. 6 - 14＞】
3	小学校社会科学習指導要領の特徴①【学習ポイント：学習指導要領改訂の基本的方向性を理解する。＜テキストpp.16-17＞】
4	小学校社会科学習指導要領の特徴②【学習ポイント：改訂のポイント、教科目標、各学年の目標、内容と内容の取扱いを理解する。＜テキストpp.18-24＞】
5	授業づくりの方法・技術と理論①【学習ポイント：授業づくりのプロセスと社会科の目標を理解する。＜テキストpp.36-42＞】
6	授業づくりの方法・技術と理論②【学習ポイント：社会科の学習過程について、基本的なことを理解する。＜テキストpp.43-45＞】
7	授業づくりの方法・技術と理論③【学習ポイント：学習形態、指導技術について理解する。＜テキストpp.46-51＞】
8	各分野の学習指導の展開【学習ポイント：社会科学習指導の基盤について理解する。地理的内容や歴史的内容、公民的内容の学習指導のあり方を理解する。＜テキストpp.52-65＞】
9	指導計画と学習指導案①【学習ポイント：年間指導計画について理解する。＜テキストpp.66-69＞】
10	指導計画と学習指導案②【学習ポイント：学習指導案の作成について理解する。＜テキストpp.70-79＞】
11	評価の理論と方法①【学習ポイント：評価の意義と種類を理解する。＜テキストpp.80-81＞】
12	評価の理論と方法②【学習ポイント：学習指導要領と評価について理解する。＜テキストpp.82-84＞】
13	評価の理論と方法③【学習ポイント：評価の方法について理解する。＜テキストpp.85-90＞】
14	授業づくりの実践【学習ポイント：小学校の実践例から具体的な授業づくりについて理解する。＜テキストpp.92-115＞】
15	授業づくりの実践【学習ポイント：中学校の実践例を通して、小・中学校社会科学習の接続について理解する。＜テキストpp.116-133＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1 課題

評価の理論と方法について、次の3つの視点から述べなさい。

- ①行う時期により分類される3種類の評価について
- ②指導と評価の一体化について
- ③評価の方法について

第2 課題

テキスト第3部実践編の「小学校の実践」の中から事例を1つ選び、「主体的・対話的で深い学び」を具現化するためのヒントについて論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・どの時期に、どのような評価が適切であるのかを考え、具体的に説明すること。
- ・何のために評価を行うのか分かるような内容であること。
- ・評価の方法について、できる限り具体例を交えて述べること。
- ・学習指導要領で評価がどのように位置づけられているのかを理解しておくこと。
- ・レポートを通して学んだことを今後の授業実践の中でどう活かすのかについても触れると良い。
- ・テキスト第2部第4章「評価の理論と方法」、第3部実践編第1～4節を参考にすること。

第2課題の留意点

- ・テキスト第3部実践編での小学校授業例から興味のある授業1つを選び、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業作りのためのヒント、指針について分析、考察すること。
- ・レポート構成案としては、①まず、選んだ事例（学年・単元名）とその事例を選んだ理由を述べる。②次に、「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業づくりの視点からの分析を行い、③最後にこのレポートから学んだことを今後の自身の教育実践にどう活かすのか具体的に述べると良い。
- ・単に内容をまとめ、感想を述べるだけでなく、テキスト第2部理論編を引用して、理論と実践の結びつきについての考察を記述すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・レポートの作成にあたっては、「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。また、引用文、参考文献の明示を必ず行うこと。
- ・題意を正しく捉え、構成が明確で具体的、かつ論理的に書かれていること。
- ・文献の引用などは適切であるか。それに対して自分の考え・意見など、考察が加えられているか。最後に、題意を受けて教師としての姿勢・考えが明確に結論づけられているか。
- ・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめること。
- ・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気をつけ、読み手を意識して丁寧に作成されていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト全体が出題範囲であるため熟読して理解を深めておくこと。特に、テキスト第1部第2章、第2部第1・3・4章については十分理解しておくこと。
- ・テキストの内容に基づかず、自分の考えばかりを書いても評価しない。テキストの内容を踏まえた上で自分の考えを論じること。
- ・文章全体が長過ぎると、何を言いたいのが分かりにくくなる。小見出しや番号を付けるなどの工夫をし、出来るだけ短い文章にまとめること。

科目修了試験の評価基準

- ・レポートの評価基準に準じる。
- ・設題の趣旨を理解した上で、論理的に記述されていること。設題の趣旨から逸脱し、自分の考えだけを展開しないこと。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字にも気を付けること。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編＜平成29年7月＞』 日本文教出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の^Ⅷ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20013	科目名 [単位数/学習時間]	家庭 [2 単位/90時間]			
テキスト	● 大竹美登利 倉持清美 『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 萌文書林					
ISBN	9784893473097	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26036	
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍					
ISBN	9784487287062	本体価格(円) (2026年1月現在)	156	生協 テキストNo.	26037	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当		山口 香織				
実務経験のある教員による科目		公立高等学校教諭（家庭）				

科目の目的

社会の影響を受けて変化する家族・家庭生活を主たる対象とする家庭科教育の理論について学ぶ。具体的には、小学校家庭科の意義や教科の目標・内容をふまえ、小学校家庭科を指導するために必要な家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境についての知識を理解する。また、家庭科では、実践的・体験的な学習が重視されている。小学校家庭科の学習内容を実際にやってみることで、家庭科が実技科目であることを実感するとともに、実習指導に必要な基礎的な技能の習得を目指す。さらに、これまでの自分の生活を見直し改善することによって、豊かな家庭生活を創造し実践しようとする態度を身につけたい。

到達目標

- ・平成29年告示の『小学校学習指導要領』で示された小学校家庭科の内容および改訂の要点について説明することができる。
- ・現在の子どもの家庭生活の問題点と結び付けて、小学校家庭科で取り上げたい題材を考えることができる。
- ・小学校家庭科を指導するために必要な知識及び技能を身に付けることができる。
- ・調理の基礎や調理実習指導での留意点について考えることができる。
- ・「食育」、「家族・家庭に関する教育」、「消費者教育」が重視されている理由について、現在の社会状況に照らして考えることができる。

学習テーマ

1	学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、小学校家庭科の改訂の趣旨及び要点
2	家庭科の目標と内容、指導計画の作成と内容の取扱い
3	家庭科の歴史と意義＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.10-23＞
4	家族・家庭生活① 家庭生活と家庭の仕事、生活時間＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.24-40＞
5	家族・家庭生活② 家族の現状と心理的機能＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.41-50＞
6	食生活① 食生活の課題と食事の役割、日常食の大切さ＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.51-64＞
7	食生活② 栄養を考えた食事と調理の実際＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.65-81＞
8	食生活③ 調理実習（ゆでる・炒める）
9	衣生活① 衣服の着用と手入れ＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.82-102＞
10	衣生活② 布を用いた製作学習＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.103-122＞
11	衣生活③ 布を用いた製作実習（手縫い教材：並縫い・返し縫い・かがり縫い・ボタン付け）
12	住生活① 住まいの働きと役割、室内環境とその調整＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.123-136＞
13	住生活② 住居の管理＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.137-144＞
14	消費生活・環境① 収入と支出、賢い消費者＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.145-157＞
15	消費生活・環境② 環境に配慮した消費や生活＜テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 pp.158-163＞

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1 課題

米飯（鍋で炊く）、みそ汁（和食のだしをとる）に加え、炒める調理法を用いた簡単なおかず 1 品を組み合わせ、調和のよい一食分の献立を作成し、実際に調理しなさい。そのうえで、以下（1）～（3）についてレポートにまとめなさい。また、レポート最終ページに、完成した料理を正しく配膳した状態が分かる写真を貼付しなさい。

（1）材料と作り方

各料理について、1 人分の材料（分量を明記）と作り方を、調理の工程が分かるように整理して記述すること。

（2）「3 色食品群」による栄養バランスの検討

使用したすべての食材（調味料を除く）を 3 色食品群に分類し、献立全体の栄養バランスについて検討すること。あわせて、不足している点や改善できる点があれば述べる。

（3）小学校家庭科における調理実習の指導について

本課題を小学校家庭科の調理実習として実施することを想定し、食生活への関心を高めること、基礎的な調理技能を身に付けること、安全・衛生への理解を深めること、といった学習のねらいを踏まえた指導上の留意点について具体的に述べる。

第2課題

「B 衣食住の生活」の住生活に関する内容を基に、防災教育の視点を取り入れた小学校家庭科の授業について述べなさい。その際、テキストに示された住生活の学習内容と、防災に関して自ら調べた内容とを関連付けながら、家庭科としてどのような学びが成立するのかが分かるように論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』pp.50-80および『小学校学習指導要領解説 家庭編』『食生活』pp.34-48、「実習の指導」pp.81-83の内容を熟読し、小学校家庭科における調理実習の学習内容と指導上の留意点について理解したうえで課題に取り組むこと。教材については、実際の小学校家庭科の教科書（例えば、参考文献『わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂）を参考にするとよい。
- ・それぞれの材料は1人分の分量を示し、使う食材は合計で5品目以上（調味料を除く）とする。
- ・米飯は鍋で炊き（テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』pp.77-78、小学校家庭科の教科書に詳しく説明してある）、みそ汁は和食の出汁をとること。おかずの調理は炒め物とし、小学生が扱いやすい食品を使って行う。具体的な調理例は、小学校家庭科の教科書を参考にするとよい。また、実際の調理では、小学校家庭科での調理実習指導を想定した内容とすること。
- ・食品群については、すべての食材を分類した上で栄養バランスを検討し、改善点を述べる。
- ・実習の指導は、テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』pp.70-72の「食の安全安心」とテキスト『小学校学習指導要領解説 家庭編』『食生活』pp.34-48を十分に理解し、調理実習を伴う授業を計画するうえで重要となる視点や指導上の留意点について述べる。特に、安全・衛生への配慮、用具や火の取扱い、役割分担や協働的な学習の進め方など、小学校家庭科の調理実習として想定される具体的な指導内容を明記すること。

第2課題の留意点

- ・指定されたテキストを熟読し、住生活分野で育成する資質・能力や学習内容を把握したうえで取り組むこと。
- ・論述にあたっては、テキストに示された住生活の学習内容を根拠として用い、どのような家庭科の目標や内容に基づいて授業が構成されているのかが分かるように記述すること。単なる防災知識の紹介や一般論に終始しないよう留意すること。
- ・防災教育に関する内容については、テキストに記載されていない事項も含め、自ら調べた情報を用いてよい。ただし、それらの内容を家庭科の学習としてどのように位置付け、どのような学びにつなげるのかが明確にすること。
- ・防災に関して調べた内容については、必ず出典を明記すること（書籍、ウェブサイト、報告書等）。
- ・授業について述べる際は、小学校家庭科の授業として成立する根拠が分かるようにすること。具体的には、住生活の学習内容との関連、児童の生活実態や発達段階との関係、家庭科で扱うことの意義などを踏まえて論じること。
- ・レポート作成にあたり、テキストや関連図書、インターネット上の授業実践例等を参考にしてもよいが、学習指導案やテキストをそのまま写したものは評価しない。参考にした資料がある場合は、出典および参考にした箇所を明記すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

次の9点を評価基準とする。

- ・2冊のテキストを精読の上で、参考文献などの情報を吟味して課題に取り組み論述している。
- ・課題の意図を的確に捉え、必要な内容を過不足なく述べている。
- ・目標や内容、教材に求められる要件など、正しく理解していること。
- ・調理実習の指導に必要な基本的な知識・技能を有しているか、また、指導上の留意点をおさえているかについて評価する。
- ・論旨をつかみ、レポート形式に従って、自分の考えを的確かつ筋道を立ててまとめている。
- ・文書構成、図や表等を用いた表現力など、見やすさや伝わりやすさを評価する。
- ・2,000字程度の文字数で、主語と述語の関係などに留意し、誤字脱字がなく、また適切な文章表現ができていることを評価する。
- ・テキストの文言やインターネット等にある学習指導案をそのまま写したレポートは評価しない。
- ・参考にした学習指導案や文献がある場合は、出典ならびに参考にした部分を必ず明記すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・解答にあたって問題文を冒頭に述べる必要はない。
- ・作成に際しては、テキスト『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』にまとめられている家庭科全般の知識を、やや専門的な内容まで含めて精読し、深い内容理解に努めること。
- ・授業構想を述べる場合は、小学校家庭科の題材（単元）を具体的な教材として示し、学習指導案（細案）を想定してまとめるものとする。
- ・不明な文章や語句があれば、キーワードを手がかりに辞書や教育関連文献、インターネット等で調査し、自ら理解を深める学習態度が求められる。
- ・答案は800文字以上の分量とし、問いに対して理論と実践（自身の経験や考え）の両側面から具体的に論じること。

科目修了試験の評価基準

テキスト学習により得た基礎的な知識を踏まえたうえで、小学校家庭科の内容と関連づけて作成された答案を評価する。また、設題内容を正確に理解し、自分の経験や感想だけの記述に終わらずに論拠が示されているかどうかを評価する。

答案は、常識的な大きさの文字で書かれ、**800字以上に及んでいること**を前提として評価する。

参考文献

- ・大竹美登利 鈴木真由子 綿引伴子 『小学校家庭科教育法』 建帛社
- ・『新しい家庭 5・6』 東京書籍
- ・『わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20014	科目名 [単位数/学習時間]	体育 [1 単位／45時間]			
テキスト	● 松田恵示 『「遊び」から考える体育の学習指導』 創文企画					
ISBN	9784864130844	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26038	
科目担当		田中 聡				
実務経験のある教員による科目		教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校長				

科目の目的

生涯スポーツの一環であるこれからの小学校体育における学習指導を考える際の重要な点は、「運動の楽しさ・喜びを味わうこと」と「指導内容が確実に定着すること」が、表裏一体として実現することである。本科目では、以上のような体育授業を実践するための基本的な考え方をテキスト第Ⅰ部理論編の精読により理解すること、そして、体育授業における教材作りとその学習指導の在り方の具体について、テキスト第Ⅱ部展開編より学んでいくことを目的とする。

到達目標

- ・ 体育授業が子どもたちにとって主体的な活動になるための原理を理解する。
- ・ 体育授業での教材づくり、場づくりの考え方を理解する。
- ・ 体育授業での学習過程の考え方を理解する。
- ・ 体育授業での「グループ学習」の意味について理解する。

学習テーマ

1	体育になぜ「遊び」の視点が必要なのか【テキスト第Ⅰ部－1＜体育と「遊び」＞を理解する。】
2	体育に対する“思い込み”による認識を疑う【テキスト第Ⅰ部－2＜「ものの見方」と体育の考え方＞を理解する。】
3	「運動の特性」の概念について知る【テキスト第Ⅰ部－3＜「運動の特性」と学習観＞を理解する。】
4	体育における運動教材づくりを考える【テキスト第Ⅰ部－4＜なぜ、子どもにやさしい教材を開発する必要があるのか＞を理解する。】
5	子どもが主体的に活動する教材づくり・場づくりについて【テキスト第Ⅰ部－5＜教材づくり・場づくりを工夫しよう＞を理解する。】
6	子どもが主体的に活動する学習過程について【テキスト第Ⅰ部－6＜「やってみる」「ひろげてみる」「ふかめる」という体育の学習過程＞を理解する。】
7	体育授業と学級経営の関係について考える【テキスト第Ⅰ部－7＜アクティブ・ラーニングと集団づくり・学級経営＞を理解する。】
8	体育授業におけるグループ学習について【テキスト第Ⅰ部－8＜グループ学習の現代的意味＞、9＜グループ学習の考え方・進め方＞を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

全ての子どもが等しく主体的に活動できる体育授業づくりに関する考え方について、「第1課題の留意点」に示される4つの観点により、テキストに記述されている内容をさらにわかりやすく説明、あるいは論評する形で記述しなさい。

第1課題の留意点

レポート作成に関して、次の4点について、テキスト内容を理解した上で説明・論評することとする。

- ①運動を「運動の世界」と捉えることの意味
- ②体育授業における場づくり・教材づくりでの留意点
- ③学習過程（学習のみちすじ）の考え方
- ④体育で子どもの主体性を引き出すために（まとめ）

この上記の①②③の各観点について述べる際には、第Ⅰ部の特に第Ⅰ部1～6の各章で述べられていることを理解した上で、以下のキーワードを必ず入れ、そのキーワードの意味について、テキストの示すところをわかりやすく説明・論評すること。この記述の際、「レポートの評価基準」を熟読すること。

- ①については、「運動の世界」（第Ⅰ部4参照）
 - ②については、「子どもに運動をあわせる」「できるかできないかの面白さ」（第Ⅰ部5参照）
 - ③については、「やってみる」「ひろげてみる」「ふかめる」（第Ⅰ部6参照）
- ※なお、①～③を論述するにあたっては第Ⅰ部1～3の理解も必要になることを補足する。
- ④については、自分の考えを出しつつ、①～③までの趣旨を総括したまとめの文章を作成すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

次の3点をレポートの評価基準とする。

- ・「第1課題の留意点」で示した①～③の各観点についての記述がなされている。
- ・④において、自身の価値観、意見が反映されている。
- ・テキストで示されている各キーワードの概念を正しく理解し、説明・論評されている。

以上の評価基準に満たないレポート（レポートの内容がテキストのほぼ丸写し・抜書き、テキスト内容の理解不足、キーワードが使用されていない、キーワードの概念の理解不足、等）は再提出とする。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験では、「学習テーマ」1～8のいずれかのテーマと、その対象となっているテキストの章を取り上げ、その内容が理解されているかについて問う。テキスト文中での専門的な用語の意味を曖昧にせず、理解できるまで精読しておくことが合格への早道である。テキストは、子どもの運動、遊びといった行為にテキスト著者の価値観が反映された記述になっているので、テキストの内容を知らずに、一般論や受験者個人がその場で考えた内容を解答として記述しても、まず合格はできないと考えてほしい。レポート課題を提出するために読んだところ以外も精読すること。

科目修了試験の評価基準

「学習テーマ」1～8のいずれかを取り上げ、対象となっているテキストの章で述べられている主旨に関する論述問題を出題する。その上で次の観点で評価する。

- ・出題元となっている章全体の趣旨を理解していると判断される文章表現となっていること。

この観点から論述を総合的に判定する。論述文のボリュームは、解答用紙表面の2/3程度以上の記述を目安とする。テキストの内容の理解不足や、テキストの内容を踏まえない自身の感想・意見・主張のみとなっている記述は不合格とする。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年7月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20017	科目名 [単位数/学習時間]	児童心理学〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 櫻井茂男 濱口佳和 向井隆代 『子どものこころ 児童心理学入門 新版』 有斐閣					
ISBN	9784641220119	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	26039	
科目担当		吉田 絵美				
実務経験のある教員による科目		公立学校スクールカウンセラー、心理判定員				

科目の目的

児童心理学は、生得的要因と環境的要因という2つの要因を取り上げて研究を進めている。担当者も日々のスクールカウンセリングのなかで実践しているが、この2つの要因が如何にして子どもの生理的・心理的発達に影響するかを理解することは必須である。この考え方をもとに、育児や教育において先生や親が陥りやすい失敗や困難を知り、それを克服するための知識と技能を提供するのが児童心理学の目的である。

到達目標

子どものとらえ方や子どもの時代の特徴等を理解し、まずは子どもに対するイメージを豊かにすること。次いで、身体と運動・ことば・知性・動機づけ・感情・パーソナリティ・人間関係・思いやり・性の問題等、子どもの心身の発達の基礎を学習し理解する。その上で、学校のみならず家庭でも起こりうる、子どもの心理臨床的問題やその対処法についても広く学び修めることを目標とする。

学習テーマ

1	子どもをどうとらえるのか【学習のポイント：児童期の発達特徴や発達の原理を学ぶ。】
2	現代に生きる子どもたち【学習のポイント：現代の子どもを取り巻く状況とその影響を考える。】
3	からだと運動の発達【学習のポイント：発達加速現象と運動能力の不整合やストレスを考える。】
4	ことばの発達【学習のポイント：書きことばと作文能力の発達を中心に学ぶ。】
5	知的能力の発達【学習のポイント：知能・思考・創造性・学力について考える。】
6	認知と思考の発達【学習のポイント：記憶した情報をもとに思考していく力の仕組みを学ぶ。】
7	動機づけの発達【学習のポイント：人はどのようにして“やる気”ないし“無気力”を得るか。】
8	自己概念とパーソナリティの発達【学習のポイント：“自分とは何か”の芽生えを考える。】
9	人間関係の発達【学習のポイント：親子関係（愛着）から展開する対人関係の広がりを学ぶ。】
10	社会性の発達【学習のポイント：向社会的行動の発達とそれを支える要因について学ぶ。】
11	性の発達【学習のポイント：性同一性と性役割の発達について考える。】
12	子どもの心理臨床【学習のポイント：子どもや保護者、そして周辺への援助について考える。】
13	不登校と非行といじめ【学習のポイント：子どもの不適応行動のメカニズム理解を深める。】
14	児童虐待とPTSD【学習のポイント：環境要因から子どもに与えられる重篤な傷を理解する。】
15	神経発達障害【学習のポイント：一人ひとりのもつ発達のかたよりを正しく理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

子どもの思考の発達について詳述せよ。

第2課題

愛着の発達について詳述せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストを中心によく学習し、思考の発達を概観することが求められる。また、言語と思考の発達は密接に関係していることにも留意してまとめること。

第2課題の留意点

テキストを中心によく学習し、愛着の発達に関する知識と理解を十分得たうえでまとめること。また、不安定愛着をもつ子どもへの適切なサポートについても考察すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の4点を評価基準とする。

- ・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
- ・自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
- ・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
- ・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストを中心に学習を進め、子どもの発達に関する理解を深める。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。特に、テキスト第1章「子どもをどうとらえるのか」、第3章「いつもビリはいやだ」、第7章「なんで『やる気』が出ないの」、第12章「どんな心理臨床があるのか」、第13章「学校に行けない」に紹介されている知識は必ず習得すること。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
- ・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20018	科目名 [単位数/学習時間]	幼児心理学〔2単位／90時間〕			
テキスト	●岡本夏木『幼児期 子どもは世界をどうつかむか』岩波書店					
ISBN	9784004309499	本体価格(円) (2026年1月現在)	880	生協 テキストNo.	26040	
科目担当		吉田 絵美				
実務経験のある教員による科目		公立学校スクールカウンセラー、心理判定員				

科目の目的

現代の子どもは、社会の情報化と能力主義を反映して「何でも一人で早くできること」をより求められるようになった。スクールカウンセリングを行うなかで、定型外の発達や問題行動について考えるとき、まずは定型発達を理解することが必須であることを日々実感している。本科目では「しつけ」「あそび」「表現」「ことば」の4つを取り上げる。子どもが自分を取り巻く世界に踏み出すための発達の基礎が幼児期にこそ培われることを理解し、その理論と実践を習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- これからの社会を生きていく子どもにとって、幼児期に何を育てておくことが必要か。その答えを「しつけ」「あそび」「表現」「ことば」の4つの観点から理解する。
- ①「しつけ」では、規範の教え込みとしてだけ見るのではなく、「自己実現」と「他者の関与」という生きる基本として、「しつけ」の意味を理解する。
 - ②「あそび」では、現実社会への適応準備のみが強調されてはいるが、あそび本来の性質をどう取り戻すかに焦点を当てて学ぶ。
 - ③「表現」では、今日、自己表現ができない子どもが増えているが、幼児期からの「表現」ということが人間にとって持つ意味を学ぶ。
 - ④「ことば」では、現在の大人社会でも「ことば」の問題を抱えている。その原因の1つとして、幼児期における言語教育を検証する。

学習テーマ

1	「しつけ」再考【学習のポイント：しつけのもつ本来的な意味を問い直す意義を考える。】
2	「自己の実現」と「他者の関与」【学習のポイント：しつけのあり方を見直す必要性を理解する。】
3	愛する者と生きる【学習のポイント：しつけの基盤となる愛着関係の重要性を理解する。】
4	しつけと知的発達【学習のポイント：しつけの中で獲得する知的能力を学ぶ。】
5	遊びと発達【学習のポイント：遊びと諸機能発達の相互作用について考えを深める。】
6	遊びの身体性【学習のポイント：子どもが世界を掴む出発点としての遊びと身体性を理解する。】
7	象徴遊び【学習のポイント：象徴機能と言語の発達をもとに展開される遊びについて学ぶ。】
8	遊びの中のルール【学習のポイント：“遊びの倫理”の獲得とそれを遵守した遊びの重要性を学ぶ。】
9	遊びと文化【学習のポイント：幼児期における子どもの遊びと文化、大人の関与の影響性を考える。】
10	生きる証しとしての表現【学習のポイント：子どもの個性を育む表現と自己表現について学ぶ。】
11	表現の過程と表現されたもの【学習のポイント：表現されるまでの内的過程と表現後の自己変容。】
12	イメージと表現【学習のポイント：概念化と柔軟なイメージ及び表現性発揮の両立を考える。】
13	行動とことば【学習のポイント：ことばと行動の循環について理解を深める。】
14	自分に向けてのことば【学習のポイント：自己の発達と自分に向かうことばの影響を考える。】
15	出来事の意味づけ【学習のポイント：ことばの発達と物語化の重要性を学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

幼児期における「象徴遊び」について論述しなさい。

第2課題

幼児期における「行動とことば」について論述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストⅡ章3節「なぜ『遊び』かー象徴遊び」を熟読してから論述しなさい。

第2課題の留意点

テキストⅣ章1節「なぜ『ことば』かー行動とことば」を熟読してから論述しなさい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の4点を評価基準とする。

- ・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
- ・自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
- ・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
- ・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストを中心に学習を進め、幼児の発達に関する理解を深める。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成をもって論述すること。また、幼児期における以下の発達を十分理解しておくこと。

テキストの「『しつけ』再考」（Ⅰ章1節）、「愛する者と生きる」（Ⅰ章3節）、「遊びと発達」（Ⅱ章1節）、「遊びの身体性」（Ⅱ章2節）、「生きる証しとしての表現」（Ⅲ章1節）、「出来事の意味づけ」（Ⅳ章4節）。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
- ・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20019	科目名 [単位数/学習時間]	学習心理学 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 多鹿秀継 『学習心理学の最先端 学びのしくみを科学する』 あいり出版					
ISBN	9784901903042	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,900	生協 テキストNo.	26041	
科目担当		小川内 哲生				

科目の目的

一昔前の学習心理学は、ネズミ（あるいは他の小動物）の行動の仕組みを明らかにし、その行動（学習）過程を包括的に説明する理論を打ちたてようとしていた。今日では、学習心理学のとらえ方が一変し、認知心理学を始めとする多様な視点から、様々な学習過程の特徴を理解するようになった。本科目では、古典的な学習心理学から学校における学習まで、学習心理学を幅広く学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から学習を捉えていくことを目的とする。

到達目標

学習の定義として、（１）経験による比較的永続的な行動の変容（最も古い定義）、（２）経験による知識の獲得過程（やや古い定義）、（３）経験による知識の構成過程（最近の定義）、などが知られている。テキストは、学習の古典的な研究（動物の学習）、動機づけ、記憶、思考、学校学習、コンピュータ利用の学習などで構成されている。中には、比較的最近になって研究が進化した教育実践と結びついた学習の領域も含まれている。学習の理解を広めるものとして、様々な領域に関係する学習心理学を理解する。

学習テーマ

1	学習の概念について【学習のポイント：学習心理学における学習の概念を理解する。】
2	学習の理論について【学習のポイント：学習の基本的な理論を理解する。】
3	連合説による動物の学習【学習のポイント：動物の学習を説明する行動主義心理学を理解する。】
4	認知説による動物の学習【学習のポイント：動物の学習を説明する認知心理学を理解する。】
5	学習の方法について【学習のポイント：学習曲線と学習方法を理解する。】
6	学習の転移について【学習のポイント：学習の転移の概念と規定要因を理解する。】
7	学習と動機づけ【学習のポイント：動機づけの理論と特徴を理解する。】
8	記憶について【学習のポイント：記憶の研究を理解する。】
9	思考について【学習のポイント：思考の中で、問題解決と推理を理解する。】
10	読解について【学習のポイント：読み書きの心理学を理解する。】
11	数概念について【学習のポイント：数概念を理解する。】
12	熟達者の学習について【学習のポイント：熟達者と初學者の対比を通して、知識の獲得を理解する。】
13	授業の学習心理学について【学習のポイント：授業の諸理論を理解する。】
14	コンピュータと学習について【学習のポイント：学習におけるコンピュータ利用を理解する。】
15	学習障害について【学習のポイント：学習障害の概念を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

外発的動機づけ、内発的動機づけとは何かについてそれぞれ説明するとともに、学習への動機づけを育むために教師はどのように児童生徒と関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

第2課題

プログラム学習、発見学習、有意味受容学習、バズ学習とは何かについてそれぞれ説明するとともに、児童生徒が意欲を持ち、一人ひとりが理解できるような授業を展開するために教師が工夫すべき点としてどのようなことが挙げられるか、自分の考えを簡潔にまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第5章「動機づけと学習」pp.50-61や参考文献等を参考にしてまとめると良い。それを基にして教師の立場から子どもの学習への動機づけを育むにはどうすれば良いかについて、テキスト等の丸写しではなく必ず自分の言葉でまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第12章「授業における学習理論」の2.授業における学習理論（学習指導法）pp.134-141を参考にしてまとめると良い。それを参考にして教師の立場からより良い授業を実践するために教師が工夫すべき点を自分の言葉でまとめること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

- A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
- B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
- C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
- D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。特に第1章、第3章、第5章、第6章、第7章、第8章、第12章、第14章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

- A：設題に適切に解答している。
- B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
- C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
- D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献**第1 課題の参考文献**

- ・伊藤崇達 『やる気を育む心理学』 北樹出版
- ・中谷素之 『学ぶ意欲を育てる人間関係づくりー動機づけの教育心理学ー』 金子書房
- ・上淵寿 大芦治 『新 動機づけ研究の最前線』 北大路書房

第2 課題の参考文献

- ・伊藤康児 榎本博明 藤森進 『教育に生かす心理学』 北大路書房
- ・多鹿秀継 竹内謙彰 『発達・学習の心理学』 福村出版
- ・武田明典 『教師と学生が知っておくべき教育心理学』 北樹出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20020	科目名 [単位数/学習時間]	健康心理学〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 荒木紀幸 倉戸ツギオ 『健康とストレス・マネジメント 学校生活と社会生活の充実に向けて』 ナカニシヤ出版					
ISBN	9784888487320	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26042	
科目担当		古川 心				
実務経験のある教員による科目		臨床心理士、公認心理師（保健所や教育機関における発達相談員、スクールカウンセラー、指定大学院附属相談室での臨床心理活動）				

科目の目的

本科目では、指定テキストを中心とした自主的な学修を通して、ウェルビーイング（well-being）とウェルネス（wellness）の観点から心身の健康を理解し、人がよりよく生きるための心理的側面について多面的に学ぶ。ストレスの理論や感情調整、自尊感情、対人関係など、心理的健康に関わる主要テーマについて、学生自身がテキストを読み進めながら理解を深めることを目指す。

また、必要に応じて担当教員の臨床心理士・公認心理師としての実務経験に基づく指導コメント・補足説明を参照しながら、日常生活・家庭・学校・職場などのさまざまな場面に適用できる視点を身につける。加えて、指定テキストにとどまらず、学生自らが関連文献を探索し、探究的に学修を深める態度を育成する。

到達目標

1. ウェルビーイングとウェルネスの概念を理解し、それぞれの特徴を説明できる。
2. ストレスのメカニズムや心理的対処法を理解し、自身の生活や専門性に照らして考察できる。
3. 自尊感情・情動知能・心理教育など、心理的ウェルビーイングを高める主要な概念について整理し、文献をふまえて説明できる。
4. 子どもの心理的健康を支えるための考え方や実践例について、テキストおよび文献を通して理解し、実践例を考察できる。
5. 自立した学修方法（文献探索・引用の基本・レポート作成など）を身につける。

学習テーマ

1	健康心理学とウェルビーイングの基礎理解【学修のポイント：健康心理学とは何か（定義・特徴・他領域との違い）、ウェルビーイングとウェルネスの基本的理解、心理的健康と生活の質（QOL）の現代的意義、社会人・学生自身の生活にどう関係するか考える。テキスト第1章】 【文献探究】ウェルビーイングの定義に関する基本論文・書籍を調べる（例：Seligman、Dodge ら）
2	情動知能（EI）とストレス・マネジメント【学修のポイント：EIの構成要素（自己認識・自己調整・共感性など）、EIがストレス対処に果たす役割、ウェルビーイングを高める心理的スキルとしてのEI、EIを高めるための実践例について学ぶ。テキスト第1章】 【文献探究】EIとウェルビーイングの関連について1つ文献を調べ、要点を整理する。
3	ストレスの認知モデル（ラザルス）と自己理解【学修のポイント：ストレスの定義と評価（一次評価・二次評価）、認知的アプローチがなぜ重要なのか、ストレス反応のメカニズム、自分のストレスパターンを振り返る。テキスト第1章】 【文献探究】認知的ストレス理論の補足文献を探してまとめる。
4	セルフ・エスティーム（自尊感情）とウェルビーイング【学修のポイント：自尊感情とは何か（trait / state の違い）、自尊感情と心理的ウェルビーイングの関連、自尊感情を損なう要因、発達段階に応じた自尊感情の特徴について学ぶ。テキスト第2章】 【文献探究】自尊感情とメンタルヘルスの関連論文を読む。
5	自尊感情を育てる心理教育の視点【学修のポイント：自尊感情育成プログラムの構造、効果と限界、教育現場・家庭・職場での応用、SEL（社会情動的学習）との関連性について学ぶ。テキスト第2章】 【文献探究】国内外のSEL（社会情動的学習）プログラム例を調べる。
6	攻撃性・衝動性の理解と心理的安全性【学修のポイント：攻撃性の心理学的要因、衝動性・フラストレーションとの関係、子どもの攻撃行動の背景理解、心理的安全性の確保の重要性について学ぶ。テキスト第3章】 【文献探究】学校現場での攻撃行動支援の研究を探索する。
7	攻撃性適正化教育プログラムの理解【学修のポイント：プログラムの目的と構造、具体的な介入内容（認知・行動・人間関係）、成果と課題、学校教育・対人支援での活用可能性について学ぶ。テキスト第3章】 【文献探究】欧米のアンガーマネジメント教育を比較する。
8	ウェルビーイングとストレス予防（開発的・予防的支援）【学修のポイント：ストレス予防教育の狙い、開発的アプローチと予防的アプローチの違い、子どものウェルビーイングを守る支援の視点、予防教育が家庭・職場にも必要な理由について学ぶ。テキスト第4章】 【文献探究】予防教育に関する文献を探索し、まとめる。
9	ストレスマネジメント技法（基礎）【学修のポイント：呼吸法、リラクゼーション、自律訓練法の基礎理論、技法の目的・適用場面、反応性の高いストレスにどう役立つか、実践する際の注意点について学ぶ。テキスト第4章】 【文献探究】興味のある技法について心理学文献を調べる。
10	ストレスマネジメント技法（応用）【学修のポイント：技法の応用事例（学校・家庭・職場）、技法ごとの効果の違い、自分に合うストレス対処を見つけるプロセス、ウェルビーイングの向上につながる点について学ぶ。テキスト第4章】 【文献探究】技法の応用研究を調べ、自分の生活文脈に応用案を考える。
11	学校生活の充実（ウェルライフ）とウェルビーイング【学修のポイント：ウェルライフ尺度の目的、子どもの学校生活の充実度と心理的健康、年代別の特徴（小・中・高）、生活環境がウェルビーイングに与える影響について学ぶ。テキスト第5章】 【文献探究】尺度研究の基本を理解する。

12	「生きる力」と自尊感情・ストレスマネジメント【学修のポイント：生きる力の構成要素、自尊感情の役割、ストレスマネジメント教育の効果、生きる力とウェルビーイングの関係について学ぶ。テキスト第6章】 【文献探究】「生きる力」概念に関する教育学文献を調べる。
13	職場のメンタルヘルスとウェルビーイング【学修のポイント：職場ストレスの特徴、一次・二次・三次予防の違い、職場の人間関係とウェルビーイング、社会人における予防的視点の重要性について学ぶ。テキスト第7章】 【文献探究】産業保健分野のメンタルヘルス文献を探す。
14	対人ウェルビーイング：アクティブリスニングとアサーション【学修のポイント：傾聴（アクティブリスニング）の基本、アサーションの考え方、対人関係とストレスの関係性、良好な人間関係を築くための心理スキルについて学ぶ。テキスト第7章】 【文献探究】対人関係改善に関する心理学文献を調べる。
15	ストレスとウェルビーイングの総合的理解（学修の統合）【学修のポイント：ストレスの基礎概念の再確認、テキスト全体の総合整理を行う。これまで学んだ内容をふまえて、自分の心の健康や生活を振り返り、「どこがうまくいっているか」「どこを改善したいか」を整理する。自分自身のウェルビーイングを高めるために、できることを考える。テキスト第8章】 【文献探究】自身が一番学びを深めたいテーマを選び、文献レビューを行う。

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

ウェルビーイングを支える心理的要因（自尊感情・情動調整・ストレス評価・対人関係など）のうち、ひとつを選び、子どもまたは保護者を対象とした支援のあり方について論じなさい。

第2課題

ストレスマネジメント教育の「開発的アプローチ」と「予防的アプローチ」を文献にもとづき比較し、子ども（幼児・児童・生徒）または保護者を対象として、学校または家庭のいずれかの場面でどのように実践できるかを考察しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

以下①②を含めて論述すること。

- ①指定テキストの内容に基づき、選んだ心理的要因の特徴とウェルビーイングとの関係を整理する：テキストの該当章を読み、概念・背景・健康との関連をまとめ、必要に応じて他の基礎文献も参照する。
- ②選んだ心理的要因に関して、自身が調べた文献（実証研究・心理教育の実践報告・専門書など）を1つ以上用いて、支援のあり方を検討する：自尊感情支援、ストレス教育、SEL、情動調整支援など。

第2課題の留意点

以下①②③を含めて論述すること。

- ①指定テキストの内容を使い、ストレスマネジメント教育の目的・意義・基礎技法を整理する：呼吸法、自律訓練法など、認知的ストレス理論、ウェルビーイングとの関係について。
- ②自身が探索した文献から、開発的アプローチと予防的アプローチの違い・長所・課題を比較する：学校の健康教育、SEL、予防的ストレス教育など。
- ③子どもまたは保護者のどちらかを対象に定め、学校または家庭のいずれかの場面で、実際にどのようなストレス支援が可能かを具体的に述べる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

本科目のレポートは、指定された課題について、テキストおよび他の文献・資料から学んだ内容を踏まえ、自分の考察を論理的に展開できているかを中心に評価する。以下の3点を総合的に評価基準とする。

- ①テキストを精読し、他の参考文献にも広くあたった上で、課題に即して論述しているか：指定テキストの内容を正確に理解し、その理論や概念を適切に用いて論述していること。さらに、他の専門文献に必ずあたり、関連する知見を参照しながら、自分なりの分析・考察が展開されていること。課題から逸脱せず、主題に沿った内容であること。
- ②基本的なレポート作法を身につけた上で作成されているか：引用文献を明示し、必要な場合には文中引用や参考文献リストを適切に記載していること。主観的な意見のみに偏らず、文献に基づく客観的な根拠を示しながら論述していること。レポートとしての形式（序論・本論・結論）が整っていること。
- ③誤字脱字がなく、読みやすく整理された文章であるか：誤字脱字がないこと、文のつながりが自然であること。論理的な構成で、読み手に伝わる文章であること。専門用語の使い方が適切であること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

1. テキストを丁寧に読み、内容を深く理解すること。科目修了試験は、指定テキストの理解をもとに記述する形式である。そのため、各章の文章だけでなく、図・表・グラフ、具体的な教材例にも必ず目を通すこと。これらは内容理解を助ける重要な情報であり、流し読みでは対応できない。また、テキストだけで理解が不十分な場合は、他の専門文献にあたることが必須である。通信課程の学修では、自ら調べて理解を深めることが特に求められる。

2. 重要な概念・用語は「説明できるレベル」で理解する。用語の意味だけでなく、関連する研究者名や理論名も整理し、特に、以下の内容についてはしっかり理解しておくこと。ウェルネスとウェルビーイングの違い（第1章）、一次・二次・三次予防の区別（第7章）、自尊感情と「自己肯定感」の違い（第2章）、情動知能の構成要素（第1章）、認知的ストレス理論（一次評価・二次評価）の流れ（第1章）、ウェルライフ尺度の目的と構造（第5章）。
3. 理論と教育現場（子ども・保護者）を結びつけて考えること。本科目では、単に理論を覚えるだけでは不十分となる。子どもの支援にどう活かせるか、保護者支援の実践にどのようにつながるか、教室・家庭で想定される場面でどう応用できるかという視点から、理論と現場を関連づけて理解することが大切である。
4. 答案作成の際には、以下の点を踏まえて記述すること。結論 → 理由 → 具体例 の順でまとめる、専門用語を正しく使う、自身の経験を書きすぎず、テキスト内容を根拠にする、長さよりも論理性と整理された記述を重視する。

科目修了試験の評価基準

1. 設題の内容を正しく理解し、求められている問いに的確に答えていること：出題の意図から外れた内容は、どれほど詳しく書かれていても高評価にはならない。問われている理論・概念・視点に対して、的確に解答することが第一である。
2. テキストに示されている概念・用語の定義を正確に記述していること：健康心理学、ウェルビーイング、自尊感情、情動知能、ストレス理論など、テキストで扱う基礎概念を正しく説明できることが必須である。この基本理解に誤りがある場合は、他の部分が優れていても合格にはならない。正確な基本概念の理解が合格の最低条件である。
3. 論理的にまとめられた文章であること：結論 → 理由 → 具体例 という構成で、読み手に分かりやすい文章になっていること、用語の使い方が適切であり、誤字・脱字のない文章であることを重視する。
4. テキストの内容を踏まえた上で、自分の考察が加えられている場合は評価を上乘せする：テキストの理論をふまえ、子どもや保護者への支援の視点など、自身の考察が適切に書かれている答案は、より高い評価を与える。ただし、自説がどれほど優れていても、テキスト理解が誤っている場合は評価できない。
5. テキスト内容に反する独断や根拠のない一般論は評価しない：基本は、テキストにもとづいた記述 → その上での考察の追加という順番を守ることが重要である。

参考文献

本科目の学修においては、指定テキストの内容を深く理解するとともに、必ず参考文献にもあたって学修を補うことが求められる。健康心理学やウェルビーイング、ストレスマネジメントに関する理論は多面的で、テキストだけでは理解しにくい部分もある。そのため、他の文献を読むことにより、概念の背景や具体的な研究、実践例を確認し、自分の理解を確かなものにしていくことが重要である。

参考文献は、テキストで取り上げられている理論・概念と関連づけて活用すること。特に、ラザルスのストレス理論、自尊感情研究、情動知能（EI）、ウェルビーイング関連研究（PERMAモデルなど）は、多くの専門書や論文が存在する。これらの文献を参照することで、より深い理解が得られ、レポート課題や科目修了試験の記述にも反映される。

通信課程では、自分で資料を探し、読む力がとても大切である。図書館の利用、オンライン学術情報、信頼できる心理学関連書籍などを積極的に活用し、各自が主体的に学修を進めてほしい。参考文献の内容をテキストの理解に照らして整理し、自分の言葉で説明できるようにすることが、本科目における深い学びにつながる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20021	科目名 [単位数/学習時間]	教育臨床心理学 [4単位/180時間]				
テキスト	●伊東真里 大島剛 金山健一 渡邊由己 『ライブラリ読んでわかる心理学 12 読んでわかる臨床心理学』 サイエンス社						
ISBN	9784781915197	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,300	生協 テキストNo.	26043		
科目担当		金山 健一					

科目の目的

「教育臨床心理学」では、現代日本で子どもが抱える、いじめ・不登校・暴力・虐待・自殺など臨床心理学的問題を取り上げる。「教育臨床心理学」では、学校ばかりでなく、福祉・医療との連携による包括的な支援を構築することが必要不可欠となっている。心理的援助ばかりでなく、社会的ニーズに即応して問題に対処できる専門性を高め、予防的な支援の習得を目指している。子どもは幸せになる権利がある。我々、大人・教師・支援者は、学校・地域・社会という生活の中で協力し合い、子どもを共同して育むことが求められる。

「教育臨床心理学」を通して、子どもたちの行動と心理の理解を深め、学校・福祉・医療の連携方法を理解し、教師や子ども支援者としての資質を高めることを目的とする。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

- ・「教育における臨床心理学の役割」では、日本の教育の現状、教育と臨床心理学の立場、文部科学省の動向とSC・SSWの教育への参入について学ぶ。
- ・「教育における心理臨床の方法」では、来談者中心療法・選択理論・ブリーフセラピー・認知行動療法など学校で役に立つカウンセリングを学ぶ。
- ・「教育における心理臨床」では、学級経営・UDL・ピアサポート・PBIS・SEL・情報モラル教育など、最先端の心理臨床を学ぶ。
- ・「福祉と臨床心理学」では、発達の要因・家族的要因・社会的要因へのアセスメントと、児童相談所・児童福祉施設との連携について学ぶ。
- ・「医療と臨床心理学」では、子どもの心理テスト・心理療法・発達・人格形成について学ぶ。
- ・「多職種チームによるケア」では、コンサルテーション・コラボレーションについて学ぶ。

学習テーマ

- | | |
|----|--|
| 1 | 日本の教育の現状【学習のポイント：いじめ・不登校・暴力行為・自殺の現状を理解する。】 |
| 2 | 教育と臨床心理学の立場【学習のポイント：生徒指導・学校教育相談・学校心理学・MLAを理解する。】 |
| 3 | 文部科学省の動向とSC・SSWの教育への参入【学習のポイント：SC・SSWの導入について理解する。】 |
| 4 | カウンセリング・来談者中心療法・選択理論【学習のポイント：カウンセリングの基礎を理解する。】 |
| 5 | ブリーフセラピー・認知行動療法【学習のポイント：効果的なカウンセリング理論を理解する。】 |
| 6 | カウンセリングの流れ・マイクロカウンセリング【学習のポイント：カウンセリングの技法を学ぶ。】 |
| 7 | 教育相談・学級経営【学習のポイント：教育相談の進め方・学級経営の基礎を理解する。】 |
| 8 | UDL・ピアサポート【学習のポイント：学びのユニバーサルデザイン・集団づくりを理解する。】 |
| 9 | PBIS・SEL・情報モラル教育【学習のポイント：最先端の教育プログラムを理解する。】 |
| 10 | 福祉における心理臨床の方法【学習のポイント：発達要因・家族要因・社会要因について理解する。】 |
| 11 | 福祉における心理療法の対応【学習のポイント：児童相談所・児童福祉施設について理解する。】 |
| 12 | 小児科における臨床心理学の役割【学習のポイント：心理査定・遊戯療法・家族療法を理解する。】 |
| 13 | 病院における心理査定に必要な知識・態度【学習のポイント：発達・人格形成・診断基準を理解する。】 |
| 14 | 小児科における臨床心理学の実践【学習のポイント：起立性調節障害と子どもの心理療法を理解する。】 |
| 15 | 多職種チームによるケア【学習のポイント：コンサルテーション・コラボレーションを理解する。】 |

レポートについて

自筆に限る

ワープロソフト使用不可



第1課題

「文部科学省の動向とSC・SSWの教育への参入」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第2課題

「選択理論」「ブリーフセラピー」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第3課題

「ピアサポート」「PBIS」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第4課題

「児童相談所」「児童福祉施設」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章1.3「文部科学省の動向とSC・SSWの教育への参入」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第2課題の留意点

テキスト第2章2.3「選択理論」、2.4「ブリーフセラピー」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第3課題の留意点

テキスト第3章3.4「ピアサポート」、3.5「PBIS」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第4課題の留意点

テキスト第6章6.1「児童相談所」、6.2「児童福祉施設」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践をまとめる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ・情報モラル教育 | (第3章 教育における心理臨床の対応 3.7) |
| ・家庭的要因 | (第5章 福祉における心理臨床の対応 5.3) |
| ・障害児(者)施設および機関 | (第6章 福祉における心理臨床の対応 6.3) |
| ・心理査定・遊戯療法・家族療法 | (第7章 医療における臨床心理学の役割 7.2) |
| ・小児科における心理臨床の実際 | (第9章 病院における心理臨床の対応 9.2) |
| ・多職種チームによるケア | (第12章 高齢者における心理臨床の対応 12.2) |

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

- ・諸富祥彦 金山健一 佐々木掌子 『チャートでわかる カウンセリング・テクニックで高める「教師力」2』 ぎょうせい

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20022	科目名 [単位数/学習時間]	発達心理学〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 中澤潤 『発達心理学の最先端 認知と社会化の発達科学』 あいり出版					
ISBN	9784901903257	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26044	
科目担当		小川内 哲生				
科目の目的						
発達心理学とは、時間的経過にともなって生じる精神（こころ）の変化の特徴を記述し、その背後にある法則性を明らかにする心理学の分野である。最近の発達心理学では、胎児、乳幼児、あるいは高齢者の発達の变化についての研究が精力的に行われ、目覚しい成果が報告されている。本科目では、発達の理論、認知の発達、パーソナリティの発達、あるいは社会性の発達の研究成果など、発達心理学の基本的な研究成果に加えて発達心理学の最新の成果の一端も学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から人間の発達を捉えていくことを目的とする。						
到達目標						
発達心理学の研究では、最近になって、乳幼児の研究と高齢者の研究、並びにヒトの生涯にわたるこころの発達（生涯発達心理学）を視野に入れた研究が精力的になされつつある。テキストでは、これまでの発達心理学で得られた個々の具体的な研究成果や知見だけでなく、発達心理学の最新の成果の一部も学習する。テキストにあるピアジェらの発達理論は、現在でも生きている。発達心理学では、私たちの日常の発達現象と発達研究の具体的な成果とを関連させて理解することで、その背後にある発達理論の理解を深める。						
学習テーマ						
1	発達の概念について【学習のポイント：発達心理学における発達の概念を理解する。】					
2	発達の研究法について【学習のポイント：発達研究の基本的な方法を理解する。】					
3	認知発達の理論について【学習のポイント：認知発達の理論を理解する。】					
4	精神発達の理論について【学習のポイント：精神発達の理論を理解する。】					
5	胎児期の発達について【学習のポイント：胎児期の心身の発達を理解する。】					
6	乳児期の認知の発達について【学習のポイント：乳児期の認知の発達を理解する。】					
7	乳児期の社会化の発達について【学習のポイント：乳児期の社会化の発達を理解する。】					
8	幼児期の認知の発達について【学習のポイント：幼児期の認知の発達を理解する。】					
9	幼児期の自己と社会化について【学習のポイント：幼児期の自己と社会性の発達を理解する。】					
10	児童期の認知の発達について【学習のポイント：児童期の認知の発達を理解する。】					
11	児童期の自己と社会性の発達について【学習のポイント：児童期の自己と社会性の発達を理解する。】					
12	青年期の認知について【学習のポイント：青年期の認知について理解する。】					
13	青年期の自己と社会性について【学習のポイント：青年期の自己と社会性を理解する。】					
14	成人期の発達について【学習のポイント：成人期の諸機能の発達を理解する。】					
15	老年期の発達について【学習のポイント：老年期の諸機能の発達を理解する。】					
レポートについて						
ワープロソフト 使用可						
第1課題						
幼児期の遊びと社会的発達との関連について説明するとともに、幼児期の子どもにとって遊びとはどのような意味を持つのか自分の考えをまとめなさい。						
第2課題						
発達障害とは何か説明しなさい。また発達障害の子どもへの支援を行うために教師や保育者はどのような点に留意して、発達障害の子どもやその保護者と関われば良いか自分の考えをまとめなさい。						
各課題の留意点						
第1課題の留意点						
幼児期における子どもの遊びと社会的発達についてテキスト第5章や他の文献を参考にして、具体的な研究例を引用、あるいは日常の具体例をあげて説明すること。テキスト第4章にも子どもの遊びについて解説されているので、参考にすること。						
第2課題の留意点						
発達障害の定義と発達障害の子どもとその保護者への支援の在り方について、テキスト第7章や章末の参考図書を参考にして教師の立場から考察し、まとめると良い。						
生成AIの利用について						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

- A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
- B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
- C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
- D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に第1章、第3章、第4章、第5章、第7章、第9章、第10章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもあり。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

- A：設題に適切に解答している。
- B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
- C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
- D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

- ・浅野敬子 丸山真名美 『保育・教育実践のための心理学』 みらい
- ・浜崎隆司 田村隆宏 『やさしく学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版
- ・武藤隆 中坪史典 西山修 『発達心理学』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20023	科目名 [単位数/学習時間]	社会心理学 [2 単位／90時間]				
テキスト	● 辻川典文 阿部晋吾 神原歩 田端拓哉 『ライブラリ読んでわかる心理学 10 読んでわかる社会心理学』 サイエンス社						
ISBN	9784781914886	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26045		
科目担当		辻川 典文					

科目の目的

人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。本科目では、社会心理学の特徴である「社会と個人の相互作用」の中でも、特に「自己認知と他者認知」、「他者に対する行動」、「集団と個人の行動の関係性」の問題を中心に、人間関係の維持・形成過程、集団が個人に及ぼす影響、およびその周辺領域について、社会心理学的観点から考察し、知識を深めていく。

到達目標

自分自身や他者に対する認識、そして対人行動や集団行動といった、社会心理学の中できわめて重要なテーマの知識習得に加え、学問上で得られた知見を現実の社会問題や自己の体験と結びつけて、よりよい社会のあり方や、個人にとって望ましいこれからの生き方について論考することを求める。そのためにも、テキストを通読して社会心理学の全体像をつかむことが必要である。

学習テーマ

1	社会心理学とは【学習のポイント：社会心理学とはどのような学問かについて理解する。】
2	社会の中の自己【学習のポイント：社会との関わり合いの中で、自分自身をどのように認識するか、その傾向を理解する。】
3	自尊感情と動機づけ【学習のポイント：自尊感情とは何か、自尊感情が行動に及ぼす影響について理解する。】
4	態度【学習のポイント：態度の認知的一貫性や説得について理解する。】
5	対人認知【学習のポイント：他者の印象がどのように形成されるかを理解する。】
6	社会的推論【学習のポイント：人の原因帰属や推論の特徴、歪みについて理解する。】
7	対人関係【学習のポイント：対人関係における心理について理解する。】
8	対人魅力・恋愛【学習のポイント：他者に魅力を感じるメカニズムについて理解する。】
9	援助と攻撃①【学習のポイント：援助行動やソーシャルサポートについて理解する。】
10	援助と攻撃②【学習のポイント：攻撃行動について、誘因やメカニズムを理解する。】
11	集団の中での人間関係①【学習のポイント：集団内の人々の行動が、自分自身の行動にどのような影響を及ぼしているかを理解する。】
12	集団の中での人間関係②【学習のポイント：集団内と集団間の人間関係の特徴について理解する。】
13	集団のパフォーマンス【学習のポイント：集団活動の落とし穴やリーダーシップについて理解する。】
14	家族の人間関係【学習のポイント：家族内の様々な人間関係や問題点を理解する。】
15	文化の影響、心の文化差【学習のポイント：人の心理や行動に対する文化の影響について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト 使用可

第1課題

人は他者を助けることもあれば傷つけることもある。本課題では、援助行動と攻撃行動の特徴について説明せよ。なお、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

第2課題

私たちは大きな目標を達成するために集団で活動することが多くある。しかし、単に人々が集まっただけでは良い成果を出せるとは限らない。本課題では、集団でのパフォーマンスの特徴と、リーダーシップについて説明せよ。なお、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

援助行動については、「傍観者効果」や「援助行動の意思決定モデル」、「ソーシャルサポート」に関する内容をもとに説明すること。攻撃行動については「攻撃手掛かり説」「モデリング」「攻撃的な性格」「攻撃の一般モデル」といった内容をもとに説明すること。また、これらの内容を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

第2課題の留意点

他者の存在は様々な形で個人の行動に影響する。集団内での個人の行動について「集団のパフォーマンス」や「集団意思決定」に関するさまざまな研究を踏まえて説明すること。そして、集団活動を成功に導くうえでどのような「リーダーシップ」が必要かを説明すること。また、これらの理論や先行研究を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

レポートの評価基準は次の3点である。1点目は、レポートの基本的な書き方ができているかどうかである。2点目は、課題であげた内容について、「社会心理学的な観点からの説明ができているかどうか」である。3点目は、「テキストで学んだ内容を自身の経験に置き換えて考察できているかどうか」である。単にテキストをまとめるだけでなく、自分の経験と照らし合わせながらレポートの作成にあたってほしい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体が出題範囲であるため、熟読して理解を深めておいてほしい。特に、「自尊感情を維持する仕組み」、「説得的コミュニケーション」、「印象形成する側（見る側）の要因」、「集団間の人間関係」、「家族関係を発達的にとらえる」、「文化の影響を考える時の注意点」に関連する内容については十分理解しておいてほしい。

科目修了試験の評価基準

評価基準は次の2点である。1点目は、テキストをどの程度熟読しているかを判断するため、「設題に関連する社会心理学の専門用語や先行研究をどの程度説明できているか」を重視する。2点目は、専門用語や先行研究の理解度を判断するために、「専門用語や先行研究について、具体例を用いてどの程度説明できるか」を重視する。

参考文献

- ・池上知子 遠藤由美 『グラフィック社会心理学 第3版 Graphic text book』サイエンス社
- ・竹村和久 『公認心理師の基礎と実践 11 社会・集団・家族心理学』遠見書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20024	科目名 [単位数/学習時間]	青年心理学〔2単位／90時間〕			
テキスト	●大野久『シリーズ生涯発達心理学 4 エピソードでつかむ 青年心理学』ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623057375	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26046	
科目担当		山本 千恵				
実務経験のある教員による科目		心理カウンセラー（心療内科、中学校等）				

科目の目的

青年期というのは、子どもから大人へ移行する、その狭間にある大きな変化の時期である。「自分とは何者か」といった問いが芽生え、親子関係や友人関係にも大きな変化が見られるこの時期は、モラトリアムと呼ばれるように猶予期間ではあるものの、不安定で不応を起こしやすい時期と言える。

そこで本科目では、この時期特有の心や体の変化を知り、起こりうる心理的危機についての知見を得ることで、「無事に青年期特有の危機を乗り越え、アイデンティティを確立し、大人として自立するとはどのようなことか」を考える機会として欲しい。実務経験を活かして教授する。

到達目標

エリクソンの漸成発達理論をベースに、「青年期の自我の発達」「青年期の恋愛の発達」「青年期の親子関係」「青年期の友人関係」といった4つのテーマ別に、アイデンティティ確立とは何か、真の自立とは何かについて考えて貰いたい。

学習テーマ

- | | |
|----|--|
| 1 | テキスト序章 青年期を理解する【エリクソンの漸成発達理論を理解する。】 |
| 2 | テキスト序章 青年期の体と心の発達を理解する【体の発達の特徴と、ピアジェの心の発達理論を理解する。】 |
| 3 | テキスト第Ⅰ章 アイデンティティとは何か【アイデンティティについて、その定義を理解する。】 |
| 4 | テキスト第Ⅰ章 アイデンティティ達成とは何か【マーシャのアイデンティティ・ステータスを理解する。】 |
| 5 | テキスト第Ⅱ章 青年期以前の恋愛【青年期以前の「好き」になる傾向、特徴をおさえる。】 |
| 6 | テキスト第Ⅱ章 青年期の恋愛【アイデンティティのための恋愛の特徴をおさえる。】 |
| 7 | テキスト第Ⅱ章 青年期以降の恋愛【アイデンティティ達成後の恋愛の特徴をおさえる。】 |
| 8 | テキスト第Ⅱ章 男女間における恋愛の違い【従来から言われている特徴を踏まえ、近年の傾向もおさえる。】 |
| 9 | テキスト第Ⅲ章 親からの自立【自立とはどういうことか、その定義と近年の傾向を併せて理解する。】 |
| 10 | テキスト第Ⅲ章 親子間の葛藤【親子の葛藤は自立にどの程度、必要か。新旧どちらの理論も習得する。】 |
| 11 | テキスト第Ⅲ章 親子間の対話【オルソンの円環モデルを元に、自立を促す対話とは何かを理解する。】 |
| 12 | テキスト第Ⅲ章 親の発達課題【自立していく子どもを持つ、親が抱える危機をおさえる。】 |
| 13 | テキスト第Ⅲ&Ⅳ章 親子関係と友人関係【親子関係と友人関係の違いをおさえ、友人の特徴を理解する。】 |
| 14 | テキスト第Ⅳ章 友人関係の発達の变化【発達の&男女別に見た友人関係の変化と、近年の特徴をおさえる。】 |
| 15 | テキスト第Ⅳ章 友人関係の形成と孤独感【孤独感が友人関係のあり方になど変化をもたらすのか理解する。】 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

アイデンティティとは何か、アイデンティティ達成とはどういった状態なのかを考察せよ。

第2課題

青年期以前と青年期以後で友人関係に変化はあるか、近年の傾向も加えて考察せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

アイデンティティについてきちんと理解した上で、アイデンティティ・ステータスについて述べること。

第2課題の留意点

発達の見て、友人関係はどのように変化していくのか、一般的な傾向に加え、近年の特徴についても述べること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

テキストの丸写しは不可。課題についての記述は、テキスト中に複数箇所で行き上げられている。それらを自分なりにまとめたレポートであること。なお、テキストだけでなく、参考文献やその他の手持ちの参考書なども盛り込み、より多角的に課題について述べられたレポートであれば、なお素晴らしい。(文献引用の際は、レポートの最後に著者名・書名・出版社名・ページ番号を明示すること。)

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、課題で挙げられたトピックスだけでなく、テキスト全ての内容を把握しておくこと。細かな専門用語や人名を覚えることより、テキストで書かれている内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

設題について、的確な専門用語も交えて論述できていればなお良いが、細かな専門用語は多少あやふやでも、要点がきちんと押さえられていれば合格点となる。たとえ設題について述べられていても、終始自身の体験などからくる個人的感想のみの解答は不合格となる。

参考文献

・丸島令子 日比野英子 『臨床心理学を基本から学ぶ』 北大路書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20025	科目名 [単位数/学習時間]	家族心理学〔2単位／90時間〕				
テキスト	● 相谷登 中村薫 築地典絵 『ライブラリ読んでわかる心理学 14 読んでわかる家族心理学』 サイエンス社						
ISBN	9784781914916	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,300	生協 テキストNo.	26047		
科目担当		金山 健一					

科目の目的

「家族心理学」では、人間にとって家族とは何か、心身の健康に関わる家族システムとは何か、という課題に対する知見を学ぶ事を目的とする。

「家族心理学」は、心理学史上もっとも新しいフロンティアで、家族危機の時代とよばれる1980年代に誕生した心理学の一分野である。個人を家族や社会と切り離すことなく、所属する家族システムや社会システムの一員とみなす。そのシステム内の人と人との関係およびシステム間の関係を重視しつつ、家族への心理的援助を理解し、対人援助者として力量を形成する。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

- ・日本の家族、世界の家族、宗教と家族、国家と家族を理解する。
- ・家族の形成では、対人魅力、好意と愛情、恋愛と配偶者選択、晩婚、非婚を理解する。
- ・家族の発達では、ステップファミリー、きょうだい、親子関係の変遷を理解する。
- ・家族の問題では、家族内暴力、虐待、配偶者間暴力、家族の崩壊を理解する。
- ・家族の理論では、家族へのアプローチ、査定方法、ジェノグラム、家族療法を理解する。
- ・今後の家族関係では、高齢者家族、少子化、国際化を理解する。

学習テーマ

- 1 家族心理学とは何か【学習のポイント：家族心理学の概観を理解する。】
- 2 家族とは何か【学習のポイント：家族の定義、日本・世界の家族、宗教・国家と家族を理解する。】
- 3 家族関係の形成【学習のポイント：対人魅力、好意と愛情、配偶者選択、晩婚、非婚を理解する。】
- 4 家族の発達【学習のポイント：家族の発達、ステップファミリーを理解する。】
- 5 家族関係の問題【学習のポイント：きょうだい関係、親子関係を理解する。】
- 6 家族関係と社会の影響【学習のポイント：社会化、家族関係と非行を理解する。】
- 7 家族内の暴力【学習のポイント：配偶者間暴力、虐待、家庭内暴力を理解する。】
- 8 家族の崩壊【学習のポイント：夫婦関係崩壊、子どもに与える影響を理解する。】
- 9 家族理解の視点・理論【学習のポイント：学際的研究、精神医学、社会学からのアプローチを理解する。】
- 10 家族関係の査定【学習のポイント：査定方法、家族査定、ジェノグラムを理解する。】
- 11 家族関係の変容【学習のポイント：家族システム、家族療法を理解する。】
- 12 高齢者家族【学習のポイント：認知症、老老介護、看取り、孤独死を理解する。】
- 13 これからの家族関係①【学習のポイント：少子化、国際化を理解する。】
- 14 これからの家族関係②【学習のポイント：ハーグ条約、生殖医療、赤ちゃんポストを理解する。】
- 15 家族関係の専門機関【学習のポイント：国の機関、地方公共団体を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

「好意と愛情」「恋愛から配偶者選択へ」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

第2課題

「きょうだいについて」「親子関係の変遷」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3章3.3「好意と愛情」、3.4「恋愛から配偶者選択へ」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

第2課題の留意点

テキスト第5章1.1「きょうだいについて」、5.2「親子関係の変遷」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践を踏まえる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように活用するかを記述する。

- ・家族心理学の特色 (第1章 家族心理学とは何か 1.3)
- ・対人魅力 (第3章 家族関係はどのように形成されるのか 3.2)
- ・社会化 (第6章 家族関係は社会にどのような影響を与えるのか 6.1)
- ・家庭内暴力 (第7章 家族でどのような暴力が生じるのか 7.4)
- ・子どもに与える影響 (第8章 家族関係はどのように崩壊するのか 8.3)
- ・家族査定法の比較 (第10章 家族関係はどのように査定するのか 10.3)

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

- ・インスー・キム・バーグ 『家族支援ハンドブック ソリューション・フォーカスト・アプローチ』 金剛出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20026	科目名 [単位数/学習時間]	教職論 [2 単位/90時間]			
テキスト	● 佐久間裕之 『教職概論 改訂 第2版』 玉川大学出版部					
ISBN	9784472406331	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26048	
科目担当		小坂 明				
実務経験のある教員による科目		公立小学校長				

科目の目的

「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の急速な進歩や変化の中、教員へ求められる教員の資格、研修、学校経営など現状を教育関係法規や文部科学省の答申、メディアの資料を参考にしながら理解する。これを理解した上で、教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と責任感・使命感を高め、「求められる教員の資質能力」について考え、学び、将来は「魅力ある教員」としての基礎になるように、実践的指導力について習得する。

小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
- ・教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
- ・社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
- ・平成29年に公示された「小学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
- ・学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

学習テーマ

- 1 教職の意義① 教職とは何か
- 2 教職の意義② 教員に求められるもの
- 3 教員の職務① 教員の身分
- 4 教員の職務② 教員の服務
- 5 教員養成 教員養成の歴史と現状
- 6 教員資格と教員の採用
- 7 教員の資質能力 求められる資質能力
- 8 教員の研修と教員評価
- 9 教員と学校経営
- 10 専門職としての教職① 令和の日本型教育
- 11 専門職としての教職② 学習指導要領
- 12 専門職としての教職③ 幼稚園教育
- 13 専門職としての教職④ 特別支援教育
- 14 専門職としての教職⑤ 生徒指導と道徳教育
- 15 教職をめぐる新たな諸課題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

教員の職務をめぐる現状と課題についてまとめなさい。

第2課題

「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」と法令で規定されているが、教員が「絶えず研究と修養に努めなければならない」のはなぜか、論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

学校教育は、その担い手の資質能力が大切であるため、「適格な人材の確保」が求められている。この課題に対して、(1) 教員の研究と修養 (2) 教員の分限、懲戒処分 (3) 教員のメンタルヘルス保持の3点から調べて、まとめる。

第2課題の留意点

いつの時代の答申でも教員に必要な素養がまず述べられ、そして、社会の情勢や進歩に対応できる教員像が求められている。そのことを踏まえて、(1) 教員研修の意義 (2) 教員の研修体系 (3) 「令和の日本型学校教育」で求められる教師像の3つの観点を調べて、論じる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・常に「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。
- ・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用なども適切であり、日本語としての表現、表記が的確であること。
- ・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気を付け、丁寧に書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの構成（目的）を参考にして、とりわけ、①教職の意義、②教員の職務、③教員養成、④学習指導要領、⑤教員の資質・能力を中心にまとめておくこと。また、参考文献の『小学校学習指導要領解説 総則編』、『幼稚園教育要領解説』、『生徒指導提要』なども熟読しておく必要がある。さらに、学習指導要領の各教科、教科外の解説書などやその他の教育関係法規、文部科学省等の教育関係の答申も参考にすることも重要である。

科目修了試験の評価基準

- ・レポートの評価基準に準じる。
- ・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用などが適切であり、日本語としての表現、表記も的確であること。さらに、テキストや学習指導要領などを熟読しているか、教育関係法規や答申等についても触れているかを中心に評価する。題意に正対せず、自分の得意領域にすり替える等、経験や体験を羅列して論述しているような答案は、高く評価しない。
- ・誤字脱字に気を付け、丁寧に書かれていること。
- ・設題の内容を正しく理解し、具体的かつ論理的に記述でき、適切な文章表現ができていないこと。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年 7月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編＜平成30年 3月＞』 開隆堂又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編＜平成29年 7月＞』 あかつき教育図書又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『生徒指導提要（令和 4年12月）』 東洋館出版社
- ・文部科学省 『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和 3年 1月26日）』 中央教育審議会答申
- ・法務省 『人権教育・啓発に関する基本計画』 平成14年 3月15日閣議決定（策定）平成23年 4月 1日閣議決定（変更）
- ・今津孝次郎 『教師が育つ条件』 岩波新書
- ・文部科学省 『GIGAスクール構想の実現へ』（リーフレット）
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和 4年12月19日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（令和 6年 8月27日）』 中央教育審議会答申
- ・武田信子 多賀一郎 『教師の育て方』 学事出版
- ・文部科学省 『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和 6年12月25日）』 中央教育審議会諮問

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20027	科目名	幼児教育原理〔2単位／90時間〕				
		[単位数／学習時間]					
テキスト	● 森眞理 猪田裕子 『子どもの権利との対話から学ぶ 保育原理』 北大路書房						
ISBN	9784762833137	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26049	4月刊行予定	
科目担当		森 眞理					
実務経験のある教員による科目		幼稚園教諭（日本・米国）、幼稚園園長（日本）、幼児部・初等部教諭（米国ニューヨーク補習授業校）					

科目の目的

本科目は、「子どもの権利」の保障を根底に、幼児教育・保育の理念や制度、保育者の専門性、遊びと学び、子どもの発達をはじめとする保育の原理を学び、その面白さや奥深さ・意味と意義を探究する。加えて、幼児教育の思想、歴史、海外の実践等から理解を深める。子どもを取り巻く社会・世界の課題を考察することから、子どもの権利の保障、すなわち、子どもの最善の利益を保障する幼児教育について広い視野から考える。国内外における科目担当教員の実務経験を踏まえて、幼児教育の多様性・複雑性とその可能性について教授する。

到達目標

- ・「子どもの権利」を保障する幼児教育・保育の意義について理解する。
- ・保育の意味を理解し、子どもの最善の利益を保障するあり方について深く学ぶ。
- ・幼児教育と家庭、地域、社会、さらに世界との関係性を理解する。
- ・教育制度を学び、教育・保育の法的位置づけの理解を深める。
- ・保育思想を学び、今、求められている子ども観・教育観と実践の関係性を理解する。
- ・教育・保育をめぐる今日の課題を理解し、問題意識を高める。

学習テーマ

1	子どもの権利を保障する保育原理の意義を理解する。【学習のポイント：子どもの権利について学び、幼児教育・保育との関係性について考える。（テキスト序章）】
2	子ども観と保育との関係性、及び子どもの権利を保障する保育について理解する。【学習のポイント：子ども観・保育観・子どもの権利の保障の関係性について理解を深める。（テキスト第1章）】
3	教育・保育の基本法令について理解し、認識を深める。【学習のポイント：日本の教育制度について概観し、理解する。（テキスト第2章）】
4	保育の社会的意義と役割について学び理解する。【学習のポイント：社会全体で子どもを育てる意義、多文化共生の保育のあり方を理解する。（テキスト第3章）】
5	環境を通して行う保育について学び、理解する。【学習のポイント：日本の保育の核である環境の捉え方、保育との関係性について理解を深める。（テキスト第4章）】
6	保育における遊びの意義を理解する。【学習のポイント：遊びの理論家に学び、保育について理解を深める。（テキスト第5章）】
7	子どもの発達と遊び・学びの関係を理解する。【学習のポイント：子どもの発達にふさわしい保育のあり方について理解を深める。（テキスト第5章）】
8	保育内容の形態と展開について学び理解する。【学習のポイント：保育の多様性について理解を深める。（テキスト第6章）】
9	保育の計画・実践記録・評価の関係性について理解する。【学習のポイント：保育計画の意義と子どもの権利の保障につながる記録と評価のあり方について理解を深める。（テキスト第7章）】
10	保育者の役割・働きについて学び、理解する。【学習のポイント：保育者の仕事について理解し当事者意識を高める。（テキスト第8章）】
11	西洋の保育思想と歴史を学び、理解する。【学習のポイント：思想と歴史と保育の関係について理解する。（テキスト第9章）】
12	日本の保育思想と歴史【学習のポイント：日本の保育思想と歴史を理解する。（テキスト第10章）】
13	諸外国の保育について学ぶ。【学習のポイント：諸外国の保育について理解し、保育への理解を深める。（テキスト第11章）】
14	現代の保育の課題について学び理解する。【学習のポイント：ESDとSDGsをはじめ、現代の保育の課題について学ぶ。（テキスト第12章）】
15	世界の動きを概観し、保育のこれからを展望する。【学習のポイント：保育に携わる当事者として、世界の動きを理解し、これからの保育に大切なことを考える。（テキスト第12・終章）】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

現代とこれからの保育を考えるうえで、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）とSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）について理解することが必須である。テキストや文献等をもとに、1）ESDとSDGsの内容についてまとめ、2）世界の動きを鑑みて、足元から保育実践したいこと（保育実践として求められていること）について自分の考えを述べなさい。

第2課題

保育（乳幼児教育）を語る上で、「子ども観」「保育観」と導き出される実践との関係を考えることが欠かせない。1）「子ども観」と「保育観」の意味について述べ、2）子どもの権利を保障する（子どもの最善の利益を保障する）保育実践のあり方について事例を（考えて）記し、さらに自分の考察を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第11章と第12章を中心によく読み、今と未来の時代に求められている保育について考察する。

第2課題の留意点

テキスト序章、第1章、終章をよく読み、乳幼児期における保育において大切なことについて、自分の考えをまとめる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

以下を評価基準とする。

- ・2,000字程度に収まるよう全体の構成を考え、推敲している。
- ・課題が意味することを理解し、テキストを写すことに終始せずに、用語の意味を咀嚼して、自分の考えを表している。
- ・レポートは、構成を考慮する（1.序論：問題の所在・問題提起、レポートの概要、2.本論、3.結論：見出したこと、課題に対する考察）。また、見出しや小見出し（1）～（3）等をつけてまとめる。
- ・他人に読ませることを意識し、必ず読み返してから提出している。
- ・誤字脱字がなく、文章の構成、参考文献提示が適切である。
- ・文献表示等、レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っている。
- ・「である調」「ですます調」が混在していない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキストを熟読し、章ごとに内容を整理し、理解を深めておくこと。
- ・テキストや参考文献から学んだことを根拠にした内容を記述すると同時に、自らの考えを述べるように心掛けること。
- ・答案作成にあたり、誤字脱字に注意し、分量は最低限解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞あること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや用語を文脈に沿って説明しているかどうかを評価する。
- ・テキストの内容を踏まえ、自分の経験やエピソードのみの記述は、解答用紙表面が埋まる程度の記述があったとしても評価の基準を満たしていないと判断する。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20028	科目名 [単位数/学習時間]	初等教育原理 [2単位/90時間]			
テキスト	● 広岡義之 熊田凡子 『新しい教育原理 新版』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623097371	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26050	
科目担当		小川 雄				
科目の目的						
本科目の目的は、教育の思想と歴史、制度を学びながら、教育の理念と方法について知見を深めるところにある。とりわけ、指定したテキストは、教育における信頼の意義や教育を取り巻く諸問題について詳細に記述している。こうした観点からテキストを読み解きながら、教育の本質に様々な視点から迫って、理想とする教師像を具体的に描き出してもらいたい。						
到達目標						
・ 著名な教育思想家の着想や考え方を平易なことばで説明できるようになること。 ・ 現代日本の教育課題を把握できるようになること。 ・ 子どもの学びと発達について理解を深めること。 ・ 信頼の重要性を教育的な観点から説明できるようになること。 ・ テキストや参考文献についての学習から理想の教師像を描き出せるようになること。 ・ 「家庭教育」や「地域教育」の意義と特色を踏まえて、学校が家庭と地域とどのように連携していくかを具体的に提案できるようになること。						
学習テーマ						
1	テキスト「第1章 教育の基本原則」を読む。 以下の問いに答えられるように、教育という営みについてまとめる:①「開発主義」とはどのような教育観か。②「助産術」とはどのような教育法か。③「安全基地」と呼ばれる存在が、なぜ子どもにとって必要であるのか。					
2	テキスト「第2章 成長・学び—教育とは何か」を読む。 以下の問いに答えられるように、「学び」という営みについてまとめる:①「主体的な学び」に求められるのはどのようなことか。②「学びが深まっていく」ためにはなにが必要か。③「主体的な学び」を成立させる授業や教育実践はどのようなものであるべきか。④「授業は出会い」であるとはどういうことか。⑤「学び合う教室」では、誰と誰が学び合い、どのような授業が実践されているか。					
3	テキスト「第3章 西洋の教育制度と思想の歴史」と「第4章 教育学の成立」(第1節)を読む。 以下の問いに答えられるように、各教育思想家の教育思想についてまとめる:①コメニウスが著した『世界図絵』に関して、その教育的な意義はどのようなものか。②ルソーが発見した「子ども」とはどのような存在か。③ルソーは教育に関して「将来準備説」を批判したが、それはなぜか。					
4	テキスト「第4章 教育学の成立」(第2節・第4節)を読む。 以下の問いに答えられるように、教育思想についてまとめる:①ペスタロッチによれば、幼児教育にとって重要であるのはなにか。②ペスタロッチの「生活が陶冶する」とはどのような教育理念か。③フレーベルは幼児教育にどのような貢献をしたか。					
5	テキスト「第4章 教育学の成立」(第5節・第6節)を読む。 以下の問いに答えられるように、教育思想についてまとめる:①「新教育」とはどのような教育か。②デューイの教育思想にとって、「指導」とはどのようなものであるべきか。③デューイとペスタロッチの教育思想を比較し、類似している点と違っている点を明らかにしなさい。					
6	テキスト「第6章 発達(成長)と教育」(第2節)を読む。 以下の問いに答えられるように、信頼の教育的な意義についてまとめる:①教師への暴力の原因がどこにあると広瀬は推測しているか。②子どもたちにはどのような欲求があると広瀬は指摘しているか。③教師が子どもたちに「畏敬の念」をもつとはどういうことであり、それにはどのような意義があるか。					
7	テキスト「第6章 発達(成長)と教育」(第3節・第4節)を読む。 以下の問いに答えられるように、シュタイナーの教育思想についてまとめる:①「模倣」にはどのような教育的な意義があるか。②なぜ、学校教育のなかで信頼関係が必要であるのか。					
8	テキスト「第6章 発達(成長)と教育」(第5節・第6節)を読む。 以下の問いに答えられるようにまとめる:①モンテッソーリの強調する「被包感」にはどのような教育的な意義があるか。②モンテッソーリの言う「秩序」とはどのようなものか。③「教育愛」とはどのようなものか。					
9	テキスト「第8章 学校と子ども・教師」(第2節・第3節)を読む。 以下の問いに答えられるようにまとめる:①学校運営や社会的ニーズを踏まえて求められているのは、どのような教師像か。②現行の学習指導要領で教師に求められているのはどのようなことか。					
10	テキスト「第9章 子どもの成長・生活をめぐる諸問題」(第1節・第2節)を読む。 以下の問いに答えられるようにまとめる:①いじめ加害者と被害者それぞれには、どのような対応が必要か。②引きこもりといじめ・不登校にはどのような関連があるか。					
11	テキスト「第9章 子どもの成長・生活をめぐる諸問題」(第3節・第4節)を読む。 以下の問いに答えられるようにまとめる:①いじめを含めた少年非行に関して、支援する側として持つべき視点はどのようなものか。②虐待はそれを受けた子どもにどのような影響を及ぼすか。③虐待に気がついた場合に、教員がすべきことはなにか。					
12	テキスト「第9章 子どもの成長・生活をめぐる諸問題」(第5節・第6節)を読む。 以下の問いに答えられるようにまとめる:①親の所得格差と教育格差との間にはどのような関連があるか。②ヤングケアラーにはどのような支援が必要とされているか。					

13	テキスト「第10章 家庭と地域の教育」を読む。 以下の問いに応えられるようにまとめる：①家庭にはどのような教育的な意義があるか。②地域社会にはどのような教育的な意義があるか。③家庭と地域にはどのような課題があるか。
14	テキスト「第11章 現代の教育の課題と希望」を読む。 以下の問いに応えられるようにまとめる：①「遊びにおける学び」は多文化尊重にどのように寄与するか。②「管理」にはどのような危険があるか。
15	レポートを作成する。：「各課題の留意点」と「レポートの評価基準」を熟読する。

レポートについて

ワープロソフト 使用可

第1課題

テキストは、信頼の重要性について詳述している。教育のなかで信頼がなぜ必要であるのかを明らかにしながら、児童生徒から信頼される教師になるための工夫や実践を具体的に提案しなさい。すべて合わせて2,000字程度。

第2課題

テキストは、主体的な学びについて詳述している。①このような学びがなぜ必要であるのかを、テキストが取り上げている教育思想家の言説から明らかにしなさい。②そのうえで、学びが主体的になるための工夫や実践を具体的に提案しなさい。すべて合わせて2,000字程度。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第6章の記述がおもに参考になる。ただし、テキストは、この章以外の箇所でも信頼について言及している。たとえば、第1章がそうである。第6章だけではなく、テキスト全体を信頼という観点から読み直してほしい。

第2課題の留意点

①に関して：テキスト第4章の内容をかならず参照すること。また、第6章で取り上げられている思想家の言説も参考になる。どの思想家の言説に着目するかは各自で考えてほしいが、既定文字数が少ないため、複数の思想家を登場させることは難しい。1人か2人ぐらいに絞るとよい。

②に関して：テキスト第2章の内容をかならず参照すること。また、第11章にある教育の課題（たとえば、管理の問題点など）も併せて参照すると、なにを書くべきかがはっきりする。第2章で書かれてある教育実践を参考にしながら、自分が教師だったらどのような授業をするかという問題意識を持って、具体的に提案してほしい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・レポートは「序論」「本論」「結論」の三部構成で作成すること。レポートにそれぞれの見出しが現れていなければならない。この点を守れていないレポートは評価しない。具体的には、以下のとおり。
 - ＜書式＞ 1. 序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
 - 2. 本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
 - 3. 結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したこととどのような意義があるのかを示す。
- ・本論の見出しは、「本論」とするのではなく、自身でふさわしい標題をつけること。
- ・指定された文字数を守ること。指定文字数の9割に達していないレポートは、採点の対象にならない。
- ・引用の作法を守ること。テキストであれ、他の文献であれ、引用した箇所は「」でくくり、出典の情報を明示しなければならない。なお、引用の作法を守っていたとしても、その引用を自分がどのように理解したのかを示していないレポートは、採点の対象にならない。
- ・漢字の書き間違い（誤変換）や言葉の誤用は減点対象である。
- ・論理的に文章が組み立てられていること。「すなわち」、「しかし」、「だから」、「というのは」といった接続詞を駆使して、文章がどのように結びついているのかをはっきりさせる。この点がよく守られているレポートは、高く評価したい。
- ・テキストの記述をまとめたうえで、自分の言葉で批判的に考察したり、論拠を問い直したりして、テキストを深く読み込むようとしているレポートには、高い評価を与えたい。
- ・テキストや参考文献の記述に即して論述を進めること。私見や体験談に終始しているレポートは採点の対象にならない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト全体から満遍なく出題する。
- ・「学習テーマ」に沿った出題をこころがけているので、「学習テーマ」一つひとつに丁寧に取り組んでもらいたい。

科目修了試験の評価基準

- ・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その9割である720字に達していない答案は採点の対象にならない。
- ・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。漢字については、正しい書き順に留意すること。
- ・テキストの内容をふまえていること。個人的な意見の披瀝に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・山田雅彦 『教師のための教育学シリーズ 6 教育課程論 第 2 版』 学文社
- ・石村華代 軽部勝一郎 『教育の歴史と思想 第 2 版』 ミネルヴァ書房
- ・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規 改訂新版』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20031	科目名 [単位数 / 学習時間]	教育社会学 [2 単位 / 90時間]			
テキスト	● 陣内靖彦 穂坂明德 木村敬子 『教育と社会 子ども・学校・教師』 学文社					
ISBN	9784762022579	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26051	
科目担当		間刈 泰尚				

科目の目的

教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。これらの課題について、テキストや指定参考資料だけでなく、必要な資料を収集しレポート課題を作成することで理解を深める。

到達目標

現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的な知識を身につける。

学習テーマ

1	日本の家族と子どもの生活 <テキスト第1章>
2	現代の子育てとその支援 <テキスト第2章>
3	社会の変化と幼児教育 <テキスト第3章>
4	日本の社会と学校① 戦前から戦後へ <テキスト第4章>
5	日本の社会と学校② 戦後の教育改革 <テキスト第4章>
6	カリキュラムと教科書 <テキスト第5章>
7	学校生活の社会学① 学校と学級制度 <テキスト第6章>
8	学校生活の社会学② 学校文化・隠れたカリキュラム <テキスト第6章>
9	消費社会・情報社会と子ども文化① 消費社会と子ども <テキスト第7章>
10	消費社会・情報社会と子ども文化② 子どもとネット社会 <テキスト第7章>
11	日本の社会と教師① 教師のリーダーシップ <テキスト第8章>
12	日本の社会と教師② 教員免許制度と教師の仕事 <テキスト第8章>
13	世界、アジア、日本の教育改革 <テキスト第9章>
14	地域と学校の連携 <参考文献：資料① 文部科学省（中教審第186号）>
15	学校安全への対応 <参考文献：資料② 文部科学省（中教審第199号）>

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

現在、次期学習指導要領改訂に向けた審議が行われているが、その中で「多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程」の実現がポイントの1つになっている。主に義務教育において、この目標を達成するための方策について、憲法の条文を踏まえた上で論じなさい。

第2課題

- 次の2つのテーマから1つを選んで論じなさい。
- 1) 少子化対策と幼児教育の関係について論じなさい。
 - 2) 義務教育段階において生成AIがおよぼす影響について論じなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点
単なるテキストの要約はレポートとは認めないので注意すること。かといって、自由課題ではない以上、全くテキストを参照しないレポートも合格とは認められない。レポートとはテキストの記述をベースに、自分が「考えた」ことを書くものである。他の文献やインターネット上の意見を参考にすることは大歓迎であるが、必ず参考文献としてその情報を明示すること。参考文献リストは指定文字数外とする。

第1課題の留意点

日本国憲法の条文は各自参照すること。その上で、テキスト第4章、第5章および第9章を参考にすること。次期学習指導要領に関する審議内容は文部科学省HPで公開されているが、見つけにくい場合は中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」というキーワードを用いると良い。学校と地域の関連にふれる場合は、参考文献の『資料① 文部科学省（中教審第186号）』もあわせて参照すること。資料の要約に止まらぬよう、テキストの内容と関連付けて論じること。

第2課題の留意点

- 1) テキスト第1章から第3章までの内容を参考にすること。実際に政府が行っている少子化対策については厚生労働省やこども家庭庁、内閣府などのHPなどから各自資料を探すこと。資料の要約だけにとどまらず、必ずテキストの内容とも関連付けて論じること。
- 2) テキスト第6章から第8章までの内容を参考にすること。必要に応じて文科省が出している「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」も参照すること。参考文献の『資料② 文部科学省（中教審第199号）』を資料として加えてもよい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

（1）テキストの内容を正しく理解しているか、（2）その上で独自の視点から記述されているか、（3）文章の構成、誤字、分量などが適切か、（4）正しく文献や資料を参照し、参考文献リストがついているか、の4点から評価を行う。「各課題の留意点」にも書いたが、課題のポイントを外しているもの、テキストの要約しか行っていないもの、テキストを全く参照していないもの、分量が著しく不足しているものは合格としないので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート作成時にテキストの内容をしっかりと理解しておくこと。それとともにテキストに出てくる術語を理解しておくこと。特に、日常的な使用方法と異なる使い方をする術語には注意すること。さらにレポート課題作成を通じて、「自分の経験を相対化する」という思考方法に慣れておいてほしい。重要なのは「自分の頭で考えること」である。

科目修了試験の評価基準

用語説明を20点×2問、記述問題を60点満点としてそれぞれ採点する。用語説明はテキストにあるような内容を把握しているかどうかを基準とする。語感から受ける感想をいくら書いても点数にはならない。記述問題は、設題の理解度を30点満点、内容および構成を20点満点、表記や分量を10点満点として採点する。

参考文献

- ・資料① 文部科学省（中教審第186号）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365761.htm
- ・資料② 文部科学省（中教審第199号）『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1384125.htm

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20032	科目名 [単位数/学習時間]	教育方法論 [2単位/90時間]			
テキスト	● 谷田貝公昭 林邦雄 成田國英 『教職課程シリーズ 6 教育方法論 改訂版』 一藝社					
ISBN	9784863590984	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26052	
科目担当		小川 雄				

科目の目的

平成29年の学習指導要領改訂以来、「主体的・対話的で深い学び」が重要視されている。「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をどう実現するか。学びの質の問い直しである。そうした状況のなかで、教師には、子どもたち自らが意欲的に学ぶ「わかる授業」を構想し実践していく力が求められている。本科目では、こうした動向を念頭におきながら、学校教育における教育理念や目的を現場で実践するための方法論や技術について学ぶことを目的とする。

到達目標

到達目標は、以下の3点である。

- ・学習指導要領の基本的な考え方・構成・内容を理解する。
- ・学習内容、教材研究、子ども理解、指導方法（学習形態）、教育評価についての理解を深める。
- ・基本的な理論とともに、具体的なイメージを伴う授業設計技術を高める。

学習テーマ

1	第1章：教育方法の歴史的概観について①【学習のポイント：19世紀までの教育方法について理解する。】
2	第1章：教育方法の歴史的概観について②【学習のポイント：現代における教育方法について理解する。】
3	第2章：教育方法の基本原理解について【学習のポイント：系統学習と問題解決学習について理解する。とりわけ、系統学習に偏った授業の問題点を把握する。】
4	第3章：現代の教授理論について①【学習のポイント：授業とは何か、授業の構造について理解する。】
5	第3章：現代の教授理論について②【学習のポイント：学力とは何か、学力観の諸相について理解する。】
6	第4章：教育課程について①【学習のポイント：教育課程の意味と編成・展開・評価について理解する。】
7	第4章：教育課程について②【学習のポイント：学習指導要領とは何か、背景・変遷について理解する。】
8	第5章：授業理論と授業の設計①【学習のポイント：授業の類型について理解する。】
9	第5章：授業理論と授業の設計②【学習のポイント：授業の設計、授業の設計の方法について理解する。】
10	第6章：教育情報機器の活用について①【学習のポイント：授業とメディアについて理解する。】
11	第6章：教育情報機器の活用について②【学習のポイント：コンピュータ等ICTの教育活用について理解する。】
12	第7章：放送教育の授業への活用について【学習のポイント：放送教育の役割と展開について理解する。とりわけ、「生きる力」の育成との関連が述べられている箇所に着目する。】
13	第8章：教材教具について【学習のポイント：教材・教具とは何か、教科書の役割と扱いについて理解する。】
14	第9章：生徒指導と教科指導について【学習のポイント：生徒指導に関して、その原理と内容について理解する。】
15	第10章：教育方法と学校・学級経営について【学習のポイント：教育方法と学級経営の関連について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

テキストは、様々な箇所「教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係を育てること」の大切さを説いている。まず、テキストの記述に即してそれがなぜ大切であるのかをまとめよ。その上で、あなたは学校のなかでどのようにして「好ましい人間関係」を醸成するか。具体的に述べよ。すべて合わせて2,000字程度。

第2課題

テキストによれば、系統学習と問題解決学習それぞれの長所を取り入れて豊かな教育活動を展開していくことが望まれる。それぞれの長所をテキストに即して述べながら、教科を一つ取り上げ、二つの学習を両立させた授業を具体的に提案せよ。すべて合わせて2,000字程度。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章、第9章および第10章の記述が参考になる。後半の課題では、「生徒指導」と「各教科の指導」と「学級経営」という三つの観点を意識しながら論述するとよい。また、道徳教育に関する考察も組み込むとよい。

第2課題の留意点

まず、テキスト第2章を熟読し、系統学習と問題解決学習それぞれについて理解を深める。その上で、第3章等を参考にしながら、子どもにどのような学力をつけさせるべきかを考えてほしい。こうした考察を踏まえて、第5章・第6章・第8章・第10章の記述を参考にしながら、授業を具体的に構想すること。テキスト以外の文献も積極的に活用する。後半の課題では、どのような教科でなにを教えるのかを具体的に想定し、それを読み手に示すこと。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・レポートの作成にあたっては、常に「論文・レポートの書き方」を想起し、つぎの形式でまとめること。
【「レポート」に対する知識・理解】
- ＜書式＞
 1. 序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
 2. 本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
 3. 結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことによどのような意義があるのかを示す。
- ・本論の見出しは、「本論」とするのではなく、適切なタイトルをつけること。
- ・まず、題意を正しく捉えているか。課題の意図、背景、題意を明確にする。次に、題意を受けて論が適切に展開されているか。事実・文献の引用などは適切であるか。さらに、それに対して、自分の考え・意見など、考察が加えられているか。最後に、題意を受けて教師としての自分の姿勢・考えが明確に結論付けられているか。【課題に対する知識・理解・実践力】
- ・誤字や脱字に気を付け、丁寧に作成されているか。【教師としての姿勢・構え】
- ・指定した字数を守ること。指定文字数の9割に達していないレポートは評価しない。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキスト全体から満遍なく出題する。
- ・「学習のポイント」に沿った出題をこころがけているので、「学習テーマ」一つひとつに丁寧に取り組んでもらいたい。

科目修了試験の評価基準

- ・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その9割である720字に達していない答案は採点の対象にならない。
- ・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。漢字については、正しい書き順に留意すること。
- ・テキストの内容をふまえていること。個人的な意見の披瀝に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年7月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編＜平成29年7月＞』
あかつき教育図書又は文部科学省HP
- ・一般財団法人総合初等教育研究所 『小学校 新学習指導要領改訂の要点』 文溪堂
- ・多田俊文 『教師養成研究会 教職課程講座5 教育の方法と技術』 学芸図書
- ・田中耕治 『よくわかる授業論 やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』 ミネルヴァ書房
- ・日本教育方法学会 『現代教育方法事典』 図書文化社
- ・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規 改訂新版』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20033	科目名 [単位数/学習時間]	教育課程論（初等）[2単位/90時間]																																	
テキスト	● 広岡義之 『新しい教育課程論概説』 あいり出版																																			
ISBN	9784865550986	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26053																															
科目担当		廣岡 義之																																		
科目の目的 元来、「教育課程」とはカリキュラム、すなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることをめざす。																																				
到達目標 ・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。 ・教育課程の意義と目的について理解する。 ・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。 ・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。																																				
学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>教育課程（カリキュラム）の意味と類型について 【テキスト第1章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>2</td><td>改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標 【テキスト第2章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>3</td><td>教育課程編成の意義および教育目的と目標 【テキスト第3章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>4</td><td>戦後日本の教育課程の変遷① 戦後～昭和40年代 【テキスト第4章第1～第4節を熟読すること。】</td></tr><tr><td>5</td><td>戦後日本の教育課程の変遷② ゆとり教育～現代 【テキスト第4章第5～第8節を熟読すること。】</td></tr><tr><td>6</td><td>2017（平成29）年告示の新学習指導要領の個別具体的な視座から見渡した改訂点の特徴 【テキスト第5章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>7</td><td>2017（平成29）年告示の新学習指導要領改訂における児童の「資質・能力」について 【テキスト第6章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>8</td><td>学習改革について 【テキスト第7章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>9</td><td>2017（平成29）年告示の新学習指導要領とパフォーマンス評価 【テキスト第8章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>10</td><td>「学習評価に関する資料」について 【テキスト第9章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>11</td><td>20世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史 【テキスト第10章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>12</td><td>世界の教育制度・教育課程の改革と動向 【テキスト第11章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>13</td><td>現代における世界の教育課程と教育制度 【テキスト第12章を熟読すること。】</td></tr><tr><td>14</td><td>世界各国の教育課程① 【テキスト第13章第1節～第5節を熟読すること。】</td></tr><tr><td>15</td><td>世界各国の教育課程② 【テキスト第13章第6節～第11節を熟読すること。】</td></tr></table>							1	教育課程（カリキュラム）の意味と類型について 【テキスト第1章を熟読すること。】	2	改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標 【テキスト第2章を熟読すること。】	3	教育課程編成の意義および教育目的と目標 【テキスト第3章を熟読すること。】	4	戦後日本の教育課程の変遷① 戦後～昭和40年代 【テキスト第4章第1～第4節を熟読すること。】	5	戦後日本の教育課程の変遷② ゆとり教育～現代 【テキスト第4章第5～第8節を熟読すること。】	6	2017（平成29）年告示の新学習指導要領の個別具体的な視座から見渡した改訂点の特徴 【テキスト第5章を熟読すること。】	7	2017（平成29）年告示の新学習指導要領改訂における児童の「資質・能力」について 【テキスト第6章を熟読すること。】	8	学習改革について 【テキスト第7章を熟読すること。】	9	2017（平成29）年告示の新学習指導要領とパフォーマンス評価 【テキスト第8章を熟読すること。】	10	「学習評価に関する資料」について 【テキスト第9章を熟読すること。】	11	20世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史 【テキスト第10章を熟読すること。】	12	世界の教育制度・教育課程の改革と動向 【テキスト第11章を熟読すること。】	13	現代における世界の教育課程と教育制度 【テキスト第12章を熟読すること。】	14	世界各国の教育課程① 【テキスト第13章第1節～第5節を熟読すること。】	15	世界各国の教育課程② 【テキスト第13章第6節～第11節を熟読すること。】
1	教育課程（カリキュラム）の意味と類型について 【テキスト第1章を熟読すること。】																																			
2	改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標 【テキスト第2章を熟読すること。】																																			
3	教育課程編成の意義および教育目的と目標 【テキスト第3章を熟読すること。】																																			
4	戦後日本の教育課程の変遷① 戦後～昭和40年代 【テキスト第4章第1～第4節を熟読すること。】																																			
5	戦後日本の教育課程の変遷② ゆとり教育～現代 【テキスト第4章第5～第8節を熟読すること。】																																			
6	2017（平成29）年告示の新学習指導要領の個別具体的な視座から見渡した改訂点の特徴 【テキスト第5章を熟読すること。】																																			
7	2017（平成29）年告示の新学習指導要領改訂における児童の「資質・能力」について 【テキスト第6章を熟読すること。】																																			
8	学習改革について 【テキスト第7章を熟読すること。】																																			
9	2017（平成29）年告示の新学習指導要領とパフォーマンス評価 【テキスト第8章を熟読すること。】																																			
10	「学習評価に関する資料」について 【テキスト第9章を熟読すること。】																																			
11	20世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史 【テキスト第10章を熟読すること。】																																			
12	世界の教育制度・教育課程の改革と動向 【テキスト第11章を熟読すること。】																																			
13	現代における世界の教育課程と教育制度 【テキスト第12章を熟読すること。】																																			
14	世界各国の教育課程① 【テキスト第13章第1節～第5節を熟読すること。】																																			
15	世界各国の教育課程② 【テキスト第13章第6節～第11節を熟読すること。】																																			
レポートについて ワープロソフト 使用可 第1課題 テキスト第1章「教育課程（カリキュラム）の意味と類型」をよく読み、そこに書かれている内容に即しつつ引用を複数用いて論じなさい。 第2課題 テキスト第2章「改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標」をよく読み、そこに書かれている内容に即しつつ引用を複数用いて論じなさい。 各課題の留意点 第1課題の留意点 「教育課程（カリキュラム）の意味と類型」をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、キーワードを核として適切にまとめること。引用を複数用いること。【テキスト第1章を熟読すること。】 第2課題の留意点 「改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標」をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、キーワードを核として適切にまとめること。引用を複数用いること。【テキスト第2章を熟読すること。】 生成AIの利用について レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。																																				

レポートの評価基準

- ・テキストを精読の上で、複数箇所（最低でも 5 個）の引用を用い、課題について論述している。レポートではテキストの内容以外の叙述は不要である。『学習の手引き テキスト履修科目編』冊子の「はじめに」または『科目等履修生要覧』冊子の「テキスト履修科目＜レポート作成・提出＞」の「レポートの書き方の注意事項」を参考に、テキストのページを付記して引用箇所をすべて明示すること。
- ・自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
- ・他人に読ませることを意識して、自分の言葉で丁寧に作成している。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキスト全体をよく読んで理解を深めておくこと。
- ・15回の「学習テーマ」ごとに内容をまとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規 改訂新版』 ミネルヴァ書房
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20034	科目名 [単位数/学習時間]	幼児教育課程論 [2単位/90時間]			
テキスト	●戸江茂博 『シリーズ：新しい時代の保育者養成 保育カリキュラムの基礎理論 教育課程・全体的な計画の学び』 あいり出版					
ISBN	9784865550542	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26054	
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』 チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055	
科目担当		森 眞理				
実務経験のある教員による科目		幼稚園教諭(日本・米国)、幼稚園園長(日本)、幼児部・初等部教諭(米国ニューヨーク補習授業校)				

科目の目的

本科目は、乳幼児教育・保育実践に欠かせない教育課程、すなわちカリキュラムについて学び、理解を深めることから、子どもの最善の利益を保障する乳幼児教育・保育の当事者としての意識を明確化することを目的としている。保育を実践するにあたり、現在、幼稚園では「教育課程」を編成し、保育所と認定こども園では、「全体的な計画」を編成する。本科目(テキスト)では、双方を含めて「保育カリキュラム」と称する。保育カリキュラムの意味と意義を理解することから始め、その歴史的変遷、保育における指導計画の捉え方と内容、小学校教育との連携におけるカリキュラム、そして、実践、及び記録と評価の関係について学び、幼児教育課程についての基礎を理解する。実務経験のある教員による課題に取り組むことから、より幼児教育・保育実践に携わっているとの実践意識を高めたい。

到達目標

本科目の到達目標は、以下の通りである。

- ・教育課程や全体的な計画、すなわち保育カリキュラムの意味と意義を理解する。
- ・子どもの育ちの道(り) (発達) にふさわしい保育カリキュラムの重要性について学ぶ。
- ・保育カリキュラムの構成を学び、乳幼児期にふさわしい保育内容について理解を深める。
- ・教育課程や全体的な計画を具体的な実践計画としてデザインしたものを指導計画という。指導計画の在り方、立て方について学び、その意義について理解する。
- ・評価の根本について学び、評価の意義を理解する。

学習テーマ

1	学びの概要を理解する【学習のポイント：テキストを概観する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』まえがきと全章に目を通す。)】
2	幼児教育・保育の基本【学習のポイント：カリキュラム作成の基礎となる幼児教育・保育の根本について理解する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』1章)】
3	保育カリキュラムについて理解する【学習のポイント：カリキュラム作成と、計画の意義について理解する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章)】
4	保育カリキュラムの歴史的変遷①【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、明治・大正・昭和時代のカリキュラムの変遷について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章)】
5	保育カリキュラムの歴史的変遷②【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、平成年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章)】
6	幼稚園の教育課程の基礎【学習のポイント：幼稚園の教育課程の考え方について理解する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章)】
7	保育所・認定こども園の全体的な計画の基礎【学習のポイント：保育所や認定こども園の全体的な計画の考え方を理解する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章)】
8	保育カリキュラムと指導計画【学習のポイント：教育課程・全体的な計画と指導計画の関係について理解する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章)】
9	0歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：0歳児の育ちと指導計画について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章)】
10	1、2歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：1、2歳児の育ちと指導計画について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章)】
11	3歳以上児の育ちと指導計画【学習のポイント：3、4、5歳児の育ちと指導計画について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章)】
12	さまざまな指導計画【学習のポイント：さまざまな指導計画の考え方と内容について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章)】
13	保育の記録【学習のポイント：保育の記録の重要性と指導計画の関係性を理解する。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章)】
14	保育の評価【学習のポイント：保育の質向上のための評価のあり方について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章)】
15	まとめ【学習のポイント：内容の総括。これからの保育カリキュラムのあり方について学ぶ。(テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章)】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

本科目における1)「保育カリキュラム」の意味(基本的な考え方)について述べ、2)教科カリキュラムと経験カリキュラムを比較し、それぞれの長所と短所について表し、考察を述べなさい。

第2課題

カリキュラム・マネジメントについて、1)その意味を表し、2)保育現場におけるカリキュラム・マネジメントのあり方について、リーダーシップと同僚性について言及し、そのことが実践の向上とどのような関係をもたらすのか、自分の考えを含めて述べなさい。

各課題の留意点

<レポート作成にあたっての文章構成上の留意点>

レポートを書く際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出し・小見出しを付けて分かりやすくすること。

第1課題の留意点

テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の「まえがき」から「1章、2章、3章」を熟読し、保育カリキュラムの意味と意義を把握すること。加えて、保育カリキュラムの捉え方について、参考文献『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』から示唆が与えられるので、一読すること。

第2課題の留意点

カリキュラム・マネジメントの語句の理解にとどまることなく、乳幼児の教育・保育実践におけるカリキュラム・マネジメントの展開(人間関係を含むこと)を考えることが求められる。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』「2章」を中心に、「3章から5章」まで熟読することが欠かせない。参考文献『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を参照して、取り組んでほしい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考えについての確性と具体性を持って表現し記しているか評価する。
- ・次の6点を評価基準とする。
 - ①テキストを精読の上、テキストにある参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
 - ②課題を理解し、留意点についても考慮して記す中で、自分の考えを加味してまとめている。
 - ③他人に読ませることを意識し、丁寧に作成している。(主語述語の関係性の不一致、誤字脱字は減点となる。)
 - ④レポートの書き方(形式)が本学規定に沿っていること。
 - ⑤「である調」「ですます調」が混在していないこと。
 - ⑥文献から引用・参考にする際は、その旨を明記し、本学の表記に準じて表すこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- *科目修了試験への心構えと受験については下記の項目を留意することが肝心である。
 - ・試験問題を丁寧に読み、その趣旨を理解して、キーワードや事項の意味を捉えて正確に説明すること。
 - ・テキストの内容、「科目の目的」と「到達目標」の記載事項を踏まえた上で、自らの経験や自説を展開すること。
 - ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度<1行30字×27行(810字程度)>の記述があること。また、誤字脱字や文法の誤りは減点となる。
 - ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を高く評価し合格に繋がる。基礎的な説明のみでは、半分程度の得点評価となり、自論(問題提起を含む)を記述することで高い評価に近づく。
 - ・自筆の判読が難しい際(例：鉛筆の文字が薄い・誤字脱字)は、不可となることを心得ておくこと。
- *テキストの熟読と科目修了試験との関係性については、下記の項目を留意すること。
 - ・「1章」からは、「教育課程」と「全体的な計画」、すなわち、「保育カリキュラム」の意味とその独自性について理解しておくこと。
 - ・「2章」からは、今日の保育カリキュラムの現状と課題を理解し、問題解決へと一歩踏み出すための施策について、自分なりに考えておくこと。
 - ・「3章」からは、幼稚園・保育所・認定こども園のカリキュラムの基本的編成について、それぞれの教育・保育施設の特性との関係から理解しておくこと。
 - ・「4章」からは、1)0-5歳児の発達の特性と指導計画立案においての留意点について学んでおくこと、加えて、小学校との連携のカリキュラムの重要性について理解し、課題について考えておくこと。
 - ・「5章」からは、子ども理解と記録・評価の関係性について学び、その意義について理解しておくこと。
- *各章の重要な用語については、説明できるように整えておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
- ・筋道を立てて論理的に展開できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
- ・主語・述語の関係を留意した文章であること。改行、改節等に留意していること。
- ・判読可能な丁寧な文字で記していること。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20046	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・国語〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍					
ISBN	9784487287031	本体価格(円) (2026年1月現在)	238	生協 テキストNo.	26028	文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	● 柴田義松 阿部昇 鶴田清司 『あたらしい国語科指導法 七訂版』 学文社					
ISBN	9784762032097	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26027	
テキスト	● 水戸部修治 吉田裕久 『小学校 新学習指導要領の展開 国語編＜平成29年版＞』 明治図書出版					
ISBN	9784183278159	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26056	
科目担当		齋藤 隆彦				
実務経験のある教員による科目		中学校教諭（国語科）				

科目の目的

『小学校学習指導要領 国語』に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成する。学習指導要領を踏まえ、学習指導案を書き、国語科指導を行える教員としての基礎・基本を養うことを目的とする。現場で必要な国語科指導力の基礎を養う。実務経験（教材や教育方法の開発）を活かして教授する。

到達目標

- ・小学校国語科の目標や内容を理解することができる。
- ・国語科の内容の構成、〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕について理解することができる。
- ・小学校国語科の学習評価について、学習目標・内容を整合させて行うことを理解することができる。
- ・教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、付けるべき資質・能力を具体的に捉え、国語科学習指導の概要を作成することができる。

学習テーマ

- 1 『小学校学習指導要領 国語』の目標及び内容の構成や指導事項について理解する。
- 2 『小学校学習指導要領 国語』の〔知識及び技能〕について、その項目と内容を理解する（「書写」含む）。
- 3 『小学校学習指導要領 国語』の〔思考力、判断力、表現力等〕について、その項目と内容を理解する。
- 4 第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕の目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材と授業展開とテキストの内容をつないで理解する。
- 5 第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕の目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 6 第5学年及び第6学年〔知識及び技能〕の目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 7 第1学年及び第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 8 第1学年及び第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕B書くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 9 第1学年及び第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 10 第3学年及び第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 11 第3学年及び第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕B書くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 12 第3学年及び第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 13 第5学年及び第6学年〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 14 第5学年及び第6学年〔思考力、判断力、表現力等〕B書くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
- 15 第5学年及び第6学年〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。

レポートについて

ワープロソフト 使用可

第1課題

第1学年及び第2学年「C読むこと」の授業について、

- ①「C読むこと」では、どのような力をつけるため、どのような指導事項が述べられているか。さらに、第1学年及び第2学年の特徴も説明する。
- ②具体的な指導事例を探し（あるいは自身で作成し）、その教材とその授業展開を説明する。（指導案すべてを書くのではなく、教材の内容と展開の内容がわかる説明でよい。）
- ③その指導事例がどのような力をつけるのか、どのような指導事項を踏まえているのか、①と②のつながりを述べなさい。

上記①、③において、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年7月＞』『指導事項』『言語活動例』と『あたらしい国語科指導法』『小学校新学習指導要領の展開 国語編』の内容を引用として取り入れて説明すること。さらに、別の資料を追加して「C読むこと」でつけるべき力を詳しく述べることも推奨する。

なお、授業の展開例を文献やWebから引用する際には必ず「引用文献」として情報を明示すること。引用文献の提示については、要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」を参照すること。

第2課題

第5学年及び第6学年「B書くこと」の授業の展開例を探し（あるいは、あなた自身で作成し）、

- ①「B書くこと」では、どのような力をつけるため、どのような指導事項が述べられているか。さらに、第5学年及び第6学年の特徴も説明する。
- ②具体的な指導事例を取りあげ、その教材とその授業展開を説明する。（指導案すべてを書くのではなく、教材の内容と展開の内容がわかる説明でよい。）
- ③その指導事例がどのような力をつけるのか、つまり、①と②のつながりを述べなさい。

上記①、③において、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年7月＞』『指導事項』『言語活動例』と『あたらしい国語科指導法』『小学校新学習指導要領の展開 国語編』の内容を引用として取り入れて説明すること。さらに、別の資料を追加して「B書くこと」でつけるべき力を詳しく述べることも推奨する。

なお、授業の展開例を文献やWebから引用する際には必ず「引用文献」として情報を明示すること。引用文献の提示については、要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」を参照すること。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

国語科でつける学力を理解し、その方法（授業づくり）につなぐ課題である。

- ・まずは『学習指導要領』でめざす学力を理解すること。また、テキスト『あたらしい国語科指導法』『小学校新学習指導要領の展開 国語編』も熟読し、『学習指導要領』がめざす学力の理解を深め、また、別の角度からも理解を深めることを心がけること。
- ・①の力を育成する教材と実践を文献やWebで探し（あるいは自身で作成し）、教材と授業展開のおおよそをそれぞれ書く（手元にその資料がない読み手にも内容がわかるように）。
- ・②の教材と授業展開と①の関わりを③説明する。「○○の活動は、○○の力をつけるために、指導事項の○○について、○○、○○のように実践され、工夫されている」など。
- ・授業の展開例を文献やWebから引用する際には必ず「引用文献」として情報を明示すること。引用文献の提示については、要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」を参照すること。
- ・自身の授業力をたかめることが一番の目標なので、テキストや参考文献を熟読し、さらに別の資料も探し、理解を深める。教材と授業展開もいろいろ調べて適したものを選ぶようにすると、すでにつながりが意識されているので、③が書きやすい。
- ・テキストその他からの記述はすべて引用として示すこと。「引用がない」「引用情報が不足している」場合、不合格とする。学習を重ねていることがそれで示される。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

なお、生成AIを利用した場合は、レポートの末尾にその方法と程度を簡潔に記しておくこと。（例：「全部を書き終えた後チャットGPTを用いて文章を整えた」「課題にそった資料収集において生成AIを用いたが、文章作成は自身で行った」など。）

レポートの評価基準

<構成について>

レポートの作成にあたっては、次の構成にすること。（レポートの書き方も習熟する。）

1. 序論 このレポートで何を明らかにするか、つまり、「問い」を明らかにする。
2. 本論 「問い」にそって内容を展開する。問いを解明していく。
3. 結論 本論によって解明された「問い」の「答え」を簡潔に明らかに示す。感想や展望といったことは、この「答え」の後にこれも簡潔に示す。
4. 引用文献 テキストもここに挙げる（ページなども明記）。
5. 各課題ともに、3冊のテキスト、さらに他の資料など加えるなどして、しっかり調べ、理解を深めているか。
6. 課題にふさわしい「教材と授業展開」を探して（あるいは、自分で作成して）いるか。
7. ①②③がちゃんとつながられているか。説明がわかりやすいか。

<引用について>

文献等の引用はとても大切である。適切に引用の仕方を学ぶこと。(要覧・手引き等で示す「レポートの書き方の注意事項」を参照。)

本課題では、「理解しているか」「理解するためにいろいろと見渡しているか」の確認に比重をおいている。よって、「あなたのオリジナルの知見」といったことは求めている。ただし、どこかの文献の丸写しでは、「あなたが理解しているか」「理解しようとしていろいろと見渡したか」の確認ができない。自身で、読み込み調べ、「問い」をきちんと「答える」ために、引用を的確に使い、また、それらの知見を「どこから引用したか」正確に記すこと。また、本レポートでは、「参考文献」としてテキスト名を挙げるだけで、どこにどう生かされているのかわからない場合は、「文献を用いた考察」とは認めない。あくまで、「テキスト履修」の成果を見たいのであるから、考察に用いた箇所は「引用」として明示すること。

<字数について>

1,800字から2,000字とする。

<文章について>

他人に読ませることを意識して、「読みやすい」文章にすること。そのためには、下書きが大事である。論が通っているか、的確に「問い」に答えているかを確認し、また、文が長すぎないか、段落が内容によって区切られているか、なども意識すること。

<【自筆の場合】文字について>

他人に読ませることを意識して丁寧に清書していること。漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。特に、将来国語を教えるための科目でもあるので、くせ字などにも注意すること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

まずは、「学習テーマ」にそって学習を進めること。それが、「科目修了試験」対策であり、「国語科の授業力」をつける王道である。具体的には、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年7月＞』と他テキストを読み込み、「学習テーマ」それぞれの回の内容を理解すること。各学年の指導事項と言語活動の関係を考える。また、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年7月＞』の学年ごとの〔知識及び技能〕の内容と〔思考力、判断力、表現力等〕の内容を理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の分野で何が求められているか事前に深めることが大切である。そして、pp.153-169の配慮事項は指導計画作成や日々の授業で必要なことなので、理解し活用できるようにすること。

〔知識及び技能〕の内容や〔思考力、判断力、表現力等〕の内容の理解不足が散見される。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年7月＞』とその他のテキスト等を読んで、〔知識及び技能〕の内容と〔思考力、判断力、表現力等〕の内容を学年ごとにまとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・ レポートの評価基準に準じる。
- ・ 設題の意図、背景、題意を明確にし、題意を正しくとらえているか。具体例を取り上げ、考察を加えながら論を適切に展開しているか。さらに、3冊のテキストを熟読しているか。3冊のテキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自説を記述しても評価しない。
- ・ 誤字脱字に気を付け、丁寧に記述されているか。
- ・ 設題の内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

指定テキスト以外に、以下の文献も理解を深めるのに役立つ。

- ・ 田近洵一 大熊徹 塚田泰彦 『小学校 国語科授業研究』 教育出版
- ・ 鶴田清司 河野順子 『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 小学校編』 明治図書出版
- ・ 浜本純逸 『国語科教育総論』 溪水社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20047	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・社会〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 澤井陽介 中田正弘 『実践・小学校社会科指導法』 学文社					
ISBN	9784762030604	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,300	生協 テキストNo.	26057	
科目担当		「親和通信」で連絡				
実務経験のある教員による科目		公立学校管理職・教諭（社会）、教育委員会指導主事				

科目の目的

社会科教育の理念や歴史、学習指導要領の目標・内容等について理解するとともに、授業づくりの工夫や様々な実践事例に触れることを通して、「これから求められる社会科授業」を構想・実践していく技量の育成をめざす。また、公立学校での授業経験や教育委員会での実務経験を活かして教授し、学校現場で直ぐに使える実践的な指導法が身に付くことをめざす。

到達目標

社会科教育について理解を深め、小学校で社会科の授業が実践できる知識や技能が身に付くよう、次の3点の目標達成をめざす。

- ①社会科教育の目標や内容構成、問題解決的な学習過程の充実や学習評価の方法、学習指導案の作成など授業づくりの基本的な考え方を理解している。
- ②学習活動の工夫や発問と指示、資料や地図帳、情報機器の活用など実践的な授業手法を身に付けている。
- ③教材作成の手順やこれからの授業づくりの在り方などについて理解している。

学習テーマ

1	社会科が目指すもの【社会科を学ぶ意義、学習指導要領の変遷を理解する。】
2	社会科の目標と内容【学習指導要領の目標・内容と地理・歴史・公民各分野の内容構成を理解する。】
3	問題解決的な学習過程【問題解決的な学習を意識した授業づくりの方法について理解する。】
4	学習評価【社会科における学習評価の意義と評価方法、指導と評価の一体化について理解する。】
5	学習指導案をつくる【学習指導案を構成する要素や作成の要点を理解する。】
6	社会科の学習活動【社会科の授業における様々な学習活動を比較検討する。】
7	発問と指示【社会科の授業における発問・指示の目的や種類、条件を検討する。】
8	資料の活用【社会科の授業における資料活用の方法を学び、資料活用のアイデアを検討する。】
9	地図、地図帳、地球儀の使い方【社会科の授業における地図帳や地球儀の使い方を理解する。】
10	ICTの活用【ICTを効果的に活用した授業方法を検討する。】
11	板書・ノート・ワークシートの活用【板書やノートの役割、ワークシートの活用について理解する。】
12	社会科における表現活動・まとめの活動【様々な表現活動や学習のまとめの方法を理解する。】
13	教材作成とその手順【教材研究を進める上で大切な視点を理解する。】
14	授業実践の記録と分析【授業実践を記録・分析し、授業改善に生かす手法を獲得する。】
15	これからの社会科授業づくりと実践【これまでを振り返り、今後の授業づくりの在り方をまとめる。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

対話的な学びを取り入れた学習指導にどのように取り組むか。対話的な学びの意義や必要性について整理した上で、社会科の授業で「これからの防災」を扱う1コマを想定して、あなたの考える対話的な学びを取り入れた授業展開例を2,000字程度にまとめなさい。

第2課題

社会科の授業に向けて教材を準備する際、大切にすることは何か。教材研究の視点について論じた上で、5年生の「わたしたちの国土」での1コマを明示しながら、あなたの考える教材作成のアイデアを2,000字程度で述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストに書かれている「対話的な学びを取り入れた学習指導」について理解しておくこと。また、参考文献『小学校学習指導要領解説 社会編』で「対話的な学びの実現」や「現代的な諸課題」について説明している箇所及び、あなたが考える授業の1コマに対応する教科書の当該箇所も確認した上で作成すること。

レポート前半では、テキストや学習指導要領の内容を基に対話的な学びの意義や必要性、行う際の留意点について整理すること。レポート後半は、前半の整理を踏まえて、「防災」を扱う授業の1コマを想定しながら、1時間の授業の流れを具体的に論述すること。

第2課題の留意点

テキストの第Ⅳ部第13章「教材作成とその手順」を熟読し理解しておくこと。

レポート前半では、社会科における教材研究の視点や教材作成で大切にすることについて、テキストの内容を基に考え方を整理すること。レポート後半は、独自に考えた教材作成のアイデアを具体的な授業場面を明示しながら提案すること。その際、参考文献『小学校学習指導要領解説 社会編』で当該箇所の取扱いについて説明している内容と関連付けながら、なぜその教材が良いと言えるのか、根拠を基に論理的に説明すること。なお、授業場面は、5年生の国土の学習のどの単元でも自由に設定して構わない。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

次の5点を評価基準とする。

- ・課題の趣旨を適切に把握し、テキストの内容を十分に理解した上で、自分の考えや主張を理由や根拠を基に論理的かつ具体的に述べているか。
- ・段落ごとに改行し節ごとに小見出しを付けるなど論文としての体裁を整えながら、誤字・脱字が無く分かりやすい文章で論じているか。
- ・テキストやその他の参考文献、インターネット等の情報を引用した場合は、引用部分を「 」でくくり、書名・著者名など参考文献等に関する情報を文末に明記しているか。
- ・文字数は1,800字から2,200字の間に収まっているか。
- ・他者に読ませることを意識して、文意が伝わるよう丁寧に論述しているか。特に、自筆（手書き）の場合は丁寧な文字（小学校教員に必須のスキルである）で記入しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

＜科目修了試験の対策について＞

- ・テキストの章ごとに要点をまとめ、内容の理解を深めておくこと。
- ・テキストの各章で論じられている内容に関して、「その要点」及び「その内容を踏まえた自分の考え」を簡潔に書けるよう練習しておくこと。
- ・テキスト中の重要なキーワードや概念、テーマについて、大まかな趣旨を自分の言葉で論述できるように準備しておくこと。
- ・特にテキストの第15章「これからの社会科授業づくりと実践」は、14章までの内容を踏まえ、社会科の授業づくりのエッセンスが具体的事例を基にまとめられているので、内容を熟知しておくこと。

＜答案作成の留意点について＞

- ・テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説のみを記述しても不十分である。テキストの内容を理解した上で、独自の意見を付け加えて論じること。
- ・前提として、他者に意図が伝わるよう、読みやすい文章及び説明を心掛けること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を適切に把握し、テキストのキーワードや内容を正確に理解した上で、自分の考えを論理的かつ具体的に説明できていること。
- ・自らの経験や自説のみを羅列しても合格点には達しない。テキストの内容を踏まえていることがわかるような表現や記述が見られること。
- ・誤字・脱字が無く分かりやすい文章で論じているか。丁寧な文字で記入しているか。
- ・解答用紙表面が埋まる程度（800字程度）の分量しか記述できていない場合は評価に値しない。

参考文献

- ・澤井陽介 『小学校新学習指導要領 社会の授業づくり』 明治図書出版
- ・唐木清志 永田忠道 『新・教職課程演習 第11巻 初等社会科教育』 協同出版
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編＜平成29年7月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年7月＞』 文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20048	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・算数〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編＜平成29年 7月＞』 日本文教出版					
ISBN	9784536590105	本体価格(円) (2026年1月現在)	224	生協 テキストNo.	26030	文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	● 鈴木将史 『小学校算数科教育法』 建帛社					
ISBN	9784767921129	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26058	
科目担当		「親和通信」で連絡				
実務経験のある教員による科目		公立中学校教諭（数学科）				

科目の目的

小学校学習指導要領にある算数科の目標から、算数を学ぶ意義と授業づくりを進める上で大切にしたい指導のポイントを理解していく。さらに各学年の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域の指導内容に関わる単元の授業場面を想定して、その指導法について具体的に学び、授業研究を進めるための基礎的な力を養う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・ 小学校学習指導要領にある算数科の目標及び各学年の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域の学習内容を把握するとともに、その内容を子どもたちが主体的に学ぶことができるよう、指導の工夫や指導のポイントを考えることができる。
- ・ いろいろな単元の授業場面を想定して、問題解決学習に沿った指導の流れを考え、指導案の作成ができる。

学習テーマ

- | | |
|----|--|
| 1 | 算数科の目標について、その変遷（どのような内容を重視してきたか）を調べる。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第1章、第2章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第2章】 |
| 2 | 「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域ごとに学年の系統を調べる。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第2章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第1章】 |
| 3 | 第1学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の1年に関連する内容】 |
| 4 | 第1学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】 |
| 5 | 第2学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の2年に関連する内容】 |
| 6 | 第2学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】 |
| 7 | 第3学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第3節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の3年に関連する内容】 |
| 8 | 第3学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第3節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】 |
| 9 | 第4学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第4節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の4年に関連する内容】 |
| 10 | 第4学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第4節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】 |
| 11 | 第5学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第5節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の5年に関連する内容】 |
| 12 | 第5学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第5節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】 |
| 13 | 第6学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第6節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の6年に関連する内容】 |
| 14 | 第6学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第3章第6節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】 |
| 15 | 指導計画の作成と内容の取り扱いを読み、模擬授業を想定し、自己評価する。指導案を作成する上でのポイントをまとめる。【テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』第4章】 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

小学校学習指導要領における算数科の目標をあげよ。さらに現在の算数教育が目標通りに実施されているか自分の考えから考察をせよ。

第2課題

5年生の「データの活用」領域から授業場面を1つ選び、数学的活動を中心とした1時間の授業展開を考え、学習指導案を作成せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト『小学校学習指導要領解説 算数編』から目標は写してよい。さらにこの目標通りに小学校で指導されているかを各々の知見から考察し、現在の算数教育の課題がわかるように記述すること。

第2課題の留意点

学習指導案の展開は、2冊のテキストをよく読んで理解し、数学的な見方・考え方を踏まえていることがわかるように作成すること。

学習指導案の形式は、以下の形式に沿ってA4用紙で作成（枚数自由）し、ページ番号を付けること。自筆の場合は、A4サイズの白紙もしくは方眼紙を用いてまとめること（片面使用）。

算数科学習指導案		
		指導者 ○ ○ ○ ○
1. 日時 ○○○○年○○月○○日（○）（作成した日付） 2. 学級 第○学年○組（○人）（組・人数は任意） 3. 単元 ○○○○ 4. 単元目標（この単元全体で育てたい態度・能力を3つの観点から記述する。） ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度 5. 本時の指導 （1）本時の目標 （2）本時の展開		
学習活動	教師の発問、指導上の留意点	評価の基準と方法
※学習指導案を作成するにあたって、特に5.（2）の本時の展開は、導入・展開・まとめの3パートで作成し、導入段階で学習課題（めあて）を明記し、児童の数学的活動、本時のまとめなど、1時間の授業イメージがつかめるよう、わかりやすく書くこと。		

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

次の3点を評価基準とする。

- ・テキストや参考文献からの引用だけでなく、テキストをもとに自分なりに理解したことや自分の考えも入れてまとめている。
- ・児童が意欲的・主体的に取り組むとともに、数学的な見方・考え方を踏まえた授業展開になっている。
- ・「課題の留意点」に従った学習指導案の形式で記述している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

2冊のテキスト内容を熟読し、その中で述べられている語句や基本概念とともに、各領域や各学年の指導内容におけるポイントを明らかにしておくこと。指導内容や指導計画、指導方法、具体的な指導事例についても、その内容の理解とともに、具体的に説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・試験は1時間の大まかな指導計画の問題2問。
- ・設題の趣旨を理解し、テキスト内容に沿った説明が正しく記述できているかどうかを中心に評価する。テキストの内容（指導内容）が含まれていない、自分の考えだけの記述については減点の対象となる。

参考文献

- ・赤井利行 『わかる算数科指導法 改訂版』 東洋館出版社
- ・黒田恭史 『初等算数科教育法序論』 共立出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20050	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・生活〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 田村学 『小学校 新学習指導要領の展開 生活編＜平成29年版＞』 明治図書出版					
ISBN	9784183282149	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26059	
科目担当		山田 希代子				
実務経験のある教員による科目		公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				

科目の目的

生活科における目標、育成を目指す資質・能力、評価の仕方を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。学校現場での生活科学習活動に即した授業を進める。情報通信機器及び教材の効果的な活用を含め、授業づくり・単元づくりを通して、生活科指導の具体的な手立てを学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・学習指導要領に示された生活科の目標や内容・評価について理解する。
- ・基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
- ・生活科の特性に応じた情報通信機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。

学習テーマ

- 1 生活科の設立の趣旨と経緯 ＜テキストはじめに＞
- 2 生活科の目標と生活科の特質 ＜テキスト序章・第1章・第2章1＞
- 3 生活科の内容構成と学習指導の進め方（情報通信機器及び教材の活用を含む） ＜テキスト第2章2・3・4・5・6・7・8・9・10、第3章11・12・13・14＞
- 4 主体的・対話的・深い学びの実現 ＜テキスト第3章4＞
- 5 指導計画作成上の留意点と評価の在り方 ＜テキスト第3章1・5・8・9・17・18・19＞
- 6 年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項 ＜テキスト第3章2・3・10＞
- 7 学校・家庭・地域に関わる活動の授業プラン（情報通信機器及び教材の活用を含む） ＜テキスト第4章1・2・6・7＞
- 8 身近な人々・社会・自然に関わる活動の授業プラン（情報通信機器及び教材の活用を含む。模擬授業の構想と振り返り） ＜テキスト第4章3・4・8＞
- 9 自分自身の成長を振り返る活動の授業プラン（情報通信機器及び教材の活用を含む。模擬授業の構想と振り返り） ＜テキスト第4章5・10＞
- 10 学校生活への適応とスタートカリキュラムについて ＜テキスト第3章7＞
- 11 生活科における生命教育と自然の不思議さや面白さを体験する授業プラン ＜テキスト第4章9＞
- 12 コミュニケーション能力の育成のための手立て ＜テキスト第3章15＞
- 13 社会性の育成のあり方 ＜テキスト第3章16＞
- 14 幼児教育との連携のあり方 ＜テキスト第3章6＞
- 15 生活科の目標や内容・基礎的な学習指導理論のまとめと各自の到達度の確認（情報通信機器及び教材の活用を含む。これまでの総括と自分の学びの振り返り）

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

生活科の教科目標にある「身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていく」とは具体的にどのようなことなのか。それぞれの言葉の意味を説明した上で、述べなさい。

第2課題

生活科の学びの特質を踏まえ、学習指導のポイントについて論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト序章、第1章（pp.10-17）、第2章（pp.18-23）を熟読し、言葉の示す意味を一つ一つ明らかにしながら論述する。また、参考文献『小学校学習指導要領解説 生活編』第2章（pp.8-12）に解説されている内容についても確認すると理解が深まる。

第2課題の留意点

学習指導要領改訂の趣旨を理解した上で、テキスト第3章 学習指導（pp.76-99）を読み、学習指導のポイントを明らかにしていくとよい。その際、学習者である1・2年生の子どもの発達段階や学びの特質を考え合わせるとよい。また、参考文献『小学校学習指導要領解説 生活編』第5章第4節 学習指導の進め方（pp.94-99）を参考にすると学びに広がりや深まりが生まれる。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。

レポートの評価基準

- ・課題の意図を把握し、テキスト学習により得た基本的なことを説明した上で、自分の考え・表現でまとめ、いかに的確に論述できているかで評価する。
- ・文字数は、1,800字～2,000字とする。
- ・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
- ・テキスト・参考文献・実践例・インターネット等の情報を引用した場合は、「」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・実践校名・実践事例集名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
- ・主語述語のねじれの内容に留意して、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。その際、段落の書き始めは、一字下げて書き出すこと。
- ・「はじめに」「本論」「おわりに」等、章立てや段落を設定し、筋道を立てて論理的に展開すること。
- ・本学所定レポート用紙を使用する場合は、5枚は必ず記述すること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキスト全般から出題する。
- ・基本的な生活科の教科目標・学年の目標とその内容については熟読し理解しておくこと。特に、序章 生活科改訂のキーワード（pp.10-17）、第2章「学年の目標」の解説（pp.24-29）については深く理解しておくこと。
- ・生活科の学びの特質を十分に理解した上で、第3章 指導計画（pp.48-66）のキーワードを中心にまとめておくことよい。
- ・生活科の内容のポイント第2章（pp.30-47）について熟読し、各内容の具体的な学習活動についても考えておくことよい。
- ・教育課程で、生活科の果たす役割について確認しておくことよい。参考文献『小学校学習指導要領解説 生活編』第4章1（4）（pp.57-64）の関連部分を読んで理解を深めておくことよい。
- ・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの学びの姿と教師としてのかかわりを考えながらテキストを読み込み、指導上の留意点についても確認しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・出題の内容を正しく理解し、テキストに書かれているキーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの体験や自説を記入しても評価しない。
- ・筋道を立て論理的に展開できていること、その際、段落等を設定し、誤字脱字がないこと。
- ・段落の書き始めは、一字下げて書き始めること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編＜平成29年7月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20053	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・家庭〔2単位／90時間〕			
テキスト	●大竹美登利 鈴木真由子 綿引伴子 『小学校家庭科教育法』 建帛社					
ISBN	9784767921143	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26062	
テキスト	●文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編＜平成29年7月＞』 東京書籍					
ISBN	9784487287062	本体価格(円) (2026年1月現在)	156	生協 テキストNo.	26037	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当		山口 香織				
実務経験のある教員による科目		公立高等学校教諭（家庭）				

科目の目的

家庭科教育の理念や特徴を踏まえ、現在社会における家庭科教育の果たす役割や意義、家庭科の歴史、教科の目標や内容、評価等について理解する。また、家庭科の学習指導案の事例を通して、授業づくりの視点ならびに学習指導案の作成方法、学習内容や評価のあり方を学ぶ。

到達目標

- ・家庭科の理念や歴史的変遷を踏まえて、小学校家庭科の目標や内容、育成したい力について理解する。
- ・小学校家庭科の学びの特徴や評価のあり方について理解する。
- ・小学校家庭科の授業設計（学習指導案作成含む）と具体的な授業展開について提案できる力を身につける。
- ・小学生の生活課題を含んだ題材設定や指導の工夫について理解を深める。

学習テーマ

- | | |
|----|---|
| 1 | 小学校家庭科教育の意義と目標【テキスト『小学校家庭科教育法』序章、第1章、第3章】 |
| 2 | 小学校家庭科教育のあゆみ【テキスト『小学校家庭科教育法』第2章】 |
| 3 | 小学校家庭科の学習内容と指導方法【テキスト『小学校家庭科教育法』第3章】 |
| 4 | 家庭科の授業設計【テキスト『小学校家庭科教育法』第3章、第4章】 |
| 5 | 家庭科の評価【テキスト『小学校家庭科教育法』第5章】 |
| 6 | 小学校家庭科の授業づくりのポイント（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第11章～第14章】 |
| 7 | 「家族と家庭生活」の学習内容と授業例（模擬授業の構想と振り返り）【テキスト『小学校家庭科教育法』序章、第6章】 |
| 8 | 「家族と家庭生活」の授業設計（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第6章】 |
| 9 | 「衣食住の生活」の学習内容と授業例（模擬授業の構想と振り返り）【テキスト『小学校家庭科教育法』第7章】 |
| 10 | 「衣食住の生活」の授業設計（衣生活）（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第8章】 |
| 11 | 「衣食住の生活」の授業設計（食生活）（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第7章】 |
| 12 | 「衣食住の生活」の授業設計（住生活）（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第9章】 |
| 13 | 「消費生活と環境」の学習内容と授業例（模擬授業の構想と振り返り）【テキスト『小学校家庭科教育法』第10章】 |
| 14 | 「消費生活と環境」の授業設計（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第10章】 |
| 15 | 家族・家庭生活についての課題と実践【テキスト『小学校家庭科教育法』第11章～終章】 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

小学校家庭科の理念や学びの特徴を踏まえ、現在社会において家庭科教育が果たす役割や意義について論述しなさい。その際、『小学校学習指導要領 家庭編（平成29年告示）』およびテキストの内容を踏まえ、家庭科で育成したい資質・能力や学習内容・評価の考え方との関連が分かるように述べること。

第2課題

テキスト『小学校家庭科教育法』第13章の「3. 家庭科における主体的・対話的で深く学ぶ授業手法の実践」（pp.125-156）で示されているアクティブ・ラーニングの手法の中から一つを選び、その手法を用いた小学校家庭科の授業構想を述べなさい。その際、学習指導案（細案）の構成に沿ってまとめること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・2冊のテキストを十分に読み込み、小学校家庭科教育の意義、目標および内容を正確に把握する。
- ・学習指導要領の文言を適切に参照しながら、家庭科教育の理念や学びの特徴を理解したうえで論じること。
- ・論述にあたっては、教育課程全体における家庭科の位置づけを理解し、他教科との違いや家庭科の独自性を踏まえた記述を行うこと。
- ・家庭科で育成したい資質・能力については、現在の社会状況や現代の子どもが抱える生活課題（生活経験の希薄化、家庭や生活の多様化等）と関連付け、社会的・教育的視点から具体的に述べること。
- ・学習内容については、衣・食・住、家族・家庭生活、消費生活・環境といった家庭科の内容領域を踏まえ、それらがどのような意義をもって構成されているのかを分かるように記述すること。

- ・評価については、家庭科の目標を踏まえ、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度が、生活の中でどのように結び付き、発揮されているのかを見取る視点から論じること。
- ・指定されたテキストや資料の文言をそのまま用いるのではなく、自分自身の言葉で簡潔かつ明瞭にまとめること。
- ・テキストや資料の内容を必要に応じて引用する際には、必ず出典を明記する。そのうえで、引用部分を自分の考察と組み合わせ、オリジナリティを持たせること。

第2 課題の留意点

- ・本課題は、テキスト『小学校家庭科教育法』第13章の「3. 家庭科における主体的・対話的で深く学ぶ授業手法の実践」に示されたアクティブ・ラーニングの考え方および具体的な手法を理解しているかを問うものである。まず、指定された2冊のテキストを熟読し、小学校家庭科の目標や内容との関連を理解したうえで取り組むこと。
- ・アクティブ・ラーニングの手法については、テキストに示されている手法の中から一つを選択し、その手法の特徴やねらいを踏まえて、家庭科の授業としてどのように位置付けるのかを明確にすること。
- ・授業構想は、具体的な教材（小学校家庭科における題材・単元）を示したうえで、学習指導案（細案）を想定し、その構成に沿ってまとめること。なお、ここでいう「教材」とは、教具や資料ではなく、小学校家庭科の題材（単元）を指す。
- ・題材設定の理由については、教材観・児童観・指導観の観点から論じること。児童観については、実際に目の前に子どもがいるわけではないため、想定した児童の姿をもとに述べてもよい。省略も可。
- ・題材設定の理由（教材観・児童観・指導観）は、子どもの発達段階や生活課題を踏まえ、社会的・教育的視点から説明すること。
- ・なぜその題材において当該のアクティブ・ラーニング手法を用いるのかが分かるように記述すること。
- ・独自の授業を構想するにあたり、テキストや関連図書、インターネット上の授業実践例等を参考にしてもよいが、テキストやインターネットに掲載されている学習指導案等をそのまま写したレポートは評価しない。
- ・参考にした学習指導案や資料がある場合は、出典および参考にした箇所を必ず明記すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

次の5点を評価基準とする。

- ・指定された2冊のテキストおよび必要に応じて『小学校学習指導要領 家庭編（平成29年告示）』の内容を十分に理解した上で、課題の趣旨を正確に捉え、家庭科の目標や内容、学びの特徴に基づいて説明できている。
- ・テキストから学んだ内容を踏まえつつ、自分の考えを取り入れて論理的にまとめており、家庭科教育の意義や授業構想について、単なる説明にとどまらない考察がなされている。
- ・他者に読ませることを意識し、レポートとしての形式を守り、誤字・脱字がなく、文章表現が分かりやすく丁寧である。
- ・生成AIを用いて作成された文章をそのまま提出したレポートは評価しない。
必要に応じて生成AIを参考として用いる場合は、テキストの内容理解に基づき、自分の考えとして再構成したうえで記述すること。
- ・レポートの文字数は2,000字程度とする。（大幅に不足または超過している場合は、評価の対象としない。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・2冊のテキストを十分に読み込んで基礎知識について理解を深めておくことが必要である。
- ・家庭科教育の理念と意義や家庭科教育の歴史について理解しておく。
- ・小学校家庭科の学習指導案が作成できること、教科の独自性についても理解する。
- ・家庭科の改訂ポイントや目標及び内容を押さえ、指導計画の作成と内容の取扱いについても理解しておく必要がある。
- ・小学校家庭科の授業について、具体的な教材を示して授業展開できるように理解しておく。

科目修了試験の評価基準

- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること。答案作成では、指定文字数以上の記述があることを前提として評価する。
- ・授業構想を述べる場合は、小学校家庭科の題材（単元）を具体的な教材として示し、学習指導案（細案）を想定してまとめるものとする。
- ・設問の趣旨を理解し、キーワードや必要事項を的確に捉えて説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストによる学習ということを意識していることが重要である。自己の思い込みで作成された解答や自らの経験や自説を記入しても評価しない。

参考文献

- ・大竹美登利 倉持清美 『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』 萌文書林
- ・『わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂
- ・『新編 新しい家庭 5・6 私がつくる みんなでつくる 明日をつくる』 東京書籍

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20065	科目名 [単位数/学習時間]	教育相談（初等）[2単位／90時間]			
テキスト	●有村久春 『新訂版 学級教育相談入門』 金子書房					
ISBN	9784760823895	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26064	
科目担当		金山 健一				

科目の目的

教育相談は子どもの心の声を聞き取り、教師との信頼関係をつくるために必要不可欠である。よって本科目では、教育相談（カウンセリングに関わる基礎的な知識を含む）の理論及び方法を習得することを目的とする。

教師の教育活動は、子どもの心身の発達と学習に関わるものであり、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼす。よって教師には、教科等に対する専門的知識や、子どもの心身のみならず、社会的な成長・発達に関する深い理解と、それらを基盤とした教育相談対応力・実践指導力を習得することが必要である。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

- ・「学校における教育相談」では、開発的、予防的、治療的対応と、子どもの自己形成の援助方法を理解する。
- ・「子どもと関わる基本原理」では、教師の自己開示、子どもの言葉の傾聴、子どもの感情の明確化、即時対応、子どもの内的動機を促す上手なほめ方等を学習する。
- ・「子どもの人間関係づくり」では、学級集団のまとまり、コミュニケーション能力の育成、指導観・授業観の転換について学ぶ。
- ・「教育相談の計画と活動の実際」では、計画立案の実例、不登校児の家庭訪問の工夫、子どもの進路相談の仕方、指導報告書の作成、スクールカウンセラーとの連携について学ぶ。
- ・「学級崩壊・不登校・いじめの問題」では、事例研究、予防的対応・指導援助を学ぶ。
- ・「問題行動の考え方と対応の実際」では、早期発見の必要性、組織的対応の仕方、対応事例について学ぶ。

学習テーマ

1	子どもの自己育成の視点【学習のポイント：生きる力と学習指導要領を理解する。】
2	教育相談・カウンセリングの考え方【学習のポイント：教育相談・生徒指導について理解する。】
3	子どもの感情を明確化する【学習のポイント：言語化が苦手な子どもの対応方法を理解する。】
4	子どものメッセージに応じる【学習のポイント：タイミング・課題解決能力・動機づけを理解する。】
5	事実にして叱る・ほめる【学習のポイント：叱り方・ほめ方の方法を理解する。】
6	学級の「まとまり」をつくる【学習のポイント：学級経営の方法を理解する。】
7	コミュニケーション能力を育成する【学習のポイント：グループエンカウンターを理解する。】
8	指導観・授業観の転換【学習のポイント：主体的な活動について理解する。】
9	教育相談の計画の作成【学習のポイント：日々の教育相談活動について理解する。】
10	教育相談活動の実例【学習のポイント：教育相談の事例を通して、対応方法を理解する。】
11	「学級崩壊」の要因を考える【学習のポイント：学級崩壊の要因・対応・予防について理解する。】
12	「いじめ」を克服する【学習のポイント：いじめの発見・対応・予防について理解する。】
13	保護者との対応力を磨く【学習のポイント：保護者対応の基本について理解する。】
14	問題行動の考え方と対応の基本【学習のポイント：問題行動の早期発見・対応を理解する。】
15	怠学傾向の生徒への対応【学習のポイント：具体的事例を通して、対応方法を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

「学級のまとまりをつくる」について、理論と実践について記述する。

第2課題

「問題行動の対応」について、理論と実践について記述する。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3第1節「学級のまとまりをつくる」を概観し、その理論を用いて自分が学級担任になった時の学級経営についても述べる。

課題には小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。

第2課題の留意点

テキスト第6章第1節の「問題行動の考え方と対応の実例－考え方と対応の基本」を概観し、その理論を用いて自分が学級担任になった時の対応についても述べる。

課題には小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践をまとめる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

- ・21世紀を生きる子ども－教育相談・カウンセリングの考え方（第1章 第3節）
- ・子どもとかわる8つの基本原理－事実に即して叱る・ほめる（第2章 第8節）
- ・子どもの人間関係づくり－<かわる力>をはぐくむ（第3章 第2節）
- ・教育相談の計画と活動の実践－家庭訪問の工夫（第4章 第2節）
- ・学級担任が向き合う危機的な問題－保護者との対応力を磨く（第5章 第4節）
- ・問題行動の考え方と対応の実践－継続する集団いじめ（第6章 第2節）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

- ・伊東真里 大島剛 金山健一 渡邊由己『ライブラリ読んでわかる心理学 12 読んでわかる臨床心理学』サイエンス社
- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20066	科目名 [単位数/学習時間]	幼児理解 [2単位/90時間]				
テキスト	● 文部科学省 『幼児理解に基づいた評価（平成31年 3月）』 チャイルド本社						
ISBN	9784805402832	本体価格(円) (2026年1月現在)	250	生協 テキストNo.	26065		
科目担当		権藤 眞織					

科目の目的

幼児期にふさわしい教育を行うためにまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。その基盤となる発達理論及び幼児教育の特質との関連を理解し、具体的な観察・記録・評価の実際を身につける。保育者として、自分の保育観に基づいて保育を展開していくには、まず、「子ども理解」の基礎・基本、原理・原則を掴んでおく必要がある。基本をしっかりと理解して、自分らしい豊かな保育を展開し、実践力のある保育者を目指してほしい。

到達目標

「子どもを理解する」ことの意味について考え、記録を生かした保育の質を高める方法や内容を考える。具体的には、次のとおり。

- ・保育の中で子どもの育ちを捉える視点について理解する。
- ・生活や遊びの中での幼児理解のポイントについて理解する。
- ・「仲間関係」の形成過程に焦点を当てた子ども同士の関係づくりについて考える。
- ・個と集団の関わりに対して、保育者が配慮することは何かを考える。
- ・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点を理解する。
- ・保育の環境を構成する保育者の視点を理解する。
- ・環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。
- ・特別な配慮を必要とする子どもの理解に不可欠なインクルーシブという考え方が説明できる。
- ・保育実践の質を高めていく上でのドキュメンテーションの意義を理解する。
- ・保育ドキュメンテーションを活用した指導計画の作成・展開・評価・改善について説明できる。

学習テーマ

1	幼児理解に基づいた評価の意義とは
2	評価の考え方①：幼児教育における基本的な視点
3	評価の考え方②：発達を見通した評価の視点
4	よりよい保育を作り出すために
5	幼児理解に基づいた評価の考え方とは
6	保育における幼児理解と評価とは
7	よりよい保育に繋がる保育記録①：幼児の姿と保育
8	よりよい保育に繋がる保育記録②：教室の視点と保育
9	日常の保育と保育記録
10	幼児理解に基づいた評価の実際①：実践事例（テキストより事例1・2）
11	幼児理解に基づいた評価の実際②：実践事例（テキストより事例3・4・5）
12	幼児理解に基づいた評価の実際③：実践事例（テキストより事例6・7）
13	「幼児理解」に関連する根拠法令のポイントを理解する。
14	「幼児理解」に関連する記録（指導要録や児童保育要録など）の作成のポイントや留意点を理解する。
15	まとめ：テキストからキーワードを抽出して、自分なりの「幼児理解」「保育における評価」についてまとめる。そして、自分の保育観や保育実践と、「幼児理解」や「評価」の基本姿勢を比較検討し、基本を踏まえた上で、自分らしい保育を行うには、どんな工夫や配慮ができるか考察する。

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

幼児理解に基づいた評価の意義について解説しなさい。そして、レポートの最後で、課題に取り組んでみて、あなたなら、「幼児理解」を行う際、最も重視すべき点と、なぜ、それを重視すべきなのか、説明しなさい。

第2課題

幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方について解説しなさい。そして、レポートの最後で、課題に取り組んでみて、あなたなら、「評価」を行う際、最も重視すべき点と、なぜ、それを重視すべきなのか、説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を熟読し、どのような意義があるのかを理解し、何が大切かを説明する。そして、保育者として、「幼児理解」を行う際のポイントや留意点を述べ、なぜ大切なのか、自身の考えを述べること。

第2課題の留意点

テキスト第2章を熟読し、どのような考え方があるのかを理解し、何が大切かを説明する。そして、保育者として、「評価」を行う際のポイントや留意点を述べ、なぜ大切なのか、自身の考えを述べること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

職業人として「保育」を実践していくためのスキルを身につけていく基礎として、「幼児理解」の考え方を把握できているか評価する。テキストは日本の保育や幼児教育のガイドラインの1つであるため、要点を捉えて解説できているか評価する。そして、具体的な例を挙げながら解説しているか、また最後に、課題に取り組んでみて自分がどのように感じ、考え、気づいたのか、私見を述べているかを評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み、キーワードを掴むことが大切である。幼児理解のポイントを捉えて、実際の子どもと関わる際には、実践が求められる。専門的な用語や内容を説明する際には、何らかの具体例や子どもの事例などを例示しながら解説すると、わかりやすく、伝わりやすい論述となる。

科目修了試験の評価基準

一般論や自身の経験談を述べるのではなく、テキストを熟読し、そこに書かれた専門用語の意味や重要なポイントを設題の趣旨に沿って適切に解説すること。また、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述が必要。誤字脱字にも留意が必要。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
 - ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
 - ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
 - ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
 - ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
 - ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- その他、各自でも工夫して、関連するさまざまな資料やニュース、参考文献にも目を通してみる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20067	科目名 [単位数/学習時間]	社会福祉論 [2単位/90時間]			
テキスト	●直島正樹 原田旬哉 『図解で学ぶ保育 社会福祉 第3版』 萌文書林					
ISBN	9784893473929	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	26066	
科目担当		「親和通信」で連絡				

科目の目的

本科目の目的は、現代社会の現状や課題を通して、社会福祉に関する制度、法律などを知り、保育士として社会福祉を学ぶ意義を理解し、社会福祉に関する学びを深めることにある。

到達目標

- 本科目の学習到達目標は、つぎのとおりである。
- ・社会福祉の現状と課題について理解することができる。
 - ・社会福祉の制度や法律、実施体系等について理解することができる。
 - ・社会福祉の専門職について理解することができる。
 - ・ソーシャルワークについて理解することができる。
 - ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。

学習テーマ

1	社会福祉へようこそ 私たちが生きる社会、社会福祉のとらえ方
2	子どもと家族の福祉① 妊娠・出産にかかわる制度、社会福祉と関連法
3	子どもと家族の福祉② 子どもの貧困、子ども家庭福祉にかかわる行政機関と施設
4	子どもと家族の福祉③ 子どもの権利、社会福祉サービス利用の仕組み
5	子どもと家族の福祉④ 社会的養護、子ども家庭福祉の法律
6	社会保障 社会保障の仕組み、年金制度の仕組み、医療保険の仕組み
7	障害児・者福祉① 障害のとらえ方、障害児・者福祉の考え方
8	障害児・者福祉② 障害の種類、障害児・者福祉の法律・制度
9	地域福祉 地域福祉について、地域福祉を支える機関・団体
10	ソーシャルワーク① ソーシャルワークの種類
11	ソーシャルワーク② 保護者支援・子育て支援
12	低所得者福祉① 生活保護の歴史と生活保護制度
13	低所得者福祉② その他の低所得者福祉
14	高齢者福祉① 介護保険制度と介護サービス
15	高齢者福祉② 利用者保護、年金制度と死亡届

レポートについて	ワープロソフト 使用可
----------	----------------

第1課題

子ども家庭福祉にかかわる法律それぞれについて、どのような法律なのかを説明しなさい。その上で、子ども家庭福祉にかかわる法律全体から、どのようなことが考察できたのかを答えなさい。

第2課題

障害児・者福祉について、次の①、②について答えなさい。①障害の種類について簡潔に説明し、②障害者総合支援法とそれに基づく障害者福祉サービス提供の仕組みについて、自立支援給付、地域生活支援事業、障害支援区分をキーワードとして使用して、説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章第7節によく目を通して、子ども家庭福祉にかかわる法律について、しっかりとその内容を理解すること。そして、それらの法律が何に対して、どのような目的で定められているのかを考察できるようにしておくこと。

第2課題の留意点

テキスト第4章第3節と第4節によく目を通して、障害の種類、障害者総合支援法の内容と障害者総合支援法に基づいた障害者福祉サービス提供の仕組みについて学ぶこと。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・レポート作成のルールに沿い、誤字脱字がないこと、適切な文字数量であること。極端に少ないレポートは評価できないことがある。
- ・課題の趣旨を理解した内容を記述できているかを評価する。
- ・テキストを抜き書きするのではなく、理解したことを自分の文章としてまとめて書くこと。
- ・引用文献と参考文献を適切に明示すること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキスト第2章第3節、第2章第5節、第3章第1節と第2節、第5章第2節、第6章第1節、第7章第2節をよく読み、正しい知識を習得し、設題の内容を正確に理解すること。
- ・論理的な文章で記し、自分の意見を記す場合は、設題との関連での考察であることを示す。
- ・主観的な感想文を避け、客観的な内容を記述する必要がある。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
- ・設題の内容を正しく理解して解答すること。
- ・設題と無関係で私的な文章が多い場合は、減点の対象となる場合もある。

参考文献

- ・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20072	科目名 [単位数/学習時間]	障害児保育論Ⅰ [1単位/45時間]			
テキスト	● 齊藤勇紀 守巧 『子どもが共に育つための障害児保育 第2版』 萌文書林					
ISBN	9784893474506	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26067	
科目担当		細木 玉恵				
実務経験のある教員による科目		公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

保育所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設には、特別な配慮を必要とする子どもが数多く在籍している。特に今日では、共生社会実現に向けて障害そのものに対する新しい概念が定着しつつあり、保育者には幅広く正確な知識が必要となってくる。本科目では、子どもたちの多様化するニーズを理解し、個々の特性に応じた保育を行うための基礎的な知識や援助方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・障害児保育の理念や歴史の変遷について学び、障害のある子どもとその保育の基本的な考え方を理解する。
- ・子ども一人ひとりの特性や心身の発達に応じた援助方法や、合理的配慮の考え方について理解する。
- ・特別な配慮を必要とする子どもの育ちを支えるために必要な関係機関との連携のあり方について理解する。
- ・特別な配慮を必要とする子どもを取り巻く保育の現状や課題について知り、支援の必要性や保育者の役割を考えるための基礎的な視点をもつ。

学習テーマ

1	障害児保育を支える理念【学習のポイント：障害児保育の歴史の変遷をたどり、障害の概念や障害児保育を支える理念、障害児保育の形態について理解する。また、障害のある子どもの地域への参加・包括等に必要合理的配慮について理解する。＜テキストPART 1＞】
2	障害の理解と援助①【学習のポイント：肢体不自由・知的障害・視覚障害・聴覚障害となる原因や特性、発達への影響を整理し、保育の場における基本的な支援の考え方を理解する。＜テキストPART 2 第1～4章＞】
3	障害の理解と援助②【学習のポイント：言語障害および発達障害に分類される各障害の特性と、保育者が行う支援について理解する。＜テキストPART 2 第5～7章＞】
4	障害の理解と援助③【学習のポイント：重症心身障害や医療的ケアを必要とする子どもの特性を把握し、ケアを介した支援と保育の具体例について理解する。また、障害以外の要因から特別な配慮を必要とする子どもについても理解を深める。＜テキストPART 2 第8～9章＞】
5	障害児保育の実践①【学習のポイント：特別な配慮を必要とする子どもの発達を促す生活や遊びの環境構成について整理し、日常の保育における保育者の援助のあり方を理解する。また子ども同士が育ちあうための支援について考える。＜テキストPART 3 第2～3章＞】
6	障害児保育の実践②【学習のポイント：障害のある子どもの健康や安全への配慮について整理し、すべての子どもが安心して過ごすための保育者の役割を理解する。あわせて、保育者間の協力や園内の支援体制のあり方について理解する。＜テキストPART 3 第4～5章＞】
7	関係機関との連携【学習のポイント：障害児支援に関わる専門機関の役割を把握し、連携しながら支援を進めるための基本的な考え方を理解する。また、就学に向けた手続きや、就学時に求められる保幼小連携における保育者の役割を理解する。＜テキストPART 4 第3～4章＞】
8	障害児保育の現状と課題【学習のポイント：特別な配慮を必要とする子どもに関わる保健・医療・福祉・教育の現状を理解し、障害児保育の課題や今後の展望を考える。＜テキストPART 5＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

インクルーシブ保育のあり方を説明し、それを実践するうえで保育者が行う配慮や留意点について述べなさい。

第1課題の留意点

- ・テキストPART 1を熟読し、障害児保育の基本的な考え方やインクルーシブ保育の理念を理解したうえで記述する。
- ・テキストPART 2～3を参考に、すべての子どもが安心して安全に過ごせる保育環境の構成や、子ども同士が共に育ち合うために保育者が行う援助を具体的に記述する。
- ・テキストPART 4をもとに、インクルーシブ保育を実践するうえで求められる関係機関との連携のあり方について、保育の立場から自分の考えを示すこと。
- ・テキストPART 5を参考に、障害児保育の現状と課題を踏まえ、自分の考えを記述する。
- ・参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』に示された障害のある子どもへの保育の考え方を踏まえ、自分の考えを記述する。
- ・保育者が行う配慮や留意点については、保育場面を想定し具体的に述べる。
- ・文献やインターネットの情報等を参考・引用する際は、出典を必ず明記する。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題の意図を理解し、自分の考えを論理的にかつ具体的に記述できている。
- ・特定の章や用語の説明に偏ることなく、留意点に示した内容を踏まえて適切に論述できている。
- ・レポート作成の基本的なルールを守り、記述できている。これには以下のことが含まれる。指定文字数（2,000字程度）を満たしている。「序論・本論・結論」を意識した構成になっている。内容のまとまりに応じて、適切な段落構成がなされている。文献を引用または参考にする際はその旨を明記し、文末にまとめて示している。主語と述語等の関係に留意し記述されている。接続詞や句読点が適切に用いられている。文体が統一され、誤字や脱字がない。箇条書きではなく、文書としてまとめられている等である。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・「学習テーマ」に沿って、テキストの小見出しごとに要点をまとめ、理解を深めておく。
- ・障害児保育の理念や制度について要点を整理し、自分の考えを簡潔に記述できるようにしておく。
- ・障害の定義、起因疾患や特性については、一人ひとりに応じた支援を考える基礎として、要点を押さえて説明できるように整理しておく。
- ・特別な配慮を必要とする子どもを含め、すべての子どもが安心して生活できる保育の実践において、保育者に求められる役割を明確にしておく。
- ・多様なニーズに応じた支援については、保育場面を想定し具体例を用いて説明できるようにしておく。
- ・自治体や関係機関との連携について、支援体制構築の考え方や、連携の中で保育者が果たす役割や留意点を整理しておく。
- ・障害児保育をめぐる現状と課題について、自分の考えをまとめておく。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を正しく理解し、論理的かつ具体的に記述できている。なお、自らの体験や個人的な意見のみの記述は、評価の対象としない。
- ・出題範囲は「学習テーマ」に示したテキストの該当箇所であり、その内容を踏まえて記述されている。
- ・テキスト学習を通して得た基礎的な知識をもとに説明し、自分なりの考えが適切に述べられている。
- ・障害児保育の基本理念を理解したうえで、内容に即した専門用語を適切に用いて論述されている。
- ・誤字や脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面が埋まる程度に記述されている（1行30字×27行、約810字）。なお、重複内容の記述は文字数として認めない。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20073	科目名 [単位数/学習時間]	障害児保育論Ⅱ [2単位/90時間]				
テキスト	● 松井剛太 七木田敦 『実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ 保育現場における特別支援』 教育情報出版						
ISBN	9784909378491	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26068	生協での購入をおすすめします	
科目担当		細木 玉恵					
実務経験のある教員による科目		公的機関・研究機関での発達支援、相談援助					

科目の目的

共生社会の実現に向け、保育が果たす役割は重要性を増している。本科目では、障害の有無にかかわらず、多様なニーズのある子どもの姿を理解し、すべての子どもが互いを認め、共に育ち合う保育のあり方について理解を深めることを目的とする。子どもの困りごとを個人の特性のみに帰するのではなく、保育場面との関係の中で捉え、事例をもとに保育の工夫や支援のあり方を考察する。これらを通して、日々の保育に生かす視点を養い、多様なニーズに応じた支援を行うための専門性を高める。

到達目標

- ・特別な配慮を必要とする子どもが、一人ひとり異なる困難や背景があることを理解している。
- ・多様なニーズのある子どもとその家族に対する援助について、理解した内容を説明できる。
- ・特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な連携や、支援体制のあり方を理解している。
- ・障害の有無や子どもを取り巻くさまざまな背景に関わらず、すべての子どもが互いを認め共に育ち合うために、保育者が果たす役割を理解している。

学習テーマ

- 1 障害児保育の基本姿勢【学習のポイント：特別な配慮を必要とする子ども一人ひとりに応じた保育のあり方を捉え、障害児保育における基本姿勢を整理する。＜テキスト第1章＞】
- 2 障害児保育の実践①【学習のポイント：強いこだわりのある子どもや、情動理解のずれがあるといった子どもの特性を把握し、保育の場における支援の考え方を整理する。＜テキスト第2章第1～5節＞】
- 3 障害児保育の実践②【学習のポイント：対人関係に課題のある子どもや、パニックになりやすいといった特性のある子どもへの支援の視点を確認し、章末ワークシートを通して考えを深める。＜テキスト第2章第6～8節＞】
- 4 障害児保育の実践③【学習のポイント：不注意や落ち着きのなさがみられる子どもの特性を整理し、それに応じた支援のあり方について考える。＜テキスト第3章第1～5節＞】
- 5 障害児保育の実践④【学習のポイント：衝動性の強い子どもや集中の続きにくい子どもの特性と支援の留意点を押さえ、章末ワークシートを通して理解を深める。＜テキスト第3章第6～8節＞】
- 6 障害児保育の実践⑤【学習のポイント：学習に課題のある子どもの認知特性を理解し、それに応じた支援の方向性を考える。＜テキスト第4章第1～4節＞】
- 7 障害児保育の実践⑥【学習のポイント：学習に課題のある子どもの特性と支援のあり方について整理し、章末ワークシートを通して確認する。＜テキスト第4章第5～8節＞】
- 8 園内の支援体制①【学習のポイント：園内支援体制の基本的な考え方を押さえ、体制づくりの視点や留意点を整理する。＜テキスト第5章第1～2節＞】
- 9 園内の支援体制②【学習のポイント：子どもの実態把握と保育の評価について理解を深め、支援に生かす視点を確認する。＜テキスト第5章第3～5節＞】
- 10 園内の支援体制③【学習のポイント：保育カンファレンスや指導案、ポートフォリオ・ドキュメンテーションの目的と活用方法を整理する。＜テキスト第5章第6～8節＞】
- 11 園内の支援体制④【学習のポイント：幼児期の子どもへの障害理解教育や、集団に対する支援と個別支援のあり方を理解する。章末ワークシートを通して理解を深める。＜テキスト第5章第9～13節＞】
- 12 家庭や専門機関との連携①【学習のポイント：保護者との信頼関係の構築と連携のあり方について整理する。自身の居住地や勤務地において、特別な配慮を必要とする子どもを支えるために連携が求められる専門機関について調べる。＜テキスト第6章第1～5節＞】
- 13 家庭や専門機関との連携②【学習のポイント：さまざまなニーズのある保護者への支援と連携について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキスト第6章第6～8節＞】
- 14 小学校への接続①【学習のポイント：保育の場での学びを保証し、小学校への円滑な接続のあり方について理解する。自身の居住地や勤務地における就学支援体制について調べまとめる。＜テキスト第7章第1～4節＞】
- 15 小学校への接続②【学習のポイント：就学支援や小学校との連携のあり方について整理し、章末ワークシートを通して確認する。＜テキスト第7章第5～8節＞】

レポートについて

ワープロソフト 使用可

第1課題

障害のある子どもを育てている保護者は、子育てに関する悩みや不安を感じる人が多い。次の3つの時期に着目し、それぞれの時期における保護者の心理的な状態と、その時期に求められる支援について、具体的に述べなさい。

(1) 子どもに障害があるのではないかと心配している時期 (2) 子どもの障害を告知された時期 (3) 子どもの就学を考える時期

第2課題

5歳児クラスに在籍している知的障害を伴わない自閉症スペクトラム児の保育場面を想定し、その子どもにみられる主な特性を簡潔に記述したうえで、それに応じた支援のあり方について述べなさい。あわせて、当該の子どもへの支援において、保育の立場から関係機関との連携のあり方について述べなさい。

各課題の留意点**第1課題の留意点**

- ・「家庭」や「保護者」がタイトルに含まれる章に限らず、テキスト全体を通して読み、考えをまとめる。
- ・テキスト第1章を踏まえ、障害児保育の基本的な考え方を理解したうえで記述する。
- ・子どもの障害特性や発達段階によって、保護者が抱える不安は異なることを踏まえ、各時期における保護者の置かれている状況や心理を整理し、それに応じて必要とされる支援を具体的に記述する。
- ・3つの時期それぞれについて、保護者の心理状態と支援内容が対応するよう整理して記述する。
- ・特定の家庭や事例を一般化したり断定的に捉えたりすることは避け、テキストの内容をもとに記述する。
- ・「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストや関連文献も参考にし、必要に応じて活用する。

第2課題の留意点

- ・「自閉症スペクトラム」がタイトルに含まれる章に限らず、テキスト全体を踏まえて考えをまとめる。
- ・テキスト第1章をもとに、特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方の基本を理解し記述する。
- ・テキスト第2章を中心に、自閉症スペクトラム児にみられる主な特性や、保育者に求められる支援や留意点等について整理し記述する。
- ・テキスト第5～7章より、子どもの実態把握の方法や関係機関との連携のあり方を理解し記述する。
- ・子どもの特性と、それに応じた支援のあり方が対応するよう、内容のつながりを意識して構成すること。
- ・支援の記述にあたっては、5歳児クラスの生活や遊びの場面を想定し、発達段階や就学を見据えた視点を意識して具体的に述べる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題の意図を理解し、自分の考えを論理的かつ具体的に記述できている。
- ・留意点に示した内容を意識し、特定の章や用語に偏らず論述できている。
- ・障害児保育の基本的な考え方を理解し、専門用語を適切に用いている。
- ・レポート作成の基本的なルールを守り記述できている。これには以下のことが含まれる。指定文字数（2,000字程度）を満たしている。「序論・本論・結論」を意識した構成になっている。内容のまとまりに応じて、適切な段落構成がなされている。文献を引用または参考にする際はその旨を明記し、文末にまとめて示している。主語と述語等の関係に留意し記述されている。接続詞や句読点が適切に用いられている。文体が統一され、誤字や脱字がない。箇条書きではなく、文書としてまとめられている等である。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・「学習テーマ」に沿って、テキストの小見出しごとに要点をまとめ、理解を深めておく。
- ・テキストに示された実践事例をもとに、子どもの実態把握、支援のあり方、日々の保育での取り組み、保護者への支援などを関連付け、具体的に記述できるようにしておく。
- ・テキストにある「やってみよう」や章末のワークシートに取り組み、学習内容を整理したうえで、理解した内容を自分の言葉でまとめておく。
- ・テキストに青字で記載されている用語や、QRコードで紹介されている内容については、意味や使い方を理解し、答案の中で適切に用いられるようにしておく。
- ・「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストを併用し、理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を正しく理解し、論理的かつ具体的に記述できている。なお、自らの体験や個人的な意見のみの記述は、評価の対象としない。
- ・テキスト学習を通して得た知識をもとに説明し、自分なりの考えが適切に述べられている。
- ・内容に即した専門用語を適切に用いて論述されている。
- ・誤字や脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面が埋まる程度に記述されている（1行30字×27行、約810字）。なお、重複内容の記述は文字数として認めない。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
 - ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
 - ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
 - ・齊藤勇紀 守巧 『子どもが共に育つための障害児保育 第2版』 萌文書林
- ※テキストに記載されている引用・参考文献にも興味を持ち、理解を深めるようにする。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20075	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと人権 [2単位/90時間]			
テキスト	● 古橋エツ子 和田幸司 『人権論の教科書』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623091737	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,000	生協 テキストNo.	26069	
科目担当		八木 眞由美				
実務経験のある教員による科目		兵庫県内公立小・中学校教員・校長、兵庫教育大学附属小学校副校長、兵庫県教育委員会人権教育課指導主事、県立教育研修所指導主事、財団法人兵庫県人権啓発協会研修部長等				

科目の目的

- ・人権教育は様々な立場の子どもの教育機会を保障するため、また人々が自由に社会参加できる市民社会をつくるために重要な教育実践であることから、同和問題をはじめとする子ども・女性・外国人等の個別の人権課題について学ぶことを通して、学校教育のなかで人権教育を進める際の基礎的な知識の獲得を目指す。
- ・人権教育の基本的な事項を学びながら、人権教育のポイントや教育実践の実例を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・様々な人権課題についての基礎的な知識を身に付け、その内容を説明することができる。
- ・人権教育の基本的な概念について、実例をあげながら説明することができる。
- ・子どもの人権が配慮された学校づくりについて、その特徴を整理することができる。

学習テーマ

- 1 人権教育について学びませんか【テキスト序章】
- 2 女性をめぐる人権を知ろう【テキスト第1章】
- 3 子どもをめぐる人権を知ろう【テキスト第2章】
- 4 「障害」をめぐる人権を知ろう【テキスト第4章】
- 5 同和問題を考えよう【テキスト第5章】
- 6 外国人をめぐる人権を考えよう【テキスト第6章】
- 7 性的マイノリティと人権【テキスト第7章】
- 8 ハラスメントを考えよう【テキスト第9章】
- 9 経済的格差・貧困を考えよう【テキスト第10章】
- 10 戦後日本における人権教育の成立と展開 1－長期欠席と不就学問題と同和教育の組織化－【テキスト第11章】
- 11 戦後日本における人権教育の成立と展開 2－教育条件整備、低学力の克服、進路・学力保障－【テキスト第12章】
- 12 グローバルスタンダードとしての人権教育の展開 1－人権意識の実践、人権教育のための世界プログラム－【テキスト第12章】
- 13 グローバルスタンダードとしての人権教育の展開 2－さらなる人権教育の課題－【テキスト第12章】
- 14 人権教育の授業構成【テキスト第13章】
- 15 多文化共生を実現しよう－多文化共生とは－【テキスト第14章】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

テキストを熟読し、① テキストにとり上げられている個別の人権課題の中から、あなたが子どもに係わる課題と考える人権課題を選び要約する。② なぜその課題が子どもの人権に係わる課題ととらえるのかを具体的に説明する。③ ①②を踏まえ、子どもの人権を守るために、教師として実践したい取組みを、あなたの体験を交え、具体的に述べなさい。

第2課題

テキストを熟読し、学校教育における人権教育の具体的な取組みについて、① 人権教育とはどのような教育であるのかテキストの趣旨を踏まえて概説する。② 同和教育との関連性について、テキストの趣旨、並びに、その他の資料（自身で探す）の内容を踏まえてまとめる。③ 小学生の実践（対象学年明記のこと）として、あなたが実践したい取組みを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
- ・「人権」とは何か、「人権教育」とは何かを、テキストに沿って定義すること。
- ・子ども、女性、外国人などの個別の人権課題について、テキストを熟読して、具体的に整理すること。
- ・テキストだけではなく、最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートになっていること。
- ・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「 」でくくり、文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
- ・自分の考えや分析を必ずしっかりと展開すること。

第2課題の留意点

- ・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。とくに人権教育は、テキストをベースにまとめること。
- ・人権教育、同和教育の関連性を踏まえた内容であること。
- ・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で概説すること。また引用文は「 」でくくり、文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
- ・自分の考えや分析を必ず論述すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・個別の人権課題について、人権教育の現状と課題について、テキストの全編をよく読んで、理解しているか。
- ・同和教育と人権教育、それぞれが個別に理解されているか、また、その相互の関連性が理解されているレポートであるか。
- ・最新の国の動向等を理解し、その趣旨を踏まえたレポートであるか。
- ・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「 」や『 』の使い方など、レポート作成上の基本的ルールが守られているか。
- ・引用文は「 」でくくり、文献名や引用ページ等を明示しているか。
- ・抜き書きした文章の寄せ集めや論文の剽窃がなく、自分の考えが述べられているか。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキスト全編をよく読んで、個別の人権課題についての基礎的な理解を深めておくこと、特に子どもの人権や学校教育に係わる章について、関連を持たせながら、読み進めることが必要。例えば、第5章の同和問題と第12章のグローバルスタンダードとしての人権教育の展開は、同和教育と人権教育との関連性を理解する上で、同時に読み進めることが必要。その他、第1章と第7章、第6章と第14章も相互の関連性を考慮しつつ読み進めることが必要。
- ・序章の趣旨をよく理解した上で、すべての章を読み進めることが、人権、並びに、人権教育を理解することにつながる。
- ・キーワードは、人権、人権教育、同和問題、同和教育、個別の人権課題。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
- ・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「 」や『 』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

- ・文部科学省 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議『人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm
- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド本社
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）〈平成29年3月〉』東京書籍又は文部科学省HP
- ・法務省・文部科学省『令和6年版人権教育・啓発白書（令和5年度人権教育及び人権啓発施策）』勝美印刷
<https://www.moj.go.jp/content/001420890.pdf>

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20076	科目名 [単位数/学習時間]	現代保育論 [2 単位／90時間]			
テキスト	●長尾和英 伊澤貞治 『子どもの育ちと教育環境』 法律文化社					
ISBN	9784589030009	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26070	
科目担当		横田 郁子				
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭、園長				

科目の目的

子どもを取り巻く現代の社会環境は、社会経済情勢の影響を受け大きく変化している。それに伴い、子どもの育ちにも大きな影響を及ぼしている。本科目は、地域社会や家庭のありよう、環境について理解する。さらに、保育者としての資質の向上、確かな専門性を身に付けていくことを学ぶ。

到達目標

子どもを取り巻く環境には、家庭環境、社会環境、保育環境、子どもの生活環境などがあるが、子どもの育ちには環境としての保育者は重要な意味をもつ。保育者の資質、専門性、そして子どもにどのような援助ができるのかを考える。

テキスト全体を通読し、子どもの育ちと環境についてまとめる。

学習テーマ

1	教育環境の重要性について①【学習のポイント：教育環境と子どもの成長を理解する。】
2	教育環境の重要性について②【学習のポイント：教育環境の思想や要件を理解する。】
3	教育環境の重要性について③【学習のポイント：幼児期になぜ感動体験が大切なのかを理解する。】
4	遊び環境と子どもについて【学習のポイント：遊びの現状とともに、遊びの意味について理解する。】
5	家庭環境と子ども①【学習のポイント：家庭の意味や教育力、子どもにとって望ましい家庭を考える。】
6	家庭環境と子ども②【学習のポイント：子どもの育ちと家族関係について理解する。】
7	社会環境と子ども【学習のポイント：草全体を通して、社会環境の大切さについて理解する。】
8	保育環境と子ども①【学習のポイント：保育の場の意味について理解する。】
9	保育環境と子ども②【学習のポイント：保育環境の設定や保育教材の精選について理解する。】
10	学校環境と子ども【学習のポイント：教育の場としての学校について理解する。】
11	子どもの生活と環境【学習のポイント：生活環境や子どもと生活について理解する。】
12	教育環境としての教師・保育者①【学習のポイント：子どもの育ちを支える教師・保育者を理解する。】
13	教育環境としての教師・保育者②【学習のポイント：保育者の資質について理解する。】
14	教育環境としての教師・保育者③【学習のポイント：保育者の資質と研鑽について理解する。】
15	教育環境としての教師・保育者④【学習のポイント：教職の専門性について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

子どもが育つ基盤としての社会環境や保育環境、家庭環境の重要性について論じなさい。

第2課題

子どもの育ちを支える教育環境としての教師・保育者の資質と研鑽、専門性について考えるところを述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』、『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』に「環境を通しての保育」を謳っている。子どもの育ちにおいて環境は重要な意味をもつ。テキストをよく読み、子どもが育つ基盤としての社会環境や保育環境、家庭環境の重要性について考察すること。

参考文献『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』のpp.28-32「環境を通して行う教育」、pp.41-44「計画的な環境の構成」、p.102「環境の構成」、pp.248-251「環境の構成の意味」を熟読すること。

第2課題の留意点

核家族・少子化・世代間の断絶など、豊かな人と人との交流が希薄化している現代、保育も多様化している。子どもの育ちを支える教師・保育者としての資質や研鑽、専門性について、テキストをふまえながら、自身の考えるところを論じること。

参考文献『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』のpp.45-49「教師の役割」、pp.116-118「教師の役割」を熟読すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に作成できているかについて評価する。レポートを作成する際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出しを付けて分かりやすくすること。
- ・次の3点を評価基準とする。
 - ・テキストを精読の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
 - ・自らが十分に理解した内容についてまとめ、今までと考えが変わった点を述べている。
 - ・他人に読ませることを意識して丁寧に作成している。(誤字や脱字は減点とする。)

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストをよく読んで理解を深めておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけることが必要である。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20077	科目名 [単位数/学習時間]	西洋教育史〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 石村華代 軽部勝一郎 『教育の歴史と思想 第2版』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623098446	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26071	
科目担当		小川 雄				

科目の目的

本科目では、西洋のさまざまな教育思想家の考え方に学びながら教育のこれからのあり様について熟考する。その過程をとおり、教育を多角的に捉えられる視座を獲得することが本科目の目的である。

到達目標

- ・西洋の主要な教育思想について、それぞれの鍵となる考えや基本となる考え方に親しむこと。
- ・教育思想家をばらばらに理解するのではなく、他の思想家との関連で捉えて、知識を有機的に繋げられるようになること。
- ・現代の教育問題について、教育思想の助けを借りながら一定の指針を示せるようになること。

学習テーマ

- 1 テキスト「1 ソクラテス：真理の探求者」を読む：「助産術」のねらいと「無知の知」の教育的意義を理解する。
- 2 テキスト「2 コメニウス：子どものために『教科書』を」を読む：「汎知学」の教育学的意義を掴む。
- 3 テキスト「3 ロック：紳士教育論と『教育に関する考察』」を読む：徳育に関するロックの考え方をまとめる。
- 4 テキスト「4 ルソー：消極教育と『エミール』」を読む：「消極教育」の教育的な意義を理解する。
- 5 テキスト「5 カント：自律的で道徳的な人間を育てる」を読む：カントの道徳教育論を理解する。併せて、ルソーとの関連と違いも整理する。
- 6 テキスト「6 ペスタロッチ：貧民教育と直観教授法」を読む：「家庭的な雰囲気」の教育的な意義を掴む。
- 7 テキスト「7 ヘルバルト：教育学の体系化と教授方法の段階化」を読む：ヘルバルトの人間観を理解しながら彼の教育思想についてまとめる。併せて、ペスタロッチとの違いも整理する。
- 8 テキスト「8 フレーベル：幼稚園の創設者」を読む：「遊び」の教育的意義について理解を深める。
- 9 テキスト「9 デュルケム：教育社会学の祖」を読む：デュルケムの道徳教育論について理解を深める。カントなどの近代の思想家との違いも整理する。
- 10 テキスト「10 ケルセンシュタイナー：社会生活の基礎を学校で身につける」を読む：「労作」の教育的意義についてまとめる。
- 11 テキスト「12 デューイ：プラグマティズムの教育」を読む：「為すことによって学ぶ」という考え方を理解する。併せて、ルソーとの関連を整理する。
- 12 テキスト「13 モンテッソーリ：『子どもの家』で生まれたメソッド」を読む：「教具」の教育的意義とモンテッソーリの発達観を理解する。併せて、フレーベルの「恩物」との関連性も整理する。
- 13 テキスト「14 ボルノウ：信頼と希望の教育学」を読む：「出会い」の教育的意義について理解を深める。
- 14 テキスト「15 ブルーナー：学習に発見の喜びを」を読む：ブルーナーの言う「構造」の意味を明らかにする。併せて、学習の動機付けについてのブルーナーの見解をまとめる。
- 15 テキスト「16 イリイチ：学校化された社会への批判者」を読む：イリイチの「脱学校論」がどのような主張であるのかを理解する。

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

テキスト第1部「西洋教育思想史」に登場する思想家から3人選び、教育における教師の役割という観点からそれぞれの教育思想を2,000字程度でまとめなさい。ただし、だれを取り上げているかが明確にわかるようにすること。

第2課題

テキスト第1部「西洋教育思想史」に登場する思想家から少なくとも2人選び、道徳教育のねらいと方法という観点から、それぞれの教育思想を2,000字程度で論述しなさい。ただし、だれを取り上げているかが明確にわかるようにすること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

教育を教師による一方的な教え込みとみなせば、教師の仕事は、子どもたちに効率的に知識を伝達することに尽きる。しかし、教育思想家のなかには、教師の役割をそのようには捉えなかったひとたちもいる。具体的には、教師の役割を子どもの学びの援助として理解する思想家もいる。教師の役割を考えるうえで、「子どもはどのようにして学び成長していくのか」という視点からテキストを読み解き、思想家を選定してほしい。

第2課題の留意点

「少なくとも2人」であるので、可能であれば、3人でもよい。ただし、4人以上となると1人あたりに割ける文字数が少なくなってしまうので、多くとも3人までに抑えること。比較的取り組みやすいと思われるのは、カントとデュルケムを取り上げ、両者を対比的に紹介する、というやり方である。あるいは、ペスタロッチとボルノウの教育思想との間には類似性があるので、それに着目しながら、それぞれの道徳教育論をまとめてもよい。もちろん、ほかの組み合わせでも構わない。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・三部構成でレポートを作成すること。この形式を守っていないレポートは採点の対象にならない。
 <書式> 1. 序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
 2. 本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
 3. 結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことによどのような意義があるのかを示す。
- ・本論見出しは、「本論」とするのではなく、内容に即した標題を書くこと。
- ・指定文字数を守ること。指定文字数の9割となる1,800字に達していないレポートは、採点の対象にならない。
- ・引用の作法を守ること。テキストであれ、他の文献であれ、引用した箇所は「 」でくくり、出典の情報を明示しなければならない。なお、引用の作法をたとえ守っていたとしても、その引用を自分がどのように理解したのかを示していないレポートは、採点の対象にならない。
- ・漢字の書き間違い（誤変換）や言葉の誤用は減点対象である。ワープロソフトを使用する場合でも、漢字については、正しい書き順に留意すること。
- ・論理的に文章が組み立てられていること。「すなわち」、「しかし」、「だから」、「というのは」といった接続詞を駆使して、文章の前後関係をはっきりさせる。この点がよく守られているレポートは、高く評価したい。
- ・テキストの記述をまとめたうえで、自分の言葉で批判的に考察したり、論拠を問い直したりして、テキストを深く読み込みもっているレポートには、高い評価を与えたい。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

科目修了試験では、「学習テーマ」に沿って15人の教育思想家のなかから1人ないし2人を取り上げて出題する。どの時代のどの思想家が出題されても対応できるように、テキストの第1部全体にわたって読み通しておくこと。「無知の知」、「汎知学」といった重要なキーワードをまとめることはもちろん、思想家相互の影響関係や日本の教育に与えた影響なども調べておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その9割である720字に達していない答案は、採点の対象にならない。
- ・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。
- ・テキストの内容をふまえていること。独りよがりの論述に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

- ・広岡義之 『新しい教育原理 新版』 ミネルヴァ書房
- ・谷田貝公昭 林邦雄 成田國英 『教職課程シリーズ6 教育方法論 改定版』 一藝社
- ・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規 改訂新版』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20080	科目名 [単位数/学習時間]	子育て相談・支援の理論と実際 [2 単位/90時間]			
テキスト	● 松井剛太 『新・子育て支援 子どもの姿を喜びに変えるために』 教育情報出版					
ISBN	9784909378347	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,818	生協 テキストNo.	26072	生協での購入をおすすめします
科目担当		佐藤 智恵				
実務経験のある教員による科目		保育士				

科目の目的

現在、少子化社会の中で子育てを行う保護者は、育児不安や子育てへの負担など多様な悩みを抱えている。このような問題に対し、保育所に求められている子育て支援の役割や意義を理解し、保護者の子育てに関する様々な悩みや不安に対して適切な相談や支援ができるように、事例を通して具体的な相談の実際について学びを深める。保育実践における子育て支援の実際についての理解を深める。保育士としての実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・ 現代社会における子育て上の多様な課題を理解し、保育所での子育て支援の必要性を理解する。
- ・ 子育て相談・支援を行うにあたってのポイントや必要とされる姿勢について学習し、子育て相談・支援に必要な知識や技術を習得する。

学習テーマ

1	保育所・幼稚園・こども園における子育て支援とは【学習のポイント：子育て支援における保育士の役割を理解し、保育所保育士指針に記載された子育て支援の内容を理解する。】
2	子育て支援の意義【学習のポイント：「児童の権利に関する条約」と家庭・就学前施設の役割について理解する。現代の家庭における課題について理解する。生態学的システムについて理解する。】
3	子育て支援の基本【学習のポイント：保育士の倫理綱領を理解した上で、エンパワーメントについて説明できる。家庭の多様性の背景について理解し、必要な配慮について学ぶ。】
4	子育て支援の技術【学習のポイント：保護者との信頼関係構築のために必要な技術を学び、コミュニケーション技法について理解する。】
5	保育士の日常と子育て支援【学習のポイント：保育所が行う日常的な子育て支援を理解する。】
6	園内での職員連携【学習のポイント：園内における職員連携のポイントを理解する。】
7	子どもの育ちを保護者に伝える方法とその効果【学習のポイント：子どもの育ちを保護者に伝える具体的な方法を理解し、保護者と共有するための多様な方法を知る。】
8	保護者参加の方法とその効果【学習のポイント：保護者の参加がどう支援に結びつくかを理解し、その際の保育士の役割を考えることができる。】
9	地域の社会資源の活用と連携【学習のポイント：地域の関係機関と連携し、保護者を支援することの意義を理解する。】
10	子ども虐待への対応と家庭への支援【学習のポイント：子どもの虐待を理解し、対応を学ぶ。】
11	障害のある子どもとその家庭への支援【学習のポイント：障害のある子どもを育てる家庭の現状を理解し、支援について考えることができる。】
12	貧困家庭への支援【学習のポイント：貧困の概念を理解し、支援のあり方を具体的に考えることができる。】
13	外国につながる子どもをもつ家庭への支援【学習のポイント：外国につながる子どもとその家庭の現状と課題を理解し、具体的な支援のあり方を考えることができる。】
14	地域の子育て家庭に向けた支援【学習のポイント：保育所等が、地域の子育てを担う支援拠点であることを理解する。】
15	子育て支援の今後に向けて【学習のポイント：今後の保育所等における子育て支援のあり方を考える。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1 課題

子育て支援を行う上で必要な技術についてまとめた上で、保育者に求められている支援方法について考察せよ。また、子どもの育ちを保護者に伝える際に具体的な方法を1つ記載せよ。

第2 課題

現在の日本社会が抱える多様な子育て支援のニーズについてまとめ、そのことを踏まえて保育所における子育て支援の必要性について考察せよ。

各課題の留意点**第1 課題の留意点**

- ・自らの経験談ではなく、テキストによる学習を基に記述すること。主に1章～4章を熟読し、それぞれの章で学んだ支援に向かう際の考え方や具体的な技術についても記述すること（特に第4章の①「バイステックの7原則」、②「保護者に対する支援技術」、③「コミュニケーション技法」については必ず学習し、①～③を必ず記述に含めること。ただし、①～③の詳細項目はすべて記述する必要はなく、必要なものを選んで記述すること）。
- ・テキストの各章には実践事例について考えるページがあるので必ず取り組み、子育て支援についての理解を深めてから課題に取り組むこと。
- ・テキスト以外に内容に適した文献（書籍、研究論文、新聞など）を自分で探して、レポート内に最低1か所、引用すること。
- ・「保育者に求められている支援方法」については、テキストから抽出した文章だけでなく、必ず自分の考察を記述すること。

第2 課題の留意点

- ・自らの経験談は不要である。
- ・1章にあるブロンフェンブレンナーが提唱した生態学的システムの考え方を学習し、保護者が置かれた子育て環境について簡潔に記述を行うこと。
- ・多様な子育てニーズについては10章～14章を熟読し、ポイントを理解した上で課題をまとめること。保育所で行う支援については、5章～9章を熟読し、園内連携や他機関との連携などを理解し、記述すること。
- ・テキストの各章には実践事例について考えるページがあるので必ず取り組み、子育て支援についての理解を深めてから課題に取り組むこと。
- ・テキスト以外に内容に適した引用文献（書籍、研究論文、新聞など）を自分で探して、レポート内に最低1か所、引用すること。
- ・「保育所における子育て支援の必要性」についてはテキストから抽出した文章だけでなく、必ず自分の考察を記述すること。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。

レポートの評価基準

以下の3点を評価基準とする。

- ・テキストでの学習をふまえた上で、課題で求められた内容が記載されている。
- ・誤字脱字が無く、主語と述語の関係などに留意し作成されている。
- ・テキスト以外で、内容に適した引用が行われている。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・「学習テーマ」で挙げた点を中心に、テキストによる学習を進めること（特に、テキストpp.27-29、pp.44-59、pp.80-103については熟読し、内容を理解しておくこと）。
- ・特に、レポート作成時に学習したキーワードとなる言葉については、必ず復習しておくこと。
- ・テキストには、事例も多く記載されているので丁寧に読み、支援の方法を把握しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストの内容をふまえた上で、論述すること。自らの経験談や根拠のない自説を記入しても評価しない。
- ・誤字脱字や主語述語のねじれがあるなど、意味が取れない文章と判断したものについては減点対象とする。
- ・解答用紙表面の1/2以上の記述があること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20091	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援教育基礎理論 [1単位/45時間]			
テキスト	● 安藤隆男 『特別支援教育基礎論』 放送大学教育振興会					
ISBN	9784595321757	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26075	
科目担当		「親和通信」で連絡				
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教諭、公立小学校通級指導教室教諭				

科目の目的

インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の基礎的理解を目的とする。視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、発達障害を概括的に学び、インクルーシブ教育システムと関連付けて理解する。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

- ・日本におけるインクルーシブ教育システムについて概要を理解する。
- ・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、発達障害の概要を理解する。
- ・上記の障害に関する教育内容・方法、配慮事項、今日的教育課題について概要を理解する。

学習テーマ

1	特別支援教育について【学習のポイント：特別支援教育の定義と制度の見直しについて理解する。】
2	特別支援教育の歴史について【学習のポイント：特殊教育から特別支援教育への転換について理解する。】
3	日本のインクルーシブ教育システムについて【学習のポイント：理念・内容等について理解する。】
4	特別支援学校の教育について【学習のポイント：教育課程とセンター的機能について理解する。】
5	特別支援学級と通級による指導について【学習のポイント：教育課程と課題について理解する。】
6	視覚障害教育と聴覚障害教育【学習のポイント：それぞれの教育内容や配慮事項を理解する。】
7	知的障害教育と肢体不自由教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれのニーズや配慮を理解する。】
8	病弱教育と発達障害教育【学習のポイント：障害の困難な様子とそれに対する配慮事項を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、通常の学級に在籍する知的発達の遅れがない発達障害児の状態像を、テキストから簡潔にまとめ、各障害への学習上の配慮について述べなさい。

第1課題の留意点

- テキスト第8章、第9章、第10章、第11章、第12章、第15章などの関連箇所をよく読んだ上で、自分の意見も含めて次の2点についてまとめること。
- ①視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、通常の学級に在籍する知的発達の遅れがない発達障害児の状態についてまとめる。(1,000字程度)
 - ②各障害への学習上の配慮について、自分の意見も含めてまとめる。(1,000字程度)
- (①②、あわせて2,000字程度)

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- テキストから学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の意見も的確に記入できているかについて評価する。評価基準は以下の4点。
- ①テキスト等から理解した状態について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
 - ②学習上の配慮については、テキストをよく読んだうえで、自分の考えを含めて述べている。
 - ③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
 - ④レポート作成上のルールが守られ、誤字・脱字が無く、漢字を適切に使用し、作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」、「到達目標」に沿ってテキストの各章から出題する。テキストの小見出しごとに、自分なりの要約を作成しておくこと。専門的なキーワードを的確に用いること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題に関して、テキストの幅広い理解ができている。
- ・設題に沿った記述があること。自己の知識や経験内容の記述があっても設題から逸脱していれば得点にならない。
- ・適切なキーワードを使用し、内容が的確に説明されている。

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 東山書房又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』 文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』 平成24年 7 月23日

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20092	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児の心理A [1単位／45時間]			
テキスト	● 梅谷忠勇 生川善雄 堅田明義 『特別支援児の心理学 新版 理解と支援』 北大路書房					
ISBN	9784762828928	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26076	
科目担当		中尾 繁樹				
実務経験のある教員による科目		公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事				

科目の目的

知的障害児の心理学的特性について基本知識を幅広く習得する。また、心理的アセスメントについて理解しながら、概要について学ぶ。本科目の学習により、知的障害児の心理特性や脳機能との関連を理解し、その課題について述べることができ、また、知的障害児に用いる心理的アセスメントの概要を説明できるようになることをめざす。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害を中心とした特別な配慮のいる子どもたちの心理特性及び脳機能との関連、発達とその実態把握について理解する。知的障害教育に携わるための基礎的知識を理解する。知的障害は、心理学的側面を含む概念であり、行動レベルで測定される知能を定義の一部としている。様々な心理学的アプローチによって得られた知見や人に関する心理モデルを知ることによって知的障害の心理機能や脳機能に関する見方を学習する。

学習テーマ

1	特別支援児の概要と理解について【特別支援児の概要、障害の原因等の理解をする。】
2	特別支援児の心理特性について①【受容機能の障害について理解する。】
3	特別支援児の心理特性について②【処理機能の障害について理解する。】
4	特別支援児の心理特性について③【表出機能の障害について理解する。】
5	特別支援児の心理特性について④【病虚弱、重症心身障害について理解する。】
6	特別支援児の教育支援について【特別支援教育の概要と実際について理解する。】
7	特別支援児の心理とその支援に関するトピックス①【視知覚機能、知的発達等の支援を理解する。】
8	特別支援児の心理とその支援に関するトピックス②【言語の獲得や支援機器利用等を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

特別な配慮が必要な子どもたちの事例を挙げ、その心理特性をまとめるとともに、その支援方法について述べなさい。

第1課題の留意点

知的障害・自閉症等の特別な配慮が必要な子どもたちの具体的な症状については簡潔にまとめ、具体的な支援方法についてはテキストだけでなく他の文献・資料を参考にして、できるだけ具体的に記述することが望ましい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
- ・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

基本的用語についてよく学習しておくとともに、知的障害を中心とした各障害の特徴、心理特性、記憶特性等についても理解を深め、支援の在り方について調べておくことが必要である。また、様々な心理学的アプローチや心理検査の種類についてもテキストだけでなく、他の文献・資料を参考に調べておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

- ・橋本創一 『特別支援教育の基礎知識 障害児のアセスメントと支援、コーディネートのために』 明治図書出版
- ・下山晴彦 『実践 心理アセスメント』 日本評論社
- その他、心理アセスメント、知能検査関連の文献

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20094	科目名	知的障害児の生理・病理〔2単位／90時間〕			
		[単位数/学習時間]				
テキスト	● 太田俊己 佐藤慎二 『改訂新版 知的障害教育総論』 放送大学教育振興会					
ISBN	9784595321740	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26078	
テキスト	● 宮尾益知 『発達障害の基礎知識 改訂版』 河出書房新社					
ISBN	9784309294193	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,630	生協 テキストNo.	26079	
科目担当		木原 健二				
実務経験のある教員による科目		理学療法士（病院・医療福祉センター等）				

科目の目的

知的障害児への教育を考える上で、知的障害の原因や病態の理解を深めることは重要である。本科目では知的障害児の生理・病理を具体的に学習し、病態の観点から特別支援教育に必要な知識と技術について理解を深める。また、発達障害児への教育に必要な、発達障害の原因や病態の理解を深める。各々の内容について、教員の実務経験を踏まえて教授する。

到達目標

2冊のテキストを通して、知的障害児の病態を生理・病理観点から学ぶと共に、教育に関する留意点について理解を深める。また、発達障害についても、その障害の特徴に応じた支援について理解する。

学習テーマ

1	知的障害のある幼児児童生徒への教育<テキスト『知的障害教育総論』 pp.9-21>
2	知的障害の心理と教育実践<テキスト『知的障害教育総論』 pp.22-35>
3	知的障害と周辺の障害<テキスト『知的障害教育総論』 pp.36-47>
4	知的障害教育の教育課程と指導法<テキスト『知的障害教育総論』 pp.48-63>
5	知的障害教育の指導法（生活単元学習、作業学習）<テキスト『知的障害教育総論』 pp.64-96>
6	知的障害教育の指導法（日常生活の指導・遊びの指導、教科別の指導）<テキスト『知的障害教育総論』 pp.97-120>
7	授業改善と知的障害教育／特別支援学級の教育Ⅰ・Ⅱ<テキスト『知的障害教育総論』 pp.121-165>
8	キャリア教育と知的障害教育／高等部教育とキャリア発達支援）<テキスト『知的障害教育総論』 pp.166-197>
9	個別の諸計画と知的障害教育／インクルーシブ教育システムと知的障害教育 <テキスト『知的障害教育総論』 pp.198-225>
10	発達障害の最新の知見と取り組み<テキスト『発達障害の基礎知識』 pp.9-33>
11	ADHD、ASD、LDは認知の偏りと特性<テキスト『発達障害の基礎知識』 pp.35-62>
12	発達障害の診断を受けたら親はどうする？<テキスト『発達障害の基礎知識』 pp.63-86>
13	男の子と女の子、乳幼児期から思春期までの発達障害<テキスト『発達障害の基礎知識』 pp.87-130>
14	青年期から大人の発達障害<テキスト『発達障害の基礎知識』 pp.131-158>
15	整備される法律や変化する社会<テキスト『発達障害の基礎知識』 pp.179-212>

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

知的障害の定義と原因を述べ、知的障害児の特徴と、知的障害をもつ子ども（小学生～中学生）の支援について述べなさい。

第2課題

発達障害の中の注意欠如・多動性障害（ADHD）及び自閉症スペクトラム障害（ASD）について、各々の障害の特徴を述べ、各々の障害をもつ子ども（小学生～中学生）に対する支援方法について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

知的障害を医学的観点から論述し、知的障害をもつ子どもに対する教育および日常生活における具体的な支援方法について考察する。

第2課題の留意点

注意欠如・多動性障害（ADHD）及び自閉症スペクトラム障害（ASD）の特徴を医学的観点から論述し、各々の障害をもつ子どもに対する自宅や学校等での具体的な支援方法について考察する。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストの内容を理解した上で、課題に対する自分自身の考察を論述できている。
- ・理解した内容について、主語と述語の関係などを留意して簡潔にまとめている。
- ・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。
- ・誤字脱字がない。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・600字程度の記述問題で行う。
- ・知的障害及び発達障害についての医学的事項の説明及び支援・教育の具体的な方法について、テキスト・参考文献等から得た知識を踏まえて自分自身の考察を述べること。
- ・テキスト『改訂新版 知的障害教育総論』では、第1章「知的障害のある幼児児童生徒への教育」～第8章「指導法④教科別の指導」(pp.9-120)、第15章「インクルーシブ教育システムと知的障害教育」(pp.213-225)、テキスト『発達障害の基礎知識 改訂版』では第1章「ADHD、ASD、LDは認知の偏りと特性」から第3章「男の子と女の子、乳幼児期から思春期までの発達障害」(pp.35-130)について特に理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかを評価する。
- ・テキスト等から得た知識を踏まえた上で考察が述べられているか評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し、誤字脱字がなく論理的に記述できていることと、指定文字数の2/3以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・土田玲子 『感覚統合Q & Aー子どもの理解と援助のために 改訂第2版』 協同医書出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20095	科目名 [単位数/学習時間]	肢体不自由児の心理・生理・病理A [1単位/45時間]			
テキスト	● 篠田達明 『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂					
ISBN	9784765316286	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,200	生協 テキストNo.	26080	
科目担当		松井 学洋				
実務経験のある教員による科目		特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				
科目の目的						
肢体不自由児への教育を考える上で、肢体不自由の原因や病態の理解を深めることは重要である。本科目では肢体不自由の定義と原因を学ぶと共に、肢体不自由児の心理・生理・病理の特徴を理解し、その病態生理に応じた特別支援教育が実施できるための必要な知識と技術を学ぶ。また、現在、課題となっている学校内での医療的ケアについて概説を行う。実務経験を活かして教授する。						
到達目標						
テキストを通して、肢体不自由児の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、障害特性に合わせた支援方法・教育方法を習得する。						
学習テーマ						
1	肢体不自由児の原因と脳性麻痺について <テキストpp.1-32>					
2	二分脊椎と筋ジストロフィーについて <テキストpp.33-53>					
3	ベルテス病と骨系統疾患について <テキストpp.55-73>					
4	手足の先天奇形と先天性多発性関節拘縮症について <テキストpp.75-90>					
5	ダウン症の整形外科的合併症と先天性股関節脱臼について <テキストpp.91-108>					
6	肢体不自由児へのリハビリテーションについて <テキストpp.109-149>					
7	肢体不自由児の看護と療育上の留意点について <テキストpp.151-171>					
8	肢体不自由児の学校教育について <テキストpp.173-254>					
レポートについて						
第1課題		ワープロソフト 使用可				
肢体不自由が生じる原因を述べ、肢体不自由児に対するリハビリテーションと、特別支援教育の内容と方法についてまとめなさい。						
第1課題の留意点						
肢体不自由が生じる原因を病理的観点から論述し、リハビリテーションの特徴と教育内容、教育支援法について具体的に考察する。						
生成AIの利用について						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
レポートの評価基準						
テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。						
科目修了試験について						
科目修了試験「答案」作成の留意点						
テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行うため、テキストを熟読し、内容理解に努めること。また、教科書的知識のみでなく、自分の考えを具体的に記述できるようにすること。						
科目修了試験の評価基準						
テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面が埋まる程度<1行30字×27行(810字程度)>の記述があることを前提に評価を行う。						
参考文献						
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部) <平成30年3月>』 文部科学省HP						
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連						
所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。						
課題に対するフィードバック						
提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。						

科目コード	20097	科目名 [単位数/学習時間]	病弱児の心理・生理・病理A [1単位/45時間]			
テキスト	●宮本信也 土橋圭子 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂					
ISBN	9784765316279	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,200	生協 テキストNo.	26081	
科目担当		松井 学洋				
実務経験のある教員による科目		特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				
科目の目的						
健康の概念や病弱児の生理・病理の基礎知識ならびに心理面、社会面における影響を全人的にとらえて概説し、児童生徒・保護者への支援システムや社会的資源について学習する。病気を持ちながら学校生活を送る子どもたちの生理的側面や心理的側面を学び、病弱児が健やかに学校生活を送るための支援について考える。実務経験を活かして教授する。						
到達目標						
テキストを通して、病弱児の特徴を心理・生理・病理的観点から学ぶ。また、病気を持ちながらも学校に通う子ども達への教育上の支援について理解を深め、適切な関わりが行えるようにする。						
学習テーマ						
1	病弱児教育の対象となる疾患について① 悪性腫瘍、循環器疾患 <テキストpp.1-26>					
2	病弱児教育の対象となる疾患について② 腎疾患、呼吸器疾患 <テキストpp.37-50>					
3	病弱児教育の対象となる疾患について③ 糖尿病、膠原病、神経疾患 <テキストpp.50-78>					
4	病弱児への医療とリハビリテーションについて <テキストpp.79-98>					
5	病弱児教育における心理的支援について <テキストpp.99-165>					
6	教育と医療との連携について <テキストpp.167-176>					
7	病弱児教育の目標と教育課程について <テキストpp.177-198>					
8	病弱児教育の実践について <テキストpp.198-264>					
レポートについて						
第1課題		ワープロソフト 使用可				
病弱・身体虚弱児の定義とその対象となる疾患を2つ挙げ、その病態と学校生活での支援と留意点についてまとめなさい。						
第1課題の留意点						
病弱・身体虚弱児について、その定義と対象疾患を具体的に説明し、心理的・病理的観点から学校生活での支援方法と留意点を考察する。						
生成AIの利用について						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
レポートの評価基準						
テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。						
科目修了試験について						
科目修了試験「答案」作成の留意点						
テキスト全ページが試験範囲であり、テキストの内容に準じた試験を行うため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。また、教科書的知識のみでなく、自分の考えを具体的に記述できるようにすること。						
科目修了試験の評価基準						
テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面が埋まる程度<1行30字×27行(810字程度)>の記述があることを前提に評価を行う。						
参考文献						
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部) <平成30年3月>』 文部科学省HP						
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連						
所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。						
課題に対するフィードバック						
提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。						

科目コード	20099	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児教育論ⅠA [1単位/45時間]			
テキスト	● ノートルダム清心女子大学『知的障害児の教育 第2版』 大学教育出版					
ISBN	9784864291514	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26082	
科目担当		中尾 繁樹				
実務経験のある教員による科目		公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事				
科目の目的						
知的障害児の教育に関する基本的知識を幅広く習得することを目標とする。知的障害児の教育課程（カリキュラム・マネジメント）、指導の実践については通常教育とは大きく違いを持つ。本科目では、知的障害児の教育の歴史、教育課程（カリキュラム・マネジメント）、個別的教育支援計画・指導計画等、特別支援学校（学級）で必要と思われる基本的知識を概括して学ぶ。実務経験を活かして教授する。						
到達目標						
知的障害児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、知的障害教育の歴史や学習指導要領の変遷をたどりながら、主に知的障害教育の教育課程（カリキュラム・マネジメント）について学習する。知的障害を主とした特別支援学校及び特別支援学級での指導の実践を学習する中で、特別な教育内容、領域教科を合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導）の授業、自立活動、教科の授業等について理解する。さらに「個別の指導計画」及び「個別的教育支援計画」について、その基本的考え方や策定方法も理解する。						
学習テーマ						
1	障害とは【学習のポイント：障害について理解する。】					
2	知的障害児と発達障害児【学習のポイント：知的障害と発達障害の違いについて理解する。】					
3	知的障害児の心理と行動傾向【学習のポイント：知的障害児の認知、記憶等の心理面や行動特性について理解する。】					
4	障害児教育の歴史【学習のポイント：日本と海外の障害児教育の歴史について理解する。】					
5	「法」に規定された障害児教育の目的と対象【学習のポイント：特別支援学校や学級の設置等について理解する。】					
6	障害児教育の概観【学習のポイント：特別支援教育について理解する。】					
7	特別支援学校学習指導要領の改訂と教育課程（カリキュラム・マネジメント）【学習のポイント：特別支援教育の教育課程（カリキュラム・マネジメント）について理解する。】					
8	知的障害教育の実践【学習のポイント：自立活動等の具体的な指導について理解する。】					
レポートについて						
第1課題		ワープロソフト 使用可				
知的障害教育における教育課程の特徴と特例についてまとめ、「教科等を合わせた指導」若しくは「自立活動」の指導について、具体的な事例をあげて説明しなさい。						
第1課題の留意点						
知的障害児の特別支援教育における教育課程に関しては、参考文献の教育要領・学習指導要領を参考に図式化しながら簡潔にまとめるのが望ましい。また、教科等を合わせた指導、各教科、自立活動等の具体的な事例をあげながら記述するのが望ましい。						
生成AIの利用について						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
レポートの評価基準						
・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。 ・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。						
科目修了試験について						
科目修了試験「答案」作成の留意点						
特別支援教育の教育課程の特徴や特例について、基本的な用語の理解とともに、参考文献の教育要領・学習指導要領を参考に理解を深めておくことが大切である。また、各教科、領域教科を合わせた指導、自立活動における具体的指導例や個別指導計画の意義等もテキストや他の文献を参考に調べておくことが望ましい。						

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・中村忠雄 『はじめての特別支援教育 これだけは知っておきたい基礎知識』 明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20101	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児教育論Ⅱ [2単位/90時間]			
テキスト	● 佐藤慎二 高倉誠一 『知的障害教育総論』 放送大学教育振興会					
ISBN	9784595325038	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26084	
科目担当		塚本 久義				
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

知的障害特別支援学校での教育課程の特徴（教科別に指導を行う場合、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて指導を行う場合、各教科等を合わせて指導を行う場合）や個別的教育支援計画、個別の指導計画等の作成及び活用について学習し、理解を深める。また、知的障害特別支援学級における教育課程の編成と実施の工夫について概要を学び、理解を深める。その際、学校現場での実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害は、知的発達の遅れと適応行動の困難を中核とする障害であり、知的障害教育特有の教育課程上の特徴や多様な指導方法がみられる。そのため、知的障害のある幼児児童生徒の学習上の特性について理解するとともに、教育課程上の特徴や指導方法、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成及び活用等について、学校等の現場における実際の状況や工夫の在り方に関する理解を図る。また、知的障害のある幼児児童生徒のキャリア発達支援の現状や課題について、様々な教育実践と関連付けて理解を深める。

学習テーマ

1	知的障害教育について【学習のポイント：知的障害教育の現況、知的障害の特徴等を理解する。】
2	知的障害の心理と教育実践【学習のポイント：知的障害の心理的特性と教育実践の要点を理解する。】
3	知的障害と周辺の障害【学習のポイント：関連する発達障害の定義や教育的支援の基本を理解する。】
4	知的障害教育の特色と教育的対応【学習のポイント：知的障害教育の特色とその対応について理解する。】
5	知的障害教育の教育課程と指導法【学習のポイント：教育課程の特徴、指導の形態、指導法を理解する。】
6	生活単元学習について【学習のポイント：生活単元学習の規定と実践上の要点について理解する。】
7	作業学習について【学習のポイント：作業学習の意義と特色、実践上の要点について理解する。】
8	日常生活の指導・遊びの指導【学習のポイント：各指導についての規定と要点、実践の方法を理解する。】
9	教科別の指導について【学習のポイント：各教科の規定と展開するうえでの留意点を理解する。】
10	自立活動の指導について【学習のポイント：知的障害教育における自立活動の指導の留意点を理解する。】
11	知的障害特別支援学級の教育【学習のポイント：教育課程の編成・実施上の留意点を理解する。】
12	キャリア発達支援と進路支援【学習のポイント：知的障害教育におけるキャリア教育の意義を理解する。】
13	交流及び共同学習、ICTの活用【学習のポイント：交流及び共同学習、ICTの意義を理解する。】
14	個別の諸計画と知的障害教育【学習のポイント：個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用することの意義及び方法について理解する。】
15	学習指導要領の理念の実現【学習のポイント：学習指導要領の理念の実現に向けた今日的な課題への対応について理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

知的障害の特性を踏まえ、指導のねらい・内容・方法が教育課程にどのように反映されているかを、テキスト及び『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』を参照して整理しなさい。

第2課題

交流及び共同学習やICTの活用は、知的障害のある児童生徒が将来の社会に適応し、豊かな共生社会の形成につながる重要な取組である。これらの取組が何を目的し、学校現場でどのように展開されているのか述べなさい。

各課題の留意点**第1 課題の留意点**

- 教育課程編成の基本的な考え方を踏まえること
知的障害特別支援学校における教育課程編成の基本的な考え方を前提とし、児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた柔軟な編成の重要性を意識して論じること。
- 次の3点について整理すること
 - ① 教育課程を弾力的に編成する際の基本的な視点。
 - ② 各教科別、領域別に指導を行う際の特徴と留意点。
 - ③ 各教科等を合わせた指導の意義と指導上の工夫。
- 3点の関連性を意識して論述すること
それぞれを独立して述べるのではなく、弾力的な教育課程編成の視点が、教科別、領域別指導や各教科等を合わせた指導にどのようにつながっているかを示すこと。
- 具体性をもって述べること
抽象的な説明に終わらず、授業づくりや教育課程編成の工夫、指導場面の例などを挙げて説明すること。

第2 課題の留意点

- 目的を明確にすること
交流及び共同学習やICTの活用が、知的障害のある児童生徒にとって何を目指す取組なのかを明確に示すこと。
- 学校現場での展開を具体的に述べること
特別支援学校・特別支援学級・通常の学級との交流及び共同学習の進め方や、授業や学校生活におけるICT活用の具体例を挙げて説明すること。
- 児童生徒の実態に応じた配慮に触れること
知的障害の特性を踏まえ、活動内容やICTの使い方について、どのような配慮や工夫が行われているかを述べること。
- 教育的意義と課題の両面を扱うこと
取組の意義だけでなく、実施上の課題や今後の改善点についても触れること。
- 共生社会とのつながりを意識すること
将来の社会生活や共生社会の形成に、これらの取組がどのようにつながるのかを意識してまとめること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストをよく読み、的確に要約し、まとめている。
- ・キーワードを用いてその意味を解説しながら具体的に論述し、参考文献等の情報を加えて作成している。
- ・レポート作成上のルールが守られ、正しく丁寧に作成している。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

「科目の目的」、「到達目標」に沿ってテキストの各章から出題する。テキストの小見出しごとに、自分なりの要約を作成しておくこと。専門的なキーワードを的確に用いること。また、「概要・定義・特徴・特性・意義・方法・内容・留意点・困難点」などの用語は、答案作成のポイントとなるため、箇条書きにしてまとめておくようにする。

科目修了試験の評価基準

- ・設題に沿った内容の記述があること。自己の知識や経験内容の記述があっても、設題から逸脱していれば得点にはならない。
- ・適切なキーワードを使用し、内容が的確に説明されている。
- ・解答の内容に、知的障害教育の実践につながるような具体性がある。

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20102	科目名 [単位数/学習時間]	肢体不自由児教育論A [1単位/45時間]			
テキスト	●川間健之介 長沼俊夫 『肢体不自由児の教育 新訂』 放送大学教育振興会					
ISBN	9784595321719	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26085	
科目担当		塚本 久義				
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

肢体不自由児の教育の歴史と現状、肢体不自由児の障害の特性、特別支援学校等における教育の実践、教育課程編成や肢体不自由の障害特性に応じた指導法、学習指導等における支援のあり方、自立活動の指導などについて学習する。その際、学校現場における教育課程編成、授業づくり、個別の指導計画の作成・活用、関係機関の職員との連携等の実務経験を踏まえ、具体的な事例を通して実践的な内容を教授する。

到達目標

- ・肢体不自由児教育の歴史について、医療等との関係を含めて学習し、この教育の現状と課題を認識する。
- ・肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場について理解する。
- ・教育課程編成の基本的な事項について理解し、肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級における学習指導等における支援の在り方や肢体不自由児教育の今後の課題について学び、認識を深める。

学習テーマ

1	肢体不自由教育の実践－特別支援学校を中心に－【学習のポイント：特別支援学校について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	肢体不自由教育の歴史と現状について【学習のポイント：肢体不自由教育の歴史と現状について理解する。＜テキスト第2章＞】
3	肢体不自由教育の実践－身体の動きの指導－【学習のポイント：自立活動における身体の動きの指導について理解する。＜テキスト第9章＞】
4	肢体不自由教育の実践－コミュニケーションの指導－【学習のポイント：コミュニケーションの指導について理解する。＜テキスト第10章＞】
5	肢体不自由教育の実践－各教科の指導－【学習のポイント：各教科の指導について理解する。＜テキスト第11章＞】
6	肢体不自由教育の実践－重複障害児の理解－【学習のポイント：重複障害児について理解する。＜テキスト第12章＞】
7	肢体不自由教育の実践－重複障害児の指導－【学習のポイント：重複障害児の指導について理解する。＜テキスト第13章＞】
8	肢体不自由教育の課題【学習のポイント：肢体不自由教育の今後の課題について理解する。＜テキスト第15章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

児童生徒の「障害の重度・重複化、多様化」が進む中、一人一人の教育的ニーズに対応するための「個別の指導計画」の役割と、インクルーシブ教育システムの構築に向けた「合理的配慮」の在り方について論じなさい。

第1課題の留意点

- 論述の中心テーマを明確にすること
肢体不自由教育における「個別の指導計画」の役割について、次の2点を軸に論じること。
①一人一人の教育的ニーズをどのように把握し、計画に反映しているか。
②指導・評価・改善をつなぐ計画として、どのような意義をもつか。
- 合理的配慮の捉え方に留意すること
合理的配慮を「特別な対応」として述べるのではなく、本人の自立や社会参加を支えるための環境調整のための支援として捉え、その考え方を示すこと。
- 個別の指導計画との関連を示すこと
合理的配慮が、個別の指導計画の目標や指導内容、支援方法とどのように結び付いているかに触れること。
- 具体性をもって論述すること
抽象的な説明に終わらせず、授業や学校生活の場面を想定しながら、具体的な支援や指導の工夫を示すこと。
- 全体で2,000字程度とし、論点が偏らないよう構成を工夫すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキスト等から学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の意見も的確に記入できているかについて評価する。
- ・評価基準は次の4点。
 - ①課題についてテキストをよく読んだうえで参考文献等も加味し、自分の考えを含めて述べている。
 - ②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
 - ③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
 - ④他人に読ませることを意識して丁寧な文字で記入している。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキスト全体を出題範囲としている。テキストをよく読んで、肢体不自由児の教育について、歴史と現状、教育の場、障害の特性、教育課程の編成、自立活動の指導や各教科の指導の実際等について、各章ごとにキーワードをまとめ、内容を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説のみを記入しても評価しない。
- ・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・筑波大学附属桐が丘特別支援学校 『肢体不自由教育の理念と実践』 ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』「第3編 障害の状態等に応じた教育的対応 IV肢体不自由」 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20104	科目名 [単位数/学習時間]	病弱児教育論 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 日本育療学会 『標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版』 ジアース教育新社					
ISBN	9784863716186	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26086	
科目担当		塚本 久義				
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

病弱教育の意義や特別支援学校・特別支援学級での取り組みについて学習する。病弱教育における教育課程の編成と各教科等の指導について、どのように取り組むのかを学習する。

その際、入院・通院を伴う児童生徒への指導や、医療・家庭・前籍校・関係機関との連携、学習の継続性を保障する工夫等に関する実務経験を踏まえ、具体的な事例を用いて実践的な内容を教授する。

到達目標

病弱教育について理解し、特別支援学校や特別支援学級における教育課程編成及び指導・支援方法などを知り、実践的な指導力の基礎を身につける。

学習テーマ

1	病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難【学習のポイント：病弱・身体虚弱について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	病弱教育の変遷【学習のポイント：病弱教育の歴史について理解する。＜テキスト第2章＞】
3	病弱教育の制度【学習のポイント：病弱教育の制度について理解する。＜テキスト第3章＞】
4	学びの場と教育形態【学習のポイント：病弱教育の学びの場について理解する。＜テキスト第4章＞】
5	病弱児の心理【学習のポイント：病気の子どもの心理的な困難について理解する。＜テキスト第5章＞】
6	主な病気の概要と教育支援【学習のポイント：病弱教育の対象の子どもの主な病気について理解する。＜テキスト第6章＞】
7	教育課程の編成【学習のポイント：病弱教育の教育課程編成について基本的な事項について理解する。＜テキスト第7章＞】
8	各教科の指導【学習のポイント：各教科の指導について理解する。＜テキスト第8章＞】
9	自立活動の指導【学習のポイント：自立活動について理解する。＜テキスト第9章＞】
10	病弱教育における情報化【学習のポイント：病弱教育における情報化の意義等について理解する。＜テキスト第10章＞】
11	キャリア教育【学習のポイント：キャリア教育について理解する。＜テキスト第11章＞】
12	病弱児と医療的ケア【学習のポイント：医療的ケアについて理解する。＜テキスト第12章＞】
13	教育と医療・福祉等との連携【学習のポイント：病弱教育における関係機関等との連携について理解する。＜テキスト第13章＞】
14	病弱児への復学支援の実践【学習のポイント：病弱児が復学する際の支援の実践について理解する。＜テキスト第14章＞】
15	通常の学級に在籍する病弱児への配慮【学習のポイント：通常の学級に在籍する病弱児への配慮や支援について理解する。＜テキスト第15章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

入院中から退院後、前籍校への復学に至るまでの一連のプロセスに着目し、教育現場が果たすべき役割について整理した上で、学校としてどのような具体的支援や配慮が求められるのかを論じなさい。

第2課題

慢性疾患のある子どもが病気と共に生活していくために、自らの病気を理解し、主体的に健康管理を行う自己管理能力の育成について、自立活動の指導を踏まえ、教育的アプローチや指導上の工夫を論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- 時系列を意識して整理すること
入院中、退院前後、復学直後という流れを意識し、それぞれの段階で必要となる支援を整理すること。
- 入院中の支援について
前籍校とのつながりを維持する工夫（情報共有、学習の継続、友人関係への配慮など）を具体的に示すこと。
- 退院を見据えた支援について
復学調整会議の役割や意義を明確にし、学校、医療、前籍校、家庭等の関係者がどのように連携することが重要かを述べること。
- 学習面への配慮について
長期欠席によって生じる学習の空白に対し、教育課程や指導の工夫によってどのように対応するのかを示すこと。
- 心理面への配慮について
復学直後の不安や緊張、体力面への負担に配慮した支援の在り方を具体的に述べること。
- 全体で2,000字程度とし、支援の内容が断片的にならないよう、まとめを含めて論理的に構成すること。

第2課題の留意点

- 発達段階を踏まえた視点をもつこと
子どもの年齢や発達段階に応じて、自己管理の内容や求める水準を段階的に高めていく視点をもって論じること。
- 自立活動の6区分の関連を意識すること
自己管理能力の育成を、自立活動の6区分（健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーション）と関連付けて整理すること。
- 自己効力感の育成に触れること
失敗や困難な経験を前向きに捉え直す関わりを通して、「自分にもできる」という自己効力感を育てる支援の重要性を示すこと。
- 周囲の支えを実感できる関わりを示すこと
教員や家族、医療関係者などの支えを子ども自身が実感できるような関わりや支援の工夫について具体的に述べること。
- 具体例を交えてまとめること
抽象的な説明に終わらせず、学校生活や指導場面を想定した具体例を用いて論述すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキスト等から学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の考えも的確に記入できているかについて評価する。
- ・評価基準は次の4点。
 - ①課題についてテキストをよく読んだうえで参考文献等も加味し、自分の考えを含めて述べている。
 - ②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
 - ③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
 - ④他人に読ませることを意識して丁寧な文字で記入している。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキスト全体を出題範囲としている。テキストをよく読んで、病弱教育について、概要、歴史と現状、制度と学びの場、病気の概要、教育課程の編成、各教科や自立活動の指導等の実際、関係機関等との連携等について、各章ごとにキーワードをまとめ、内容を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができていのかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説のみを記入しても評価しない。
- ・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』第3編 障害の状態等に応じた教育的対応 V病弱・身体虚弱
ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20106	科目名 [単位数/学習時間]	聴覚障害児の心理・生理・病理 [1単位/45時間]			
テキスト	● 中川尚志 廣田栄子 『最新言語聴覚学講座 聴覚障害学』 医歯薬出版					
ISBN	9784263270745	本体価格(円) (2026年1月現在)	4,300	生協 テキストNo.	26088	
科目担当		井坂 行男				
実務経験のある教員による科目		聴覚特別支援学校（聾学校）教員、言語聴覚士、学校心理士スーパーバイザー				

科目の目的

聴覚障害児に対する教育を実践する上で必要とされる、聴覚障害児者の心理・生理・病理に関する専門用語や基礎知識を学習することを目的とする。

到達目標

- ・聴覚の仕組みと役割、聴覚障害の原因や疾病について理解する。
- ・聴覚補償支援と情報保障について理解する。
- ・小児聴覚障害と発達、障害特性について理解する。
- ・小児の聴覚障害の評価及びリハビリテーション指導について理解する。
- ・視覚聴覚二重障害について理解する。

学習テーマ

1	音と音声の基礎知識、聴覚の構造と機能について理解する。＜テキストpp. 4 -29＞
2	難聴の症状と難聴の種類と原因について理解する。＜テキストpp.30-57＞
3	聴覚検査とその検査結果について理解する。＜テキストpp.58-77＞
4	聴覚補償機器（補聴器・人工内耳）と支援について理解する。＜テキストpp.90-137＞
5	音響環境と補聴援助・情報保障について理解する。＜テキストpp.138-150＞ 小児の聴覚障害が発達に及ぼす影響、教育や障害特性について理解する。＜テキストpp.151-162＞
6	小児期の聴覚障害における聴覚・言語評価について理解する。＜テキストpp.163-187＞
7	小児期の聴覚障害におけるリハビリテーション指導及びその発達について理解する。＜テキストpp.187-220＞
8	視覚聴覚二重障害について理解する。＜テキストpp.262-271＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

小児聴覚障害のリハビリテーション（それぞれの評価方法とコミュニケーションモード・聴覚学習・読話併用指導・コミュニケーション指導・言語発達指導・発音発語指導）についてまとめなさい。

第1課題の留意点

テキストの内容に基づいて、それぞれの評価方法及びその領域ごとの指導のポイントについてまとめなさい。用語や内容が不明なところは、各自インターネット等で検索したり、資料や論文等も参照しながら理解を深めること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。

- ・テキストでの学習を踏まえた上で、評価方法及び指導に関する専門用語やその指導内容を正しく説明できている。
- ・論理的な内容と文章で構成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・聴覚障害に関する心理・生理・病理に関する専門用語や基礎知識をしっかりと理解しておくこと。
- ・テキストを十分に熟読し、「学習テーマ」ごとの内容のポイントをまとめ、理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の意味を理解し、聴覚障害の心理・生理・病理に関する正確な知識を持って論述できていること。
- ・最低でも解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞以上の記述があること。

参考文献

- ・長南浩人 澤隆史 佐藤正幸 『新訂版 聴覚障害教育の基本と実際 新生児聴覚スクリーニングと特別支援教育への移行を踏まえて』 田研出版
- ・大沼直紀 立入哉 中瀬浩一 『教育オーディオロギーハンドブック』 ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20108	科目名 [単位数/学習時間]	聴覚障害児教育指導法 [1単位/45時間]			
テキスト	●長南浩人 澤隆史 佐藤正幸『新訂版 聴覚障害教育の基本と実際 新生児聴覚スクリーニングと特別支援教育への移行を踏まえて』田研出版					
ISBN	9784860890544	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,500	生協 テキストNo.	26089	
科目担当		井坂 行男				
実務経験のある教員による科目		聴覚特別支援学校（聾学校）教員、言語聴覚士、学校心理士スーパーバイザー				

科目の目的

聴覚障害の概要、乳幼児期から高等学校期までの学校及び特別支援学校（聴覚障害）及び通常学校にて、聴覚障害教育を行う上で必要な知識、教育課程、指導方法、配慮点などについて学習する。

到達目標

- ・聴覚障害児に必要な言語およびコミュニケーション方法を理解する。
- ・特別支援学校（聴覚障害）における各学部の教育課程、教育方法、指導上の工夫や配慮について理解する。
- ・通常学校における聴覚障害児への教育方法、指導上の工夫や配慮について理解する。

学習テーマ

1	聴覚障害児教育の成り立ちと教育課程・教育制度について理解する。＜テキストpp.9-35＞
2	聴覚障害と聴覚学習、補聴器と人工内耳について理解する。＜テキストpp.37-69＞
3	聴覚障害児のコミュニケーション手段・言語発達・認知発達・学力・社会性について理解する。＜テキストpp.103-147＞
4	特別支援学校（聴覚障害）〔乳幼児教育相談・幼稚部、小学部（小学校）、中学部（中学校）、高等部（高等学校）〕での教育について理解する。＜テキストpp.169-203＞
5	聴覚障害児に対する通常学校での教育について理解する。＜テキストpp.205-228＞
6	聴覚障害児に対する主要5教科の実践について理解する。＜テキストpp.231-277＞
7	聴覚障害児に対する実技系教科の実践について理解する。＜テキストpp.279-332＞
8	障害の多様性と教科外の領域の実践について理解する。＜テキストpp.71-101、pp.333-352＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

聴覚障害児に対する特別支援学校（聴覚障害）及び通常学校での教育実践についてまとめた上で、主要5教科の授業等での工夫や配慮について説明しなさい。

第1課題の留意点

乳幼児教育相談・幼稚部から高等部・高等学校までの教育について幅広く学習すること。テキストの「心理・発達の特徴」「特別支援学校での教育」「通常学校での教育」「主要5教科」など、基本的な事項をしっかりとおさえた上で、文部科学省の資料や文献等も検索して、理解を深めながら、課題に取り組むこと。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。

- ・テキストでの学習等をふまえた上で、要点を適切にまとめながら、論理的に正しく内容を説明している。
- ・誤字脱字の有無や、主語と述語の関係などに留意し作成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキストをよく読んで、全期にわたる聴覚障害児への教育方法の特徴と配慮事項を理解しておくこと。
- ・特別支援学校（聴覚障害）での聴覚障害児のコミュニケーション手段・言語発達・認知発達・学力・社会性についてテキストをよく読んでおくこと。
- ・特別支援学校（聴覚障害）だけでなく、通常の学校（難聴特別支援学級、通級指導教室、通常の学級）における聴覚障害児に対する教育支援についても十分に理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の意味を理解し、聴覚障害児教育に関する正確な知識を持って論述できていること。
- ・最低でも解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞以上の記述があること。

参考文献

- ・文部科学省 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）及びその解説（総則編・各教科編・自立活動編）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- ・文部科学省 『聴覚障害教育の手引 言語に関する指導の充実を目指して』 令和2年3月
https://www.mext.go.jp/content/20230228-mxt_tokubetu01-000027851_01.pdf またはジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20109	科目名 [単位数/学習時間]	発達障害児教育論A [1単位/45時間]				
テキスト	●小野次朗 上野一彦 藤田継道 『よくわかる発達障害 LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群 第2版』 ミネルヴァ書房						
ISBN	9784623057368	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26090		
科目担当		中尾 繁樹					
実務経験のある教員による科目		公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事					

科目の目的

本科目では、重複障害、言語障害、情緒障害、学習障害（LD）、注意欠如／多動性障害（ADHD）、自閉スペクトラム症等について学ぶ。特に、発達障害を中心に子どもの心と行動を理解するために、発達の観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。

LD、ADHD、自閉スペクトラム症を中心とした発達障害や重度重複障害、言語障害、情緒障害の定義、認知・行動・心理等の特徴、生理・病理、支援方法、学校・地域関連機関のシステム等について基本的知識を習得する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学習障害（LD）、注意欠如／多動性障害（ADHD）、自閉スペクトラム症等を中心とした、発達障害のある子どもを理解するために、発達の観点と心理学的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。また、具体的なアセスメントの方策や実践的な援助の仕方を学ぶことで、現場で役立つ理論と実践を身につける。また、特別支援教育の基本的な理念と内容について学ぶ。通常の学校や特別支援学校での支援の具体的な指導方策を学ぶ中で、特別支援教育の今日的課題を考察する。

学習テーマ

1	発達障害の理解と基本的事項【学習のポイント：脳機能と背景要因について理解する。】
2	特別支援教育の考え方【学習のポイント：特別支援教育とは何かを理解する。】
3	LD（学習障害）について【学習のポイント：LDの基本事項について理解する。】
4	ADHD（注意欠如／多動性障害）について【学習のポイント：ADHDの基本事項について理解する。】
5	自閉スペクトラム症について【学習のポイント：自閉症の基本事項と指導方法等について理解する。】
6	アセスメントについて【学習のポイント：心理検査等のアセスメントについて理解する。】
7	発達障害等（情緒障害、言語障害、重複障害を含む）の対応支援について【学習のポイント：教育課程（カリキュラム・マネジメント）も含めた具体的な指導支援方法について理解する。】
8	情緒障害、言語障害、重複障害の理解と対応支援について【学習のポイント：情緒障害、言語障害、重複障害の理解と具体的な指導支援方法について理解する。今までの振り返りをしてまとめる。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

「自閉スペクトラム症」「ADHD」「LD」「DCD」の中から一つを取り上げて、障害及び行動の特性と具体的な支援方法について述べなさい。

第1課題の留意点

LD、ADHD、自閉スペクトラム症、DCDの定義については、『DMS-5（精神疾患の分類と診断の手引）』、『ICD-11』等を参考にしても構わない。各障害の具体的な行動特性や症状・支援方法については、テキストだけでなく他の文献・資料を参考にし、できるだけ具体的に記述することが望ましい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
- ・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

発達障害に関連する基本的用語（LD、ADHD、自閉症、ワーキングメモリー他）についてよく学習しておくとともに、LD、ADHD、自閉症の3つの障害の特徴等についても理解を深め、具体的な指導事例についても学習しておくことが必要である。テキストをよく読んでおくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

- ・中尾繁樹 『「特別」ではない特別支援教育 1 子どもの特性を知るアセスメントと指導・支援』 明治図書出版
- ・中尾繁樹 『はじめての学級担任 3 通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック』 明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20112	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援学校教育実習 [実習2単位]		
テキスト					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.	
科目担当	塚本 久義				
実務経験のある教員による科目	公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				
科目の目的					
特別支援学校教育実習は特別支援学校教諭の免許を取得するための必修科目である。大学教員による豊富な実務経験を活かした支援と実習校の教員の指導の下、大学で学んできた特別支援教育の知識・理論ないし技能を実践的・総合的に修得することを目的とする。					
到達目標					
・教育者としての行動規範の修得。 ・学校運営、教員の仕事の理解。 ・児童生徒理解（障害理解を含む）と教材教具・対応方法の研究。 ・学習指導案の作成方法と指導技術の修得。 ・学級運営の理解と家庭との連携方法の理解。					
受講上の注意事項					
・事前に実習の予定、研究授業等について実習校と打ち合わせをしておく。 ・自主的、積極的な態度で児童・生徒に働きかけ、担当教員から学ぶようにする。 ・実習中の健康に留意し、遅刻や提出物の遅れ等がないようにする。					
評価基準					
・教育実習先の評価 50% ・記録等提出物 20% ・実習への取り組み 30%					
参考文献					
・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP					
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連					
所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の )を参照すること。					
課題に対するフィードバック					
実習日誌等返却時にコメント等を通知する。					

科目コード	20117	科目名 [単位数/学習時間]	音楽 [1単位/45時間]			
テキスト	● 池内友次郎 外崎幹二 『楽典 新訂』 音楽之友社					
ISBN	9784276100015	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,100	生協 テキストNo.	26094	
科目担当		臼井 真				
実務経験のある教員による科目		公立小学校音楽専科教諭				

科目の目的

小学校での音楽教育において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読み取り、音楽性豊かに表現することである。そのためには、楽典と記譜法を学び、移調の方法と和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏付けも理解しなければならない。実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等を教授する。

- ・音名、譜表、音符、休符、音程、拍子、リズム等、楽譜に関する基礎的な知識を学ぶ。（参考：テキストpp. 9 -50）
- ・音階と調について学び、移調の方法も理解する。（参考：「第1課題の留意点」）
- ・和音について学び、和声（和音の連結）も理解し、和音記号（コードネーム）による簡易なピアノ伴奏譜も作成する。（参考：「第1課題の留意点」）Iの和音（ドミソ）、IVの和音（ドファラ）、Vの和音（シレソ）、又はV7の和音（シファソ）

到達目標

- ・読譜力や記譜力を身につけるために、音の高低や長さを表示する音符と、曲の流れに重要な拍子を理解する。
- ・調について理解するために、その調を構成している音階と調号の関係を理解する。また、移調については、臨時記号による変化音の扱いについても理解する。
- ・主要3和音（I・IV・V）の基本形・転回形、及び属七の和音についての構成音を理解し、その和音の連結（和声）についても理解する。その和声に基づいて和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏譜も作成することができる。

学習テーマ

- 1 移調について①【学習のポイント：調と音程について理解する。】
- 2 移調について②【学習のポイント：移調の方法を理解する。】
- 3 移調について③【学習のポイント：音符を正確に記譜する音楽理論を理解する。】
- 4 移調について④【学習のポイント：変化記号（臨時記号）について理解する。】
- 5 和音による伴奏付けについて①【学習のポイント：主要三和音について理解する。】
- 6 和音による伴奏付けについて②【学習のポイント：カデンツ（終止形）について理解する。】
- 7 和音による伴奏付けについて③【学習のポイント：キーボードでメロディーを弾きながら、メロディーに適切な和音を選択する。】
- 8 和音による伴奏付けについて④【学習のポイント：ヘ音記号で記譜される和音に、適切なリズムを考える。】

レポートについて

自筆に限る
 ワードプロソフト使用不可



第1課題

※①②ともに課題である。課題の作成にあたっては、巻末の『「音楽」用 五線紙』を使用すること。（用紙が不足する場合は、コピーをして使用。）なお、提出の際は①と②をまとめて綴じて第1課題として提出する。

①次の曲をハ長調に移調しなさい。

○「はしれ ちょうとつきゅう」 山中恒 作詩／湯浅譲二 作曲／伊東慶樹 編曲

はしれ ちょうとつきゅう

山中 恒 作詩
 湯浅 譲二 作曲
 伊東 慶樹 編曲

あ お い ひ か り の ち ょ う と つ き ゅ う じ そ く に ひ や く ご じ ゅ う つ キ ロ

す べ る よ う だ な は し る ビ ュ ワ ー ン ビ ュ ワ ー ン ビ ュ ワ ー ン は し

る

速くなっていく

poco a poco dim.

mp

②次の曲に和音による伴奏をつけ、和音記号か、またはコードネームも記入しなさい。

○「やきいもグーチャーパー」 阪田寛夫 作詞／山本直純 作曲

やきいもグーチャーパー

阪田寛夫 作詞
山本直純 作曲

たのしく

mf

や き い も や き い も お な か が グ ー

ほ か ほ か ほ か ほ か あ ち ち の チ ー た べ た ら な く な る

f

な ん に も パ ー そ れ や き い も ま と め て グ ー チ ー パ ー

第1 課題の留意点

○「移調」の手引き

・移調するには、音程・音階・調についてよく理解しておくことが大切である。また、記譜するには、楽譜に関する基礎的な知識も必要である。

・移調とは？

ある調の曲（原曲）を、そっくりそのまま他の調に移すことを移調といいます。教育や保育の現場でも、歌を歌うときに児童や幼児の声域を考慮して移調することがよくあります。将来、皆さんも教育や保育の現場で、子どもたちが歌いやすいようにキー（調）を下げたり、上げたりする機会もあることでしょう。そのキー（調）を移し変えることを移調といいます。この課題を通して、移調のしくみをよく理解しておきましょう。

・移調の進め方

【例題】次の曲（二長調）を、八長調に移調しなさい。



※原曲の二長調を八長調に移調するには、曲全体のそれぞれの音を長2度下げます。



①原曲の調を理解する。⇒ 二長調

②移調する調の調号を理解する。⇒ 八長調

③新しい調号を記入する。（ただし、八長調は調号が何も付かないので何も記さない。）

④原曲と同じ拍子記号を記す。

⑤原曲のメロディーを全て長二度下げて記す。（当然、リズムは変えない。全く同じ。）

⑥この例題の場合は、原曲に臨時的に変化音（＃、♭、♯等）が付いていないので簡単であるが、もし変化音が付いている場合は、適切な臨時記号を用いて原曲の変化音の状態に合わせることを。

○「和音による伴奏付け」の手引き

・和音による伴奏をつけるには、課題の旋律に合った和音を選び、その和音の正しい連結（和声）を考慮しながら伴奏付けを行うことが大切である。次の「和音による伴奏付け」の手引きを参考に課題に取り組むこと。

※旋律に和音による伴奏をつける課題では、まず旋律を記譜し、その下に伴奏を記譜し、大譜表として作成すること。

和音記号か、またはコードネームも、忘れずに記入すること。

また、大譜表の上段（ト音記号）と下段（ヘ音記号）の両方ともに、拍子記号に適合した1小節内の拍数となるように、音符を正確に記譜してください。

つまり、4分の4拍子なら4分音符を1拍として1小節内に4拍分となるように、また4分の3拍子なら4分音符を1拍として1小節内に3拍分となるように、さらに4分の2拍子なら4分音符を1拍として1小節内に2拍分となるように記譜しましょう。

《春がきた》



は る が き た は る が き た ど こ に き た



や ま に き た さ と に き た の に も き た

上記のメロディー譜「春がきた」に簡単な和音をつけてみましょう。

使う和音は主要三和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）ですが、カデンツとよばれる和音の形を利用すれば、とても簡単に伴奏をつけることができます。まずは、八長調のカデンツを確認してみましょう。左手で弾いてみてください。



※IVとVの和音の転回型を示す数字は省略しています。

あるいは



Vの和音に関しては、Vを使っても、あるいはV₇を使っても、どちらでもかまいません。

できれば、メロディーの音と重ならないほうがいい感じに仕上がるので、八長調の場合、仮にメロディーがファの音だったならVの和音を、メロディーがレの音だったならV₇の和音をと、使い分けられるようになればベストです。(V₇の和音は八長調の場合、ソ・シ・レ・ファの四和音で構成されるため、三和音よりも少し響きが重たい感じになります。よって通常、上記の楽譜のように、レの音が省略されています。)

では、カデンツの和音を使って伴奏をつけてみましょう。何となく自然にI・IV・V・V₇の和音が思い浮かぶ人はその才能に感謝！ですが、全くわからない人は、とりあえず、1小節に1つずつ和音を入れていきましょう。何の和音を入れるかですが、すべての調において何といっても一番重要な和音はIの和音なので、まず手はじめに全部の小節にIの和音を入れてみましょう。

譜例 1

では実際に、ピアノで音を出してみましょう。

どうですか？ 4小節目あたりちょっと変な感じがしませんか？

それでは試しに、Iの和音の次に大事な和音であるV₇(V)の和音を、Iの和音のかわりに4小節目に入れてみましょう。《あるいは、4小節目のメロディーの音はレの音なので、レの音を構成音に持つ和音(V₇、V)を入れてみる、という考え方もOK。》また、曲の終わりには、V₇(V)→Iという和音の進行を使うと曲の終止感が高まるので、終わりから2小節目にV₇の和音を入れてみてください。そしてさらに、まだ使っていないIVの和音もどこかで使えば音のパレットが広がるので、とりあえず6小節目に入れてみましょう。

譜例 2

ピアノで弾いてみた感じはいかがですか？ 譜例 1 より譜例 2 の方が、より自然な感じに聞こえてきませんか？

6 小節目でⅣの和音を使ったのは、何となくではありません。6 小節目のメロディーには、ド、レ、ラの音が使われていますが、2 拍目のレの音は 8 分音符ということで音の長さも短く、あまり重要な音ではありません。よって、ドとラの音がこの小節を支配していることになります。

通例、メロディーに使われている大事な音が和音の構成音の中に含まれていると自然な感じに仕上がるので、ここでは、Ⅳの和音が最適ということになるのです。

次に譜例 3 を弾いてみてください。

譜例 3

※同じ和音を使う時には、ハイフン(－)を利用すると便利です。

いかがですか？ 4 分の 4 拍子の場合、当然のことですが、4 分の 2 拍子や 4 分の 3 拍子にくらべて 1 小節が長いので、和音のつけ方も 1 小節に 1 つよりは、1 小節に 2 つぐらいでつけていくほうが、つけやすいと思います。

和音付けに慣れるために、4 分の 3 拍子の曲もやってみましょう。

《ぞうさん》

象の持つ大きい重たいイメージを出すために、少し低い音を使って伴奏をつけてみました。

いかがでしょうか、少しは慣れてきましたか？

和音付けは、決して難しいものではありません。なぜなら、美術と同様、音楽には、「こんなことは絶対にしてはいけません」というような規則がないからです。よってすべてが、その人その人の感性によって導かれます。だからこわがらずに、色々チャレンジしてみてください。

とはいっても、全く自由に和音をつけるのも、なかなか難しいものです。これまでに説明したように、まずはⅠの和音を全部につけてみて、何かしっくりこない所に、ⅣあるいはⅤの和音をつけてみましょう。大切なのは和音付けをすることによって、その曲の大まかな和音の使い方がわかること、複雑な伴奏がつけられている場合には、それを非常にやさしい伴奏にかえることができるということです。ですから和音付けをする際は、なるべく 1 小節に 1 つか 2 つの和音でまとめられるように気をつけてください。複雑にしてしまえば、その意味がなくなってしまうのですから。

さらに、和音付けができるようになると、移調がとても簡単にできることに気がつくことでしょう。今までとても難しくてできないと思っていたことが、思いのほかスムーズにできるようになりますので、まずは和音付け、頑張ってみてください。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストや『学習の手引き』から学んだ内容をふまえて、いかに的確に楽譜として記譜できているかについて評価する。
- ・各々の課題において、次の3点を評価の基準とする。
 - ①移調の課題
 - ・課題曲が、指定された八長調に正確に移調できている。特に変化音の対応もきちんとできている。
 - ・移調楽譜として使用できるように、1番の歌詞もきちんと書けている。
 - ・移調楽譜として使用できるように、拍子記号、スタッカート、アクセント、強弱記号、スラー等の音楽用語も、正確に書けている。
 - ②和音による伴奏付けの課題
 - ・ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の2段による楽譜（大譜表）として記譜できている。
 - ・歌詞がきちんと書けている。
 - ・和音記号か、またはコードネームを正確に書けている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート課題と同じく、移調の問題と和音の伴奏付けの問題を出題する。時間配分を考慮しながら、音部記号・音符・休符等のリズムを正確に記譜すること。特に、和音の伴奏付けの課題では、ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の2段による楽譜（大譜表）として記譜すること。さらに、小節内の音符の拍数にも注意を払い、和音記号かコードネームも忘れずに必ず記入すること。

科目修了試験の評価基準

- ・基本的にはレポートの評価基準とまったく同じである。
- ・科目修了試験は、移調の問題1題（50点）と、和音の伴奏付けの問題1題（50点）の配点で、合計100点満点で採点評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20118	科目名 [単位数/学習時間]	美術 [1 単位/45時間]			
テキスト	● 松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社					
ISBN	9784883035755	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	26095	
科目担当		須増 啓之				
科目の目的						
大人が子供の美術を誤解しているため、現在、絵を上手に描かせることを目的としたり、大人の価値観を子供に単に押し付けたりしている授業が少ないとは言えない。保育者や教育者を目指す学生にとって、何を大切にして指導するのか、子供の美術への理解が重要となる。テキストを読むことで、子供の美術や美術教育を実践するために教師として大切にすること、具体的な指導方法など小学校の図画工作科における指導実践への理解を深め、指導方法や子供の美術へのかかわり方などを自分なりにイメージすることができるようになることが本テキスト履修科目の目的である。						
到達目標						
・ 子供の美術について理解し、小学校図画工作科の指導方法のイメージをもつことができる。 ・ 図画工作科の内容や授業の展開方法について理解している。 ・ 造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。						
学習テーマ						
1	子供の美術とはどういうものか①【学習のポイント:「主体性」、「美術の大切さ」、「個性」、「作業」の側面から子供の美術について理解する。＜テキストpp.12-33＞】					
2	子供の美術とはどういうものか②【学習のポイント:「ほめ言葉」、「芸術家との違い」、「美」、「教育との親和性」の側面から子供の美術について理解する。＜テキストpp.33-55＞】					
3	教師が大切にしておきたいポイント①【学習のポイント:「楽しくあってこそ、美術」、「新しい自分に出会ってこそ、美術」を読んで実例と共にポイントを押さえる。＜テキストpp.56-65＞】					
4	教師が大切にしておきたいポイント②【学習のポイント:「互いの違いを味わい合ってこそ、美術」、「過程を大切にしてくこそ、美術」を読んで実例と共にポイントを押さえる。＜テキストpp.66-80＞】					
5	子供の美術のすすめ方①【学習のポイント:「造形活動の内容」、「造形活動の過程」、「ねらいの設定」などにおける指導方法についてイメージし、理解する。＜テキストpp.82-95＞】					
6	子供の美術のすすめ方②【学習のポイント:「計画・準備」、「導入」、「材料や用具との出会い」などにおける指導方法についてイメージし、理解する。＜テキストpp.95-116＞】					
7	子供の美術のすすめ方③【学習のポイント:「反応の引き出し」、「やめどきの決定」などにおける指導方法についてイメージし、理解する。＜テキストpp.116-130＞】					
8	子供の美術と鑑賞について【学習のポイント:「見ることはつくること」を意識した「表現」と「鑑賞」の重要性や、「鑑賞」と「発表会」の違いについて理解する。＜テキストpp.132-148＞】					
レポートについて						
第1課題		ワープロソフト 使用可				
子供たちへの美術教育を実践するうえで先生として大切にしておきたいポイント「楽しくあってこそ、美術」、「新しい自分に出会ってこそ、美術」、「互いの違いを味わい合ってこそ、美術」、「過程を大切にしてくこそ、美術」(テキストpp.56-80)の中から自分が何を大切にしたいのかについて、今までの経験談や具体例を踏まえながら自分なりにまとめなさい(必ず1つ以上選択すること)。また、テキスト第2章を読んであなたの理解がどのように変化したのかについても必ず記述すること。						
第1課題の留意点						
本課題ではテキストの第2章(pp.56-80)の内容を理解し、その内容の中で特に大切にしたいことについて自分なりの言葉でまとめることを重視している。以下の点に留意して、レポートを作成すること。 ・ テキスト全体をよく読んで理解を深め、特に第2章のポイントを押さえて自分なりの言葉でまとめることが大切である。テキストの内容をそのまま短くしたり、羅列したりしただけのものは認めない。 ・ 先生として実践するうえで大切にしておきたい各ポイントの中でのすべての内容をまとめる必要はない。各ポイントの中で興味のある部分やキーワードなどを中心にまとめてもよい。また、テキストの中から関連する部分を参考にしてもよい。 ・ 必ず今までの経験や具体事例を挙げてまとめること。ただし、具体事例はテキストに載っている以外のものを使用すること。たとえば個人の体験や他の著書を調べたもの、自身で創作したものなど。 ・ 必ずテキスト第2章を読む前と学習した後での理解の変化を自分の言葉で書くこと。						
生成AIの利用について						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
レポートの評価基準						
以下の3点で総合的に評価する。 ・ 内容について【テキストの内容の理解度、課題への的確さ、独自の視点】 ・ 形式について【レポートの構成、引用の仕方、参考文献の書き方、字数(2,000字程度)】 ・ 表現について【文章の読みやすさ、段落のとり方、誤字・脱字、作成の際の丁寧さ】						

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「学習テーマ」に沿って、テキストの内容を全体的に理解しておくことが大切である。特に「子供の美術へのまなざしのあり方」(第1章pp.12-55)や「美術教育実践の具体的な方法」(第3章pp.82-130)、「子供の美術と鑑賞」(第4章pp.132-148)などについて理解を深めておくこと。また、解答は必ずテキストの内容を踏まえること。テキストの内容を踏まえていない解答は評価しない。

科目修了試験の評価基準

- ・説明問題 2 題60点 (30点×2 = 60点)、記述問題 1 題40点の配点で採点する。
- ・説明問題はテキストの内容を正確に理解し、説明ができているかどうかで評価する。
- ・記述問題はテキストの内容を踏まえて、自分なりの考えが記述されているかどうかで評価する。
- ・各設題について指定文字数を大幅に逸する場合や誤字脱字が多い場合は減点とする。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編<平成29年7月>』 日本文教出版又は文部科学省HP
- ・松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社
- ・平田智久 『<感じる事>からはじまる 子どもの造形表現』 教育情報出版
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
- ・『図画工作科教科書 1～6年』 開隆堂出版または日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」の ) を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20121	科目名 [単位数/学習時間]	保育者論 [2単位/90時間]			
テキスト	● 公益財団法人児童育成協会 『新・基本保育シリーズ7 保育者論』 中央法規出版					
ISBN	9784805857878	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26096	
科目担当		横田 郁子				
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭、園長				
科目の目的						
保育者の社会的役割は非常に大きい。本科目では、質の高い保育と子どもの育ちや保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶ。そのためにも保育の質の向上を目指し、保育者の役割と専門性、保育職をめぐる組織、制度、環境について理解し、保育者に求められる基本的な資質や人間性を追及する。						
到達目標						
・ 保育者の役割と倫理について理解する。 ・ 保育者の制度的な位置づけを理解する。 ・ 保育者の専門性について考察し、理解する。 ・ 保育者の連携・協働について理解する。 ・ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。						
学習テーマ						
1	保育者の役割について【学習のポイント：子どもの心身の発達を促す保育と保育者の役割について学ぶ。】					
2	保育者の倫理について【学習のポイント：保育者に必要な倫理を理解し保育に活かす。】					
3	保育者の資格と責務について【学習のポイント：保育者の法的、制度的な位置づけを理解する。】					
4	保育者の資質と能力について【学習のポイント：保育者自身の資質や能力への気づきとそれらを身につける。】					
5	養護と教育の一体的展開について【学習のポイント：養護と教育が一体となった保育実践を学習する。】					
6	家庭との連携と保護者支援について【学習のポイント：子育て支援の必要性を学ぶ。】					
7	保育の実践と省察について【学習のポイント：省察的实践者の概念と保育者の専門性としての省察を学習する。】					
8	保育の質の向上について【学習のポイント：保育の質の向上に関わる自己評価のあり方を学ぶ。】					
9	保育における職員間の連携・協働について【学習のポイント：職員間の連携とドキュメンテーションの大切さを考える。】					
10	専門機関との連携について【学習のポイント：連携の実際と保育や保護者支援への重要性を学ぶ。】					
11	地域社会との協働について【学習のポイント：地域に開かれた子育て支援について学ぶ。】					
12	関係機関との連携について【学習のポイント：家庭的保育の概要と実際、連携について学ぶ。】					
13	資質向上に関する組織的取組について【学習のポイント：キャリアパスと同僚性の構築について学習する。】					
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義について【学習のポイント：保育者の資質向上につながる研修体系について学ぶ。】					
15	組織とリーダーシップについて【学習のポイント：リーダーシップの必要性について学ぶ。】					
レポートについて		ワープロソフト 使用可				
第1課題		保育者の役割と職務内容、倫理について述べなさい。				
第2課題		保育者に求められる資質・能力について述べなさい。				
各課題の留意点						
第1課題の留意点		テキストをよく読み、職業倫理に基づき保育者に求められる役割を理解する。				
第2課題の留意点		テキストをよく読み、保育所保育指針等の視点を元に、保育者はどのようにして資質・能力を身につけていくのかを述べる。				
生成AIの利用について						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
レポートの評価基準						
テキストでの学びを理解したうえで、具体的な事例も盛り込み、自分の考え方や意見がしっかりと述べられているか。また、学びにより考え方が変わった点についても述べられているか。						

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキストをよく読んで理解を深めておくこと。
- ・設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけること。
- ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れ作成すること。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述し、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20122	科目名 [単位数/学習時間]	保育原理 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 戸江茂博 『新版保育原理 保育の本質を探し求めて』 あいり出版					
ISBN	9784865550641	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26097	
テキスト	● 厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814239	本体価格(円) (2026年1月現在)	149	生協 テキストNo.	26098	
科目担当			大江 まゆ子			

科目の目的

保育とは、乳幼児のいのちを守り、そのいのちを輝かせる営みである。具体的には、乳幼児期の子どもの生活支援を中心とした、養護と教育を一体化させた総合的な育ち支援の営みである。本科目では、保育所保育のあり方を全体的に学ぶこと、すなわち、保育の基本原則、保育の内容、保育の方法、保育の歴史などについて学び理解することを目的とする。

到達目標

- ・ 保育の意義や目的について理解する。
- ・ 保育の思想、歴史、制度について学ぶとともに、保育の現状と課題について理解する。
- ・ 『保育所保育指針』をよく理解し、特に保育所の役割、保育の原理、保育所の社会的責任などについて学ぶ。
- ・ 子どもの発達過程を理解するとともに、保育の内容、保育の方法などについて学ぶ。

学習テーマ

- 1 全体の流れを理解する。
- 2 保育の意義について【学習のポイント：子ども、保育所、保護者にとっての保育の意義を理解する。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
- 3 保育の目的や目標について【学習のポイント：保育が目指すことについて理解を深める。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
- 4 保育の場について【学習のポイント：保育が行われる家庭、保育所等について理解する。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
- 5 保育所保育の基本的な在り方①【学習のポイント：保育所保育指針、保育所保育の基本原則について理解する。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
- 6 保育所保育の基本的な在り方②【学習のポイント：養護と教育が一体となった保育、発達過程に応じた保育、遊びを通して行う保育、環境を通して行う保育などについて基本的な理解をする。＜テキスト『新版保育原理』2章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
- 7 子ども中心の保育思想の展開について①【学習のポイント：コメニウス、ルソー、ペスタロッチの保育思想について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』3章＞】
- 8 子ども中心の保育思想の展開について②【学習のポイント：フレーベル、デュイ、エレン・ケイ、モンテッソーリの保育思想について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』3章＞】
- 9 わが国における保育の歴史①【学習のポイント：明治、大正、昭和戦前時代の保育の歴史について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』4章＞】
- 10 わが国における保育の歴史②【学習のポイント：昭和戦後、平成時代の保育の歴史について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』5章＞】
- 11 保育の制度について【学習のポイント：児童福祉としての保育の制度、学校教育としての保育の制度について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』6章＞】
- 12 保育の内容と方法①【学習のポイント：保育内容とは何かについて学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』5章、『保育所保育指針』第2章保育の内容＞】
- 13 保育の内容と方法②【学習のポイント：保育の方法とは何かについて学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』5章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
- 14 保育の現状と課題【学習のポイント：保育の現状とこれからの保育のあり方（延長保育、一時保育、休日保育・夜間保育、病児・病後児保育、家庭的保育、放課後児童クラブ（学童保育））について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』7章、『保育所保育指針』第3章、第4章＞】
- 15 まとめ【学習のポイント：総括を行い、保育所保育の基本や基本原則について理解を深める。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

保育所保育の基本的なあり方について、次の4つの基本について、長時間の保育を視野に入れて論じなさい。

- ①養護と教育が一体となった保育 ②発達過程に応じた保育 ③遊びを通して行う保育 ④環境を通して行う保育

第2課題

現代の保育課題として考えられる次の3つの事項について説明しなさい。

- ①発達支援の保育内容 ②健康および安全に留意した保育、食育 ③子育て支援

各課題の留意点

<レポート作成にあたっての文章構成上の留意点>

- ・この科目については、序論、本論、結論という様式、および「はじめに」、「終わりに」も不要。第1課題を例にとると、レポート用紙には「保育所保育の基本的なあり方」を題名として、1. 養護と教育が一体となった保育、2. 発達過程に応じた保育、などとして論述すること。
- ・主語・述語を明確にし、論理的に筋道の通った文章にすること。また、適切に段落を取って、文章を読みやすくすること。文章の書き出しや段落の書き出しは、1文字送って書き始めること。
- ・テキストや思想家の著書からの引用を行う場合、「……」（1）などとし、脚注又はレポートの末尾に引用文献とページ数を明示する。

第1課題の留意点

保育所保育の基本的なあり方として挙げた4点についてよく理解してほしい。保育所保育の特徴は長時間の保育を行うことであり、これを意識しながら課題の4点について考察してほしい。テキスト『新版保育原理』2章が特に参考になる。テキスト『保育所保育指針』第1章総則の中にあちこちに4点について記述されているのでこれも参考にすること。同じく、参考文献『保育所保育指針解説』第1章総則も参考としてほしい。

第2課題の留意点

現代の保育課題として考えられる3点についてよく理解してほしい。発達支援の保育内容については、テキスト『新版保育原理』5章の3が特に参考になる。また、テキスト『保育所保育指針』第1章総則及び第2章保育の内容が参考になる。健康および安全に留意した保育、食育についてはテキスト『新版保育原理』5章の4が特に参考になる。テキスト『保育所保育指針』第3章健康及び安全も参考になる。子育て支援については、テキスト『新版保育原理』7章の全体、同4章の5の(2)、同第1章2、3およびテキスト『保育所保育指針』第4章子育て支援が参考になる。一般的な子育て支援の意義をふまえ、保護者支援と地域の子育て支援のあり方の両方について論じてほしい。参考文献『保育所保育指針解説』は、「保育所保育指針」を詳細に説明している図書なので、上記の「保育所保育指針」を調べ確認するときに『解説』のなかの同じ項目の記述内容（文章量が非常に多い）に目を通しておくことをお勧めする。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・2冊のテキスト等から学び取ったことを自分なりの表現でまとめていること。
- ・文字数は、2,000字程度とするが、論述に必要な場合は2,000字を超えてもかまわない。
- ・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、自筆の場合は丁寧な文字で記入していること、が大切である。特に、しばしば段落を取ることができていないレポートが散見されるので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト『新版保育原理』全文及び、『保育所保育指針』全文を繰り返し読んでおくこと。
- ・保育の概念と保育の理念について、特に保育の理念については、子どもの権利擁護を基本として理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』1章の1、2】
- ・保育とは何かということを全体として理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』1章、6章、及び『保育所保育指針』第1章総則】
- ・保育所保育の基本的なあり方の4つの軸について深く理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』2章、及び『保育所保育指針』第1章総則】
- ・欧米における子ども中心の保育思想の発展の歴史について、人物及びその保育思想を理解しておくこと。特に、コメニウス、ルソー、フレーベル、エレン・ケイ、モンテッソーリ、デュイイの子ども中心主義的な保育思想について説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』3章】
- ・日本の保育の歴史を総覧しておくこと。特に、関信三、東基吉、野口幽香、生江孝之、倉橋惣三、城戸幡太郎の功績については説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』4章】
- ・日本の保育の歴史については、エポックメイキングな出来事、例えば、最初の幼稚園の設立、最初の保育所の設立、倉橋惣三の登場、戦後の保育の出発点などについては、要点が記述できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』5章】
- ・テキストに示されているように『保育所保育指針』において新たに提起された、乳児保育を行う上での3つの視点や幼児教育の目標や内容（「幼児期において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など）、を具体的によく理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』1章、5章、『保育所保育指針』第1章総則、第2章保育の内容】
- ・歳児別の保育の要点、保育内容のあり方について具体的、実践的に理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』5章、及び『保育所保育指針』第1章総則、第2章保育の内容】
- ・健康および安全に留意した保育（健康支援、食育、安全管理、災害への備え等）について実践的に理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』5章、『保育所保育指針』第3章】
- ・保育の制度について、少子化への対応、認定こども園の動向などを理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』6章、7章】
- ・保育士の業務となっている子育て支援が求められる背景と子育て支援の意義と役割について理解し、説明できるようにしておくこと。特に多様な保育ニーズに対応するための具体的な保育の方法、あり方として延長保育、一時保育、休日保育・夜間保育、病児・病後児保育、家庭的保育、放課後児童クラブ（学童保育）などについて説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』1章、4章の5、7章および『保育所保育指針』第4章子育て支援】
- ・乳幼児期の発達特徴をよく理解し、それぞれの保育の要点や保育内容の考え方が説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』2章の2、及び『保育所保育指針』第2章保育の内容】

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
- ・テキスト『新版保育原理』で学んだことを中心に記述すること。単に自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・テキスト『保育所保育指針』がよく理解できていること。
- ・筋道を立てて論理的に展開できていること。
- ・解答用紙表面の75%程度以上の記述があること。

参考文献

- ・待井和江 『保育原理』 ミネルヴァ書房
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・大豆生田啓友 三谷大紀 『最新保育小六法・資料集（最新版）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20132	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの食と栄養 [1単位/45時間]			
テキスト	● 太田百合子 堤ちはる 『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本 第3版』 羊土社					
ISBN	9784758113809	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26099	
科目担当		廣田 有加里				
実務経験のある教員による科目		管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
- ・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
- ・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
- ・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し対策を講じることができる。
- ・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
- ・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
- ・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

- | | |
|---|---|
| 1 | 子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題 |
| 2 | 栄養に関する基本的知識（五大栄養素）／食事摂取基準と献立作成・調理の基本 |
| 3 | 妊娠期と授乳期の特徴と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係 |
| 4 | 乳児期の栄養（乳汁栄養・離乳食期栄養）の意義とその実践 |
| 5 | 幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食の意義 |
| 6 | 学童期の心身の発達と食生活／学童期の食生活上の問題と対応 |
| 7 | 食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／保育所における給食の進め方と保護者への支援 |
| 8 | 特別な配慮を要する子どもへの対応 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

幼児期の食事の献立作成と調理における留意点について述べよ。

第1課題の留意点

幼児期の心身の発達を理解し、発達状態に合わせた献立の立て方を含めた食事の与え方を理解する。また保護者の悩みに対して、保育所での対応や保育士の立場からの支援について理解する。テキスト第6章pp.76-89、参考文献『日本人の食事摂取基準(2025年版)』、『栄養素と食事バランスガイドとの関係』など、指定テキスト以外にも、多数の最新の参考文献などを熟読し理解した上で、レポートのまとめとして、学んだことを自分なりの視点を持って考察したことを課題の最後にまとめる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・指定テキストだけでなく、多数の最新の参考文献に目を通し、理解を深めた上で、レポートの基本的な構成である「序論」「本論」「結論（まとめ）」の形式で記述している。「序論」は「本論」への導入部分であるため、必ず記述し、「結論」として、図表の解釈や欄外の用語なども取り入れて考察をしている。
- ・レポートの課題の趣旨を理解し、論理的にわかりやすく展開されている。
- ・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
- ・引用・出典が明示され、引用した部分については、「」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
- ・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
- ・論文については、著者名、「論文のタイトル」、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
- ・読み手を意識して丁寧に作成し、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
- ・文字数は、1,800字以上2,000字以下とすること。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピーペースト」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・子どもの食生活は、生涯にわたり心身の健康を大きく影響することが明らかにされていることから、子どもの身体発育と栄養状態の評価は重要である。また、食べる機能の発達を促すためには、どのような支援が必要か、理解を深めておく。(テキスト第1章)
- ・保育現場での授乳支援のポイントを理解し、母乳栄養の特徴と育児用ミルクの特徴および調乳をする際の留意点について理解を深めておく。(テキスト第5章)
- ・幼児期の栄養学的特徴を理解し、発育・発達に合わせた食事支援の方法を考える。(テキスト第6章pp.76-89、参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』、『食育ガイド』など)
- ・学童期・思春期の心身の健全な発達に影響する学校給食の目的と現状を理解し、学校における食育を通じた、食の自己管理能力の形成の重要性を理解し、食の問題行動の対応について理解をしておく。(テキスト第7章)
- ・保育現場で食物アレルギーを持つ子どもに安全に給食や間食を提供するために、考慮すべき食生活の留意点と対応について理解を深めておく。(テキスト第12章、参考文献『食物アレルギー栄養食事指導の手引き2022』など)
- ・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：栄養評価、保育所、給食、食育、食物アレルギー、食品表示

科目修了試験の評価基準

- ・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・指定文字数9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
- ・テキスト学習により得られた基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
- ・字は読みやすく、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
- ・以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

- ・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
 - ・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
<https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf>
 - ・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>
 - ・厚生労働省 『食物アレルギー栄養食事指導の手引き2022』
<https://www.foodallergy.jp/wp-content/themes/foodallergy/pdf/nutritionalmanual2022.pdf>
 - ・厚生労働省 『令和6年「国民健康・栄養調査」結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001603146.pdf>
 - ・農林水産省 『栄養素と食事バランスガイドとの関係』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
 - ・農林水産省 『乳幼児の発達段階に応じた栄養指導の充実』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part2/chap1/b2_c1_2_02.html
 - ・農林水産省 『「第4次食育推進基本計画」啓発リーフレット』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/plan/4_plan/attach/pdf/index-28.pdf
 - ・農林水産省 『ライフステージ別の現状と取組』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_03.html
 - ・農林水産省 『食育ガイド』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/guide/pdf/00_jp_guide.pdf
 - ・こども家庭庁 『乳幼児期の栄養について』
<https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/eiyou>
- ※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20134	科目名 [単位数/学習時間]	生徒・進路指導論（初等）[2単位／90時間]			
テキスト	● 文部科学省 『生徒指導提要 令和4年12月』 東洋館出版社					
ISBN	9784491051758	本体価格(円) (2026年1月現在)	900	生協 テキストNo.	26100	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当		芝田 悦司				
実務経験のある教員による科目		公立小学校長、教育委員会教育次長、教育委員会児童生徒課統括官				

科目の目的

「生徒指導提要（令和4年12月）」をしっかりと読み込んで理解することと、その内容からできるだけ実践的な課題解決に向かう力を養うことを目的とする。

児童生徒の発達理解を基盤に、生徒指導・進路指導の意義や原理を体系的に学び、学校現場で組織的かつ実践的に指導できる基礎力を育成する。具体的には、

- 生徒・進路指導の意義と原理を理解し、児童生徒理解の基礎を身につける。
- 学級・学校での生徒指導の進め方を理解する。
- 生徒・進路指導上の課題への理解と対応力の基礎を養う。
- 教員としての実践的指導力の基礎を育成する。

到達目標

- ・生徒・進路指導の意義と原理を説明できる。
- ・児童の発達特性を踏まえた行動や課題を理解できる。
- ・学校における生徒指導の組織的な進め方を理解し、説明できる。
- ・現代的な生徒指導上の課題を理解し、基礎的な対応を考察できる。
- ・進路指導（キャリア教育）の方法を理解し、初等教育段階での実践を構想できる。
- ・教師としての実践的指導力の基礎を身につける。

学習テーマ

1	生徒指導の基礎①意義と構造【学習のポイント：生徒指導の定義と意義、2軸3類4層構造を理解する《テキスト第1章》】
2	生徒指導の基礎②生徒指導の方法と基盤【学習のポイント：集団と個別による指導の違いや留意点について理解する《テキスト第1章》】
3	生徒指導と教育課程【学習のポイント：学級経営における生徒指導と学習（教科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動）における生徒指導の役割《テキスト第2章》】
4	チーム学校による生徒指導体制①【学習のポイント：組織的に対応する体制と研修の在り方《テキスト第3章》】
5	チーム学校による生徒指導体制②【学習のポイント：相談体制や危機管理体制の考え方、学校・家庭・関係機関との連携《テキスト第3章》】
6	個別の課題に対する生徒指導①いじめ【学習のポイント：いじめの考え方、未然防止につながる発達支持的生徒指導の考え方、関係機関との連携《テキスト第4章》】
7	個別の課題に対する生徒指導②暴力行為【学習のポイント：暴力行為に対する学校の組織体制や重層的支援の構造、関係機関との連携《テキスト第5章》】
8	個別の課題に対する生徒指導③少年非行【学習のポイント：法律や対応の基本、喫煙・飲酒等の捉え方《テキスト第6章》】
9	個別の課題に対する生徒指導④児童虐待【学習のポイント：法律や学校での対応について、発見や通告・連携《テキスト第7章》】
10	個別の課題に対する生徒指導⑤自殺【学習のポイント：法律や予防について学校ができること、関係機関との連携《テキスト第8章》】
11	個別の課題に対する生徒指導⑥中途退学【学習のポイント：関連法規と理解、早期対応と連携《テキスト第9章》】
12	個別の課題に対する生徒指導⑦不登校【学習のポイント：不登校の現状と基本指針、対応への重層的支援構造、関係機関との連携《テキスト第10章》】
13	個別の課題に対する生徒指導⑧インターネット・スマートフォンに関わる問題【学習のポイント：関連法規、問題への組織的取組《テキスト第11章》】
14	個別の課題に対する生徒指導⑨性に関する課題【学習のポイント：性犯罪対策、早期発見、性的マイノリティへの対応《テキスト第12章》】
15	キャリア形成活動と進路指導について【学習のポイント：キャリア教育の現状と課題を理解する。＜参考文献『新しい生徒指導・進路指導』第10章＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

生徒指導上の諸問題（いじめ・暴力行為・不登校・インターネットに関わる問題等）の中から一つを選び、その問題の背景にある要因を整理したうえで、学校がどのように組織的に対応すべきかを論じなさい。

学級・学年・学校・関係機関の役割や、予防・早期発見・対応の流れにも触れながら、児童生徒における特性を踏まえて述べることを。

第2課題

生徒指導は教育課程を支える基盤であるという観点から、小学校における生徒指導の実践の在り方について論じなさい。

生徒指導の意義、生徒指導の方法（個別指導・集団指導・予防的生徒指導・教育課程内での指導等）、およびチーム学校による組織体制の三つの視点を踏まえ、教育課程との関連や初等教育の特性にも触れながら、体系的に述べること。

各課題の留意点**第1課題の留意点**

選んだ問題の特徴や背景要因を多面的に整理し、その解消に向けては担任だけでなく、学級・学年・学校・関係機関がどのように連携して対応するかについて論じることが重要である。さらには、予防・早期発見・対応の流れを踏まえ、教育の特性（児童生徒の発達段階、保護者との関係、学級経営との結びつき）にも触れること。可能な範囲で、具体的な事例（自らの経験等）を交えて書くことで抽象論に終始することなく、より実践に近い内容となる。

第2課題の留意点

生徒指導を「教育課程の基盤」として捉え、意義・方法・組織体制を統合的に論じられるように述べることが重要である。決して抽象論に流れないよう、生徒指導の方法（個別・集団・予防的・教育課程内での指導等）を明示し、教育課程との関連について考えることが必要である。また、担任中心の記述に偏らないよう、チーム学校による組織体制による対応（学級・学年・学校・関係機関）を含めることで、学校全体の視点に着目して考えること。さらに、教育の特性（児童生徒の発達段階、生活と学習の一体性、保護者との関係等）を踏まえること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストや参考文献から学んだ内容をふまえて、自分の考えや表現で的確に記述できているかについて評価する。
- ・次の4点を評価基準とする。
 - ①テキストを精読の上、参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
 - ②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
 - ③他人に読ませることを意識して無駄な言葉を削り、丁寧に作成している。
 - ④剽窃（誰かがつくった文章をコピーすること）しないで、引用上の注意や参考文献の記述など、レポートのルールにしたがっている。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

試験では、テキスト『生徒指導提要』で生徒指導の意味やその基本にある児童生徒理解、チーム学校としての取組や児童生徒が自分らしく生きるために必要な生徒指導の在り方について学んだかを問うことになる。テキスト第Ⅰ部「生徒指導の基本的な進め方」は、生徒指導の基礎や生徒指導と教育課程、チームによる生徒指導体制で構成されている。第1章の生徒指導の構造で示されている「2軸3類4層構造」については十分に理解し、中でも「発達支持的生徒指導」が重要視されていることについて十分に理解してもらいたい。第3章の「教育相談体制」では、生徒指導体制や教育相談体制について明記し「チーム学校」として一体となった対応を求めている。学校・家庭・関連機関等との連携・協働も理解しておくこと。

テキスト第Ⅱ部「個別の課題に対する生徒指導」では、様々な課題について記載されているが、特にいじめと不登校について熟読すること。各章では課題の対応や未然防止について具体的に記載されているので参考にする。また、生徒指導は、家庭や地域社会、関係機関との連携が大切になる。それについても3.7「学校・家庭、地域との連携・協働」だけでなく、各課題には、学校と家庭や関係機関との連携について述べているので参考にする。教育相談については、第3章で学級担任が行う教育相談を学ぶことになる。生徒指導と教育相談は、特定の先生や専門家だけでなく、全ての教師がかかわるという基本を大切にして答案作成に臨んでほしい。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の意図を正しく理解し、テキスト学習により得た知識をふまえて論理的に記述できているかどうかで評価する。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

- ・加澤恒雄 広岡義之 『新しい生徒指導・進路指導 理論と実践』 ミネルヴァ書房
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20142	科目名 [単位数/学習時間]	教育実習（初等）【幼稚園】 [実習 4 単位]		
テキスト					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.	
科目担当	猪田 裕子				
実務経験のある教員による科目	私立幼稚園教諭				
科目の目的 幼稚園教育実習の目的は、実際の幼稚園における体験を通して、子どもの発達や教育の実践方法を理解し、保育者として必要なスキルや態度を身につけることである。この実習により、学んだ理論を現場で応用し、自信を持って子どもと接する力を養う。 到達目標 ・幼稚園教育における子どもの発達特性と保育の基本的な理論を理解できるようになる。 ・幼稚園における保育活動を計画し、実践できる力を身につける。 ・子ども一人ひとりの個性や発達段階に応じた適切な支援方法を理解し、実践できるようになる。 ・保育者としての責任感や倫理観を自覚し、適切な態度で保育に臨むことができるようになる。 ・実習を通じて得た経験を振り返り、次の学びや自己成長につなげることができるようになる。 受講上の注意事項 実習は、現場から学び自分を成長させる貴重な機会である。子どもたちの姿に真摯に向き合い、保育者としての役割と責任を深く理解し、自身の学びとなるよう経験を積むこと。 評価基準 ・教育実習先の評価 50% ・提出物 50% 参考文献 ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館 ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館 ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。 課題に対するフィードバック 実習日誌等返却時にコメント等を通知する。					

科目コード	20142	科目名 [単位数/学習時間]	教育実習（初等）【小学校】 [実習 4 単位]		
テキスト					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.	
科目担当	齋藤 隆彦				
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（国語科）				
科目の目的 実習生として、教育現場で現職の先生方や子どもたちから多くを学び、大学で履修した教職及び教科等に関する知識・理解を総合的に習得するとともに新たな課題を見つけることを目的とする。実務経験を活かして教授する。 到達目標 学校現場での経験を通して、教育の重要性を再認識し、教員としての使命感を高め、教育に専念していくことのできる教員として必須の能力・意欲・態度を培う。 評価基準 ・教育実習先の評価 50% ・提出物 50% ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。 課題に対するフィードバック 実習日誌等返却時にコメント等を通知する。					

科目コード	20146	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（健康）[1単位／45時間]																			
テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第3版』 みらい																					
ISBN	9784860156428	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26103																	
科目担当		植山 佐智子																				
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・主任教諭・園長																				
科目の目的 乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深め、環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。また幼稚園、保育所、こども園において実際に実践していく中での知識を習得し、保育者としての実践力を身に付ける。教育要領（保育3法）を理解して保育教育ができるようにする。これこそが保育者として基本であることを理解できるように指導していく。																						
到達目標 ・子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める。 ・子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。 ・乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。																						
学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育基本法を理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育の実践について具体的に学ぶ。</td></tr><tr><td>3</td><td>テキスト第8章「運動遊びの理論」を読んで、幼児期運動指針を学ぶ。</td></tr><tr><td>4</td><td>テキスト第8章「運動遊びの理論」を読んで、子どもを取り巻く状況をふまえ、保育者の援助を学ぶ。</td></tr><tr><td>5</td><td>テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、群れ遊びの大切さを理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、用具を使った遊びなど保育で展開できる具体的な遊びを学ぶ。</td></tr><tr><td>7</td><td>テキスト第10章「運動遊びの計画と評価」を読んで、指導案作成のポイントを学び、振り返りと評価を学ぶ。</td></tr><tr><td>8</td><td>テキスト第11章「保育における事故予防と安全・危機管理」を読んで、事故・けがの実態と予防、感染症の実態と予防について学ぶ。</td></tr></table>							1	テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育基本法を理解する。	2	テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育の実践について具体的に学ぶ。	3	テキスト第8章「運動遊びの理論」を読んで、幼児期運動指針を学ぶ。	4	テキスト第8章「運動遊びの理論」を読んで、子どもを取り巻く状況をふまえ、保育者の援助を学ぶ。	5	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、群れ遊びの大切さを理解する。	6	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、用具を使った遊びなど保育で展開できる具体的な遊びを学ぶ。	7	テキスト第10章「運動遊びの計画と評価」を読んで、指導案作成のポイントを学び、振り返りと評価を学ぶ。	8	テキスト第11章「保育における事故予防と安全・危機管理」を読んで、事故・けがの実態と予防、感染症の実態と予防について学ぶ。
1	テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育基本法を理解する。																					
2	テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育の実践について具体的に学ぶ。																					
3	テキスト第8章「運動遊びの理論」を読んで、幼児期運動指針を学ぶ。																					
4	テキスト第8章「運動遊びの理論」を読んで、子どもを取り巻く状況をふまえ、保育者の援助を学ぶ。																					
5	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、群れ遊びの大切さを理解する。																					
6	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、用具を使った遊びなど保育で展開できる具体的な遊びを学ぶ。																					
7	テキスト第10章「運動遊びの計画と評価」を読んで、指導案作成のポイントを学び、振り返りと評価を学ぶ。																					
8	テキスト第11章「保育における事故予防と安全・危機管理」を読んで、事故・けがの実態と予防、感染症の実態と予防について学ぶ。																					
レポートについて ワープロソフト 使用可 第1課題 幼児期運動指針における運動遊びの重要性を考察し、群れ遊びを2～3例あげ、体の育つ側面、心の育つ側面、友達との関係が育つ側面など、保育実践を意識して具体的にまとめなさい（対象年齢は4，5歳児、まとめ方は自由とする）。																						
第1課題の留意点 ・参考文献『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を熟読すること。 ・教科書や参考文献から、保育実践や保育指導案を意識して具体的にまとめること。 ・小学校教育へつながることも意識して考察すること。																						
生成AIの利用について 本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。																						
レポートの評価基準 ・課題に沿った調べ学習と、それらの情報を自身でまとめる力を求める。テキストをまとめるだけではなく、テキストを基に関連する参考文献・資料を活用し、まとめること。 ・課題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけているか。 ・参考文献や白書などの資料を用いて広汎な調べ学習をし、それらを用いて考察できているか。＜※参考文献や資料については、必ず明示する。＞ ・保育の実践に立っていることを想定して、具体的論述ができることを期待している。 ・正しい日本語記述で誤字・脱字はなく、2,000字の9割以上記述されているか。 ・課題の趣旨に沿ったレポートで、論理的に無理なく全体の流れになっているか。 などを総合的に評価する。																						
科目修了試験について 科目修了試験「答案」作成の留意点 テキストや3法（参考文献『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』）を十分読みこなし、理解した上で事例なども加えて、論点をまとめること。																						
科目修了試験の評価基準 テキストを十分理解し、設題に沿った解答であるかを判定する。単に「健康」の領域だけではなく保育内容の領域にわたる深い考察がなされているかも注目する。																						

参考文献

- ・文部科学省 『幼児期運動指針』
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 『子供・若者白書』『少子化社会対策白書』『男女共同参画白書』など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20147	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（人間関係）〔1単位／45時間〕				
テキスト	● 田村美由紀 室井佑美 『＜領域＞人間関係ワークブック』 萌文書林						
ISBN	9784893472625	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26104		
科目担当		福井 逸子					
実務経験のある教員による科目		公・私立幼稚園教諭（主任教諭）					

科目の目的

現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、乳幼児期の人との関わりは重要である。本科目では、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につけることを目的とする。実務経験を生かして教授する。

到達目標

- ・「人間関係」とは何かについて理解・考察を深める。
- ・領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。
- ・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
- ・子どもの社会性・人間関係の発達プロセスについて理解・考察を深める。
- ・領域「人間関係」を保育するにあたり、実践上の配慮について理解・考察を深める。
- ・子ども一人一人が豊かな人間関係を育む保育実践計画、指導案の作成について理解を深める。

学習テーマ

- | | |
|---|---|
| 1 | 領域「人間関係」におけるねらいと内容についての理解（テキスト第1章～第2章） |
| 2 | 身近な人から広がる人間関係 - 事例で学ぶ - （テキスト第3章） |
| 3 | 仲間同士の関わりについて - 事例で学ぶ - （テキスト第5章） |
| 4 | 遊びの中で育つ人間関係① - 事例で学ぶ - （テキスト第6章～第7章） |
| 5 | 遊びの中で育つ人間関係② - 事例で学ぶ - （テキスト第8章～第9章） |
| 6 | 人との関わりが難しい子どもへの支援（テキスト第10章） |
| 7 | 保育指導計画の意義と作成について - 3歳未満児編 - （テキスト第11章） |
| 8 | 保育指導計画の意義と作成について - 3歳以上児編 - （テキスト第12章～第14章） |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

もしも、あなたのクラスに配慮や支援を必要とする子どもが在籍していた場合、どのような「関わり」「対応」「言葉かけ」をすると、その子自身や他の子どもの「人と関わる育ち」につながるのかを考えて、論述しなさい。

第1課題の留意点

この場合の配慮や支援を必要とする子どもについては、テキストの第10章を参考にして、具体的にどのような子どもであるのかを最初に想定して記載する。その上で、その子自身（個の関わり）とクラス全体（集団の関わり）の2つの視点をもって、援助や配慮について考えを深めると良い。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・文字数は、1,800字～2,000字数以内とすること。
- ・課題の趣旨に沿っている。
- ・領域「人間関係」の保育内容との関連を意識しながら、作成されている。
- ・必要に応じて、保育の専門用語を用いて解説されている。
- ・専門用語を正しく理解して使用している。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスのないように留意すること。
- ・テキストからの引用箇所と自身の意見が分かるように記載すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト全編を熟読し、保育現場で実践すべき保育・教育の基本や目標、また、参考文献『保育所保育指針』や『幼稚園教育要領』などの領域「人間関係」のねらいと内容を子どもの年齢別にしっかりと把握しておく。さらに、テキストの事例や他の保育の専門書を参考に、多くの実践例を学んでおく。
- ・答案作成にあたっては、まず、設題をよく読んで意図を読み取り、解答すべき観点を把握した上で論理的に簡潔に解答すること。自分が学習した保育の専門知識や専門用語を明示するとよい。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解して、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字等が無いこと。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・無藤隆 古賀松香 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』 北大路書房
- ・友定啓子 青木久子 『幼児教育知の探求 16 領域研究の現在＜人間関係＞』 萌文書林
- ・無藤隆 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20148	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（環境）[1単位/45時間]			
テキスト	● 無藤隆 福元真由美 『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』 萌文書林					
ISBN	9784893472588	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26105	
テキスト	● 『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055	
科目担当		佐藤 智恵				
実務経験のある教員による科目		保育士				

科目の目的

「幼稚園教育要領」に示された領域「環境」のねらい及び内容について、また他領域との関連についてテキストによって理解を深める。保育士としての実務経験を活かし、実際の保育実践の中で保育内容（環境）がどのように展開されているかの指導を行い、理解を深めるものとする。

到達目標

- ・「幼稚園教育要領」に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解する。
- ・領域「環境」について他の領域と関連させて理解を深める。

学習テーマ

1	保育内容「環境」とはなにか【学習のポイント：保育内容「環境」を構成する全体像を理解する。】
2	「幼稚園教育要領」における「環境」【学習のポイント：「幼稚園教育要領」や「10の姿」などの中で領域「環境」がどのように示されているかを理解する。】
3	他領域と「環境」との関連【学習のポイント：「幼稚園教育要領」の保育内容の部分を読み、他領域との関連を理解する。】
4	自然現象や季節ごとに適した栽培活動・飼育活動【学習のポイント：具体的な事例エピソードから、保育内容とねらい、また様々な場面における配慮事項について理解する。】
5	様々な道具や遊具を用いた保育内容のあり方【学習のポイント：具体的な事例エピソードから保育者の配慮について理解する。】
6	文字や標識、数量や図形に関心をもつ【学習のポイント：保育実践の中で文字や数量がどのように扱われているかを理解する。】
7	日本や海外の文化、行事を保育にどう取り入れるか【学習のポイント：行事のあり方、また当日だけでなく行事の前後の過程についても理解する。】
8	地域社会との関わりの中での保育【学習のポイント：どのような活動によって幼児が地域社会との関わりを深めることができるのか、またその際の保育者の配慮事項について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

以下の2点について説明せよ。

- ①保育実践の中で、生き物の命をどのように扱うのか。
- ②文字や標識、数量や図形を用いた保育を行う際に留意すること。

第1課題の留意点

- ・まずはテキスト『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』 pp.10-31を読み、幼児教育で重視されていることについて理解を深めることが大切である。
- ・次にpp.190-204をよく読み、保育内容「環境」において大切にされている考え方を理解すること。
- ・上記2点にしっかり取り組んだ後、第4・6章を読み、保育者として行う指導や留意点、関わりについて理解を深めること。自己の思い込みで作成されたレポートは評価の対象としない。
- ・テキストの文言をそのまま書き写すのではなく、保育実践の中で重視されていることを探求することを心がけること。
- ・伝わりやすくするために具体的な例を提示することはよいが、冗長にならないように留意すること。
- ・テキストによる学習ということを意識して取り組むこと。自身の経験談は評価の対象としない。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。

- ・誤字脱字が無く、主語と述語の関係などに留意し、丁寧な記述がなされている。
- ・テキストによって学習を行い、求められた課題に関する記述ができている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・「学習テーマ」で挙げた点を中心に、テキストを熟読し保育内容への理解を深めておくこと（特に、テキストpp.80-90、pp.108-130、pp.170-188を熟読し、幼児教育の考え方、子どもへの指導方法、活動の展開の方法について正しい理解をしておくこと）。
- ・テキストでは、それぞれの事例における保育者の考えるねらいや配慮事項がどのようなものであるかということに留意して、学習をしておくこと。
- ・事例に関する設問においては、「自分がどうしたいか」ということではなく「今、求められている指導や配慮」や「考えられる複数の対応」を記述することが求められることもある。広い視野を持って学習を進めてほしい。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストの内容をふまえた上で、論述すること。自らの経験談のみや根拠のない自説を記入しても評価しない。
- ・解答用紙表面の2/3以上の記述があること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20149	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（言葉）[2単位／90時間]				
テキスト	●小田豊 芦田宏 『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 言葉』 北大路書房						
ISBN	9784762826313	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	26106		
科目担当		久米 裕紀子					
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・園長、保育園・幼稚園などの研究会講師					

科目の目的

領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。言葉の機能と、言葉の発達過程を理解し、保育における領域「言葉」のねらいと内容を理解する。幼児の発達に即した子どもの言葉や、話す力、聞く力を育むため、保育者としての知識と実践力を学ぶ。主体的・対話的な実践、具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法、保育者の援助などを身に付ける。

到達目標

- ・言葉の獲得の意義、言葉の機能について理解する。(テキスト第1章1節)
- ・保育における領域「言葉」のねらいと内容を学ぶ。また小学校「国語科」との比較により、領域「言葉」の独自性と「国語科」への連続性について理解する。(テキスト第2章)
- ・言葉の発達過程を理解する(乳児期の言葉以前・以後の段階、幼児期の話し言葉、書き言葉)。(テキスト第3章)
- ・子どもの言葉の発達段階にあった保育者の態度、関わり、援助を身に付ける。(テキスト第3章、第4章、第6章1節)
- ・子どもの言葉や感性を豊かにする環境と保育を提案できるようになる。(テキスト第4章、第5章)

学習テーマ

- 1 言葉の獲得の意義、言葉の機能について【学習のポイント：言葉はどのように獲得されていくのか(テキスト第1章)】
- 2 領域「言葉」が目指すもの【学習のポイント：領域「言葉」の意図するところは何か(テキスト第2章1節)】
- 3 領域「言葉」と他の領域の関係【学習のポイント：保育・教育計画の立案と評価のための視点とは(テキスト第2章2節～3節)】
- 4 言葉の獲得①【学習のポイント：言葉の発達の道筋を捉える(テキスト第3章1節、2節)】
- 5 言葉の獲得②【学習のポイント：文字への興味・関心を育てるには何が必要なのか(テキスト第3章3節)】
- 6 言葉を育てる環境①【学習のポイント：乳幼児の言葉を育てる環境(テキスト第4章1節)】
- 7 言葉を育てる環境②【学習のポイント：話し言葉を育てる環境(テキスト第4章2節)】
- 8 言葉を育てる環境③【学習のポイント：書き言葉への興味や関心を育てる環境(テキスト第4章3節)】
- 9 言葉を育てる児童文化財①【学習のポイント：お話・絵本・紙芝居など児童文化財(テキスト第5章1節)】
- 10 言葉を育てる児童文化財②【学習のポイント：仲間を育てる文化財。「ごっこあそび」・「劇あそび」で育つ力、保育者の役割。(テキスト第5章2節)】
- 11 言葉を育てる児童文化財③【学習のポイント：地域の暮らしと遊びの文化。あそびの質の重要性。(テキスト第5章3節)】(教材研究及び模擬保育の構想と省察)
- 12 言葉の育ちにかかわる諸問題①【学習のポイント：言葉の障害について(テキスト第6章1節)】
- 13 言葉の育ちにかかわる諸問題②【学習のポイント：多民族・多文化化について(テキスト第6章2節)】
- 14 言葉の育ちにかかわる諸問題③【学習のポイント：国際理解と外国語について(テキスト第6章3節)】
- 15 言葉を育てる保育者の役割と援助【学習のポイント：領域「言葉」を振り返り、保育者の援助を深める。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

領域「言葉」と小学校「国語科」の違いと連続性について具体例をあげて説明し、保育者が乳幼児とのかかわりの中で、言葉の獲得に必要なさまざまな援助について述べよ。

第2課題

言葉を豊かに育てる環境として、年齢や発達に添ってどのように工夫したり、援助したりしていくことが必要かを述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章1節、2節をよく読み、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。そして、3節で小学校「国語科」と領域「言葉」とのつながりを捉えて、「国語科」と「言葉」の連続性に触れ、どこが違うのか保育者のかかわりを具体例をあげて示し、領域「言葉」の独自性について説明すること。

テキスト第2章の他、第3章、第4章、コラムを参照し、話し言葉を豊かにする保育について具体的に述べる。クラス(年齢)を設定し、保育者として言葉の感覚を磨くため「子どもの活動・姿」「環境」「保育者の配慮・関わり」の3点に言及する具体性のあるレポートとする。(参考文献『0歳～6歳 心の育ちと対話する保育の本』を参照。)

第2課題の留意点

この課題では、子どもが主体的にあそぶことを考え、「言葉」の力が培われるには、どのような時にどんな力が育つかを考察する。「ごっこ遊び」「劇遊び」の捉え方、遊びの展開について、子どものあそびこむ姿を具体的に捉え、主体的な遊びを展開できるように援助を分析していく。また、「言葉」の領域から他の領域へと関連していくことにも着目し、自分の保育観を見つめ、子どもの育ちを見通した援助の在り方を考察していくレポートとする。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・基礎知識を正確に説明できているか、自分の考えを的確かつ具体的に記述できているかを評価する。
- ・誤字脱字がなく、丁寧な字、わかりやすい文章で書かれていること。
- ・剽窃、盗用にならないよう、参考文献の使い方、引用のルールを守ること。
※文献の要約部分の末尾には（ ）で筆者の名字、発行年を記し、本文の後に「参考文献」として出典（筆者名、文献の題名、発行年、出版社）を記すこと。引用部分は「 」でくくり、（１）（２）と番号で記し、本文の後に「引用文献」として番号ごとに出版（筆者名・文献の題名）と引用箇所のページ数を記すこと。
- ・複数の的確な引用、参考文献の明記は加点とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

言葉の機能（テキスト第1章1節）を理解し、領域「言葉」（テキスト第2章）と乳幼児期の発達特徴（テキスト第3章）について学習すること。その上で、言葉を豊かにする環境、保育者の態度、実際の対応について学ぶ（テキスト第4章、第5章1節、第6章1節、コラム）。自分が保育実践をすることを想定して、年齢ごとの発達を踏まえて、具体的な保育者の態度や心構えを理解しておくこと。

設題には、知識を中心に問うものと、保育者として実践する際の配慮や対応を問うものがある。いずれも、テキスト第1章～第3章の基礎知識を根拠として挙げ、自分の考えとして具体的な配慮や環境設定を述べて答えること。この点はレポートと同じである。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストから得た基礎知識を基に、論旨の通った的確な記述ができていること。
- ・自分なりの考えを具体的に示していること。
- ・誤字脱字がなく、わかりやすい文章が書けていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることが望ましい。

参考文献

- ・汐見稔幸 無藤隆 『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 ミネルヴァ書房
- ・加藤繁美 『0歳～6歳 心の育ちと対話する保育の本』 学研教育出版
- ・文部科学省 『指導と評価に生かす記録 令和3年10月』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の^④）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20153	科目名 [単位数/学習時間]	人権教育 [2単位/90時間]																																	
テキスト	● 神村早織 森実 『人権教育への招待 ダイバーシティの未来をひらく』 解放出版社																																			
ISBN	9784759221671	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26110																															
科目担当		澤井 未緩																																		
科目の目的 同和教育をはじめとする様々な人権教育の課題について具体的実践事例をもとに考察する。ここで培われた子ども理解の視点をもとに、学校におけるいじめや不登校、インクルーシブ教育などの人権課題や学級集団づくりに取り組み、学級での教師の指導と支援はどうあるべきかについて、具体的に考える力を養う。現代の人権教育課題の現状を理解するために、テキストはもちろんのこと、参考文献・各種資料などを読み解き、活用する必要がある。																																				
到達目標 人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。そのため、以下を到達目標とする。 1. 学校における人権教育の意義を深く理解し、また、学校外の人権課題についても知識を獲得する。 2. 学校で起こりうる人権課題に対し、教育者としてどのような対応が可能かを考える。 3. 幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。																																				
学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>人権とはなにか① 世界人権宣言から考える</td></tr><tr><td>2</td><td>人権とはなにか② 子どもの権利から考える</td></tr><tr><td>3</td><td>日本の人権教育の4側面</td></tr><tr><td>4</td><td>障害者と人権～社会モデルを通して</td></tr><tr><td>5</td><td>在日外国人と人権～「外国人」とはだれか？</td></tr><tr><td>6</td><td>部落差別と人権～差別への抵抗から学ぶ</td></tr><tr><td>7</td><td>ジェンダー/セクシュアリティと人権～「ふつう」ってなに？</td></tr><tr><td>8</td><td>同和教育に学ぶ① 不登校の子どもへの理解と対応</td></tr><tr><td>9</td><td>同和教育に学ぶ② 子どもの荒れとその克服</td></tr><tr><td>10</td><td>同和教育に学ぶ③ 学力保障・進路保障</td></tr><tr><td>11</td><td>同和教育に学ぶ④ 集団づくり</td></tr><tr><td>12</td><td>同和教育に学ぶ⑤ 子どもがつながる、子どもとつながる</td></tr><tr><td>13</td><td>人権学習を実践する</td></tr><tr><td>14</td><td>地域とともに創造する人権学習</td></tr><tr><td>15</td><td>生き方につながる人権学習を考える</td></tr></table>							1	人権とはなにか① 世界人権宣言から考える	2	人権とはなにか② 子どもの権利から考える	3	日本の人権教育の4側面	4	障害者と人権～社会モデルを通して	5	在日外国人と人権～「外国人」とはだれか？	6	部落差別と人権～差別への抵抗から学ぶ	7	ジェンダー/セクシュアリティと人権～「ふつう」ってなに？	8	同和教育に学ぶ① 不登校の子どもへの理解と対応	9	同和教育に学ぶ② 子どもの荒れとその克服	10	同和教育に学ぶ③ 学力保障・進路保障	11	同和教育に学ぶ④ 集団づくり	12	同和教育に学ぶ⑤ 子どもがつながる、子どもとつながる	13	人権学習を実践する	14	地域とともに創造する人権学習	15	生き方につながる人権学習を考える
1	人権とはなにか① 世界人権宣言から考える																																			
2	人権とはなにか② 子どもの権利から考える																																			
3	日本の人権教育の4側面																																			
4	障害者と人権～社会モデルを通して																																			
5	在日外国人と人権～「外国人」とはだれか？																																			
6	部落差別と人権～差別への抵抗から学ぶ																																			
7	ジェンダー/セクシュアリティと人権～「ふつう」ってなに？																																			
8	同和教育に学ぶ① 不登校の子どもへの理解と対応																																			
9	同和教育に学ぶ② 子どもの荒れとその克服																																			
10	同和教育に学ぶ③ 学力保障・進路保障																																			
11	同和教育に学ぶ④ 集団づくり																																			
12	同和教育に学ぶ⑤ 子どもがつながる、子どもとつながる																																			
13	人権学習を実践する																																			
14	地域とともに創造する人権学習																																			
15	生き方につながる人権学習を考える																																			
レポートについて		ワープロソフト 使用可																																		
第1課題 ①人権教育の4側面を簡潔に要約しなさい。また、②あなたの体験を踏まえ、自分が人権教育に携わるときに、教師としてどのような視点を大事にしたいのかを具体的に記述しなさい。																																				
第2課題 ①「人権とはなにか」を自分の言葉で定義づけなさい。またその上で、②あなたの体験を踏まえ、学校教育になぜ人権教育が必要なのか、学校教育における人権教育の意義を説明しなさい。																																				
各課題共通の留意点 ・①②すべての設問に対応したレポートにすること。 ・テキストの趣旨を踏まえてまとめること。また、テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。 ・文献や資料の引用をした場合は、その出典先・引用ページやURLなどを明示すること。 ・引用文は「 」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。テキストであっても、引用部分はそのページを明示すること。 ・自分の考えや分析を必ず展開すること。																																				
生成AIの利用について レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。																																				

レポートの評価基準

- ・テキスト全編をよく読んで、子どもをめぐる人権課題を整理し、論述できていること。
- ・自身の体験を踏まえ、教師として実践したい取組みを具体的に述べていること。
- ・文字数は1,800字以上2,000字以下とすること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト全編をよく読んで、子どもが抱える人権課題やインクルーシブな学級集団づくりについての理解を深めておくこと。
- ・特に、権利保障としての教育が確立されるまでの歴史、人権の視点に立った子どもの自尊感情やアイデンティティの育成、子ども理解の手立てなどを整理し、教師として大切な視点について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
- ・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「」や『』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

- ・文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕』（平成20年3月）文部科学省HP
- ・藤田早苗 『武器としての国際人権 日本の貧困・報道・差別』 集英社
- ・アジア・太平洋人権情報センター 『人権ってなんだろう？』 解放出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20154	科目名 [単位数/学習時間]	道徳教育の指導法（初等）[2単位/90時間]			
テキスト	● 佐野安仁 荒木紀幸 『第4版 道徳教育の視点』 晃洋書房					
ISBN	9784771030459	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26111	
科目担当		島田 喜行				

科目の目的

- ・「自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」とはなにか、その具体的内容を多面的・多角的に理解する。
- ・「道徳教育の目的と原理、学校での道徳教育の要となる道徳科の目標、内容、特質、指導方法、教材研究法、評価及び学習指導案の作成法等」について学び、「考える道徳」、「議論する道徳」に相応しい授業を指導することができるようになる。

到達目標

- ・「自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」について、よりよい人間としての生き方や社会の在り方との密接な繋がりにおいて理解し、自分の言葉で表現できるようになる。
- ・「道徳教育の目的と原理、学校での道徳教育の要となる道徳科の目標、内容、特質、指導方法、教材研究法、評価及び学習指導案の作成法等」の具体的内容を実践との関連において学び、それらの理解を通して効果的な指導に必要な資質・能力を身に付ける。

学習テーマ

- 1 テキスト第1章「道徳と道徳教育」第1節「現代の道徳的状況」を学ぶ。現代社会の状況について道徳との関連で考察する。【キーワード：現代の子どもを取り巻く社会の状況、道徳的不一致】
- 2 テキスト第1章「道徳と道徳教育」第2節「道徳とはなにか」を学ぶ。道徳の意義や原理を理解する。【キーワード：道徳的価値、慣習的道徳と反省的道徳、道徳的行為、道徳の基準と道徳理論】
- 3 テキスト第1章「道徳と道徳教育」第3節「現代道徳教育の課題」を学ぶ。現代の学校と社会における道徳教育の課題について考察する。【キーワード：道徳の可教性、道徳教育の課題】
- 4 テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第1節「デュルケムの道徳教育論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、社会性の獲得及び教師の役割という観点から考察する。【キーワード：道徳性の発達、道徳性の三要素、教師の役割】
- 5 テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第2節「ピアジェの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、子どもと遊びという観点から考察する。【キーワード：拘束の道徳と協同の道徳、動機論と結果論】
- 6 テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第3節「コールバーグの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、認知発達の視点から考察する。【キーワード：認知発達の視点、モラルジレンマと道徳性の発達段階】【関連：テキスト第9章「コールバーグの道徳教育思想」も合わせて読むこと】
- 7 テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第4節「ブルの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、他律と自律の関係から考察する。【キーワード：道徳的判断、他律の機能】
- 8 テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第5節「道徳教育の視点」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、子どもの生活世界と能動性という観点から考察する。【キーワード：「生」のダイナミズム、生活世界、学習者のイニシアティブ】
- 9 テキスト第3章「道徳教育の方法」第1節「道徳教育と道徳授業」を学ぶ。学校教育全体を通じてなされる道徳教育と道徳科での学びについて総合的に理解する。【キーワード：学習の三形態、道徳授業に望まれる要件、モラルジレンマ資料、教師の発問】
- 10 テキスト第3章「道徳教育の方法」第2節「ジレンマ資料を用いた道徳の授業実践」を学ぶ。ジレンマ資料を使った授業の作り方を学ぶ。【キーワード：モラル・ディスカッション】
- 11 テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第1節「明治政府の『近代化』政策としての『修身』」を学ぶ。明治初期から第二次世界大戦の終わりまでの道徳教育の歴史を把握する。【キーワード：修身と道徳】
- 12 テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第2節「戦後教育の理念と方法」を学ぶ。戦後の道徳教育の展開とその指導理念を理解する。【キーワード：社会科と道徳】
- 13 テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第3節「『道徳』授業の現状と課題」を学ぶ。道徳の授業の課題と望ましい授業の姿について考える。【キーワード：道徳的判断の主体と事実認識】
- 14 テキスト第5章「学習指導要領『特別の教科 道徳』」第1節「特設『道徳』から『特別の教科 道徳』」及び『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』第5章「道徳科の評価」を学ぶ。「特別の教科 道徳」の意義と役割を理解し、道徳科の評価について学ぶ。【キーワード：道徳の教科化、考える道徳、議論する道徳、道徳科における評価の基本的な考え方】
- 15 テキスト第5章「学習指導要領『特別の教科 道徳』」第2節「小学校学習指導要領『特別の教科 道徳』」を学ぶ。道徳科の目標と内容、指導方法と評価について考察する。【キーワード：道徳性の育成、一面的から多面的・多角的へ、自我関与が中心の学習・問題解決的な学習・体験的な学習】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

テキスト第1章を読み、キーワードを引用しつつ、現代の道徳的状況と道徳的主体としての子どもについて論じなさい。さらに、第3章を読み、キーワードを引用しつつ、道徳科の授業の特徴と授業に望まれる要件について論じなさい。

第2課題

テキスト第2章を読み、キーワードを引用しつつ、ブルの道徳性発達理論と道徳教育の視点について論じなさい。さらに、第4章を読み、キーワードを引用しつつ、道徳授業の現状と課題について批判的に考察しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストの第1章と第3章をまとめて読んでから課題に答えること。各章からキーワード、キーセンテンスを必ず引用しつつ論じること。道徳的不一致、道徳的行為や道徳的原理といった道徳教育に関する基本的な知識を押さえたうえで、現代社会における家庭や学校の状況が子どもの道徳性の育成に及ぼす影響を念頭に置きながら論じるとよい。また、道徳科の授業の特徴と授業に望まれる要件については、テキストの第5章にくわえ、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』の第2章と第3章も読んだうえで論じるとよい。

第2課題の留意点

テキストの第2章と第4章をまとめて読んでから課題に答えること。各章からキーワード、キーセンテンスを必ず引用しつつ論じること。ブルの理論と道徳教育の視点については、それぞれの要点を簡潔にまとめることを意識するとよい。また、道徳科の授業の現状と課題については、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』の第4章を読んだうえで、テキストの第4章の当該箇所を示された筆者の見解に対するあなたの意見（考え）を述べるとよい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。ただし、考える能力と文章を書く能力を磨くためには、利用を控えることが望ましいことを付言しておく。また、生成AIが出力した内容をレポートにほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキスト等から学んだ内容を踏まえて、自ら考え、自らの言葉で、いかに適切に記述できているかについて評価する。
- ・文字数は、注と参考文献一覧を除く本文1,800～2,200字とする。
- ・評価基準は次の4点である。
 1. テキストを精読して、関連文献（とくに、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』）等を参照しつつ課題について適切に論述している。
 2. テキストの十分な内容理解に基づき、一文一文について主語－述語の関係に留意しつつ、序論－本論－結論という学術的レポートの基本形式や段落構成（適切な改行）といった全体の整合性にも配慮してまとめている。
 3. 関連文献やホームページはもちろん、テキストから引用した場合も、引用であることが明確に分かるように「」でくくり、注番号を打ち、出典（著者名、書名、出版社名、出版年、ページ数）を明記している。また、テキスト等の文章を要約（参照）した場合には、参照注を付けて出典を明記している。
 4. 文字の書き順や、とめる・はらう・はねるといった基本を押さえつつ、人に読ませること（人が評価すること）を意識して丁寧に清書している。

【注意】

- ・評価基準3.について、テキスト等を引用・要約（参照）しているにもかかわらず、適切な仕方で、必要な数の注が付けられていないレポートは、内容の評価をせずに不合格とし、返送するので作成の際に十分注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの第1章、第2章、第3章、第4章、第5章及び『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』第5章についての理解を問うので、これらの章について熟読しておくことが望まれる。科目修了試験を受ける前に、「学習テーマ」欄に記載されているキーワード（概念や論点）に関して、他者にも理解できるように説明できるかどうか、試してみようことを勧めたい。ある事柄について、自分の言葉で他者にも分かるような説明ができるようになった時、私たちは、その事柄を本当に分かったといえる。本科目の試験は、まさにこのような意味で「本当に分かっているか」を問うものである。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を正確に理解し、テキストの第1章、第2章、第3章、第4章、第5章及び『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』第5章の内容とキーワード（概念）の意味とを適切に把握して自分の言葉で論述できているかを中心に評価する。それゆえ、テキスト等の内容を踏まえずに、主観的な経験や個人的な思いだけを記入しても評価しない。さらに、設題にそって、評価者が理解しやすい文章で論理的に記述できていることと、少なくとも解答用紙の表面がほぼすべてうまっていること、または、字数にして800字程度が書かれていることを前提として評価する。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 東京書籍または文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 あかつき教育図書または文部科学省HP
- ・牧崎幸夫 広岡義之 杉中康平 『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 2』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20155	科目名 [単位数/学習時間]	特別活動の指導法（初等）[2単位／90時間]			
テキスト	● 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編＜平成29年7月＞』東京書籍					
ISBN	9784487287093	本体価格(円) (2026年1月現在)	278	生協 テキストNo.	26112	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当		「親和通信」で連絡				
実務経験のある教員による科目		公立小学校長、教育委員会指導主事等				

科目の目的

特別活動は、学校における様々な構成の集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動である。本科目では、特別活動の意義や内容等を理解するとともに、児童主体の有意義な活動の在り方について学ぶ。さらに、小学校教員及び教育委員会指導主事等の実務経験を活かして、いじめ等、教育の諸問題に対し特別活動が予防的な役割を効果的に果たすよう、学級経営等と関連させた実践的な指導を展開する。

到達目標

- ・『小学校学習指導要領解説 特別活動編』を熟読することで、特別活動の目標や基本的性格、教育活動全体における意義及び各活動・学校行事の具体的内容を理解する。
- ・特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の3つの視点をふまえ、各活動の具体的な計画を立案、実施、指導することができる。
- ・小学校の発達段階を考慮するとともに、各教科等との関連を図った内容構成を工夫することができる。
- ・集団での活動を通して望ましい人間関係を築く力を養うことで、いじめなどの諸問題に対し予防的な役割を果たすことを理解する。
- ・教職員同士の連携を重視し「チームとしての学校」の視点を持ち、地域や関係機関との連携を図りながら、学校の創意工夫を生かした特別活動の展開に必要な知識や素養を身につける。

学習テーマ

1	特別活動の改訂の趣旨について【学習のポイント：特別活動の改訂の趣旨及び要点を理解する。＜テキスト第1章＞】
2	特別活動の目標について【学習のポイント：特別活動の目標と基本的な性格、意義、関連等について、自身の経験を参考に理解する。＜テキスト第2章＞】
3	特別活動における主体的・対話的で深い学びについて【学習のポイント：特別活動を通して質の高い学びを追求する方法を理解する。＜テキスト第2章・第4章＞】
4	特別活動と各教科、道徳等との関連について【学習のポイント：各教科等と有機的な関連を図り効果的な学習活動を展開するための方法を理解する。＜テキスト第2章＞】
5	学級活動について【学習のポイント：学級活動の意義と具体的内容について理解する。＜テキスト第3章＞】
6	児童会活動について【学習のポイント：児童会活動の意義と具体的内容及び生徒会活動との違いについて理解する。＜テキスト第3章＞】
7	クラブ活動について【学習のポイント：クラブ活動の意義と具体的内容について理解する。＜テキスト第3章＞】
8	学校行事について①【学習のポイント：学校行事の意義と具体的内容、各行事のねらいや特徴と相違点を理解する。＜テキスト第3章＞】
9	学校行事について②【学習のポイント：各行事の実施上の留意点を踏まえ、学校や地域の特色を生かし工夫された行事の計画の仕方を知る。＜テキスト第3章・第4章＞】
10	教育の諸問題へ特別活動が果たす役割について【学習のポイント：教育の諸問題の解決にむけ、特別活動が果たすべき役割について考える。＜テキスト第4章＞】
11	特別活動といじめの未然防止について【学習のポイント：生徒指導と特別活動の集団場面での指導を考える。＜テキスト第4章＞】
12	ガイダンスとカウンセリングの趣旨について【学習のポイント：児童の発達を支援する場面で留意することを学ぶ。＜テキスト第4章＞】
13	学級経営の充実と特別活動について【学習のポイント：児童の自発的・自治的な活動を中心とした学級経営を考える。＜テキスト第4章＞】
14	特別活動の全体計画や年間指導計画の作成について【学習のポイント：学校の創意工夫を生かしながら全体計画を作る。＜テキスト第4章＞】
15	特別活動における評価について【学習のポイント：児童一人一人のよさや可能性を認める評価の在り方を学ぶ。＜テキスト第4章＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

特別活動における「主体的・対話的で深い学び」とは何か、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に基づき述べるとともに、そういった学びにつながる学習内容について、各活動や学校行事の活動場면을数例あげて具体的に説明しなさい。

第2課題

特別活動の全体計画や年間指導計画を作成する際、「児童による自主的、実践的な活動が助長されるよう、内容相互及び各教科等の指導との関連を図る」とされている。そこで、他教科等の学習との関連をどのように図っていくか、教科や学習の内容を数例あげて具体的に説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

現行学習指導要領における特別活動の改訂の趣旨や目標に関連する課題である。テキストの第1章「総説」及び第2章「特別活動の目標」を熟読する。特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現にむけ、各活動・学校行事の学習過程において、どのような授業や指導の工夫改善が必要かを理解する。さらに、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」が、特別活動で育てる資質・能力の3つの視点であることを踏まえ、「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし、各活動・学校行事などの具体的な活動場面を想定する。参考になるのは、第3章の第1節から第4節の各活動と学校行事の目標や内容である。特に日常場面（学校給食や清掃など）を取り上げて具体的に示している箇所を参照する。第4章第1節では、指導計画の作成や学校の創意工夫などが掲載されており具体例の参考になる。さらに、各学校ではこれまでからも、学校や地域の特色を生かした様々な取組が展開されていることから、自分自身が経験した内容を想起し、具体例として述べることも大変有意義である。

第2課題の留意点

特別活動は、実践的な活動として、様々な集団活動において、自己や集団の生活上の課題の解決に取り組むものである。このため、各教科等の学習で獲得した資質・能力などが、集団活動の場で総合的に生かされ、発揮されなければならない。さらに、学級や学校生活での活動は、道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であるとされており、道徳教育の推進に大きな役割を果たしている。そこで、各教科等と有機的な関連を図り効果的な学習活動を展開するための方法について考察する。他教科等との関連については、テキスト第2章第2節を熟読する。具体的な方策については、第3章各節を、指導内容の重点化や年間指導計画への位置づけは、第4章第1節及び第2節を参照する。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考えをいかに的確に記述できているかについて評価する。
- ・次の4点を評価基準とする。
 - ①テキストを精読のうえで参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
 - ②自らの経験値や十分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
 - ③他人に読ませることを意識して無駄な言葉を削り、分かりやすく丁寧な作成している。
 - ④剽窃（誰かがつくった文章をコピーすること）しないで、引用上の注意や参考文献の記述など、レポート作成のルールにしたがっている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

特別活動の意義や目標、各活動等の具体的な内容等に関する出題である。まず、テキスト第1章の特別活動改訂の趣旨及び要点に目を通し、特別活動の全体像を理解する。第2章では、特別活動の目標と育む資質・能力について、「特別活動の三つの視点」や「主体的・対話的で深い学び」、「他教科等との関連」に基づき整理しておく。第3章では「学級活動（1）（2）（3）」について、話し合い活動における合意形成や意志決定等、学習課程の違いについて理解し、生活づくりへの参画を促す手立てを考える。さらに、「児童会活動」、「クラブ活動」、「学校行事」の異年齢による活動の目標や内容等について理解するとともに、それぞれの学習内容の工夫について具体的に考える。一方、学級経営や生徒指導に関連する内容は、第4章第1節を参照する。中でも「学級経営の充実と生徒指導との関連」を熟読し、学級経営の視点から実際の活動をイメージし、考えを述べたり、創意工夫した活動を提案したりすることが重要である。総じて、特別活動の教育的意義をしっかりと理解し、学校現場での具体的な取組につながるような答案を期待している。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の意図を正しく理解し、テキスト学習により得た知識をふまえて論理的に記述できているかどうかで評価する。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

- ・特別活動指導資料（平成30年12月） 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_20240722-01.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20156	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（総論）[2単位/90時間]																																	
テキスト	●森眞理 猪田裕子 『子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論』 北大路書房																																			
ISBN	9784762831904	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26113																															
科目担当		猪田 裕子																																		
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園教諭																																		
科目の目的 乳幼児教育を総合的な視点で理解し、遊びを通じて学びに向かう子どもの力を捉える。そのために必要な環境構成の知識や技能を習得することを目的とする。 到達目標 ・乳幼児期における教育（遊びの中から学びに向かう力を捉える）の基本を理解する。 ・子ども理解に基づく指導計画の作成、展開、評価の考え方を理解する。 ・乳幼児の興味・関心や心身の発達等に応じた具体的な指導のあり方を理解する。 学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>子どもの権利を軸とした保育内容【学習のポイント：保育内容総論を学ぶ意味と意義を考察する】</td></tr><tr><td>2</td><td>子どもの最善の利益を保障すること【学習のポイント：子どもには権利があるという視点から保育内容総論を考える】</td></tr><tr><td>3</td><td>子どもの育ちと保育内容との関係性【学習のポイント：生きる力を育む保育内容の実際を探究する】</td></tr><tr><td>4</td><td>子どもの遊びと保育内容の関係性【学習のポイント：「遊びこそ学び」との視点から保育内容を考える】</td></tr><tr><td>5</td><td>環境を通して行う保育【学習のポイント：「ヒト」「モノ」「コト」を通して保育環境を考える】</td></tr><tr><td>6</td><td>子どもの生活から保育内容を考える【学習ポイント：保育の歴史的変遷を踏まえながら、保育内容を考える】</td></tr><tr><td>7</td><td>乳児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点を考察する】</td></tr><tr><td>8</td><td>幼児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点及び保育の質について考察する】</td></tr><tr><td>9</td><td>子どもの育ちと学びの可視化【学習のポイント：「今を生きる子ども」の姿を記録する意味や意義について考える】</td></tr><tr><td>10</td><td>保育の多様性【学習のポイント：子どもの権利の視点から、多様性を尊重する意味を考える】</td></tr><tr><td>11</td><td>保育の場におけるインクルージョン【学習のポイント：保育の場でインクルージョンを実現することの大切さを理解する】</td></tr><tr><td>12</td><td>保育におけるSDGsとESD【学習のポイント：SDGsやESDと、幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について考える】</td></tr><tr><td>13</td><td>世界の保育内容を学ぶ【学習のポイント：各国で行われている保育内容やその工夫について調べてみる】</td></tr><tr><td>14</td><td>子どもの権利を保障する保育者の姿【学習のポイント：子どもの願いや気づきに聴き入る保育者の姿の意味を考える】</td></tr><tr><td>15</td><td>保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える】</td></tr></table>							1	子どもの権利を軸とした保育内容【学習のポイント：保育内容総論を学ぶ意味と意義を考察する】	2	子どもの最善の利益を保障すること【学習のポイント：子どもには権利があるという視点から保育内容総論を考える】	3	子どもの育ちと保育内容との関係性【学習のポイント：生きる力を育む保育内容の実際を探究する】	4	子どもの遊びと保育内容の関係性【学習のポイント：「遊びこそ学び」との視点から保育内容を考える】	5	環境を通して行う保育【学習のポイント：「ヒト」「モノ」「コト」を通して保育環境を考える】	6	子どもの生活から保育内容を考える【学習ポイント：保育の歴史的変遷を踏まえながら、保育内容を考える】	7	乳児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点を考察する】	8	幼児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点及び保育の質について考察する】	9	子どもの育ちと学びの可視化【学習のポイント：「今を生きる子ども」の姿を記録する意味や意義について考える】	10	保育の多様性【学習のポイント：子どもの権利の視点から、多様性を尊重する意味を考える】	11	保育の場におけるインクルージョン【学習のポイント：保育の場でインクルージョンを実現することの大切さを理解する】	12	保育におけるSDGsとESD【学習のポイント：SDGsやESDと、幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について考える】	13	世界の保育内容を学ぶ【学習のポイント：各国で行われている保育内容やその工夫について調べてみる】	14	子どもの権利を保障する保育者の姿【学習のポイント：子どもの願いや気づきに聴き入る保育者の姿の意味を考える】	15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える】
1	子どもの権利を軸とした保育内容【学習のポイント：保育内容総論を学ぶ意味と意義を考察する】																																			
2	子どもの最善の利益を保障すること【学習のポイント：子どもには権利があるという視点から保育内容総論を考える】																																			
3	子どもの育ちと保育内容との関係性【学習のポイント：生きる力を育む保育内容の実際を探究する】																																			
4	子どもの遊びと保育内容の関係性【学習のポイント：「遊びこそ学び」との視点から保育内容を考える】																																			
5	環境を通して行う保育【学習のポイント：「ヒト」「モノ」「コト」を通して保育環境を考える】																																			
6	子どもの生活から保育内容を考える【学習ポイント：保育の歴史的変遷を踏まえながら、保育内容を考える】																																			
7	乳児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点を考察する】																																			
8	幼児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点及び保育の質について考察する】																																			
9	子どもの育ちと学びの可視化【学習のポイント：「今を生きる子ども」の姿を記録する意味や意義について考える】																																			
10	保育の多様性【学習のポイント：子どもの権利の視点から、多様性を尊重する意味を考える】																																			
11	保育の場におけるインクルージョン【学習のポイント：保育の場でインクルージョンを実現することの大切さを理解する】																																			
12	保育におけるSDGsとESD【学習のポイント：SDGsやESDと、幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について考える】																																			
13	世界の保育内容を学ぶ【学習のポイント：各国で行われている保育内容やその工夫について調べてみる】																																			
14	子どもの権利を保障する保育者の姿【学習のポイント：子どもの願いや気づきに聴き入る保育者の姿の意味を考える】																																			
15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える】																																			
レポートについて		ワープロソフト 使用可																																		
第1課題 「遊びを通して学びに向かう子どもの姿」とはどのような姿かについて整理しなさい。あわせて、そのような子どもの姿を支えるために、保育者が環境構成の面で意識すべき点を具体的に挙げ、考察しなさい。 第2課題 子どもの育ちや学びを「可視化する」ことの意味について、説明しなさい。その上で、記録や振り返りが、子ども理解や保育内容の見直しにどのようにつながるのかを、自身の考えを交えて述べなさい。 各課題の留意点 第1課題の留意点 ・本課題では、「遊び＝活動の例」を列挙するのではなく、遊びの中で子どもにどのような学びの姿が現れているのかに着目すること。 ・環境構成については、「ヒト・モノ・コト」の視点を意識し、保育者の関わりも環境の一部として捉えることが重要である。 ・テキストの記述を踏まえつつ、自分なりの言葉で整理し、論旨が一貫するように構成すること。 第2課題の留意点 ・「可視化」を、単なる記録や評価と捉えるのではなく、今を生きる子どもの姿に立ち返るための営みとして理解することが求められる。 ・子どもを一方向的に評価する視点にならないよう、子どもの権利や最善の利益の観点を踏まえて論じること。 ・抽象的な表現に終始せず、保育者がどのように記録を活用し得るのかについて、具体性をもたせて述べることが望ましい。																																				

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストの内容の理解と整理：テキストを精読し、その内容を的確に整理していること。また、参考文献などの情報を活用し、論理的に自らの考えを述べていること。
- ・課題の趣旨の理解と論旨の展開：課題の趣旨を正確に把握し、論旨が一貫して展開されていること。論理的な構成で、読み手に伝わりやすい内容となっていること。
- ・形式および表現の正確さ：レポートの形式（文字数、構成、書式など）を遵守していること。文法や文章表現に誤りがなく、誤字脱字がないこと。
- ・参考文献の適切な使用と明記：使用した参考文献が適切であり、レポート内でその内容を正確に活用していること。また、すべての参考文献を正しい形式で明記していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・問題文を正確に把握し、求められている内容を的確に答え、具体例や根拠を盛り込み、論理的に述べることが重要である。
- ・テキストを活用しつつ、自分の考えをわかりやすく述べ、引用がある場合は適切に説明を加えることが必要である。
- ・形式と文章表現に配慮し、誤字脱字を避け、簡潔で読みやすい構成を心がけることが求められる。
- ・具体例と実践的な視点を重視し、子どもの発達や保育現場に基づいた事例を用いて説得力のある回答を作成することが望ましい。

科目修了試験の評価基準

- ・設題を正しく理解し、明確かつ的確な答えが書かれており、設題の趣旨を的確に捉えているかを評価する。
- ・答案が論理的に構成され、一貫性が保たれており、序論・本論・結論が明確で筋道が通っているかを重視する。
- ・テキスト内容を踏まえた具体的な事例や考察が含まれており、表面的な説明に留まらず深い理解が伝わる内容であるかを評価する。
- ・文法や言葉遣いが適切で、誤字脱字がなく、表現が明確で読みやすい文章であるかを確認する。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20157	科目名 [単位数/学習時間]	子ども家庭支援の心理学〔2単位／90時間〕			
テキスト	● 青木紀久代 『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』 みらい					
ISBN	9784860154820	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	26114	
科目担当		権藤 眞織				

科目の目的

- 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
- 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
- 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
- 子どもの精神保健とその課題について理解する。

到達目標

- 発達に関する心理学的知見を理解し、説明できる。
- 家族や家庭の機能を理解し、説明できる。
- 子育て家庭の特徴と社会との関連について説明できる。
- 子どもの精神保健について説明できる。

学習テーマ

1	子どもと家庭の支援とは何か
2	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴
3	思春期から青年期の発達の特徴
4	成人期から高齢期の発達の特徴
5	家族システムと家族発達
6	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
7	子育て環境の社会状況的变化
8	ライフコースとワーク・ライフ・バランス
9	多様な子育て家庭への支援
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援
11	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康
12	子どもの心と健康
13	障害のある子どもの理解と対応
14	災害と子ども
15	子どもと家庭を支援するために

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

「生涯発達」について解説し、乳幼児期・学童期・青年期・成人期および老年期における発達特徴を概観し、各時期を心身共に健康・健全に歩んでいくために大切な観点や援助者としての留意点や配慮点について解説しなさい。

最後に、課題に取り組んで「生涯発達」を概観した上で、改めて「乳幼児期」の重要性について、私見を述べなさい。

第2課題

「家庭を支援する」とはどういうことか、解説しなさい。支援を必要とする家庭とは、どのような家庭があり、それぞれにどのような支援を必要としているのかも具体的に説明しなさい。

最後に、課題に取り組んでみて、「子育て家庭」を支援する際に、最も重視したり、配慮すべきだと思う事は何かを述べ、その理由も説明しなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

第1課題、第2課題とも、必ずしも論述のみの形式で作成しなくてもよい。調べたことを表や図解でまとめたものを記載してもかまわない。なお、自筆で図表を作成する場合は、レポート用紙の裏面（白紙の面）を活用し、作表・図解する。論述部分はレポートの表面、図表は裏面（白紙面）を使用し、裏面（白紙面）に記載する場合、その用紙の原稿用紙面には何も記載しないこと。また、何を表した図表なのか、わかるように作成する。（図表のタイトル、キャプション、出典を入れる。図表の書き方については、さまざまなテキストや専門書、インターネットで検索。）課題に取り組み、調べた情報を整理する上で、図表を用いてもよいということであって、必ず図表を用いなければならないわけではない。【※すべてあわせて4～5枚程度までとする。】

第1課題の留意点

発達については、テキストの第1章から4章までを精読し、また、テキストだけでは不十分なので、他の文献にもあたって学びを深める。発達の各ステージにおいて、その世代ならではの特徴を理解し、人の発達のダイナミックな流れを掴み、どのような暮らし方や援助がより健やかで幸せな人生のサポートになるか考察してほしい。同時に、あなた自身の今までの発達の歴史を振り返り、また、これからの発達や変化を展望し、あなた自身の人生に対しても考察してみよう。これから先の人生については、あなたの周りの年上の様々な世代の方々と交流したり話を聴いたりして、この先どのような変化が起こりうるか予測しつつ、展望してみるのも「生涯発達」の理解に役立つ。

テキストに示されている発達心理学的な知見とあなた自身の成長・発達を照らし合わせてみることで、より具体的に「人の発達」について学び、健やかに発達するための「支援」についても実践的にイメージできるのではないかと。テキストを読んでまとめるだけでなく、実体験や自分自身の生活感覚ともすり合わせながら、学んでほしい。

レポートの最後に、生涯発達を見据えた上で、乳幼児期の重要性について私見を述べること。

第2課題の留意点

「家庭を支援する」とはどういうことか。「家族」「家庭」の支援を行うためには何が必要なのだろうか。テキストでは、第8・9・10・11章をよく読み、家族や家庭、ファミリーメンバーについて理解を深め、テキストだけでなく、他の資料や文献、動画なども検索して、イメージを膨らませながら学んでほしい。

レポートの最後に、「子育て中の家庭」に対する支援について、私見を述べること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題の趣旨に沿い、専門用語の定義、解説がなされている。
- ・複数の文献、資料を引用している。（2件から3、4件。最低、テキスト以外に2件。）
【※レポートの文末に、引用文献のリストをつけておくこと。テキスト以外の引用文献が、2件未満であれば不合格となる。】
- ・専門用語を正しく理解して、必要に応じて専門用語を用いて論述している。
- ・日常的な具体例を挙げながら、わかりやすく解説されている。
- ・課題に対しての私見が書かれている。
- ・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

答案作成にあたっては、まず、設題をよく読んで意図を読み取り、解答すべき観点を把握した上で、心理学および保育の専門的な観点やキーワードを用いて論理的に簡潔に解答すること。専門用語を用いる場合は、定義と日常例を解説する。自分が学習した心理学および保育の専門知識や専門用語を明示するとよい。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨に沿って、論理的に根拠を述べながら論述されている。
- ・専門用語を正しく理解して、定義、解説がなされている。
- ・必要に応じて、日常的な具体例を挙げながら、わかりやすく解説されている。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・永田豊志 『すべての勉強は、「図」！でうまくいく 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』 三笠書房
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20159	科目名 [単位数/学習時間]	乳児保育論 [2単位/90時間]				
テキスト	● 乳児保育研究会 『改訂 5 版 資料でわかる乳児の保育新時代』 ひとなる書房						
ISBN	9784894642539	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26115		
科目担当		大江 まゆ子					

科目の目的

乳児保育の基本、保育の実践について学ぶ。保育制度及び乳児保育に関わる問題等についても学習し、乳児保育の課題を考える。

- ・ 乳児の基本的生活と遊びを豊かにする乳児保育の内容と方法について学ぶ。
- ・ 保育の計画の重要性と乳児保育の実践を学ぶ。
- ・ 乳児保育の歩みを概観し、保育制度の現状を理解し、現代の課題を明らかにする。
- ・ 保護者との連携、子育て支援における現状と課題を理解し、保育者の役割を考える。

到達目標

- ・ 乳児の育ちを保障するため、基本的生活と遊びを中心とした乳児保育の内容と方法について理解する。
- ・ 乳児保育における保育の計画の作成について、特に月齢差、個人差が著しい乳児期は個別に作成し、0歳・1歳・2歳児ともに年間を通して発達過程を見通す重要性についての理解を深める。また、個々の子どもの姿や家庭状況をよく把握する重要性を理解する。
- ・ 乳児保育の歩みや現状、保育制度についても理解を深める。
- ・ 保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。
- ・ 在園児の保護者支援とともに、地域の子育ての専門機関として、在宅の子育て支援も保育所の業務の一つであることを理解する。

学習テーマ

1	乳児の基本的生活を中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児保育の養護の重要性と乳児期における基本的な生活の確立を目的とした援助を理解する。＜テキストpp.34-61＞】
2	乳児保育における健康及び安全管理【学習のポイント：月齢や発達による健康及び安全管理における保育士の配慮事項を理解する。＜テキストpp.40-61＞】
3	乳児保育の遊びを中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児期の遊びのあり方、遊びを通じた乳児の育ちについて理解する。＜テキストpp.62-87＞】
4	0歳児期の遊びと援助【学習のポイント：0歳児の月齢や発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.62-63、pp.65-68、pp.69-71、pp.73-75＞】
5	1歳児期の遊びと援助【学習のポイント：1歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.63-64、p.68、p.72、pp.74-76＞】
6	2歳児期の遊びと援助【学習のポイント：2～3歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.64-65、p.69、pp.76-77＞】
7	乳児保育における遊びと環境【学習のポイント：発達に応じた遊び環境とはどのようなものか、またあそび文化について理解する。＜テキストpp.77-87＞】
8	保育の計画と記録【学習のポイント：現在の姿から育ちの見通しを持って保育を行う重要性を理解する、子どもの姿の記録と計画とのつながりを理解する。＜テキストpp.34-36、pp.88-107＞】
9	乳児保育と「3歳児神話」【学習のポイント：3歳児神話とはどのようなものか、またボウルビー学説から学ぶべき点について理解する。＜テキストpp.108-111＞】
10	子どもの発達と乳児保育【学習のポイント：子どもの発達により影響を与える保育条件とはどのようなものか、また様々な保育の質に関する議論について理解する。＜テキストpp.111-115＞】
11	親としての発達に関わる要因【学習のポイント：育児不安と親の就労環境、赤ちゃんの気質などの親としての発達に関わる要因について理解する。＜テキストpp.116-121＞】
12	親子の豊かな育ちに必要な保護者支援【学習のポイント：親子の絆を作る条件とはどのようなものか、また長時間保育や一時保育を利用する保護者に対する保育士としての支援を理解する。＜テキストpp.122-125＞】
13	乳児保育を行う保育士のあり方【学習のポイント：複数担任、担当制とはどのようなものかを理解する。＜テキストpp.126-137＞】
14	乳児保育のあゆみ【学習のポイント：乳児保育の歴史的変遷と乳児保育の一般化について。＜テキストpp.138-146＞】
15	乳児保育の現状と課題【学習のポイント：多様化するニーズに対応する乳児保育の様々な事業。＜テキストpp.146-174＞】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

乳児期からの家庭外の保育経験が子どもの発達を支えるものとなるために求められる保育の質や保育士の援助とはどのようなものであるか、述べなさい。

第2課題

遊び場面や基本的な生活場面における乳児の主体性を引き出す養護と教育が一体となった保育士の援助とはどのようなものか。具体的な場面を想定して述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

乳児保育の重要な論点に「3歳児神話」がある。すべての子どもが健やかに育つことを保障する乳児保育を行うために、求められる保育の質や保育士の専門性について考察することが必要である。テキストでは特に第5章を読み込み、子どもと保護者の豊かな育ちを支える保育士の役割を理解してレポート作成することが重要である。テキストや参考文献以外にも3歳児神話に関連する文献を読み、すべての子どもの育ちを保障する保育の観点からの考察を求める。

第2課題の留意点

テキストや参考文献の『保育所保育指針』、他の参考文献を読み、保育所保育の特性、子どもの発達を十分に理解し、乳児保育の基本に立って考えることが必要である。テキストでは特に第2章、第3章を読み込み、子どもの生命の保持と情緒の安定を保障しつつも、月齢や発達に応じた遊び環境の工夫や基本的生活習慣が身に付けられるよう子ども自身の意欲や自発性を引き出すような保育士の援助を考察し、具体的援助場面を想定してレポート作成することが重要である。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
- ・課題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容をしっかりとふまえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
- ・次の3点を評価基準とする。
 - ①テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
 - ②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
 - ③他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わり、及び保護者の姿を想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・ChaCha Children & Co. 『見る・考える・創りだす 乳児保育 I・II』 萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20160	科目名 [単位数/学習時間]	社会的養護Ⅰ [2単位/90時間]			
テキスト	● 吉田眞理 『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ 第2版』 萌文書林					
ISBN	9784893474193	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26116	
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』 チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055	
科目担当		藤原 伸夫				
実務経験のある教員による科目		地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				

科目の目的

子どもを取り巻く社会的状況や子どもの育ちをふまえて、社会的養護の意義と制度、現行の制度や実施体系を把握し、子どもの権利に基づいた社会的養護の基本原則について理解する。また現在、社会的養護が抱えている課題についても学習する。児童福祉法（平成28年6月3日公布）が改正され、児童の福祉を保障するための原理が明確になった。社会的養護が児童の人権擁護の砦であることを理解することが究極の目的である。元児童指導員などの実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・ 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
- ・ 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
- ・ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- ・ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
- ・ 社会的養護の現状と課題について理解する。

学習テーマ

- 1 現代社会における社会的養護の意義と変遷【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第1講】
- 2 子どもの人権擁護と社会的養護【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第2講】
- 3 家庭の機能と社会的養護【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第3講】
- 4 社会的養護の基本原則Ⅰ 養育<日常生活支援>【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第4講】
- 5 社会的養護の基本原則Ⅱ 保護<自己実現に向けた支援>【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第5講】
- 6 社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもであることへの回復<治療的支援>【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第6講】
- 7 社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力の習得<自立支援>【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第7講】
- 8 社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成<生と性の倫理>【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第8講】
- 9 社会的養護の制度と実施体系【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第9講】
- 10 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ 乳児院と児童養護施設【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第10講】
- 11 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ 障害児の入所施設【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第11講】
- 12 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ 児童自立支援施設と児童心理治療施設【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第12講】
- 13 家庭養護の特徴・対象・形態 里親とファミリーホーム【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第13講】
- 14 社会的養護の現状と課題【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第14講】
- 15 社会的養護と地域福祉【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』p.225以降】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

社会的養護の5つの価値観を説明したうえで、それに対する所見をあなた自身の言葉で述べなさい。

第2課題

児童相談所とはどのような機能と役割をもつ行政機関か、措置制度にふれて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

2016年児童福祉法の改正では、わが国における児童の人権擁護を明確にした。5つの価値観の説明1,500字程度、自身の所見500字程度でまとめる。テキスト『社会的養護Ⅰ』第2講を熟読、第9講を参照し、テキストを引用するだけでなく、「児童の権利に関する条約」の意義と、こども家庭庁創設等、わが国の最近の動向にもふれて説明すること。

第2課題の留意点

児童相談所についてはテキストの各所に出てくる社会的養護の中核的機関である。特にテキスト『社会的養護Ⅰ』第9講を熟読すること。但しテキストだけでなく、児童相談所の今日的課題など、テキスト以外も参考とすること。また本文で2,000字程度を守ること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・「課題の留意点」に注意し、専門用語を正しく理解して使用していること。
- ・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
- ・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
- ・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
- ・文末に「引用・参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト『社会的養護Ⅰ』を熟読し、十分理解を深めておくことが大切である。特に、子どもの人権擁護と社会的養護（第2講）、社会的養護の基本原則である保護（第5講）、社会的養護の制度と実施体系（第9講）、施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ・Ⅲ（第10講・第12講）、家庭養護の特徴・対象・形態（第13講）、社会的養護の現状と課題（第14講）等について理解を深めておくことが必要である。

科目修了試験の評価基準

- ・「児童の権利に関する条約」の意義、特に「子どもの最善の利益を護る」「意見表明権」が社会的養護の基盤にあることを理解することが重要である。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。
- ・現代社会における社会的養護の意義と現状と課題について理解できているか。
- ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できているか。
- ・社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、さらには関係する専門職等について理解できているか。

参考文献

・伊藤嘉余子 福田公教 『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 5 社会的養護』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の^Ⅱ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20162	科目名 [単位数/学習時間]	社会的養護Ⅱ [1単位/45時間]																			
テキスト	● 吉田眞理 高橋一弘 村田紋子 『児童の福祉を支える <演習> 社会的養護Ⅱ 第2版』 萌文書林																					
ISBN	9784893474209	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26117																	
科目担当		波来谷 徹生																				
実務経験のある教員による科目		児童養護施設施設長																				
科目の目的																						
ヤングケアラーの問題が多く取り上げられているが、本来自分たちが出来るはずの通学等もできなくなっている。その状況の中でも特に子育て世帯が貧困で孤立し虐待が発生していると考えられる。 本科目では「子どもの最善の利益」とは何かを考え、児童養護施設を利用する家庭の状況と課題を例示し、施設が行っている児童・親への援助方法を検証する。そして、国が里親委託を推進している理由と施設の小規模化により現場が抱える問題点を考え、援助する大人に求められる資質と社会的養護のあり方を考えていく。																						
到達目標																						
・「子どもの最善の利益」とは何か「権利擁護と意見表明の受け止め方」について考えていく。 ・家族から虐待を受けた子どもたち、貧困で食事・学業や進学之机を奪われている子どもたちがいるという現状を知り、どういった社会的支援が有り、どういった支援がなされているかを学習する。そして、施設・小規模施設・里親養育の現状を比較して、それぞれのよい所・不都合な所を検証し、子どもの最善の利益を守るための「社会的支援」はどうあるべきか考える。																						
学習テーマ																						
<table><tr><td>1</td><td>「子どもの最善の利益」とは何かを考える。</td></tr><tr><td>2</td><td>保育士等の職務における倫理及び責務を理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>児童福祉の体系と児童養護施設の概要を学習する。</td></tr><tr><td>4</td><td>子どもの権利擁護と意見表明の受け止め方を検証する。</td></tr><tr><td>5</td><td>保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向について学習する。</td></tr><tr><td>6</td><td>家庭調整する上で子どもへの援助方法と自立に向けての援助方法を学ぶ。</td></tr><tr><td>7</td><td>国が里親委託を推進する理由とその課題について検証する。</td></tr><tr><td>8</td><td>社会的養護の課題と展望について自分の考えをまとめる。</td></tr></table>							1	「子どもの最善の利益」とは何かを考える。	2	保育士等の職務における倫理及び責務を理解する。	3	児童福祉の体系と児童養護施設の概要を学習する。	4	子どもの権利擁護と意見表明の受け止め方を検証する。	5	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向について学習する。	6	家庭調整する上で子どもへの援助方法と自立に向けての援助方法を学ぶ。	7	国が里親委託を推進する理由とその課題について検証する。	8	社会的養護の課題と展望について自分の考えをまとめる。
1	「子どもの最善の利益」とは何かを考える。																					
2	保育士等の職務における倫理及び責務を理解する。																					
3	児童福祉の体系と児童養護施設の概要を学習する。																					
4	子どもの権利擁護と意見表明の受け止め方を検証する。																					
5	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向について学習する。																					
6	家庭調整する上で子どもへの援助方法と自立に向けての援助方法を学ぶ。																					
7	国が里親委託を推進する理由とその課題について検証する。																					
8	社会的養護の課題と展望について自分の考えをまとめる。																					
レポートについて																						
ワープロソフト 使用可																						
第1課題																						
「子どもの最善の利益」とは何か、社会的養護の施設などで働く職員・里親が子育てでどういう支援をして、どのように自立に繋げているかを述べなさい。																						
第1課題の留意点																						
「子どもの最善の利益」とは何かを考えていく。家族から虐待を受けた子どもたち、貧困で食事・学業や進学之机を奪われている子どもたちの現状を認識し、社会的養護の施設等はどういった支援をしているか。そして、家庭と施設・小規模施設・里親のそれぞれの良い所、不都合な所を検証し、子どもの最善の利益が守られる「社会的支援」について考える。																						
生成AIの利用について																						
レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。																						
レポートの評価基準																						
「子どもの最善の利益」とは何か、子どもにとって特にどういう支援が必要かを自分の考えを整理して記述する。																						
科目修了試験について																						
科目修了試験「答案」作成の留意点																						
・テキスト学習やスクーリング受講で得た知識と現在の社会情勢を見ながら、「子どもの最善の利益」を守るために何が出来るかを自分自身の考えを記述する。 ・社会的養護の施設で働く職員・里親はどういった支援をしているか、そして職員・里親に求められる資質を記述する。																						
科目修了試験の評価基準																						
「子どもの最善の利益」と「子どもにとって大切なこと」について、どの程度理解し自分自身の意見を記述しているか。																						
参考文献																						
・児童養護研究会 『養護施設と子どもたち』 朱鷺書房 ・土井高德 『神様からの贈り物 里親土井ホームの子どもたち』 福村出版 ・小田兼三 石井勲 『養護内容の理論と実際』 ミネルヴァ書房																						

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20163	科目名 [単位数/学習時間]	子ども家庭福祉Ⅰ [2単位/90時間]				
テキスト	● 倉石哲也 伊藤嘉余子 澁谷昌史 『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 1 子ども家庭福祉 第2版』 ミネルヴァ書房						
ISBN	9784623092932	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26118		
科目担当		藤原 伸夫					
実務経験のある教員による科目		地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長					

科目の目的

現在、子どもは保護の対象としてだけでなく権利の主体として捉えられている。しかし、その権利が守られているとは言い難い状況も存在する。そのため、子どもとその家族だけでなくその環境をもしっかりと捉えることが必要である。さらに子どもやその家族にかかわる諸問題は、様々な事象が絡み合っていることをこの学習を通して理解してほしい。

本科目担当者の福祉専門職としての経験などをふまえながら、子どもを中心として家族・地域・社会全体を見据えた支援の展開ができる視点や基礎的知識を習得することが目的である。

到達目標

- ・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
- ・子どもの人権擁護について理解する。
- ・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
- ・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

学習テーマ

- 1 なぜ子ども家庭福祉を学ぶのか＜テキスト レッスン1＞【学習のポイント：子どもの幸せを守る社会について理解する。】
- 2 子ども家庭福祉とは何か＜テキスト レッスン2＞【学習のポイント：子ども家庭福祉と基本的人権について理解する。】
- 3 現代社会と子ども家庭福祉ニーズ＜テキスト レッスン3＞【学習のポイント：少子化と子育てにかかる負担感について理解する。】
- 4 保育と子ども家庭福祉＜テキスト レッスン4＞【学習のポイント：子ども家庭福祉が求める保育士について理解する。】
- 5 子ども家庭福祉の歴史①＜テキスト レッスン5＞【学習のポイント：古代～大正の歴史について理解する。】
- 6 子ども家庭福祉の歴史②＜テキスト レッスン6＞【学習のポイント：昭和以降の歴史について理解する。】
- 7 子ども家庭福祉に関わる国の施策＜テキスト レッスン7＞【学習のポイント：児童福祉関連法の制定から現在に至るまでの改正点等を理解する。】
- 8 近年の子ども家庭福祉の課題＜テキスト レッスン8＞【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度について理解する。】
- 9 子ども家庭福祉の制度と法体系＜テキスト レッスン9＞【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える法律について理解する。】
- 10 子ども家庭福祉を実施する行政機関＜テキスト レッスン10＞【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える行政機関の業務等について理解する。】
- 11 児童福祉施設等＜テキスト レッスン11＞【学習のポイント：社会的養護の施設、障害児施設等について理解する。】
- 12 子ども家庭福祉の費用＜テキスト レッスン12＞【学習のポイント：施設整備の費用や施設の運営費用、また利用者負担について理解する。】
- 13 子ども家庭福祉の専門職＜テキスト レッスン13＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の関係機関と関係施設の専門職について理解する。】
- 14 子ども家庭福祉のネットワーク＜テキスト レッスン14＞【学習のポイント：子ども虐待の対応や障害のある子ども等への支援ネットワークについて理解する。】
- 15 子ども家庭福祉と権利擁護＜テキスト レッスン15＞【学習のポイント：子どもの権利擁護に関する取り組みについて理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

近年、児童福祉は子ども家庭福祉という捉え方に変わってきた。その理由を説明しなさい。

第2課題

子ども家庭福祉を推進するため様々なネットワークがあるが、その目的と取組みについて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章、特にレッスン2・3を熟読すること。少子化や子育て不安等、社会情勢の変化のもと「児童の権利に関する条約」の理念や、ウェルビーイングの考え方を反映させてまとめること。テキスト以外の文献も参考とすること。

第2課題の留意点

テキスト第3章、特にレッスン13・14を熟読すること。テキストの各所にでてくる要保護児童対策地域協議会や母子健康包括支援センター等のキーワードを理解してまとめること。なお市区町村は令和6年4月より、母子健康包括支援センター（母子保健）と子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）の二つを、その機能を維持した上で組織を見直し「こども家庭センター」としてその設置に努めることになっている。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
- ・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
- ・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は、テキストであっても必ずその引用先等を示しておくこと。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
- ・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
- ・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
- ・テキストの全範囲からの出題となるが、特に課題で取り上げられたこと、児童の権利に関する条約、児童福祉六法等を理解しておくことが必要である。（レポート課題以外のところも各自でまとめ、理解しておくこと。）
- ・子どもの権利擁護について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
- ・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

- ・現代社会における子ども家庭福祉の意義をよく理解して作成されていること。
- ・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができていのかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・設題に係る専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

- ・厚生労働省HP
- ・こども家庭庁HP
- ・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
- ・社会福祉法人大阪ボランティア協会 『福祉小六法（最新版）』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20164	科目名 [単位数/学習時間]	子ども家庭支援論 [2単位/90時間]			
テキスト	●石動瑞代 中西遍彦 隣谷正範 『保育と子ども家庭支援論』 みらい					
ISBN	9784860154882	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	26119	
科目担当		北野 富美子				
実務経験のある教員による科目		公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長				
科目の目的						
現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育者の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。						
到達目標						
・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。 ・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。 ・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。						
学習テーマ						
1	家庭・家族とは何か					
2	子どもと家庭を取り巻く環境					
3	子ども家庭支援の基本的な考え方					
4	子ども家庭支援が必要とされる背景					
5	保育者の専門性を活かした支援					
6	子育て家庭を支える法・制度					
7	子育て家庭を支える社会資源					
8	保育者に求められる基本的態度					
9	相談支援場面で必要な技術					
10	保育場面における具体的な子育て支援の方法					
11	地域の子育て家庭への支援					
12	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援					
13	発達障害児等・子どもの貧困の理解と家庭への支援					
14	要保護児童等とその家庭に対する施策					
15	子ども家庭支援に関する現状と課題					
レポートについて						
ワープロソフト 使用可						
第1課題						
保育所の家庭支援は、保育所の特性を活かして行われている。保育の専門性を活かした子ども家庭支援がどのように行われるかとその意義について述べなさい。						
第2課題						
保育所は地域に開かれた子育て支援を行うことが求められている。地域の社会資源の活用と自治体・関係機関等と、どのような連携や協力体制が行われているか述べなさい。						
各課題の留意点						
第1課題の留意点						
テキスト第2章、第4章、第5章を精読した上で、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めたうえで、文中に用いることも可能である。生成AIの利用は認めない。						
第2課題の留意点						
テキスト第3章、第6章を精読した上で、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめること。また、参考文献等を検索し読み深めたうえで、文中に用いることも可能である。生成AIの利用は認めない。						
生成AIの利用について						
本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。						

レポートの評価基準

- ・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
- ・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
- ・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
- ・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
- ・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
- ・日本語の文法に合う文章であること。
- ・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考查し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
- ・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
- ・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
- ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストの内容が理解できていること。
- ・設題内容について、的確にまとめられていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20165	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの保健 [2 単位／90時間]			
テキスト	●大森正英 『図解 新・子どもの保健』 みらい					
ISBN	9784860155636	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26120	
科目担当		小島 光華				

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患の特徴と予防に必要な知識を学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。

①子どもの健康と保健活動の意義を理解する。②子どもの健康に関する現状と課題を理解する。③子どもの発育発達と保健について理解する。④子どもの心身の健康状態の把握と対応について理解する。⑤子どもの疾病と対応について理解する。

学習テーマ

1	健康の定義と子どもの健康
2	子どもに係る保健活動の目的と内容
3	子どもの健康指標
4	母子保健対策にみる現状と課題① 母子保健活動と母子保健対策
5	母子保健対策にみる現状と課題② 地域保健活動と子どもの虐待防止
6	子どもを取り巻く環境
7	子どもの身体の発育と保健
8	子どもの心身の発達と保健① 運動機能と精神機能の発達
9	子どもの心身の発達と保健② 感覚器と生理機能の発達
10	子どもの健康状態の把握と評価
11	健康診断の意義と概要
12	子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴
13	子どもに多くみられる感染症の特徴と対応
14	アレルギー疾患の理解と対応
15	乳幼児期の基本的な生活習慣形成の意義と健康問題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1 課題

乳幼児のアレルギー疾患の特徴および保育施設での対応を述べなさい。

第2 課題

子どもの健康状態の把握と対応について述べなさい。

各課題の留意点

第1 課題の留意点

子どもにみられるアレルギー疾患を挙げ、その原因と対応および保育所におけるアレルギーへの基本的対応を述べること。

第2 課題の留意点

異常の早期発見のために、①日々の健康観察、②バイタルサインによる観察、③健康診断の内容と、それに対する評価基準について述べること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。文字数は1,600字以上2,000字以下とすること。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、特に子どもの成長・発達の特徴や疾患に対する理解（種類、原因、対応など）を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の主旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
- ・指定文字数の9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
- ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字が無いこと。

参考文献

- ・小野次朗 榊原洋一 『幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』 ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の^④）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科 目 コード	20168	科目名 [単位数/学習時間]	子ども家庭福祉Ⅱ [2単位/90時間]			
テキスト	● 倉石哲也 伊藤嘉余子 澁谷昌史 『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 1 子ども家庭福祉 第2版』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623092932	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生 協 テキストNo.	26118	
科 目 担 当		藤原 伸夫				
実務経験のある教員による科目		地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				

科目の目的

「子ども家庭福祉Ⅰ」の学びをふまえて、より具体的な援助活動について理解を深める。子ども家庭福祉領域の行政や民間など関係機関の専門職に期待される役割や機能及びその連携のあり方、多様な状況の中にある子どもやその家族を支える相談援助活動について習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・ 子ども家庭福祉で活躍する専門職の機能や役割について理解する。
- ・ 子ども家庭福祉における施策及びサービス等を理解する。
- ・ 子ども家庭福祉における多様な援助方法の実際を理解する。

学習テーマ

- 1 少子化と子育て支援サービス<テキスト レッスン16> 【学習のポイント：少子化の現状と地域子育て支援サービスについて理解する。】
- 2 多様な保育ニーズへの対応<テキスト レッスン17> 【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度について理解する。】
- 3 母子保健サービス<テキスト レッスン18> 【学習のポイント：母子保健施策について理解する。】
- 4 障害のある子どもへの支援<テキスト レッスン19> 【学習のポイント：障害のある子どもへの福祉施策について理解する。】
- 5 健全育成<テキスト レッスン20> 【学習のポイント：児童厚生施設等について理解する。】
- 6 子ども虐待対策<テキスト レッスン21> 【学習のポイント：子ども虐待の現状と防止の対策について理解する。】
- 7 DVへの対応<テキスト レッスン22> 【学習のポイント：DVの現状とその対応について理解する。】
- 8 社会的養護<テキスト レッスン23> 【学習のポイント：施設養護と家庭養護について理解する。】
- 9 ひとり親家庭福祉サービス<テキスト レッスン24> 【学習のポイント：ひとり親家庭への支援施策について理解する。】
- 10 少年非行への対応<テキスト レッスン25> 【学習のポイント：児童福祉法と少年法に基づく対応について理解する。】
- 11 貧困家庭の子どもとその家族への対応<テキスト レッスン26> 【学習のポイント：子どもの貧困に関する対策等について理解する。】
- 12 外国籍の子どもとその家族への対応<テキスト レッスン27> 【学習のポイント：保育所等における外国籍の子どもとその家族への支援について理解する。】
- 13 諸外国の動向<テキスト レッスン28> 【学習のポイント：諸外国の動向について理解する。】
- 14 子どもの発達・成長と保育者に求められる視点<テキスト レッスン29> 【学習のポイント：子どもと家庭をとりまく課題と保育者に求められる視点について理解する。】
- 15 これからの子ども家庭福祉の展望<テキスト レッスン30> 【学習のポイント：子ども家庭福祉の今後の動向について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

子ども・子育て支援新制度の成立の背景と制度の概要について説明しなさい。

第2課題

子ども家庭福祉における「社会的養護」の現状と課題について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章レッスン8、第4章レッスン16・17を熟読すること。少子化社会を背景に成立した子ども・子育て支援新制度の支援事業は、多種多様で複雑である。テキスト以外の文献も参考にして、よく整理して分かりやすくまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第4章レッスン23を中心に、被虐待児童の保護の視点からレッスン21の子ども虐待対策にも関連付けて現状と今後の課題について整理すること。テキスト以外の文献も参考にして、分かりやすくまとめること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
- ・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
- ・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は、テキストであっても必ずその引用先等を示しておくこと。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
- ・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
- ・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
- ・テキストの全範囲からの出題となるので、全章を熟読し單元ごとにポイントを整理して理解しておくことが必要である。(レポート課題以外のところも各自でまとめ、理解しておくこと。)
- ・子どもの権利擁護について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
- ・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

- ・現代社会における子ども家庭福祉の意義をよく理解して作成されていること。
- ・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行(810字程度)＞の記述があることを前提として評価する。
- ・設題に関係する専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

- ・厚生労働省HP
- ・こども家庭庁HP
- ・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向(最新版)』 厚生労働統計協会
- ・社会福祉法人大阪ボランティア協会 『福祉小六法(最新版)』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅧ)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード

20170

科目名
[単位数/学習時間]

外国語（英語）[2単位/90時間]

テキスト

●樋口忠彦 泉恵美子 加賀田哲也 衣笠知子『最新 小学校英語内容論入門』 研究社

ISBN

9784327411091

本体価格(円)
(2026年1月現在)

2,200

生協
テキストNo.

26124

科目担当

眞崎 克彦

実務経験のある教員による科目

公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事

科目の目的

以下の点について実務経験のある担当者から指導を受けながら学修する。
・小学校における外国語活動・外国語の授業を行う上で必要な英語運用能力向上のため、発話・音声・文字指導の知識、教室英語、基礎的な文法力、絵本、歌等の活用方法を身に付ける。
・「聞く」、「話す（やりとり・発表）」、「読む」、「書く」の4技能・5領域を総合的に活用し、第二言語習得論の知識を身に付けることで、理論に裏付けられた実践力を高める。

到達目標

・授業実践に必要な英語力＜①聞くこと、②話すこと、③読むこと、④書くこと＞を習得する。
・英語に関する背景的な知識＜①英語に関する基本的な知識、②第二言語習得に関する基本的な知識、③児童文学（絵本、歌）、④異文化理解＞を習得する。

学習テーマ

1	小学校外国語活動、外国語科の役割と方向（序章）
2	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成 1：聞くこと、話すこと（1章1節）
3	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成 2：読むこと、書くこと（1章2節）
4	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成 3：技能統合的な活動（1章3節）
5	授業実践に必要な基礎知識 1：第二言語習得理論学習の意義、年齢と第二言語習得（2章1節）
6	授業実践に必要な基礎知識 2：第二言語習得研究の知見①②③（2章1節）
7	授業実践に必要な基礎知識 3：コミュニケーション能力とその指導（2章2節）
8	授業実践に必要な基礎知識 4：音声の指導（2章3節）
9	授業実践に必要な基礎知識 5：語彙の指導（2章4節）
10	授業実践に必要な基礎知識 6：音声と文字の関係の指導ーフォニックスの基礎（2章5節）
11	授業実践に必要な基礎知識 7：文字、単語、文の書き方の指導（2章6節）
12	授業実践に必要な基礎知識 8：文、文構造、文法の指導（2章7節）
13	授業実践に必要な基礎知識 9：ライム、うた、絵本、児童用物語（2章8節）
14	授業実践に必要な基礎知識 10：国際理解と国際交流（2章9節）
15	教材研究と教材開発の工夫（終章）

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

テキスト序章、1章（1節～3節）、終章をすべて読み、1つの章か1つの節（1章の場合）を選ぶ。選んだ章あるいは節から得た知見をまとめ、自分が小学校で実践する際にどのように活用するか具体的に述べよ。

第2課題

テキスト2章（1節～9節）をすべて読み、1つ選ぶ。選んだ節から得た知見をまとめ、自分が小学校で実践する際にどのように活用するか具体的に述べよ。

各課題共通の留意点

キーワードが何かを考察し、それをレポートに含めて書く。課題とともに、キーワードを明示してから、本文を書き始める。（キーワードは、章、節にもよるが、3つ～5つ程度選ぶ。）本文中のキーワードにはアンダーラインを引いておく。
《例》
課題：指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成 1：聞くこと、話すこと（1章1節）
キーワード：○○○○○、△△△△△、□□□□□
本文・・・は、○○○○○を元に・・・。

このように記述することで、読み手は書き手がどのような概念に焦点を当てて考察しているかが分かるので書き手の理解度や考察力を把握しやすい。また、キーワードを指標に判断できるので、評価のブレが少なくなる。
キーワードは、その節の内容を説明するものであるため、数が多い場合もあるが、すべて上げる必要はなく、自分のレポートの主張に合わせて取捨選択するとよい。キーワードの数が多いときは、内容をまとめきれていないと判断される場合がある。
引用箇所と自分の意見の区別がはっきり分かるように記述する。著者の言葉を自分の意見としてまとめることはできない。
＜引用した場所（章、節、ページ番号等）を明示すること。＞

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストの内容が十分に理解されており、それを分かりやすく簡潔にまとめているか。
- ・適切なキーワードを提示してから書き始めているか。
- ・引用と自分の意見を適切に区別して書いているか。
例えば、泉（2023）によると、△△は□□と述べている。そのことについて、私は小学校の現場で、〇〇〇〇のように指導していく。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキストの序章、1章（1～3節）、2章（1～9節）、終章の中から以下に示す「キーワード」について学修し、テキストの内容を十分に理解した上で解答する。
 - 1章3節 4技能（5領域）、言語知識と言語運用、総合的に活用、神経回路、技能横断型、受容技能、産出技能、言語技能を統合、相手意識
 - 2章1節 第二言語習得、母語習得、第二言語環境（ESL）、外国語環境（EFL）、Krashen、(i+1)、発音、文法、語彙、年齢、日本の小学校英語教育への示唆
 - 2章2節 コミュニケーション・ストラテジー、産出方略、回避・造語・援助要請、理解方略、明確化の要求・繰り返しの要求・理解の確認、相互交流方略、発言権の交代・トピックの転換
 - 2章4節 受容語彙、発信語彙、語彙の広さと深さ、接辞、同意語・反意語、コロケーション、品詞転換、省略、頭文字語、混成、商標名からの般化
 - 2章6節 聞くこと→話すこと→読むこと→書くこと、フォント、書き写し、スモールステップ、大文字・小文字の指導、活字体、帯活動、空書き、なぞり書き、語彙リスト
 - 2章7節 文構造、定型表現、基本語順、to不定詞、動名詞、分析的、主語＋一般動詞＋目的語、主語＋目的語＋一般動詞、状態動詞、動作動詞、be動詞、助動詞、wh疑問文、「頻度」の副詞
- ・設題について、自分の考察や意見も交えながら論文形式で解答する。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を正しく理解し、テキストの内容が述べられているか。
- ・自分の意見を客観的資料（テキスト）に基づいて述べているか。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動編・外国語編＜平成29年7月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20171	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・外国語（英語）[1単位／45時間]				
テキスト	● 樋口忠彦 加賀田哲也 泉恵美子 衣笠知子『最新 小学校英語教育法入門』 研究社						
ISBN	9784327411084	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26125		
科目担当		眞崎 克彦					
実務経験のある教員による科目		公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事					

科目の目的

テキストの理論的な内容の章を講読することによって、以下の2点について実務経験のある担当者から指導を受けながら学修する。

- ・外国語教育に携わる者が知っておく必要のある基礎知識、理論を身につける。
- ・テキスト講読およびレポート作成により、教授方法の理解を深め、実践的な指導力を身につける。

到達目標

小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識と実践的指導技術を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す（やりとり・発表）」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目指す。さらに、外国語指導助手（ALT等）とのチームティーチングの方法についても理解を深める。

学習テーマ

1	外国語教育の目的と目標：学習指導要領における外国語活動、外国語の理念ほか（テキスト第1章） 関連分野からみる外国語教育の意義と方向性：母語習得と第二言語習得ほか（テキスト第2章）
2	指導者の役割、資質と研修—よりよい指導者をめざして：指導者と指導形態ほか（テキスト第3章） 教材の構成と内容：教材の役割と使用法、教材・テキスト作成の基本方針ほか（テキスト第4章）
3	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例：年間指導計画の立て方ほか（テキスト第5章） 言語教材と4技能の指導：外国語活動・外国語科の言語材料ほか（テキスト第6章）
4	教材研究①—児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動：活動の具体例ほか（テキスト第7章） 教材研究②—児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動：Small Talkほか（テキスト第8章）
5	指導方法と指導技術：外国語の授業で活用できる指導法ほか（テキスト第9章） いろいろな教材、教具の活用法：教材、教具の選定の視点ほか（テキスト第10章）
6	評価の在り方、進め方：評価とはほか（テキスト第11章）
7	授業過程と指導案の作り方：授業過程ほか（テキスト第12章） 授業作り：授業前の準備ほか（テキスト第13章）
8	豊かな小学校外国語教育をめざして—外国語活動の成果と課題を踏まえて（テキスト第14章）

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

テキスト第1章から第14章までを読む。テキストの第1章～第7章の中から1つ、第8章～第14章の中から1つ、合計2章を選ぶ。それぞれの章（計2章）について、内容の要点を説明する。さらに、自分が現場で指導する際に、読んで得た知見をどのように実践に活かすかを具体的に述べる。

第1課題の留意点

- ・1章につき1,000字程度記入し、合計2,000字程度とする。
- ・各章、以下に指定したキーワード（3つ～5つ）を含めてレポートを作成する。
 《以下から1章選んで、1,000字程度で記述》
 第1章：グローバル化、コミュニケーション、言語活動、三つの柱、音声
 第2章：母語習得、第二言語習得、インプット仮説、アウトプット仮説、インタラクション仮説
 第3章：外国語指導助手、担任の役割、指導力、英語運用能力、研修
 第4章：テキスト、題材シラバス、タスクシラバス、複合型シラバス、教科横断的な学習
 第5章：生きる力、国際理解教育、学校目標、（小中高で）一貫した目標、地域・学校・児童の実態
 第6章：興味・関心、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
 第7章：うた・チャンツ・ライム、クイズ、ゲーム、絵本、音声的特徴、異文化
 《以下からもう1章選んで、1,000字程度で記述》
 第8章：伝える、目的や場面・状況、スパイラル、レディネス、主体的・対話的で深い学び
 第9章：CLT、CLIL、TBLT、アクティブラーニング、指導形態
 第10章：学習効果、発達段階、勝敗、知的レベル、異文化
 第11章：指導目標、指導と評価の一体化、形成的評価、観察による評価、自己肯定感
 第12章：目標、指導内容、指導手順、評価基準、評価方法
 第13章：語彙・表現、ワークシート、導入、PDCAサイクル、振り返り
 第14章：（担任の）英語のモデル、時間割編成、短時間授業、リテラシーの指導、小中の接続・連携

・レポートには、以下の2点を明示する。

①第何章を選んだか。章の題目も明示する。例：第1章 外国語教育の目的と目標

②キーワードは何を選んだか。（上に提示されたキーワードを、1章につき3つ～5つ程度選ぶ。それらをレポートに含めて書く。）キーワードを明示してから、本文を書き始める。本文中のキーワードには、下線を引いておく。

《例》第2章 関連分野からみる外国語教育の意義と方向性

キーワード：○○○○、△△△△、□□□□、◎◎◎◎、・・・・

本文・・・・○○○○○は、

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストの基本的内容をしっかりと理解しているか。
- ・各課題について資料や文献（テキスト）に基づいて指導法について自分の意見を述べているか。
- ・留意点を理解し、分かりやすい構成のレポートになっているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・小学校で外国語活動及び外国語を教える際に必要な知識、取り組むべき内容について、具体的に論文形式で述べる。自分の意見も簡潔に交えながら解答する。
- ・試験準備に当たっては、以下の章の「キーワード」を踏まえて学修する。
 - 7章 クイズやゲームの意義、選択・開発・指導のポイント：発達段階、必然性、言葉の意味や働き、導入時、復習、既習の表現、絵カード、言語材料、遊戯性
 - 8章 伝達意欲、伝える価値、自己との関連性、（コミュニケーションの）必然性、目的・場面・状況、児童の実態、発達段階、非言語情報、スパイラル、国際理解、主体的・対話的で深い学び
 - 9章 CLT・伝達中心の指導法、4つの要素（文法能力・社会言語学的能力・談話能力・方略的能力）、ナチュラル・アプローチ、インプット、情意フィルター、CBI、CLIL、TBLT、意味のやり取り
 - 10章 音声や基本的な表現、内容や英語表現、全体活動、ゲームの勝敗、主体的コミュニケーション、知的レベル、他者との関わり、インタラクション
 - 11章 指導と評価の一体化、評価の機能、評価の目的や利用方法（絶対評価・相対評価・形成的評価）、パフォーマンス評価、自己評価・相互評価、ポートフォリオ評価、観察による評価、CAN-DO評価
 - 13章 授業前の準備、本時の位置づけ、教材研究、学習指導案、評価方法の検討、授業中の留意点、意味の推測、復習、導入と展開、発展、活動形態、授業後のふりかえり、PDCAサイクル

科目修了試験の評価基準

- ・テキストの内容が十分理解できているかどうか。
- ・小学校英語教育に対するこれまでの成果と課題を理解し、今後の指導に活かせる内容となっているか。
- ・前述の内容を踏まえて、自分の意見も述べられているかどうか。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編＜平成29年7月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20172	科目名 [単位数/学習時間]	総合的な学習の時間の指導法（初等）[2単位/90時間]			
テキスト	● 田村学 『小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編 平成29年版』 明治図書出版					
ISBN	9784183289124	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26126	
科目担当		山田 希代子				
実務経験のある教員による科目		公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				
科目の目的						
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。総合的な学習の時間の学習の進め方のポイントを学び、授業設計やその際の効果的な情報機器・教材の活用を取り入れ実践的な指導力を形成する。実務経験を活かして教授する。						
到達目標						
・ 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 ・ 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解しその実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 ・ 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。						
学習テーマ						
1	総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点 <テキスト初めに・序章>					
2	総合的な学習の目標の構成と趣旨 <テキスト第1章>					
3	各学校において定める目標及び内容 <テキスト第2章1・2・6・7・8>					
4	指導計画作成上の配慮事項と内容の取扱いの配慮事項 <テキスト第3章10・11>					
5	指導計画の要素と全体計画と年間指導計画 <テキスト第3章1>					
6	各学校が定める目標の設定 <テキスト第2章1・3・4・5>					
7	各学校が定める内容とは <テキスト第2章2・6・7・8>					
8	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力とは <テキスト第2章9>					
9	年間指導計画の基本的な考え方及びその作成 <テキスト第3章2>					
10	単元計画の考え方とその作成と学年に応じた実践事例 <テキスト第3章3・4>					
11	総合的な学習の過程を実現する学習指導 <テキスト第3章5・6・7>					
12	総合的な学習の評価のあり方と授業設計 <テキスト第3章12・13・14・15・第4章>					
13	総合的な学習の時間を充実させるための体制作りのあり方 <テキスト第3章8>					
14	総合的な学習の時間の環境整備について（学習空間・教室・図書館・情報等）<テキスト第3章9>					
15	外部との連携の必要性和その留意点について <テキスト第4章8-2④・教師としての心構え>					
レポートについて						
自筆に限る ワープロソフト使用不可						
第1課題						
総合的な学習の時間の改訂の趣旨を明らかにしたうえで、新授業プラン11「自分たちの地域（西山形地区）の活性化プロジェクト」（テキストpp.154-159）をもとに、総合的な学習の時間における地域の課題を取り上げることで育まれる資質・能力や単元づくりのポイントを述べなさい。						
第2課題						
現代的な諸課題に対応する探究課題を設定し、探究課題の解決を通して育成する資質・能力を明らかにしたうえで、具体的な単元計画を作成しなさい。探究的な学びの過程をスパイラル状に繰り返し、単元の総時間数が25時間以上の計画を立案すること。						
各課題の留意点						
第1課題の留意点						
テキスト序章 改訂のキーポイント（pp.8-15）第1章 第1目標のポイントと解説（pp.16-21）を熟読し、改訂の趣旨を明らかにする。改訂の趣旨がどのように新授業プランに生かされているのか、地域の課題を取り上げることでどのような資質・能力が育まれるかの視点で単元づくりのポイントを述べるとよい。 テキストや参考資料の引用・参照については、盗用・剽窃とならぬよう、出典を明記する必要がある。 論理的に展開できるよう章立てや段落の設定をすること。段落の書き始めは一字下げて書き出し、誤字脱字のないよう確認をして提出すること。						

第2課題の留意点

国際理解、情報、環境、福祉、健康、資源エネルギー、食、科学技術などの現代的な諸課題を探究課題とする。その際、机上論にならないよう、子どもが自分事として受け止めることができるよう、導入や展開を工夫する必要がある。

また、本単元を通して、どのような資質・能力を育成するのかを明確にすることが重要である。単元目標は、3つの資質・能力すべてを設定し、評価規準との整合性を持たせる。

内容や単元づくりのポイントについては、テキスト第2章3・4・5・6 (pp.26-33)、第3章3・4 (pp.50-55) を読み込む。

参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編＜平成29年7月＞』第3章第3節 探究課題について (pp.73-75)、第6章第3節 単元づくりについて (pp.99-105)、第7章第1節 学習指導の基本的な考え方 (pp.108-110)、第2節 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」(pp.111-113)、第3節 探究的な学習の指導のポイント (pp.114-123) を参考にするとより一層理解が深まる。

単元計画は、①単元名（学年）②時数 ③単元目標（育成を目指す資質・能力）④教材について（教材観・子どもの思い・教師の願い等）⑤評価規準 ⑥単元の展開 によって構成すること。⑥の単元の展開は、探究的な学びの過程・小単元名・小単元のねらい・児童の主な学習活動・教師の支援・評価の観点と方法等が分かるようA4白紙用紙（片面使用）に必要な罫線を引き手書きによる作成とする。その際、単元目標・評価規準・小単元目標・評価の観点の整合性をとることに留意すること。

実践例を参考にしたり、ネット等で諸データを引用したりした場合は、必ず出典を明記すること。枚数は全体で5枚程度とする。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。

レポートの評価基準

- ・課題の意図を理解し、テキスト学習で得た基本的なことを説明したうえで、自分の考え・表現でまとめ、いかに的確に論述できているのかで評価する。
- ・文字数は、1,800字～2,000字とする。ただし、第2課題については、表作成が必要となるので、字数については制限しない。
- ・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
- ・テキスト・参考文献・実践例・インターネットなどの情報を引用・参照した場合は、「」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・実践校名・実践事例集名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
- ・主語述語のねじれがなく、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。第1課題については、「はじめに」「本論」「おわりに」等の章立てや段落を設定し、道筋を立てて論理的に展開できていること。その際、段落の書き始めは一字下げて書き始めること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト序章・第1章・第2章を熟読し、目標、内容、探究的な見方考え方、各学校において定める目標及び内容、目標を実現するにふさわしい探究課題、主体的・対話的で深い学び、単元計画作成のポイント、教師の学習指導の評価等について深く理解しておくこと。「主体的・対話的で深い学び」については、参考文献『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』第7章第2節 (pp.111-113)、単元計画作成のポイントについては、(pp.99-105) を読むと理解が深まる。
- ・それぞれのキーワードとなる事柄についてまとめておくこと。
- ・総合的な学習の時間の学習指導の特質を十分に理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を正しく理解し、キーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの体験や自説を記入しても評価しない。
- ・段落等を設定し、筋道を立てて論理的に展開できていること。その際、段落の書き始めは一字下げて書き始めること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
- ・漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編＜平成29年7月＞』
東京書籍又は文部科学省HP
- ・総合的な学習の時間の実践集（各自で調べる）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20173	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと健康 [1単位/45時間]			
テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第3版』 みらい					
ISBN	9784860156428	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26103	
科目担当		植山 佐智子				
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・主任教諭・園長				

科目修了試験の評価基準

テキストを十分理解し、設題に沿った解答であるかを判定する。単に「健康」の領域だけではなく保育内容の領域にわたる深い考察がなされているかも注目する。

参考文献

- ・文部科学省 『幼児期運動指針』
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 『子供・若者白書』『少子化社会対策白書』『男女共同参画白書』 など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20174	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと人間関係 [1 単位／45時間]			
テキスト	● 田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」 第2 版』 萌文書林					
ISBN	9784893472922	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,900	生協 テキストNo.	26127	
科目担当		福井 逸子				
実務経験のある教員による科目		公・私立幼稚園教諭（主任教諭）				

科目の目的

本科目では、領域「人間関係」の基盤となる、乳幼児の「人と関わる力の育ち」に関する専門的事項についての知識を身に付けることを目的とする。なお、本科目で使用するテキストは、学習者自身が体験している（体験してきた）ことを子どもの体験に置き換えて、考察を深めることが可能である。全編を通して、絵本や小説、エッセイが引用されているため、これらを参考文献として読み進めることを推奨する。実務経験を生かして教授する。

到達目標

乳幼児期の人間関係の発達について、保育現場における関係発達論の視点から理解する。

- ・乳時期に育つ「人と関わる力」の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
- ・幼児期の遊びや生活の中で育つ「人と関わる力」の発達について、説明できる。
- ・自立心の育ち、協同性の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。
- ・道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿を合わせて説明できる。
- ・家族や地域との関わりの育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。

学習テーマ

1	何故、「人と関わる力」が必要なのかを理解する。(lecture 1～2)
2	領域「人間関係」のねらい、内容等について理解する。(lecture 3～4)
3	0、1、2 歳児の人間関係の特徴について理解する。(lecture 4～5)
4	3、4 歳児の人間関係の特徴について理解する。(lecture 6～7)
5	5 歳児の人間関係の特徴について理解する。(lecture 8)
6	個と集団の関わりについて理解する。(lecture 8～9)
7	保育現場における人間関係（保護者間、保育者同士）について理解する。(lecture10～11)
8	保育者と子どもとの人間関係について理解する。(lecture12)

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

乳幼児期から「人と関わる力」を育むことが、何故重要であるかについて述べなさい。

第1課題の留意点

テキストの全編を充分に読み深めた上で、レポート課題をまとめる。テキスト内に示されている参考文献を取り入れて、まとめても良い。レポートの作成は、ワープロソフト使用、自筆、どちらでもかまわない。また、表や図解を作成してもよい。自筆で表や図解を作成する場合は、レポート用紙の裏面（白紙の面）を使用する。なお、裏面（白紙面）に記載する場合は、その用紙の裏面となる原稿用紙面には何も記載しないこと。【※すべてあわせて 5 枚程度とする。】

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・文字数は、1,800字～2,000字以内とすること。
- ・課題の趣旨に沿っている。
- ・領域「人間関係」の保育内容との関連を意識しながら、作成されている。
- ・必要に応じて、保育の専門用語を用いて解説されている。
- ・専門用語を正しく理解して使用し、具体例なども挙げながら、わかりやすく説明されている。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスのないように留意すること。
- ・テキストからの引用箇所と自身の意見が分かるように記載すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・「到達目標」に示されている文言やキーワードについて、理解できている（理解できていた）かを、確認した上で科目修了試験に臨む方が良い。
- ・テキスト内に複数箇所記載されている、文言やキーワードについては、日頃の学習段階で要約しておく方が良い。
- ・テキスト中にある人物名については書籍やインターネットを用いて詳しく調べておく方が良い。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解して、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字等が無いこと。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・無藤隆 古賀松香 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』 北大路書房
- ・無藤隆 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20175	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと環境 [1単位/45時間]			
テキスト	● 田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』 萌文書林					
ISBN	9784893474278	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26128	
科目担当		佐藤 智恵				
実務経験のある教員による科目		保育士				

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・試験では保育実践を行う上で必要な具体的知識を問う。テキストに掲載されている活動内容に関する知識を熟読するとともに、テキストに掲載のないものについても関心をもち、自ら調べておくことが重要である（特に、第1課題で示した5点については、それぞれ実施に必要な知識を理解しておくこと）。
- ・テキストに掲載されている具体的な事例や内容の確認だけでなく、保育内容のアイデアを自ら考えておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・保育を行う上で必要となる領域「環境」に関する知識が備わっていること。
- ・誤字脱字がなく、主述が正しく記述されており、内容が伝わる文章であること。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20176	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと言葉 [1単位/45時間]																			
テキスト	● 高橋一夫 『ことばを育む・保育に活かす 言語表現 第2版』 みらい																					
ISBN	9784860154219	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,500	生協 テキストNo.	26129																	
科目担当		高橋 一夫																				
科目の目的 「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付ける。 到達目標 ・ 保育・幼児教育における「言葉」の重要性を理解することができる。 ・ 児童文化財の意義を理解し、保育現場で活用できる知識と技能を獲得する。 ・ 保育者として「言葉」の楽しさ・美しさに気付くことができる。 学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>指針・要領における子どもと言葉について【学習のポイント:指針などにおける子どもと言葉についての記述を確認する。(テキストpp.5-14)】</td></tr><tr><td>2</td><td>子ども達の育ちを支えるための保育者の言葉に関するスキルについて【学習のポイント:保育者に求められる言葉に関わるスキルを理解する。(テキストpp.15-28)】</td></tr><tr><td>3</td><td>絵本について【学習のポイント:絵本を論理的に分析する。(テキストpp.29-36)】</td></tr><tr><td>4</td><td>紙芝居について【学習のポイント:紙芝居の基礎について理解する。(テキストpp.37-45)】</td></tr><tr><td>5</td><td>素話について【学習のポイント:素話の基礎について理解する。(テキストpp.46-54)】</td></tr><tr><td>6</td><td>児童文学(明治・大正期まで)について【学習のポイント:明治・大正期までの児童文学について理解する。(テキストpp.55-66)】</td></tr><tr><td>7</td><td>児童文学(昭和期から現在まで)について【学習のポイント:昭和期から現在までの児童文学について理解する。(テキストpp.67-72)】</td></tr><tr><td>8</td><td>詩人の表現と子どもの詩について【学習のポイント:詩の持つ力について理解する。(テキストpp.73-84)】</td></tr></table>							1	指針・要領における子どもと言葉について【学習のポイント:指針などにおける子どもと言葉についての記述を確認する。(テキストpp.5-14)】	2	子ども達の育ちを支えるための保育者の言葉に関するスキルについて【学習のポイント:保育者に求められる言葉に関わるスキルを理解する。(テキストpp.15-28)】	3	絵本について【学習のポイント:絵本を論理的に分析する。(テキストpp.29-36)】	4	紙芝居について【学習のポイント:紙芝居の基礎について理解する。(テキストpp.37-45)】	5	素話について【学習のポイント:素話の基礎について理解する。(テキストpp.46-54)】	6	児童文学(明治・大正期まで)について【学習のポイント:明治・大正期までの児童文学について理解する。(テキストpp.55-66)】	7	児童文学(昭和期から現在まで)について【学習のポイント:昭和期から現在までの児童文学について理解する。(テキストpp.67-72)】	8	詩人の表現と子どもの詩について【学習のポイント:詩の持つ力について理解する。(テキストpp.73-84)】
1	指針・要領における子どもと言葉について【学習のポイント:指針などにおける子どもと言葉についての記述を確認する。(テキストpp.5-14)】																					
2	子ども達の育ちを支えるための保育者の言葉に関するスキルについて【学習のポイント:保育者に求められる言葉に関わるスキルを理解する。(テキストpp.15-28)】																					
3	絵本について【学習のポイント:絵本を論理的に分析する。(テキストpp.29-36)】																					
4	紙芝居について【学習のポイント:紙芝居の基礎について理解する。(テキストpp.37-45)】																					
5	素話について【学習のポイント:素話の基礎について理解する。(テキストpp.46-54)】																					
6	児童文学(明治・大正期まで)について【学習のポイント:明治・大正期までの児童文学について理解する。(テキストpp.55-66)】																					
7	児童文学(昭和期から現在まで)について【学習のポイント:昭和期から現在までの児童文学について理解する。(テキストpp.67-72)】																					
8	詩人の表現と子どもの詩について【学習のポイント:詩の持つ力について理解する。(テキストpp.73-84)】																					
レポートについて ワープロソフト 使用可 第1課題 テキストpp.49-51に掲載されている昔話「馬方とやまんば」の良さは何か、根拠を踏まえて論述しなさい。また、この昔話を保育現場で幼児たちと楽しむ際に保育者として配慮すべき事項について、根拠を踏まえて論述しなさい。 第1課題の留意点 ・ 昔話「馬方とやまんば」の良さと、この昔話を保育現場で幼児たちと活用する際の保育者としての配慮事項の両者ともに記述がされていること。 ・ テキスト(特に、「第7章 児童文化財と言語表現 素話」p.46～)を熟読し、その内容を十分に踏まえていること。 生成AIの利用について レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。 レポートの評価基準 ・ 課題内容を正しく理解し、論理的に文章を構成することができる。 ・ 誤字脱字に注意し、文章表現に関する基本的事項を守ることができる。 ・ テキスト学習によって得た知識に基づき論述することができる。 ・ 領域「言葉」について理解することができる。 ・ 保育者に求められている指導や配慮について理解することができる。 科目修了試験について 科目修了試験「答案」作成の留意点 ・ 「学習テーマ」における学習のポイントを押さえたテキストの理解ができていること。 ・ 『保育所保育方針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』における「言葉」に関わる箇所について、十分な理解ができていること。 ・ 答案作成において自身の考えを記述する際は、必要十分な根拠が示されていること。 科目修了試験の評価基準 ・ 設題内容を正しく理解し、論理的に文章を構成することができる。 ・ 誤字脱字に注意し、文章表現に関する基本的事項を守ることができる。 ・ テキスト学習によって得た知識に基づき論述することができる。 ・ 解答用紙表面が埋まる程度<1行30字×27行(810字程度)>の記述があることを前提として評価する。																						

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20177	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと音楽表現 [1単位/45時間]			
テキスト	● 今泉明美 有村さやか 『子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へー』 萌文書林					
ISBN	9784893472465	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26131	
科目担当		高 奈奈				
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園音楽表現担当講師				

科目の目的

『幼稚園教育要領』に示された領域「表現」のねらい及び内容についての知識を習得し、乳幼児期の音楽表現活動において必要となる歌唱や器楽の演奏など保育者の役割について理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・音楽の演奏において必要な音楽の基礎的な知識を習得し、子どもの歌などの楽曲を正しく捉えることができるようになる。
- ・保育における音楽表現活動の基礎となる「歌唱」と「器楽」について理解を深める。
- ・乳幼児期の音楽的な発達について理解を深め、発達に即した保育の内容を考えることができる。

学習テーマ

- | | |
|---|---|
| 1 | 音楽の基礎的な知識の習得①【学習のポイント：読譜に必要なとなる楽譜のしくみ、音名、小節、音符と休符、拍子とリズムについて理解し、確認の問題に取り組む。テキストPart 1 Chapter 1 1～7項】 |
| 2 | 音楽の基礎的な知識の習得②【学習のポイント：演奏に必要なとなる音階、和音、移調、標語について理解を深める。テキストPart 1 Chapter 1 8～12項】 |
| 3 | 正しい発声法と子どもの歌唱【学習のポイント：発声のメカニズムを知り、保育における歌唱について理解する。テキストPart 1 Chapter 2 pp.76-83、Part 2 Chapter 2 pp.136-156】 |
| 4 | 保育現場におけるピアノの役割について【学習のポイント：ピアノの演奏法とピアノの役割について理解し、テキストに示された楽譜の演奏に挑戦することで実践力を身に付ける。テキストPart 1 Chapter 3】 |
| 5 | 楽器についての知識を深める【学習のポイント：様々な楽器の特徴や分類、演奏法について理解し、リズム奏の技術を身に付ける。テキストPart 1 Chapter 4 pp.110-121、Part 2 Chapter 3 pp.160-169】 |
| 6 | 子どもの音楽的な発達について【学習のポイント：乳幼児期の聴覚、発声、歌唱の発達について理解し、月齢に即した音楽表現について考える。テキストPart 2 Chapter 1 pp.124-131】 |
| 7 | 保育における領域「表現」について【学習のポイント：テキストに示された3歳以上のねらい及び内容について理解し、表現活動における教育、保育の意図を考える。テキストPart 2 Chapter 1 pp.132-134】 |
| 8 | 子どもの音楽表現活動【学習のポイント：音楽表現活動のねらい及び内容、子どもの活動と保育者の支援について理解し、乳幼児期の音楽表現について考える。テキストPart 2 Chapter 4 pp.170-185】 |

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

0歳～5歳までの音楽的な発達（聴覚・声・歌唱）を踏まえて、それぞれの年齢に求められる音楽表現活動の具体的な内容と意義を述べよ。歌唱、器楽、表現遊びのどの分野から考えても構わない。

第1課題の留意点

- ・領域「表現」における＜乳児保育＞＜1歳児以上3歳児未満の保育＞＜3歳児以上の保育＞のねらい及び内容についてしっかりと理解を深め、保育における音楽表現活動の意義と役割を理解した上で述べるようにする。
- ・保育で取り扱う楽曲名について、作詞者・作曲者に加えてその楽曲の特徴（調性・音域・リズム・歌詞など）を正しく明記する。参考文献『続 こどものうた200 保育実用書シリーズ』などの子どもの歌の楽譜集から年齢に応じた楽曲を調べる。
- ・保育のどのような場面（生活、季節、行事）で行う活動なのか明記すること。
- ・テキストに示される事例や実践方法を参考にして、保育のねらいや子どもたちの興味関心、また自身が行いたい保育の内容を踏まえて述べる。
- ・自身の経験談ではなく、テキストから学んだ専門的な知識に基づいてレポートを作成すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・誤字脱字の有無を含め、文章を書く際の基本的なルールに沿った読み手が理解しやすい文章の構成であること。
- ・経験談ではなく、テキストや参考文献から学んだ知識をもとに文章を書くことができるか。
- ・保育者に求められる支援や音楽的な技術について理解することができるか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキストの内容を理解すると共に、参考文献で領域「表現」のねらい及び内容についてしっかりと学んでおく。
- ・乳児期、幼児期の聴覚、発声、歌唱の発達についてしっかりと学び、年齢に即した音楽表現活動を行う必要性について理解を深める。
- ・音楽表現活動を行う上で、「学習テーマ」に示した1～5の内容が保育者にとって必要な知識と技術であることを理解し、分野別に理解を深めておく。
- ・テキストから学んで得た知識と自身の考えを分かりやすく述べること。
- ・参考文献『続 こどものうた200 保育実用書シリーズ』に掲載されている子どもの歌を多く知り、発達や季節に応じた具体的な音楽表現活動をイメージしておく。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を正しく捉え、テキストで学んだ内容を中心に論述することができているか。
- ・誤字脱字の有無を含め、文章を書く際の基本的なルールに沿った読み手が理解しやすい文章の構成であること。
- ・解答用紙表面の8割以上の記述があること。
- ・自身の経験談ではなく、テキストで述べられているキーワードなどを用い、習得した知識に基づいて論述することができているか。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ・小林美実『続 こどものうた200 保育実用書シリーズ』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20178	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと造形表現 [1単位/45時間]																			
テキスト	● 松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社																					
ISBN	9784883034208	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	26132																	
科目担当		須増 啓之																				
科目の目的 幼児の造形表現においては、保育者や教育者にとって描いたり、つくったりする力も必要だが、子供の表現を見る力も大切となってくる。現在、絵を上手に描かせることを目的としたり、大人の価値観を子供に単に押し付けたりしている保育や授業も少ないとは言えない。そのため、保育者や教育者をめざす学生にとって、大人と子供は異なるという意識をもつことや子供の造形表現への理解が重要となる。テキストを読むことで、大人と子供の違いや子供の造形の発達や特徴、見る力についての理解を深めることが本科目の目的である。 到達目標 ・大人と子供の違いについて理解をしている。 ・幼児の造形の発達やその特質について説明できる。 ・保育者や教育者にとっての見る力の重要性を理解している。 ・造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。 学習テーマ <table><tr><td>1</td><td>キーワードから読み解く大人と子供の違いについて①【学習のポイント：「世界」、「感覚」の側面から大人と子供の違いを理解する。＜テキストpp.12-29＞】</td></tr><tr><td>2</td><td>キーワードから読み解く大人と子供の違いについて②【学習のポイント：「概念」、「体験」、「目的」の側面から大人と子供の違いや未分化性を理解する。＜テキストpp.30-47＞】</td></tr><tr><td>3</td><td>キーワードから読み解く「子供」と「美術」の共通性について【学習のポイント：子供と美術の重なりや未分化性、造形／美術の役割について確認する。＜テキストpp.48-67＞】</td></tr><tr><td>4</td><td>子供の造形への「発達」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：子供の造形を読み解きながら、「なぐり描き期」、「命名期」、「前図式期」、「図式期」、「前写実期」、「写実期」などの絵の発達や立体造形の発達について理解する。＜テキストpp.69-90＞】</td></tr><tr><td>5</td><td>子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて①【学習のポイント：「頭足人」、「アニミズム」、「基底線」、「集中構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.91-101＞】</td></tr><tr><td>6</td><td>子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて②【学習のポイント：「レントゲン描法」、「展開図描法」、「積み上げ遠近法」、「多視点構図」、「正面構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.102-111＞】</td></tr><tr><td>7</td><td>子供の造形への「美しさ」と「心理」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：「形式美」や「内容美」についての確認や、子供の作品から状況や心理が伝わることにについて知る。＜テキストpp.112-133＞】</td></tr><tr><td>8</td><td>見る力について【学習のポイント：保育者、教育者として子供の造形や芸術作品を見る力を身につける重要性について理解する。＜テキストpp.134-153＞】</td></tr></table> レポートについて ワープロソフト 使用可 第1課題 テキスト第1章の「大人vs子供」(pp.13-47)にある5つの対比の中から2つの対比を選び、その内容について具体事例を挙げながらまとめなさい。その際、テキストを読んであなたの理解がどのように変化したのかについても必ず記述すること。 第1課題の留意点 本課題ではテキストの第1章(pp.13-47)の内容を理解し、その内容について自分なりの言葉でまとめることを重視している。以下の点に留意して、レポートを作成すること。 ・テキスト全体をよく読んで理解を深め、特に第1章のポイントを押さえて自分なりの言葉でまとめることが大切である。テキストの内容をそのまま短くしたり、羅列したりしただけのものはレポートとして認めない。 ・選んだ大人と子供の対比について、すべての内容をまとめる必要はない。それぞれの対比の中で興味のある部分やキーワードなどを中心にまとめてよい ・必ず具体事例を挙げてまとめること。ただし、具体事例はテキストに載っている以外のものを使用すること。たとえば個人の体験や他の著書を調べたもの、自身で創作したものなど。 ・必ず第1課題についてテキストを読む前と学習した後での理解の変化を自分の言葉で書くこと。 生成AIの利用について レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							1	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて①【学習のポイント：「世界」、「感覚」の側面から大人と子供の違いを理解する。＜テキストpp.12-29＞】	2	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて②【学習のポイント：「概念」、「体験」、「目的」の側面から大人と子供の違いや未分化性を理解する。＜テキストpp.30-47＞】	3	キーワードから読み解く「子供」と「美術」の共通性について【学習のポイント：子供と美術の重なりや未分化性、造形／美術の役割について確認する。＜テキストpp.48-67＞】	4	子供の造形への「発達」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：子供の造形を読み解きながら、「なぐり描き期」、「命名期」、「前図式期」、「図式期」、「前写実期」、「写実期」などの絵の発達や立体造形の発達について理解する。＜テキストpp.69-90＞】	5	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて①【学習のポイント：「頭足人」、「アニミズム」、「基底線」、「集中構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.91-101＞】	6	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて②【学習のポイント：「レントゲン描法」、「展開図描法」、「積み上げ遠近法」、「多視点構図」、「正面構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.102-111＞】	7	子供の造形への「美しさ」と「心理」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：「形式美」や「内容美」についての確認や、子供の作品から状況や心理が伝わることにについて知る。＜テキストpp.112-133＞】	8	見る力について【学習のポイント：保育者、教育者として子供の造形や芸術作品を見る力を身につける重要性について理解する。＜テキストpp.134-153＞】
1	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて①【学習のポイント：「世界」、「感覚」の側面から大人と子供の違いを理解する。＜テキストpp.12-29＞】																					
2	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて②【学習のポイント：「概念」、「体験」、「目的」の側面から大人と子供の違いや未分化性を理解する。＜テキストpp.30-47＞】																					
3	キーワードから読み解く「子供」と「美術」の共通性について【学習のポイント：子供と美術の重なりや未分化性、造形／美術の役割について確認する。＜テキストpp.48-67＞】																					
4	子供の造形への「発達」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：子供の造形を読み解きながら、「なぐり描き期」、「命名期」、「前図式期」、「図式期」、「前写実期」、「写実期」などの絵の発達や立体造形の発達について理解する。＜テキストpp.69-90＞】																					
5	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて①【学習のポイント：「頭足人」、「アニミズム」、「基底線」、「集中構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.91-101＞】																					
6	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて②【学習のポイント：「レントゲン描法」、「展開図描法」、「積み上げ遠近法」、「多視点構図」、「正面構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.102-111＞】																					
7	子供の造形への「美しさ」と「心理」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：「形式美」や「内容美」についての確認や、子供の作品から状況や心理が伝わることにについて知る。＜テキストpp.112-133＞】																					
8	見る力について【学習のポイント：保育者、教育者として子供の造形や芸術作品を見る力を身につける重要性について理解する。＜テキストpp.134-153＞】																					

レポートの評価基準

以下の3点で総合的に評価する。

- ・内容について【テキストの内容の理解度、課題への解答の的確さ、独自の視点】
- ・形式について【レポートの構成、引用の仕方、参考文献の書き方、字数（2,000字程度）】
- ・表現について【文章の読みやすさ、段落のとり方、誤字・脱字、作成の際の丁寧さ】

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「学習テーマ」に沿って、テキストの内容を全体的に理解しておくことが大切である。特に「大人と子供の違い」や「子供と美術」の重なり、子供の造形への「発達」と「特徴」からのアプローチ、保育者や教育者にとって必要な「見る力」などについて理解を深めておくこと。また、解答は必ずテキストの内容を踏まえること。テキストの内容を踏まえていない解答は評価しない。

科目修了試験の評価基準

- ・説明問題 2 題50点（25点×2＝50点）、記述問題 1 題50点の配点で採点する。
- ・説明問題はテキストの内容を正確に理解し、説明ができているかどうかで評価する。
- ・記述問題はテキストの内容を踏まえたうえで、記述されているかどうかで評価する。
- ・各設題について指定文字数を大幅に逸する場合や誤字脱字が多い場合は減点とする。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・平田智久 『＜感じる＞からはじまる 子どもの造形表現』 教育情報出版
- ・榎英子 『保育をひらく造形表現 第2版』 萌文書林
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
- ・東山明 東山直美 『子どもの絵は何を語るか 発達科学の視点から』 NHK出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード

20179

科目名
[単位数/学習時間]

子どもと身体表現 [1 単位／45時間]

テキスト

● 文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』 サンライフ企画

ISBN

9784904011478

本体価格(円)
(2026年1月現在)

1,300

生協
テキストNo.

26133

文部科学省HPよりダウンロード可能

科目担当

岩濱 里江子

実務経験のある教員による科目

公立幼稚園教諭・園長、教育委員会（指導主事）

科目の目的

幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における身体表現の意義とねらい、保育者の指導方法について学ぶことを目的とする。年齢による身体表現の内容、環境の構成、教師の援助のあり方、身体表現による子どもの育ちについて、実務経験を活かして教授する。

到達目標

・ 幼児の身体活動（運動遊び）・身体表現の意義と幼児の育ちについて理解する。

・ 身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。

学習テーマ

1

幼児期の運動指針のポイントについて理解する（テキスト第 1 章pp.5-16）

2

幼児期における身体活動の現状と問題点と幼児期における運動の意義を理解する（テキスト第 2 章pp.17-28）

3

幼児期における運動の配慮事項と保育者の指導のポイントについて理解する（テキスト第 3 章pp.29-41）

4

いろいろな遊びの中で自発的に体を動かして遊ぶための工夫について理解する（テキスト第 3 章pp.30-33、 pp.36-41）

5

安全に楽しく遊べる環境をつくることを理解する（テキスト第 3 章p.34、 pp.38-41）

6

保護者と連携し、共に育てることを理解する（テキスト第 3 章p.35、 pp.42-46）

7

保護者に向けた提案をする保育者の役割について理解する（テキスト第 3 章pp.42-46）

8

多様な身体活動が含まれる遊びを理解する

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第 1 課題

身体表現活動を通して、幼児にどのような育ちが期待されるのか、身体表現活動の目的（ねらい）及び、その育ちを促すための活動の工夫、保育者の指導法等について、具体的な活動例を挙げながら述べよ。

第 1 課題の留意点

・ 身体活動（運動遊び）の展開については、テキストを熟読し、参考文献『幼稚園教育要領解説』を参考にしながら、幼児が主体的に身体を動かして表現する楽しさを味わうための活動の工夫、保育のねらい、教師の配慮（環境の構成や安全面を含む）について、対象年齢を設定して具体的に論述すること。

・ イラスト等（白い紙に描いて剥がれないようにレポート用紙に貼付）または指導案等により、わかりやすく記述すること。

・ 本冊子「はじめに」の「Ⅱ レポート作成について」をよく読み、レポートを構成すること。文献や資料、HP等を調べ、引用する場合は、必ず引用であることが分かるように該当箇所を「 」でくくり、注番号を打ち、引用文出典を明記すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

・ テキストから学んだ内容をふまえた上で、課題に対して、自分で積極的に関連文献などを調べ、その他の情報を加味し課題の留意点をしっかり読み、それら留意点が満たされていること。

・ 引用や参考の記載を明確にすること。

・ テキストや参考文献を拾い出すだけでなく、自分の考えを論理的かつ具体的に説明できていること。

・ レポートとして、段落や、主語と述語の関係、誤字脱字などを留意してまとめ、自筆の場合は丁寧な文字で記入していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に、幼児にとっての身体活動の意義や保育のねらい、教師の指導方法の工夫、留意点について記述できるようにしておくこと。発達に応じた身体活動の具体例を交えながら、記述できるようにすること。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解した上で、テキストの内容等をふまえ、キーワードや事項をとらえて、記述できていること。具体的な活動例を挙げながら、自身の考えを含めて、論理的に記述できていること。レポート課題で学習したことを活かしていること。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20181		科目名 [単位数/学習時間]	教育方法・ICT活用論（初等）[2単位/90時間]		
テキスト	●堀田龍也 佐藤和紀 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』 三省堂					
ISBN	9784385362649	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26134	
テキスト	●文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 ●文部科学省 『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）』					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	●文部科学省 『教育の情報化に関する手引ー追補版ー（令和2年6月）』（インターネットにて閲覧）					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
テキスト	●文部科学省 『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』（インターネットにて閲覧）					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		https://www.mext.go.jp/content/20240202-mxt_jogai01-100003157_1.pdf
科目担当		中尾 尊洋				
実務経験のある教員による科目		中学校教諭（情報担当）				

科目の目的

Society5.0を目指した社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や学習基盤としての情報活用能力の育成について理解を深めると共に、様々な教育の方法や指導技術についての知識に基づく情報技術を活用した学習方法の在り方について理解する。教育の情報化についての現状、及び児童・生徒の情報活用能力の育成や情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業の方法について、実務経験を踏まえて教授する。

到達目標

- ・ Society5.0を目指す社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解を得る。
- ・ 教育方法に関する様々な理論や実践についての知識を広げ、理解を得る。
- ・ 教育の情報化について理解し、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や子どもたちの情報活用能力の育成についての理解を得る。

学習テーマ

1

学習指導要領と授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第1章、テキスト『小学校学習指導要領解説 総則編』 pp. 1 -11】

2

教育方法の原理と学習評価【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第2章】

3

授業中の教師の意思決定【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第3章】

4

授業における発問と指示【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第4章】

5

教科書活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第5章】

6

教材活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第6章】

7

教育の情報化の意義と概要、ICT環境整備【学習のポイント：テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第1章、第4章第2節、第7章】

8

教師によるICT活用【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第7章、第8章、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第4章】

9

思考力を育てる授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第9章】

10

児童生徒によるICT活用【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第10章】

11

情報活用能力の育成【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第11章、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第2章第1節～第3節】

12

情報モラル教育【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第12章、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第2章第4節】

13

プログラミング教育【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第13章、『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第3章、参考文献『小学校プログラミング教育に関する研修教材』】

14

校務の情報化【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第14章、参考文献『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』】

15

学校の情報管理と情報セキュリティ【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第15章、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第7章第5節、テキスト『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

各課題共通の留意点、第1課題の留意点を踏まえ、テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第6章「教材活用の技術」の内容を1,000字程度（A4用紙1枚程度を目安とする）に要約しなさい。さらに、参考文献『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』p.34「教材1：ネットゲームに夢中になると…」に示される教材を、豊田（2008）が示す4つのレベルで捉えて1,000字程度で解説しなさい。

第2課題

各課題共通の留意点、第2課題の留意点を踏まえ、テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第13章「プログラミング教育」の内容を、プログラミング的思考の解釈を含めて1,000字程度（A4用紙1枚程度を目安とする）に要約しなさい。さらに、参考文献『小学校プログラミング教育に関する研修教材』『Scratch正多角形をプログラムを使ってかく』の「正方形をかく」Ⅱ指導案を熟読し、プログラミング的思考が「本時の学習」のどの場面で育成されているのか、なぜそう考えるのかを1,000字程度で解説しなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

要約部分に関する文献の提示は必要ない。主張を根拠づける文献は、Web等で探してもよい。その場合は、必ず出典（著者、文献タイトル、出版元、サイト名、URLと閲覧日、等）を明記する。

文献の提示方法は**バンクーバー方式で記載**すること（書籍、PDFの場合は該当ページも明記する。バンクーバー方式の記載方法についてはWeb等に様々な解説があるので、それらを確認して理解すること）。本レポートでは、引用・参考ともにどこで、どの文献を引用・参考にしたのかを明確にするため、**文献リストは引用文献、参考文献ともに「参考文献」としてまとめ、全ての文献に通し番号を振り、本文中にも文献番号を記載すること**。また、**テキスト自体が他の文献を参考をしている場合は、テキストではなく元の文献を参考文献とする。文献の記載方法が適切ではない場合は、内容の評価をせずに不合格で返却する場合がありますので特に注意すること。**

課題に該当するテキストの章だけではなく、学習した内容全体を網羅的に理解したうえでレポート作成に取り組む。

提出前に、必ず自分で丁寧に見直し、誤字・脱字、文章の意味が理解できるか等についてよく確認しておくこと。**誤字・脱字、主述のねじれ（ねじれ文）等が3カ所以上ある場合は、確認を怠っているものとし、不合格とする。**

不合格になることを考慮して早めに提出すること。

第1課題の留意点

該当の参考文献には動画教材もあるので、視聴するとより解釈が進みやすい。レポートは、豊田（2008）の示す教材の4つのレベルについて、すべての側面から教材を捉え、教材の持つ側面を理解しているかどうかを問う問題である。よって、4つの側面すべてについてどう捉えたかを解説すること。記載する際に、「○○の側面では、・・・」のように、明確にどの側面について論じているのかが分かるようにすること。

第2課題の留意点

レポートは、プログラミング的思考が理解できているのかを問うものである。プログラミング的思考については、テキストの内容を要約するだけでなく、**自分なりにどのように解釈したのかを記述すること**。指導案の熟読にあたって、実際にScratchの操作を自分でもやってみると理解が進みやすい。解説では、プログラミング的思考が育成されている場面を挙げるだけでなく、その場面がプログラミング的思考の育成につながると考える理由を必ず記述すること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。特に、どこで利用したのかを明確にするため、引用マークを文章中に付記し、**文献リストには使用した生成AI名、入力したプロンプトを記載した上で、レポート内容とは別に生成AIの出力内容のコピーを印刷して添付すること**。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

課題の求めている問いに丁寧に答えられていること。文章全体に誤字脱字がないこと。留意点の内容が理解されていること。解説において自分の主張を述べられており、その根拠を示す文献が適切に示されていること。

分量は全体で2,000字程度（A4で2～3枚）にまとめること。段落分けが適切にされていること。特に論の根拠となる引用、参考文献がバンクーバー方式にて記載されていない等、留意点に記載の基準を満たしていない場合は**内容の評価をせずに不合格で返却**するので、注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第2章をよく読み、学習評価について理解しておく。特に、学習評価の考え方について説明できるようにしておく。
- ・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第5章をよく読み、教科書を使って行う授業の効果について理解しておく。特に、テキストに示されている4点に整理して解説できるようにしておく。
- ・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第7章をよく読み、ICTを活用した授業の効果について理解しておく。特に、ICTを活用した知識・技能の習得について解説できるようにしておく。
- ・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第8章をよく読み、学校放送番組を活用した授業の特徴について理解しておく。
- ・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第9章をよく読み、思考力・判断力・表現力を育成する授業について理解しておく。特に、具体的な授業場面を例示して解説できるようにしておく。
- ・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第10章及びテキスト『教育の情報化に関する手引―追補版―』第4章「教科等の指導におけるICTの活用」をよく読み、教科指導におけるICT活用の意義を理解しておく。特に、ICT活用のメリットについて具体的な使用例を挙げて解説できるようにしておく。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードを捉えて正確に説明できているかどうかを評価する。テキストの内容、『学習の手引き』に記載されている事項を踏まえずに自説だけを述べても評価されないので注意する。
- ・用語については、極力テキストに用いられている用語を使う。また、用語の誤字脱字・誤りが無いこと（例：○形成的評価×形式的評価 など）。
- ・単に自分の考えを主観的に述べるのではなく、論理的に説明すること。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校プログラミング教育の手引（第三版）』
https://www.mext.go.jp/content/20200218-mxt_jogai02-100003171_002.pdf
- ・文部科学省 『発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408030.htm
- ・文部科学省 『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm
- ・NHK for School 『しまった！～情報活用スキルアップ～とは？』
<https://www.nhk.or.jp/sougou/shimatta/>
- ・文部科学省 『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』
https://www.mext.go.jp/content/1387543_02.pdf
- ・文部科学省 『教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/content/20200626-mxt_jogai02-100003155_004.pdf
- ・文部科学省 『新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_02.pdf
- ・文部科学省 『小学校プログラミング教育に関する研修教材』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416408.htm
- ・文部科学省 『学校における先端技術活用ガイドブック（第1版）』
https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_syoto01-100013299_001.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

<対象：科目等履修生>

**認定こども園法改正に伴う
幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の
特例制度にかかる科目**

認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生を対象とした科目です。

正科生・課程正科生は該当しませんので、注意してください。

科目コード	20026	科目名 [単位数/学習時間]	教職論 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 佐久間裕之 『教職概論 改訂 第2版』 玉川大学出版部					
ISBN	9784472406331	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26048	
科目担当		小坂 明				
実務経験のある教員による科目		公立小学校長				

科目の目的

「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の急速な進歩や変化の中、教員へ求められる教員の資格、研修、学校経営など現状を教育関係法規や文部科学省の答申、メディアの資料を参考にしながら理解する。これを理解した上で、教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と責任感・使命感を高め、「求められる教員の資質能力」について考え、学び、将来は「魅力ある教員」としての基礎になるように、実践的指導力について習得する。

小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
- ・教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
- ・社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
- ・平成29年に公示された「小学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
- ・学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

学習テーマ

1	教職の意義① 教職とは何か
2	教職の意義② 教員に求められるもの
3	教員の職務① 教員の身分
4	教員の職務② 教員の服務
5	教員養成 教員養成の歴史と現状
6	教員資格と教員の採用
7	教員の資質能力 求められる資質能力
8	教員の研修と教員評価
9	教員と学校経営
10	専門職としての教職① 令和の日本型教育
11	専門職としての教職② 学習指導要領
12	専門職としての教職③ 幼稚園教育
13	専門職としての教職④ 特別支援教育
14	専門職としての教職⑤ 生徒指導と道德教育
15	教職をめぐる新たな諸課題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第1課題

教員の職務をめぐる現状と課題についてまとめなさい。

第2課題

「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」と法令で規定されているが、教員が「絶えず研究と修養に努めなければならない」のはなぜか、論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

学校教育は、その担い手の資質能力が大切であるため、「適格な人材の確保」が求められている。この課題に対して、（１）教員の研究と修養（２）教員の分限、懲戒処分（３）教員のメンタルヘルス保持の３点から調べて、まとめる。

第2課題の留意点

いつの時代の答申でも教員に必要な素養がまず述べられ、そして、社会の情勢や進歩に対応できる教員像が求められている。そのことを踏まえて、（１）教員研修の意義（２）教員の研修体系（３）「令和の日本型学校教育」で求められる教師像の３つの観点を調べて、論じる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・常に「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。
- ・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用なども適切であり、日本語としての表現、表記が的確であること。
- ・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気を付け、丁寧に書かれていること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストの構成（目的）を参考にし、とりわけ、①教職の意義、②教員の職務、③教員養成、④学習指導要領、⑤教員の資質・能力を中心にまとめておくこと。また、参考文献の『小学校学習指導要領解説 総則編』、『幼稚園教育要領解説』、『生徒指導提要』なども熟読しておく必要がある。さらに、学習指導要領の各教科、教科外の解説書などやその他の教育関係法規、文部科学省等の教育関係の答申も参考にすることも重要である。

科目修了試験の評価基準

- ・レポートの評価基準に準じる。
- ・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用などが適切であり、日本語としての表現、表記も的確であること。さらに、テキストや学習指導要領などを熟読しているか、教育関係法規や答申等についても触れているかを中心に評価する。題意に正対せず、自分の得意領域にすり替える等、経験や体験を羅列して論述しているような答案は、高く評価しない。
- ・誤字脱字に気を付け、丁寧に書かれていること。
- ・設題の内容を正しく理解し、具体的かつ論理的に記述でき、適切な文章表現ができていること。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編＜平成30年 3 月＞』 開隆堂又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編＜平成29年 7 月＞』 あかつき教育図書又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『生徒指導提要（令和 4 年12月）』 東洋館出版社
- ・文部科学省 『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和 3 年 1 月26日）』 中央教育審議会答申
- ・法務省 『人権教育・啓発に関する基本計画』 平成14年 3 月15日閣議決定（策定）平成23年 4 月 1 日閣議決定（変更）
- ・今津孝次郎 『教師が育つ条件』 岩波新書
- ・文部科学省 『GIGAスクール構想の実現へ』（リーフレット）
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和 4 年12月19日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（令和 6 年 8 月27日）』 中央教育審議会答申
- ・武田信子 多賀一郎 『教師の育て方』 学事出版
- ・文部科学省 『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和 6 年12月25日）』 中央教育審議会諮問

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20031	科目名 [単位数/学習時間]	教育社会学 [2 単位／90時間]			
テキスト	● 陣内靖彦 穂坂明德 木村敬子 『教育と社会 子ども・学校・教師』 学文社					
ISBN	9784762022579	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26051	
科目担当		間 渕 泰 尚				

科目の目的

教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。これらの課題について、テキストや指定参考資料だけでなく、必要な資料を収集しレポート課題を作成することで理解を深める。

到達目標

現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的な知識を身につける。

学習テーマ

1	日本の家族と子どもの生活 <テキスト第 1 章>
2	現代の子育てとその支援 <テキスト第 2 章>
3	社会の変化と幼児教育 <テキスト第 3 章>
4	日本の社会と学校① 戦前から戦後へ <テキスト第 4 章>
5	日本の社会と学校② 戦後の教育改革 <テキスト第 4 章>
6	カリキュラムと教科書 <テキスト第 5 章>
7	学校生活の社会学① 学校と学級制度 <テキスト第 6 章>
8	学校生活の社会学② 学校文化・隠れたカリキュラム <テキスト第 6 章>
9	消費社会・情報社会と子ども文化① 消費社会と子ども <テキスト第 7 章>
10	消費社会・情報社会と子ども文化② 子どもとネット社会 <テキスト第 7 章>
11	日本の社会と教師① 教師のリーダーシップ <テキスト第 8 章>
12	日本の社会と教師② 教員免許制度と教師の仕事 <テキスト第 8 章>
13	世界、アジア、日本の教育改革 <テキスト第 9 章>
14	地域と学校の連携 <参考文献：資料① 文部科学省（中教審第186号）>
15	学校安全への対応 <参考文献：資料② 文部科学省（中教審第199号）>

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第 1 課題

現在、次期学習指導要領改訂に向けた審議が行われているが、その中で「多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程」の実現がポイントの 1 つになっている。主に義務教育において、この目標を達成するための方策について、憲法の条文を踏まえた上で論じなさい。

第 2 課題

- 次の 2 つのテーマから 1 つを選んで論じなさい。
- 1) 少子化対策と幼児教育の関係について論じなさい。
 - 2) 義務教育段階において生成AIがおよぼす影響について論じなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

単なるテキストの要約はレポートとは認めないので注意すること。かといって、自由課題ではない以上、全くテキストを参照しないレポートも合格とは認められない。レポートとはテキストの記述をベースに、自分が「考えた」ことを書くものである。他の文献やインターネット上の意見を参考にすることは大歓迎であるが、必ず参考文献としてその情報を明示すること。参考文献リストは指定文字数外とする。

第 1 課題の留意点

日本国憲法の条文は各自参照すること。その上で、テキスト第 4 章、第 5 章および第 9 章を参考にすること。次期学習指導要領に関する審議内容は文部科学省HPで公開されているが、見つけにくい場合は中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」というキーワードを用いると良い。学校と地域の関連にふれる場合は、参考文献の『資料① 文部科学省（中教審第186号）』もあわせて参照すること。資料の要約に止まらぬよう、テキストの内容と関連付けて論じること。

第2 課題の留意点

- 1) テキスト第1章から第3章までの内容を参考にすること。実際に政府が行っている少子化対策については厚生労働省や子ども家庭庁、内閣府などのHPなどから各自資料を探すこと。資料の要約だけにとどまらず、必ずテキストの内容とも関連付けて論じること。
- 2) テキスト第6章から第8章までの内容を参考にすること。必要に応じて文科省が出している「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」も参照すること。参考文献の『資料② 文部科学省（中教審第199号）』を資料として加えてもよい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

（1）テキストの内容を正しく理解しているか、（2）その上で独自の視点から記述されているか、（3）文章の構成、誤字、分量などが適切か、（4）正しく文献や資料を参照し、参考文献リストがついているか、の4点から評価を行う。「各課題の留意点」にも書いたが、課題のポイントを外しているもの、テキストの要約しか行っていないもの、テキストを全く参照していないもの、分量が著しく不足しているものは合格としないので注意すること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

レポート作成時にテキストの内容をしっかりと理解しておくこと。それとともにテキストに出てくる術語を理解しておくこと。特に、日常的な使用方法と異なる使い方をする術語には注意すること。さらにレポート課題作成を通じて、「自分の経験を相対化する」という思考方法に慣れておいてほしい。重要なのは「自分の頭で考えること」である。

科目修了試験の評価基準

用語説明を20点×2問、記述問題を60点満点としてそれぞれ採点する。用語説明はテキストにあるような内容を把握しているかどうかを基準とする。語感から受ける感想をいくら書いても点数にはならない。記述問題は、設題の理解度を30点満点、内容および構成を20点満点、表記や分量を10点満点として採点する。

参考文献

- ・資料① 文部科学省（中教審第186号）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365761.htm
- ・資料② 文部科学省（中教審第199号）『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1384125.htm

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20905	科目名 [単位数/学習時間]	幼児教育課程特論 [1 単位/45時間]			
テキスト	● 戸江茂博 『シリーズ：新しい時代の保育者養成 保育カリキュラムの基礎理論 教育課程・全体的な計画の学び』 あいり出版					
ISBN	9784865550542	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26054	
テキスト	● 『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』 チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055	
科目担当		森 眞理				
実務経験のある教員による科目		幼稚園教諭（日本・米国）、幼稚園園長（日本）、幼児部・初等部教諭（米国ニューヨーク補習授業校）				

科目の目的

本科目は、乳幼児教育・保育実践に欠かせない教育課程、すなわちカリキュラムについて学び、理解を深めることから、子どもの最善の利益を保障する乳幼児教育・保育の当事者としての意識を明確化することを目的としている。保育を実践するにあたり、現在、幼稚園では「教育課程」を編成し、保育所と認定こども園では、「全体的な計画」を編成する。本科目（テキスト）では、双方を含めて「保育カリキュラム」と称する。保育カリキュラムの意味と意義を理解することから始め、その歴史的変遷、保育における指導計画の捉え方と内容、小学校教育との連携におけるカリキュラム、そして、実践、及び記録と評価の関係について学び、幼児教育課程についての基礎を理解する。実務経験のある教員による課題に取り組むことから、より幼児教育・保育実践に携わっているとの実践意識を高めたい。

到達目標

本科目の到達目標は、以下の通りである。

- ・教育課程や全体的な計画、すなわち保育カリキュラムの意味と意義を理解する。
- ・子どもの育ちの道（発達）にふさわしい保育カリキュラムの重要性について学ぶ。
- ・保育カリキュラムの構成を学び、乳幼児期にふさわしい保育内容について理解を深める。
- ・教育課程や全体的な計画を具体的な実践計画としてデザインしたものを指導計画という。指導計画の在り方、立て方について学び、その意義について理解する。
- ・評価の根本について学び、評価の意義を理解する。

学習テーマ

1	学びの概要を理解する【学習のポイント：テキストを概観する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』まえがきと全章に目を通す。）】
2	幼児教育・保育の基本【学習のポイント：カリキュラム作成の基礎となる幼児教育・保育の根本について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』1章）】
3	保育カリキュラムについて理解する【学習のポイント：カリキュラム作成と、計画の意義について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
4	保育カリキュラムの歴史的変遷①【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、明治・大正・昭和時代のカリキュラムの変遷について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
5	保育カリキュラムの歴史的変遷②【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、平成年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
6	幼稚園の教育課程の基礎【学習のポイント：幼稚園の教育課程の考え方について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章）】
7	保育所・認定こども園の全体的な計画の基礎【学習のポイント：保育所や認定こども園の全体的な計画の考え方を理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章）】
8	保育カリキュラムと指導計画【学習のポイント：教育課程・全体的な計画と指導計画の関係について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
9	0歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：0歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
10	1、2歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：1、2歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
11	3歳以上児の育ちと指導計画【学習のポイント：3、4、5歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
12	さまざまな指導計画【学習のポイント：さまざまな指導計画の考え方と内容について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
13	保育の記録【学習のポイント：保育の記録の重要性と指導計画の関係性を理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章）】
14	保育の評価【学習のポイント：保育の質向上のための評価のあり方について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章）】
15	まとめ【学習のポイント：内容の総括。これからの保育カリキュラムのあり方について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章）】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

本科目における1)「保育カリキュラム」の意味（基本的な考え方）について述べ、2)教科カリキュラムと経験カリキュラムを比較し、それぞれの長所と短所について表し、考察を述べなさい。

第1課題の留意点

テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の「まえがき」から「1章、2章、3章」を熟読し、保育カリキュラムの意味と意義を把握すること。加えて、保育カリキュラムの捉え方について、参考文献『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』から示唆が与えられるので、一読すること。

<レポート作成にあたっての文章構成上の留意点>

レポートを書く際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出し・小見出しを付けて分かりやすくすること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考えについての確性と具体性を持って表現し記しているか評価する。
- ・次の6点を評価基準とする。
 - ①テキストを精読の上、テキストにある参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
 - ②課題を理解し、留意点についても考慮して記す中で、自分の考えを加味してまとめている。
 - ③他人に読ませることを意識し、丁寧に作成している。（主語述語の関係性の不一致、誤字脱字は減点となる。）
 - ④レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っていること。
 - ⑤「である調」「ですます調」が混在していないこと。
 - ⑥文献から引用・参考にする際は、その旨を明記し、本学の表記に準じて表すこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- *科目修了試験への心構えと受験については下記の項目を留意することが肝心である。
 - ・試験問題を丁寧に読み、その趣旨を理解して、キーワードや事項の意味を捉えて正確に説明すること。
 - ・テキストの内容、「科目の目的」と「到達目標」の記載事項を踏まえた上で、自らの経験や自説を展開すること。
 - ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。また、誤字脱字や文法の誤りは減点となる。
 - ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を高く評価し合格に繋がる。基礎的な説明のみでは、半分程度の得点評価となり、自論（問題提起を含む）を記述することで高い評価に近づく。
 - ・自筆の判読が難しい際（例：鉛筆の文字が薄い・誤字脱字）は、不可となることを心得ておくこと。
- *テキストの熟読と科目修了試験との関係性については、下記の項目を留意すること。
 - ・「1章」からは、「教育課程」と「全体的な計画」、すなわち、「保育カリキュラム」の意味とその独自性について理解しておくこと。
 - ・「2章」からは、今日の保育カリキュラムの現状と課題を理解し、問題解決へと一歩踏み出すための施策について、自分なりに考えておくこと。
 - ・「3章」からは、幼稚園・保育所・認定こども園のカリキュラムの基本的編成について、それぞれの教育・保育施設の特性との関係から理解しておくこと。
 - ・「4章」からは、1) 0-5歳児の発達の特性と指導計画立案においての留意点について学んでおくこと、加えて、小学校との連携のカリキュラムの重要性について理解し、課題について考えておくこと。
 - ・「5章」からは、子ども理解と記録・評価の関係性について学び、その意義について理解しておくこと。
- *各章の重要な用語については、説明できるように整えておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
- ・筋道を立てて論理的に展開できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
- ・主語・述語の関係を留意した文章であること。改行、改節等に留意していること。
- ・判読可能な丁寧な文字で記していること。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20906	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容の研究・特別総論 [1単位/45時間]			
テキスト	● 森眞理 猪田裕子 『子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論』 北大路書房					
ISBN	9784762831904	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26113	
科目担当		猪田 裕子				
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園教諭				

科目の目的

乳幼児教育を総合的な視点で理解し、遊びを通じて学びに向かう子どもの力を捉える。そのために必要な環境構成の知識や技能を習得することを目的とする。

到達目標

- ・乳幼児期における教育（遊びの中から学びに向かう力を捉える）の基本を理解する。
- ・子ども理解に基づく指導計画の作成、展開、評価の考え方を理解する。
- ・乳幼児の興味・関心や心身の発達等に応じた具体的な指導のあり方を理解する。

学習テーマ

1	子どもの権利を軸とした保育内容【学習のポイント：保育内容総論を学ぶ意味と意義を考察する】
2	子どもの最善の利益を保障すること【学習のポイント：子どもには権利があるという視点から保育内容総論を考える】
3	子どもの育ちと保育内容との関係性【学習のポイント：生きる力を育む保育内容の実際を探究する】
4	子どもの遊びと保育内容の関係性【学習のポイント：「遊びこそ学び」との視点から保育内容を考える】
5	環境を通して行う保育【学習のポイント：「ヒト」「モノ」「コト」を通して保育環境を考える】
6	子どもの生活から保育内容を考える【学習ポイント：保育の歴史的変遷を踏まえながら、保育内容を考える】
7	乳児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点を考察する】
8	幼児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点及び保育の質について考察する】
9	子どもの育ちと学びの可視化【学習のポイント：「今を生きる子ども」の姿を記録する意味や意義について考える】
10	保育の多様性【学習のポイント：子どもの権利の視点から、多様性を尊重する意味を考える】
11	保育の場におけるインクルージョン【学習のポイント：保育の場でインクルージョンを実現することの大切さを理解する】
12	保育におけるSDGsとESD【学習のポイント：SDGsやESDと、幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について考える】
13	世界の保育内容を学ぶ【学習のポイント：各国で行われている保育内容やその工夫について調べてみる】
14	子どもの権利を保障する保育者の姿【学習のポイント：子どもの願いや気づきに聴き入る保育者の姿の意味を考える】
15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

子どもの育ちや学びを「可視化する」ことの意味について、説明しなさい。その上で、記録や振り返りが、子ども理解や保育内容の見直しにどのようにつながるのかを、自身の考えを交えて述べなさい。

第1課題の留意点

- ・「可視化」を、単なる記録や評価と捉えるのではなく、今を生きる子どもの姿に立ち返るための営みとして理解することが求められる。
- ・子どもを一方向的に評価する視点にならないよう、子どもの権利や最善の利益の観点を踏まえて論じること。
- ・抽象的な表現に終始せず、保育者がどのように記録を活用し得るのかについて、具体性をもたせて述べるのが望ましい。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストの内容の理解と整理：テキストを精読し、その内容を的確に整理していること。また、参考文献などの情報を活用し、論理的に自らの考えを述べていること。
- ・課題の趣旨の理解と論旨の展開：課題の趣旨を正確に把握し、論旨が一貫して展開されていること。論理的な構成で、読み手に伝わりやすい内容となっていること。
- ・形式および表現の正確さ：レポートの形式（文字数、構成、書式など）を遵守していること。文法や文章表現に誤りがなく、誤字脱字がないこと。
- ・参考文献の適切な使用と明記：使用した参考文献が適切であり、レポート内でその内容を正確に活用していること。また、すべての参考文献を正しい形式で明記していること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・問題文を正確に把握し、求められている内容を的確に答え、具体例や根拠を盛り込み、論理的に述べることが重要である。
- ・テキストを活用しつつ、自分の考えをわかりやすく述べ、引用がある場合は適切に説明を加えることが必要である。
- ・形式と文章表現に配慮し、誤字脱字を避け、簡潔で読みやすい構成を心がけることが求められる。
- ・具体例と実践的な視点を重視し、子どもの発達や保育現場に基づいた事例を用いて説得力のある回答を作成することが望ましい。

科目修了試験の評価基準

- ・設題を正しく理解し、明確かつ確かな答えが書かれており、設題の趣旨を的確に捉えているかを評価する。
- ・答案が論理的に構成され、一貫性が保たれており、序論・本論・結論が明確で筋道が通っているかを重視する。
- ・テキスト内容を踏まえた具体的な事例や考察が含まれており、表面的な説明に留まらず深い理解が伝わる内容であることを評価する。
- ・文法や言葉遣いが適切で、誤字脱字がなく、表現が明確で読みやすい文章であることを確認する。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20907	科目名 [単位数/学習時間]	教育方法・技術特論(初等) [1単位/45時間]			
テキスト	● 堀田龍也 佐藤和紀 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』 三省堂					
ISBN	9784385362649	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26134	
テキスト	● 文部科学省 『幼稚園教育要領解説（平成30年2月）』					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	● 文部科学省 『教育の情報化に関する手引ー追補版ー（令和2年6月）』（インターネットにて閲覧）					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
科目担当		中尾 尊洋				
実務経験のある教員による科目		中学校教諭（情報担当）				

科目の目的

Society5.0を目指した社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や学習基盤としての情報活用能力の育成について理解を深めると共に、様々な教育の方法や指導技術についての知識に基づく情報技術を活用した学習方法の在り方について理解する。教育の情報化についての現状、及び児童の情報活用能力の育成や情報通信技術（ICT）を活用した効果的な学習の方法について、実務経験を踏まえて教授する。

到達目標

- ・ Society5.0を目指す社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解を得る。
- ・ 教育方法に関する様々な理論や実践についての知識を広げ、理解を得る。
- ・ 教育の情報化について理解し、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や子どもたちの情報活用能力の育成についての理解を得る。

学習テーマ

1	幼稚園教育の基本理念と環境構成【学習のポイント：テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第1節：人格形成の基礎を培うこと、環境を通して行う教育、教師の役割】
2	幼児期の「遊び」と総合的な指導【学習のポイント：テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第1節：遊びを通しての総合的な指導】
3	一人一人の発達の理解と教師の基本的姿勢【学習のポイント：テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第1節：一人一人の発達の特性に応じた指導】
4	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続【学習のポイント：テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第2節：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、第3節：小学校教育との接続に当たっての留意事項】
5	情報社会における教育とICT活用原則【学習のポイント：テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第4節：情報機器の活用、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第1章第1節：社会における情報化の急速な進展と教育の情報化、第7章第4節：先端技術の導入】
6	教師に求められる情報管理と倫理【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第15章：学校の情報管理、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第7章第5節：情報セキュリティ対策の基本的な考え方】
7	ICTを活用した保育設計と意思決定【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第3章：授業中の教師の意思決定、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第4章第4節：特別支援教育におけるICTの活用】
8	組織的な保育運営とカリキュラム・マネジメント【学習のポイント：テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第1節：教師の役割、第3節：教育課程の役割と編成等、テキスト『教育の情報化に関する手引ー追補版ー』第2章第2節：資質・能力の三つの柱と情報活用能力】

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

幼稚園教育要領の「5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）」のうち1つを選び、ICTを活用した保育環境（教材・活動）を設計し、期待されるICTの効果を考察しなさい。

第1課題の留意点

幼稚園教育要領の5領域のうち、どの領域を選択したのかを明記すること。また、複数の領域に関連する保育環境の場合であっても、選択した領域に関する内容に絞って考察すること。

文献の提示方法はバンクーバー方式で記載すること。（書籍、PDFの場合は該当ページも明記する。バンクーバー方式の記載方法についてはWeb等に様々な解説があるので、それらを確認して理解すること。）本レポートでは、引用・参考ともにどこで、どの文献を引用・参考にしたのかを明確にするため、文献リストは引用文献、参考文献ともに「参考文献」としてまとめ、全ての文献に通し番号を振り、本文中にも文献番号を記載すること。また、テキスト自体が他の文献を参考にしている場合は、テキストではなく元の文献を参考文献とする。文献の記載方法が適切ではない場合は、内容の評価をせずに不合格で返却する場合がありますので特に注意すること。

提出前に、必ず自分で丁寧に見直し、誤字・脱字、文章の意味が理解できるか等についてよく確認しておくこと。誤字・脱字、主述のねじれ（ねじれ文）等が3カ所以上ある場合は、確認を怠っているものとし、不合格とする。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

次の項目が説明されていること。

- ①幼稚園教育要領の5領域のうち1つを明確に示している。
- ②幼児教育におけるICT機器の扱いについて、具体的かつ実現可能な内容が適切に説明されている。
- ③ICTを活用した効果が適切に説明できている。

なお、図表を用いてもよいが、必要最小限とし、過度に多くならないようにする。分量はA4用紙2枚程度にまとめること。文献は適切に記載されていない場合、評価の対象とならないため注意すること（文献の記載方法はバンクーバー方式とする）。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・「環境を通して行う教育」の基本理念と教師の役割について理解する。特に、幼児の主体的な活動と教師の意図とのバランスについて説明できるようにしておく。
- ・幼児期の「遊び」が学習である理由について理解する。特に、5領域のねらいがどのように遊びの中で相互に関連し合うのかを説明できるようにしておく。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」について理解する。特に、どう育つかの具体例を挙げられるようにしておく。加えて、小学校との学びの連続性の意義が説明できるようにしておく。
- ・幼児期における情報機器の活用と「直接的な体験」との関係性を理解する。特に、視聴覚教材やコンピュータが主体的・対話的で深い学びとどのように関連していくのかを説明できるようにしておく。
- ・情報管理の重要性について理解する。特に、具体的にどのような意識や行動が必要であるかを説明できるようにしておく。
- ・ICT活用が幼児の興味・関心をどのように高めるのか、幼児の「わかる」をどう支えるのかを理解する。また、特別な配慮を必要とする幼児への支援にICT活用がどう役割を果たすのかを説明できるようにしておく。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードを捉えて正確に説明できているかどうかを評価する。テキストの内容、『学習の手引き』に記載されている事項を踏まえずに自説だけを述べても評価されないのに注意する。
- ・専門用語の誤字脱字・誤りが無いこと（例：○形成的評価 ×形式的評価 など）。
- ・自分の考えを述べるように問題文に明示されていない場合は、自分の考えを述べる必要はない。

参考文献

- ・狩野さやか 『3つのキーワードで新学習指導要領案を見る！～「学びの質」に大きくシフトして必要になるものは？（2017）』
<https://ict-toolbox.com/report/2017/03/1493/>
- ・文部科学省 『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm
- ・内田洋行教育総合研究所 『意外と知らない"情報活用能力"（2018）』（第1回～第3回）
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017812.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017814.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017815.html
- ・NHK for School 『しまった！～情報活用スキルアップ～とは？』
<https://www.nhk.or.jp/sougou/shimatta/>

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科 目 コード	20908	科目名 [単位数 / 学習時間]	幼児理解特論 [1 単位 / 45時間]			
テキスト	● 文部科学省 『幼児理解に基づいた評価（平成31年 3 月）』 チャイルド本社					
ISBN	9784805402832	本体価格(円) (2026年1月現在)	250	生 協 テキストNo.	26065	
科 目 担 当		権藤 眞織				

科目の目的

幼児期にふさわしい教育を行うためにまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。その基盤となる発達理論及び幼児教育の特質との関連を理解し、具体的な観察・記録・評価の実際を身につける。保育者として、自分の保育観に基づいて保育を展開していくには、まず、「子ども理解」の基礎・基本、原理・原則を掴んでおく必要がある。基本をしっかりと理解して、自分らしい豊かな保育を展開し、実践力のある保育者を目指してほしい。

到達目標

- 「子どもを理解する」ことの意味について考え、記録を生かした保育の質を高める方法や内容を考える。具体的には、次のとおり。
- ・ 保育の中で子どもの育ちを捉える視点について理解する。
 - ・ 生活や遊びの中での幼児理解のポイントについて理解する。
 - ・ 「仲間関係」の形成過程に焦点を当てた子ども同士の関係づくりについて考える。
 - ・ 個と集団の関わりに対して、保育者が配慮することは何かを考える。
 - ・ 子どもの葛藤やつまずきを捉える視点を理解する。
 - ・ 保育の環境を構成する保育者の視点を理解する。
 - ・ 環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。
 - ・ 特別な配慮を必要とする子どもの理解に不可欠なインクルーシブという考え方が説明できる。
 - ・ 保育実践の質を高めていく上でのドキュメンテーションの意義を理解する。
 - ・ 保育ドキュメンテーションを活用した指導計画の作成・展開・評価・改善について説明できる。

学習テーマ

1	幼児理解に基づいた評価の意義とは
2	評価の考え方①：幼児教育における基本的な視点
3	評価の考え方②：発達を見通した評価の視点
4	よりよい保育を作り出すために
5	幼児理解に基づいた評価の考え方とは
6	保育における幼児理解と評価とは
7	よりよい保育に繋がる保育記録①：幼児の姿と保育
8	よりよい保育に繋がる保育記録②：教室の視点と保育
9	日常の保育と保育記録
10	幼児理解に基づいた評価の実際①：実践事例（テキストより事例 1・2）
11	幼児理解に基づいた評価の実際②：実践事例（テキストより事例 3・4・5）
12	幼児理解に基づいた評価の実際③：実践事例（テキストより事例 6・7）
13	「幼児理解」に関連する根拠法令のポイントを理解する。
14	「幼児理解」に関連する記録（指導要録や児童保育要録など）の作成のポイントや留意点を理解する。
15	まとめ：テキストからキーワードを抽出して、自分なりの「幼児理解」「保育における評価」についてまとめる。そして、自分の保育観や保育実践と、「幼児理解」や「評価」の基本姿勢を比較検討し、基本を踏まえた上で、自分らしい保育を行うには、どんな工夫や配慮ができるか考察する。

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1 課題

幼児理解に基づいた評価の意義について解説しなさい。そして、レポートの最後で、課題に取り組んでみて、あなたなら、「幼児理解」を行う際、最も重視すべき点と、なぜ、それを重視すべきなのか、説明しなさい。

第1 課題の留意点

テキスト第 1 章を熟読し、どのような意義があるのかを理解し、何が大切かを説明する。そして、保育者として、「幼児理解」を行う際のポイントや留意点を述べ、なぜ大切なのか、自身の考えを述べること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

職業人として「保育」を実践していくためのスキルを身につけていく基礎として、「幼児理解」の考え方を把握できているか評価する。テキストは日本の保育や幼児教育のガイドラインの1つであるため、要点を捉えて解説できているか評価する。そして、具体的な例を挙げながら解説しているか、また最後に、課題に取り組んでみて自分がどのように感じ、考え、気づいたのか、私見を述べているかを評価基準とする。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストをよく読み、キーワードを掴むことが大切である。幼児理解のポイントを捉えて、実際の子どもと関わる際には、実践が求められる。専門的な用語や内容を説明する際には、何らかの具体例や子どもの事例などを例示しながら解説すると、わかりやすく、伝わりやすい論述となる。

科目修了試験の評価基準

一般論や自身の経験談を述べるのではなく、テキストを熟読し、そこに書かれた専門用語の意味や重要なポイントを設題の趣旨に沿って適切に解説すること。また、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述が必要。誤字脱字にも留意が必要。

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館

その他、各自でも工夫して、関連するさまざまな資料やニュース、参考文献にも目を通してみる。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20901	科目名 [単位数/学習時間]	福祉と養護＜特例教科目＞ [2単位/90時間]			
テキスト	●「福祉と養護」編集委員会 『福祉と養護 第3版』 みらい					
ISBN	9784860155094	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	26136	
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055	
科目担当		藤原 伸夫				
実務経験のある教員による科目		地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				

科目の目的

本科目は、保育士試験免除（特例制度）に必要な履修科目「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護」の3科目の内容を含んだ科目である。「子ども家庭福祉」を軸に、そのベースとなる「社会福祉」および家庭養育が困難な児童を対象とする「社会的養護」について学習する。社会福祉の実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・現代社会における社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
- ・社会福祉と子ども家庭福祉の役割について理解する。
- ・社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の制度と実施体系について理解する。
- ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
- ・施設養護の実践について理解する。

学習テーマ

1	現代社会における社会福祉・子ども家庭福祉および社会的養護の意義①（社会福祉の理念と概念）＜テキスト『福祉と養護』第1章＞
2	現代社会における社会福祉・子ども家庭福祉および社会的養護の意義②（現代社会と子ども家庭福祉、社会的養護の理念と基本原理）＜テキスト『福祉と養護』第1章＞
3	社会福祉・子ども家庭福祉の歴史の変遷①（イギリスとアメリカにおける社会福祉の歴史）＜テキスト『福祉と養護』第2章＞
4	社会福祉・子ども家庭福祉の歴史の変遷②（日本における社会福祉・子ども家庭福祉の歴史）＜テキスト『福祉と養護』第2章＞
5	社会福祉と子ども家庭福祉の役割①（社会福祉分野としての子ども家庭福祉、子ども家庭福祉分野としての子育て家庭支援・社会的養護）＜テキスト『福祉と養護』第3章＞
6	社会福祉と子ども家庭福祉の役割②（子どもの権利と権利擁護）＜テキスト『福祉と養護』第3章＞
7	社会福祉と子ども家庭福祉の法体系と実施体制①（社会福祉の法体系と財政、子ども家庭福祉の法体系と財政）＜テキスト『福祉と養護』第4章＞
8	社会福祉と子ども家庭福祉の法体系と実施体制②（社会福祉・子ども家庭福祉の行政機関、福祉の民間専門機関と団体）＜テキスト『福祉と養護』第4章＞
9	社会福祉と子ども家庭福祉の施設と専門職①（社会福祉と子ども家庭福祉の施設）＜テキスト『福祉と養護』第5章＞
10	社会福祉と子ども家庭福祉の施設と専門職②（社会福祉と子ども家庭福祉の専門職）＜テキスト『福祉と養護』第5章＞
11	社会的養護の実施体制と仕組み（社会的養護の体系、社会的養護の実施体制、措置制度と利用契約制度）＜テキスト『福祉と養護』第6章＞
12	子ども家庭福祉の現状と課題①（母子保健、子どもの健全育成、子ども虐待、ドメスティックバイオレンス）＜テキスト『福祉と養護』第7章＞
13	子ども家庭福祉の現状と課題②（社会的養護、障害のある子どもへの対応、少年非行、子どもの貧困対策、外国籍の子どもへの支援）＜テキスト『福祉と養護』第7章＞
14	施設養護の実践①（施設養護の基本原則、施設養護の展開過程、施設養護のインケアの実践）＜テキスト『福祉と養護』第8章＞
15	施設養護の実践②（児童養護施設、障害児施設、治療・行動系施設）＜テキスト『福祉と養護』第8章＞

レポートについて

ワープロソフト
使用可

第1課題

「児童の権利に関する条約」批准後のわが国における子どもの権利擁護の取り組みについて説明しなさい。

第2課題

社会的養護の2体系である、施設養護と家庭養護について概説しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ・「児童の権利に関する条約」がわが国に与えた影響についてふれて述べること。
- ・テキスト『福祉と養護』第3章を熟読すること。しかし、テキストの引用だけではなく、児童福祉法の改正、「こども基本法」施行など最近の動向も参考とすること。

第2 課題の留意点

- ・まず、社会的養護とはどのようなことをいうのか説明すること。
- ・特にテキスト『福祉と養護』第6章、第7章の5を熟読し、「措置制度」にもふれてまとめること。またテキスト以外の資料も参考にすること。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・「課題の留意点」に注意し、専門用語を正しく理解して使用していること。
- ・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
- ・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
- ・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
- ・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・テキストの全範囲からの出題となるが、特に課題で取り上げられたことの他、現代社会福祉の背景について理解しておくこと。
- ・子ども家庭福祉に関する機関および施設の概要について理解しておくこと。
- ・子ども家庭福祉の実施体制と仕組みについて理解しておくこと。
- ・在宅児童を対象とする子ども家庭福祉サービス・活動の概要について理解しておくこと。
- ・子ども家庭福祉サービスを支える専門職の概要について理解しておくこと。
- ・戦後の日本における子ども家庭福祉の歴史的展開について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護の共通基盤である「福祉」というとらえ方が理解できているか。
- ・子ども家庭福祉および社会的養護の制度や実施体系等について理解しているか。
- ・子ども家庭福祉および社会的養護の歴史、現状および課題について理解しているか。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・設問に関係する専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

- ・厚生労働省HP
- ・こども家庭庁HP
- ・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
- ・社会福祉法人大阪ボランティア協会 『福祉小六法（最新版）』 中央法規出版

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20915	科目名 [単位数/学習時間]	子ども家庭支援論＜特例教科目:子ども家庭支援論分野＞ [1単位/45時間]				
テキスト	●石動瑞代 中西遍彦 隣谷正範 『保育と子ども家庭支援論』 みらい						
ISBN	9784860154882	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	26119		
科目担当		北野 富美子					
実務経験のある教員による科目		公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長					

科目の目的

本特例教科目「子ども家庭支援論」＜テキスト・スクーリング履修科目＞は「子ども家庭支援論」「子育て支援」の2つの教科目（分野）の目標・内容をもとに構成されるが、テキスト履修分については「子ども家庭支援論」分野について学ぶ。幼稚園教諭免許状を有する者が幼稚園等での実務経験により保護者対応等の経験を一定程度積んでいることを考慮し、幼稚園等での実務経験では得られない内容等を集中して学ぶ。

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育者の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について理解できる。
- ・保育士が行う子育て家庭に対する支援の体制について理解できる。
- ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 子ども家庭支援の基本的な考え方 |
| 2 | 保育士の専門性を活かした支援 |
| 3 | 子育て家庭を支える法・制度 |
| 4 | 子育て家庭を支える社会資源 |
| 5 | 保育士に求められる基本的態度 |
| 6 | 保育場面における具体的な子育て支援の方法 |
| 7 | 地域の子育て家庭への支援 |
| 8 | 要保護児童等とその家庭に対する施策 |

レポートについて**ワープロソフト
使用可****第1課題**

保育所の家庭支援は、保育所の特性を活かして行われている。保育の専門性を活かした子ども家庭支援がどのように行われるかとその意義について述べなさい。

第1課題の留意点

テキスト第2章、第4章、第5章を精読した上で、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めたうえで、文中に用いることも可能である。生成AIの利用は認めない。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。

レポートの評価基準

- ・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
- ・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
- ・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
- ・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
- ・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
- ・日本語の文法に合う文章であること。
- ・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

- ・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
- ・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
- ・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
- ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

- ・テキストの内容が理解できていること。
- ・設題内容について、的確にまとめられていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科 目 コード	20916	科目名 [単位数 / 学習時間]	保健と食と栄養＜特例教科目：子どもの保健分野＞			
テキスト	● 小野次朗 榊原洋一 『幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』 ジアース教育新社					
ISBN	9784863715370	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生 協 テキストNo.	26137	
科 目 担 当		小島 光華				

【注意】

本特例教科目「保健と食と栄養」〔2 単位／90時間〕は、「子どもの保健」分野の合格（レポート 1 課題提出・合格と科目修了試験合格）、及び「子どもの食と栄養」分野の合格（レポート 1 課題提出・合格と科目修了試験合格）により単位修得となります。

科目の目的

本特例教科目「保健と食と栄養」は、「子どもの保健」「子どもの食と栄養」の 2 つの教科目の目標（分野）及び内容をもとに構成される。

【子どもの保健分野】

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患の特徴と予防に必要な知識を学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。

①子どもの健康状態を把握する意義と方法について理解する。②子どもの病気の特徴および予防と適切な対応について理解する。③子どもの生活環境および子どもの心の健康とその課題について理解する。④保育環境の保健・衛生管理と安全管理について理解する。

学習テーマ

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 子どもの健康状態①身体の発育と発達および評価 |
| 2 | 子どもの健康状態②心の健康と生活習慣の形成 |
| 3 | 子どもの疾患①子どもの病気の特徴と予防、よくみられる症状と対応 |
| 4 | 子どもの疾患②子どもがかかりやすい病気とその対応 |
| 5 | 子どもの疾患③発達障害の種類と支援 |
| 6 | 保育環境の整備①感染症の特徴と対策 |
| 7 | 保育環境の整備②保育現場における衛生管理 |
| 8 | 保育環境の整備③事故防止および安全対策ならびに危機管理 |

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可



第 1 課題

子どもの成長・発達及び評価方法について述べなさい。

第 1 課題の留意点

- 子どもの発育と発達の特徴を理解した上で、次の視点を含めて説明する。
- ・身体発育の評価方法〔成長曲線、カウプ指数（BMI）、肥満度〕と判定基準
 - ・発達の特徴（pp.43-56）

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。文字数は1,500字以上2,000字以下とすること。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、特に子どもの成長・発達の特徴や疾患に対する理解（種類、原因、対応など）を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の主旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストおよび参考文献の内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
- ・指定文字数の9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
- ・テキストおよび参考文献の学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
- ・漢字を適切に使用し、誤字・脱字が無いこと。

参考文献

- ・こども家庭庁 『保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）（2023（令和5）年5月一部改訂／同年10月一部修正）』
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（平成28年3月）』

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20916	科目名 [単位数/学習時間]	保健と食と栄養＜特例教科目：子どもの食と栄養分野＞			
テキスト	● 太田百合子 堤ちはる 『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本 第3版』 羊土社					
ISBN	9784758113809	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26099	
科目担当		廣田 有加里				
実務経験のある教員による科目		管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

【注意】

本特例教科目「保健と食と栄養」〔2単位／90時間〕は、「子どもの保健」分野の合格（レポート1課題提出・合格と科目修了試験合格）、及び「子どもの食と栄養」分野の合格（レポート1課題提出・合格と科目修了試験合格）により単位修得となります。

科目の目的

本特例教科目「保健と食と栄養」は、「子どもの保健」「子どもの食と栄養」の2つの教科目の目標（分野）及び内容をもとに構成される。

【子どもの食と栄養分野】

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。

- ①栄養素の種類とはたらきを理解した上で、栄養素がどのように体内に取り込まれるかを説明できる。
- ②乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
- ③幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
- ④食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
- ⑤特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題
2	栄養に関する基本的知識（五大栄養素）／食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3	妊娠期と授乳期の特徴と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係
4	乳児期の栄養（乳汁栄養・離乳食期栄養）の意義とその実践
5	幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食の意義
6	学童期の心身の発達と食生活／学童期の食生活上の問題と対応
7	食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／保育所における給食の進め方と保護者への支援
8	特別な配慮を要する子どもへの対応

レポートについて**ワープロソフト
使用可****第1課題**

離乳の意義と適切な進め方について述べよ。

第1課題の留意点

離乳食は乳汁以外から、からだに必要なエネルギーや栄養成分を摂れるようになるための大切な準備過程である。離乳食を進める発育の目安を理解し、摂食機能および消化器官の発達に伴う食品および栄養管理の注意点を理解する。テキスト第5章とその他の参考文献などを熟読し理解した上で、自分なりの視点を持って考察したことを課題の最後にまとめる。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。
 - ・レポートの基本的な構成（序論、本論、結論）に沿って記述している。
 - ・レポートの課題を理解した上で、論理的に、わかりやすく展開されている。
 - ・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
 - ・引用・出典が明示され、引用した部分については、『 』でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
 - ・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
 - ・論文については、著者名、「論文のタイトル」、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
 - ・読み手を意識して丁寧に作成する。また、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
- 以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。
- ※「まる写し」、「引き写し」、「コピペ」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- ・テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。
 - ・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、主旨に沿った適確な記述を心掛ける。
 - ・子どもの心身の成長発達と食べる機能の発達の過程を把握した上で、適切な食事を提供することは、将来の食嗜好に影響を及ぼすため重要である。保育者は、食の悩みが多い保護者への食支援を行うことを強く望まれていることから、基本となる栄養学の理論を習得しておくことが必要であるため、自分なりの視点を持って学習しておく。
 - ・平成27年に実施した「乳幼児栄養調査」の結果では、授乳期の栄養方法で「母乳栄養」の割合が増加していることから、母乳育児を継続するための必要な支援を理解する。近年では、母親が母乳育児を継続したい場合は、家庭から持参した冷凍母乳を提供する取組をしている保育施設があることから、取り扱う方法と留意点を習得する。
 - ・幼児期の生理的特徴と食行動の問題について、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習しておく。
- キーワード：食べる機能、発達、食育、食行動

科目修了試験の評価基準

- ・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
- ・指定文字数の9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
- ・その他問題に関連する記載があれば内容により考慮する。
- ・漢字を適切に使用し、字は読みやすく、丁寧に書き、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
- ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。

参考文献

- ・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
 - ・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
<https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf>
 - ・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>
 - ・農林水産省 『栄養素と食事バランスガイドとの関係』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
 - ・農林水産省 『乳幼児の発達段階に応じた栄養指導の充実』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part2/chap1/b2_c1_2_02.html
 - ・農林水産省 『ライフステージ別の現状と取組』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_03.html
 - ・農林水産省 『食育ガイド』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/guide/pdf/00_jp_guide.pdf
 - ・こども家庭庁 『乳幼児期の栄養について』
<https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/eiyon>
- ※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20917	科目名 [単位数/学習時間]	乳児保育＜特例教科目：乳児保育Ⅰ分野＞〔1単位／45時間〕			
テキスト	● 乳児保育研究会 『改訂 5 版 資料でわかる乳児の保育新時代』 ひとなる書房					
ISBN	9784894642539	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26115	
科目担当		大江 まゆ子				

科目の目的

- 本科目は特例教科目である。
- 乳児保育の基本、保育の実践について学ぶ。保育制度及び乳児保育に関わる問題等についても学習し、乳児保育の課題を考える。
- ・ 乳児の基本的生活と遊びを豊かにする乳児保育の内容と方法について学ぶ。
 - ・ 保育の計画の重要性と乳児保育の実践を学ぶ。
 - ・ 乳児保育の歩みを概観し、保育制度の現状を理解し、現代の課題を明らかにする。
 - ・ 保護者との連携、子育て支援における現状と課題を理解し、保育者の役割を考える。

到達目標

- ・ 乳児の育ちを保障するため、基本的生活と遊びを中心とした乳児保育の内容と方法について理解する。
- ・ 乳児保育における保育の計画の意義および個々の子どもの姿や家庭状況を理解する重要性を認識する。
- ・ 保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解し、在園児の保護者支援とともに、地域の子育て支援も保育所の業務の一つであることを理解する。

学習テーマ

1	乳児の基本的生活を中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児保育の養護の重要性と乳児期における基本的な生活の確立を目的とした援助を理解する。＜テキストpp.34-61＞】
2	乳児保育の遊びを中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児期の遊びのあり方と環境構成、遊びを通した乳児の育ちについて理解する。＜テキストpp.62-87＞】
3	保育の計画と記録【学習のポイント：現在の姿から育ちの見通しを持って保育を行う重要性を理解する、子どもの姿の記録と計画とのつながりを理解する。＜テキストpp.34-36、pp.88-107＞】
4	乳児保育と「3歳児神話」【学習のポイント：「3歳児神話」やボウルビー学説、また様々な保育の質に関する議論について理解する。＜テキストpp.108-115＞】
5	親子の豊かな育ちに必要となる保護者支援【学習のポイント：親子の絆を作る条件とはどのようなものか、また長時間保育や一時保育を利用する保護者に対する保育士としての支援を理解する。＜テキストpp.122-125＞】
6	乳児保育を行う保育士のあり方【学習のポイント：複数担任、担当制とはどのようなものかを理解する。＜テキストpp.126-137＞】
7	乳児保育のあゆみ【学習のポイント：乳児保育の歴史的変遷と乳児保育の一般化について。＜テキストpp.138-146＞】
8	乳児保育の現状と課題【学習のポイント：多様化するニーズに対応する乳児保育の様々な事業。＜テキストpp.146-174＞】

レポートについて**ワープロソフト
使用可****第1課題**

乳児期からの家庭外の保育経験が子どもの発達を支えるものとなるために求められる保育の質や保育士の援助とはどのようなものであるか、述べなさい。

第1課題の留意点

乳児保育の重要な論点に「3歳児神話」がある。すべての子どもが健やかに育つことを保障する乳児保育を行うために、求められる保育の質や保育士の専門性について考察することが必要である。テキストでは特に第5章を読み込み、子どもと保護者の豊かな育ちを支える保育士の役割を理解してレポート作成することが重要である。テキストや参考文献以外にも「3歳児神話」に関連する文献を読み、すべての子どもの育ちを保障する保育の観点からの考察を求める。

生成AIの利用について

レポート作成にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。レポートに生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

レポートの評価基準

- ・ 文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
- ・ 課題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容をしっかりとふまえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
- ・ 次の3点を評価基準とする。
 - ① テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
 - ② 自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
 - ③ 他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について**科目修了試験「答案」作成の留意点**

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わり、及び保護者の姿を想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

- ・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
- ・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- ・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
- ・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

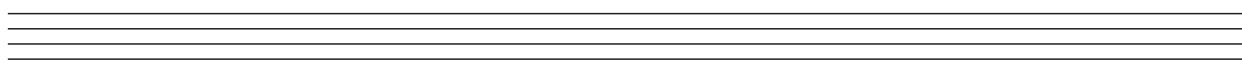
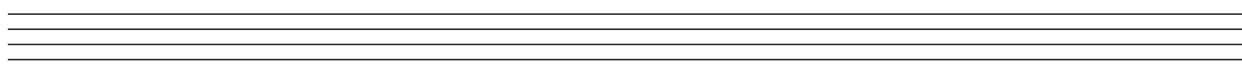
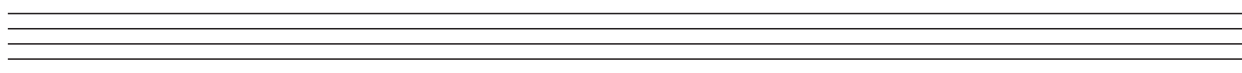
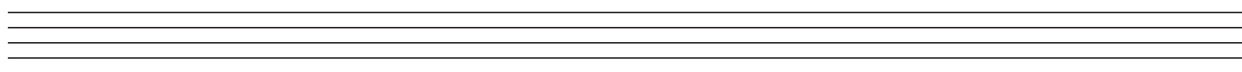
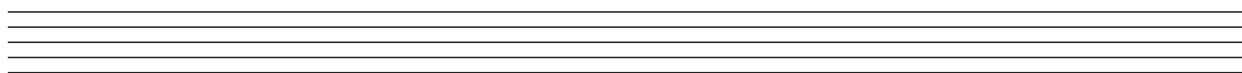
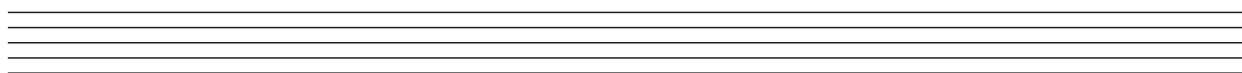
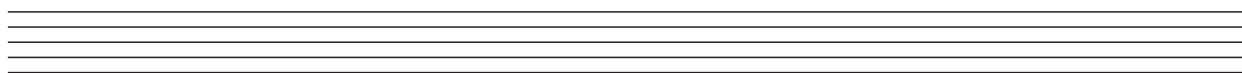
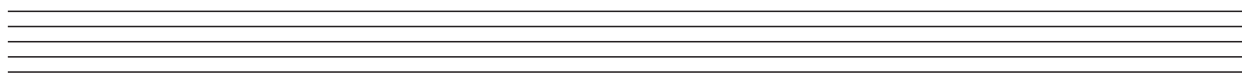
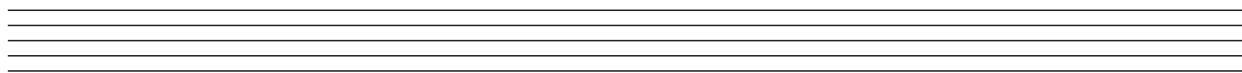
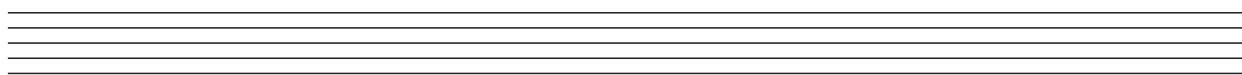
参考文献

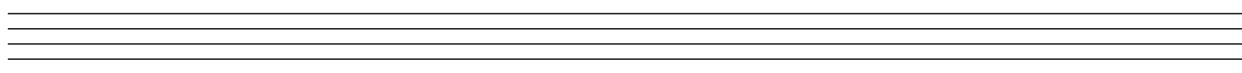
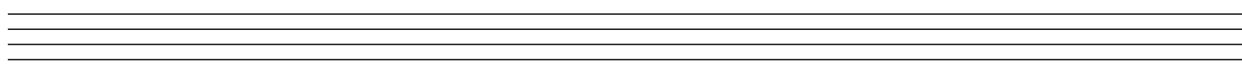
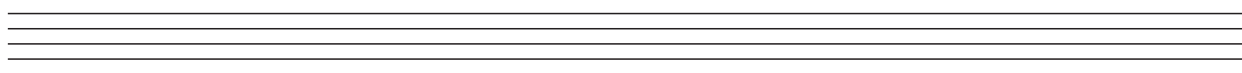
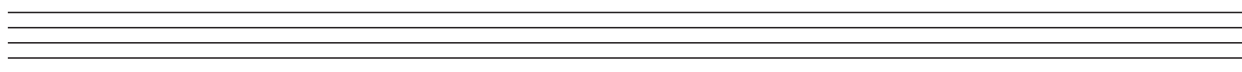
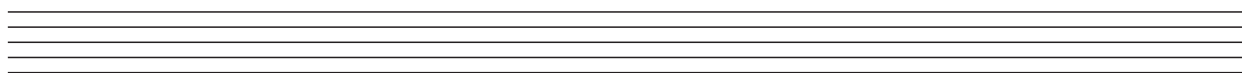
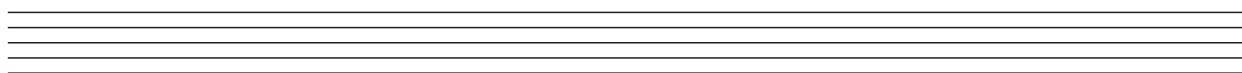
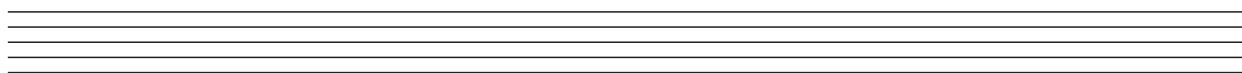
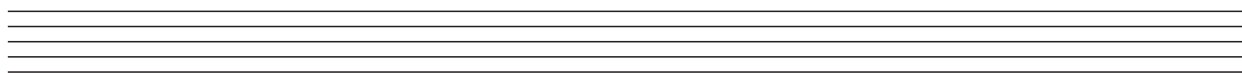
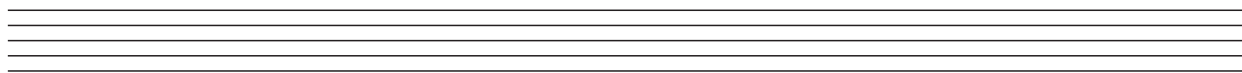
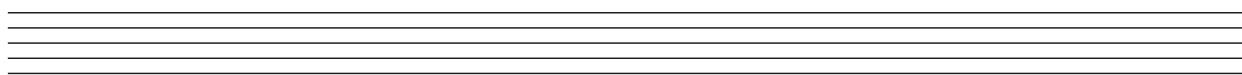
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・ChaCha Children & Co. 『見る・考える・創りだす 乳児保育 I・II』 萌文書林

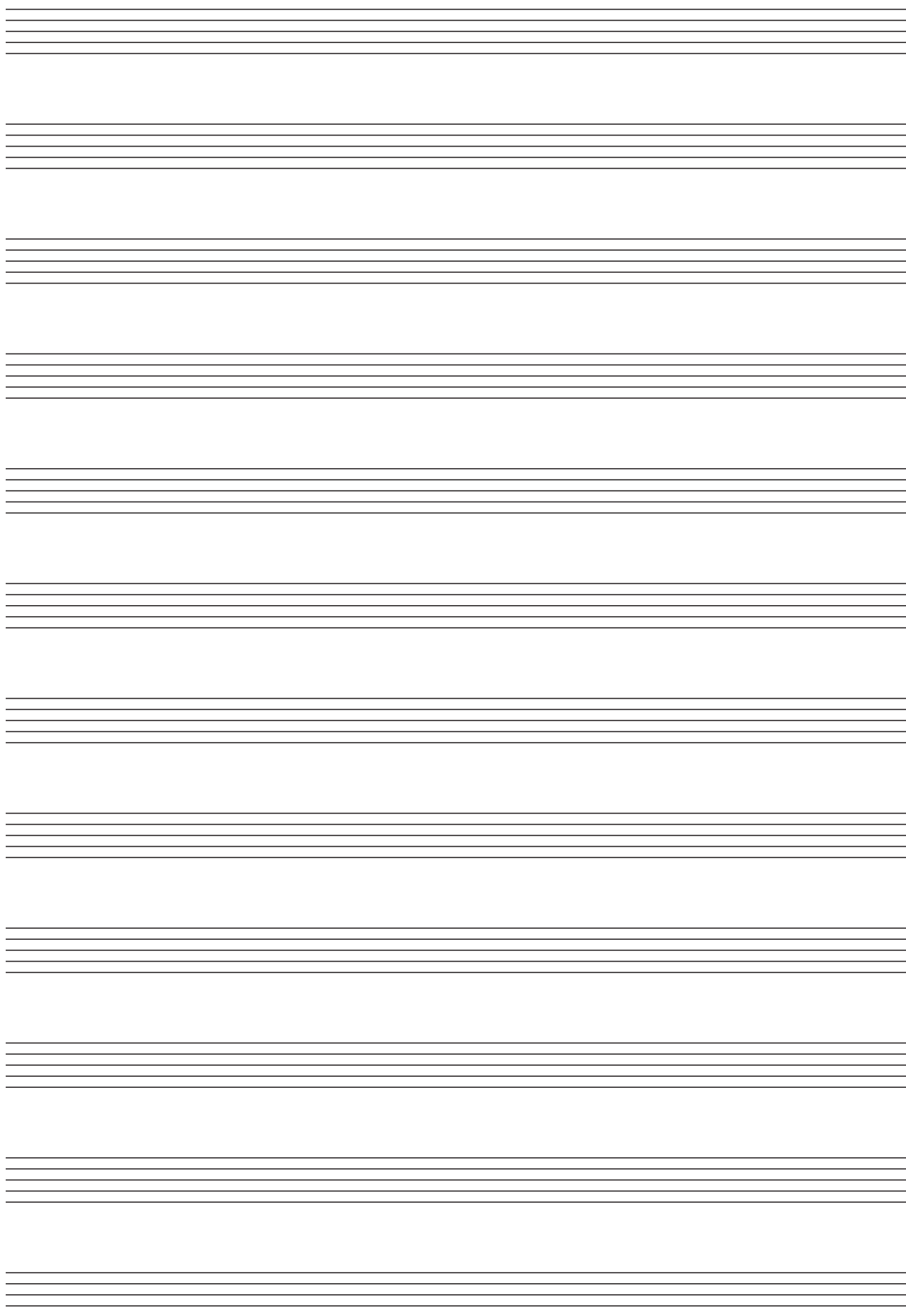
課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

—「音樂」用 五線紙 —









FAX番号
神戸親和大学生協 通信テキスト係
078-595-0565

『通信教育部』専用 テキスト購入FAX(郵送)申込書

※単価・金額は本体価格にて計算のこと

★ご請求時には合計金額に対して消費税が加算されます。

枚

月 日 振込済み

レポート作成時および提出時のチェックポイント

◆レポート作成・提出の際は、次のチェックポイントに注意してください。

レポート作成時

【＜共通＞自筆の場合、ワープロソフト使用の場合】

- ☐ 最新の「学習の手引き テキスト履修科目編」掲載分の課題に対して作成した。
- ☐ 2,000 字程度＜自筆の場合は、本学所定レポート用紙 5 枚程度＞で作成した。（※担当教員から指定がある場合は従う。）
- ☐ レポート本文には、枚数がわかるようにページ番号を記入した。
- ☐ 基本的な原稿用紙の使い方（段落の初めは 1 字下げするなど）で作成し、段落は適切にとった。
- ☐ 句読点（「、」「。」「。」）を適切に打った。
- ☐ 常体（「だ・である調」）で作成した。
- ☐ 誤字や脱字がないことを確認した。
- ☐ 引用文がある場合は、「」でくくり、そのあとに注番号を打ち、引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。（※担当教員から指定がある場合は従う。）

＜自筆の場合＞

レポート用紙下欄に引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。

＜ワープロソフト使用の場合＞

文末（最終ページ）に引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。

- ☐ 参考文献がある場合（引用ではなく）は、文末（最終ページ）に著者名、『書名』、出版社名、出版年を挙げた。（※担当教員から指定がある場合は従う。）

【自筆の場合】

- ☐ レポート用紙はタテ型で横書きにした。（※担当教員から指定がある場合は従う。）
- ☐ 黒インクのボールペンまたはペンで記入した。（※消せるボールペン・鉛筆使用不可。）
- ☐ 他人が読むことを意識して丁寧に記入した。

【ワープロソフト使用の場合】

- ☐ 指定様式（用紙、用紙サイズ、書字方向、フォント、文字色、文字サイズ、文字数、1 行の文字数、1 ページの行数、余白（上、下、左、右）、ヘッダー、フッター）のとおりで作成した。

レポート提出時

【＜共通＞自筆の場合、ワープロソフト使用の場合】

- ☐ レポート表紙は黒インクのボールペン又はペンで記入（※消せるボールペン・鉛筆使用不可。）し、報告課題評価票は鉛筆で記入した。
- ☐ 報告課題評価票、レポート表紙、レポート本文の科目名や課題番号はすべて間違いない（不一致が無い）ことを確認した。
- ☐ 上から、報告課題評価票、レポート表紙、レポート本文の順にホッチキス留め（3 か所）した。
- ☐ 再提出の場合は、レポート表紙に「作成にあたって前回より注意した点」を記入し、不合格となったレポートを添付（クリップ等でまとめる）した。（※再提出分も最新の「学習の手引き テキスト履修科目編」掲載分の課題に対して記入する。）



神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部事務室

〒651-1194 神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1

TEL 078-591-8796 FAX 078-591-8797

URL <https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/>